

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成27年5月1日現在)

神戸薬科大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成28年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成27年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号を付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	9
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	12
基礎資料 4	カリキュラムマップ	107
基礎資料 5	語学教育の要素	109
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習のスケジュール	112
基礎資料 7	学生受入状況について	117
基礎資料 8	教員・事務職員数	118
基礎資料 9	専任教員年齢構成	119
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	120
基礎資料11	卒業研究の配属状況	133
基礎資料12	講義室等の数と面積	134
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	135
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	136
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	137

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	数学Ⅰ A, B, C	前期	35-55	6	282	コ		1
	数学Ⅱ A, B, C	後期	37-56	6	290	コ		1
	物理学 A, B	前期	24-92	6	280	コ		1
	基礎化学	前期	145	2	290	コ		1
	基礎生命科学	前期	284	1	284	コ		1
	英語Ⅰ A, B, C	前期	44-47	6	277	コ		1
	英語Ⅱ A, B, C, D	前期	33-35	8	277	コ		1
	英語Ⅲ A, B, C	後期	45-48	6	279	コ		1
	英語Ⅳ A, B, C, D	後期	34-36	8	280	コ		1
	(択) ドイツ語Ⅰ	前期	62-67	2	129	コ		1
	(択) ドイツ語Ⅱ	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) 中国語Ⅰ	前期	36-37	1	73	コ		1
	(択) 中国語Ⅱ	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) 韓国語Ⅰ	前期	36-37	1	73	コ		1
	(択) 韓国語Ⅱ	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) 医薬経済学 (1~2年共通科目)	前期	174	1	174	コ		1
	(択) 数学の情緒	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) 線形代数 (1~2年共通科目)	前期	139	1	139	コ		1
	(択) グラフ理論	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) アメリカ文化論 (1~2年共通科目)	前期	232	1	232	コ		1
	(択) アジア文化論 (1~2年共通科目)	前期	97	1	97	コ		1
	(択) 日本文化論 (1~2年共通科目)	前期	37	1	37	コ		1
	(択) 異文化理解	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) 英語の歴史 (1~2年共通科目)	前期	90	1	90	コ		1
	(択) 現代の音楽	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) 医療と人間	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) コミュニケーション論	後期	未定	1	未定	コ		1
	(択) 社会心理学 (1~2年共通科目)	前期	192	1	192	コ		1
	(択) 現代社会論 (1~2年共通科目)	前期	48	1	48	コ		1
	(択) 消費者行動論	後期	未定	1	未定	コ		1
(択) 薬局経営論	後期	未定	1	未定	コ		1	
(択) 生活情報論 (1~2年共通科目)	前期	51	1	51	コ		1	
(択) 医薬品企業論 (1~2年共通科目)	前期	49	1	49	コ		1	
薬学専門教育	社会薬学	前期	279	1	279	コ		1
	薬学入門	前期	278	1	278	コ		1
	人の行動と心理	後期	282	1	282	コ		1
	物理化学Ⅰ	後期	290	1	290	コ		1
	分析化学Ⅰ	後期	287	1	287	コ		1
	無機・錯体化学	後期	143-144	2	287	コ		1
	有機化学Ⅰ	前期	145-147	2	292	コ		1
	有機化学Ⅱ	後期	290	1	290	コ		1
	生薬学	後期	284	1	284	コ		1
	機能形態学	後期	293	1	293	コ		1
	生化学Ⅰ	前期	289	1	289	コ		1
	生化学Ⅱ	後期	294	1	294	コ		1
	微生物学Ⅰ	後期	294	1	294	コ		1
実習	早期体験学習	前期・後期	45-47	6	277		実・演	2
	基礎化学実習	後期	91-94	3	278		実・演	1
	(択) 初期体験臨床実習	前期・後期	70	1	70		実・演	1
	(択) アクティブ・ラボ	後期	未定	1	未定		実・演	1
演習	情報リテラシー	前期	45-47	6	277		実・演	1
	教養リテラシー	前期	45-47	6	277		実・演	1
単位数の合計							(必須科目)	27
							(選択科目)	26
							合計	53

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=実・演

- 【注】 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	統計学Ⅰ	前期	70-76	4	293	コ		1
	統計学Ⅱ	後期	70-76	4	296	コ		1
	英語Ⅴ	前期	11-24	14	289	コ		1
	英語Ⅵ	後期	11-24	14	290	コ		1
	(択) 実用英語	前期	48	1	48	コ		1
	(択) 医療経済学 (1~2年共通科目)	前期	8	1	8	コ		1
	(択) アメリカ文化論 (1~2年共通科目)	前期	11	1	11	コ		1
	(択) 日本文化論 (1~2年共通科目)	前期	10	1	10	コ		1
	(択) 英語の歴史 (1~2年共通科目)	前期	5	1	5	コ		1
	(択) 社会心理学 (1~2年共通科目)	前期	8	1	8	コ		1
	(択) 現代社会論 (1~2年共通科目)	前期	2	1	2	コ		1
	(択) 生活情報論 (1~2年共通科目)	前期	1	1	1	コ		1
(択) 医薬品企業論 (1~2年共通科目)	前期	4	1	4	コ		1	
薬学専門教育	物理化学Ⅱ	前期	293	1	293	コ		1
	物理化学Ⅲ	後期	293	1	293	コ		1
	放射化学	後期	294	1	294	コ		1
	分析化学Ⅱ	前期	292	1	292	コ		1
	分析化学Ⅲ	後期	293	1	293	コ		1
	有機化学Ⅳ	前期	299	1	299	コ		1
	構造解析学	前期	295	1	295	コ		1
	生物有機化学	後期	296	1	296	コ		1
	生薬化学	後期	295	1	295	コ		1
	機能形態学	前期	293	1	293	コ		1
	生化学Ⅱ	前期	293	1	293	コ		1
	生化学Ⅲ	後期	296	1	296	コ		1
	分子生物学Ⅰ	前期	297	1	297	コ		1
	微生物学Ⅰ	前期	290	1	290	コ		1
	微生物学Ⅱ	後期	295	1	295	コ		1
	衛生薬学Ⅰ	後期	296	1	296	コ		1
	環境衛生学	後期	294	1	294	コ		1
薬理学Ⅰ	後期	144-151	2	295	コ		1	
創薬物理薬理学	後期	142-151	2	293	コ		1	
実習	物理化学系実習	後期	94-97	3	290		実・演	1
	分析化学系実習	前期	94-97	3	290		実・演	1
	有機化学系Ⅱ実習	後期	94-97	3	290		実・演	1
	生薬化学実習	前期	94-97	3	290		実・演	1
演習	総合文化演習	前期・後期	11-26	13	290	S	実・演	2
	有機化学演習 A, B1, B2, C1, C2, C3, C4	後期	20-160	7	295		実・演	1
単位数の合計							(必須科目)	30
							(選択科目)	9
							合計	39

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=実・演

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

		3 年 次							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
語学・ 教養 教育	薬学英語入門Ⅰ	前期	62-71	4	266	コ		1	
	薬学英語入門Ⅱ	後期	62-71	4	268	コ		1	
	(択) 語学検定 (3~4年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	(該当なし)		1	
薬学 専門 教育	生命倫理学	前期	268	1	268	コ		1	
	医療倫理学	後期	267	1	267	コ		1	
	物理化学Ⅳ	前期	268	1	268	コ		1	
	医薬品化学	後期	274	1	274	コ		1	
	分子生物学Ⅱ	後期	274	1	274	コ		1	
	免疫学	前期	267	1	267	コ		1	
	衛生薬学Ⅱ	前期	272	1	272	コ		1	
	衛生薬学Ⅲ	後期	272	1	272	コ		1	
	薬理学Ⅱ	前期	277	1	277	コ		1	
	薬理学Ⅲ	後期	283	1	283	コ		1	
	医薬品毒性学	前期	274	1	274	コ		1	
	薬物動態学Ⅰ	前期	273	1	273	コ		1	
	薬物動態学Ⅱ	後期	272	1	272	コ		1	
	臨床検査学Ⅰ	前期	266	1	266	コ		1	
	臨床検査学Ⅱ	前期	269	1	269	コ		1	
	内分泌学	後期	279	1	279	コ		1	
	感染制御学	後期	280	1	280	コ		1	
	薬物治療学Ⅰ	後期	273	1	273	コ		1	
	薬物治療学Ⅱ	後期	278	1	278	コ		1	
	薬物治療学Ⅲ	後期	276	1	276	コ		1	
	調剤学Ⅰ	前期	270	1	270	コ		1	
	調剤学Ⅱ	後期	266	1	266	コ		1	
	薬剤設計学Ⅰ	前期	274	1	274	コ		1	
医療統計学Ⅰ	前期	266	1	266	コ		1		
(択) 放射線管理学	前期	260	1	260	コ		1		
(択) 医療統計学ⅡA, ⅡB	後期	未定	1	未定	コ		1		
実習	有機化学系Ⅲ実習	前期	84-91	3	265		実・演	1	
	生物学系Ⅰ実習	前期	84-91	3	265		実・演	1	
	生物学系Ⅱ実習	後期	84-91	3	265		実・演	1	
	衛生薬学系実習	前期	84-91	3	265		実・演	1	
	薬理学実習	後期	84-91	3	265		実・演	1	
	臨床検査実習	後期	84-91	3	265		実・演	1	
	薬剤学・製剤学実習	後期	84-91	3	265		実・演	1	
演習									
単位数の 合計								(必須科目)	33
								(選択科目)	3
								合計	36

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=実・演

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

		4 年 次							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
語学・ 教養教育	(択) 実用薬学英語	前期・後期	36	1	36	コ		実・演	2
	(択) 実用医療英語	前期・後期	36	1	36	コ		実・演	2
	(択) 語学検定 (3~4年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	(該当なし)		1	
薬学専門教育	臨床心理学	前期	264	1	264	コ			1
	精密有機合成化学	前期	273	1	273	コ			1
	漢方医学	前期	268	1	268	コ			1
	臨床薬物動態学	前期	271	1	271	コ			1
	薬物治療学Ⅳ	前期	297	1	297	コ			1
	薬物治療学Ⅴ	前期	297	1	297	コ			1
	医薬品情報学	前期	297	1	297	コ			1
	安全管理医療	前期	297	1	297	コ			1
	薬剤設計学Ⅱ	前期	287	1	287	コ			1
	医薬品開発Ⅰ	前期	298	1	298	コ			1
	医薬品開発Ⅱ	前期	298	1	298	コ			1
	医薬品医療機器等法	前期	296	1	296	コ			1
	社会保障制度と薬剤経済	前期	297	1	297	コ			1
	OTCヘルスケア論	前期	297	1	297	コ			1
	(択) 臨床栄養学	前期	145	1	145	コ			1
(択) 香粧品学 (4・6年共通科目)	前期	162	1	162	コ			1	
(択) キャリアデザイン講座	前期	209	1	209	(該当なし)		1		
(択) 健康食品 (4~5年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	コ			1	
(択) 実践薬学 (4~6年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	コ		実・演	1	
実習	実務実習事前教育	前期・後期	297	2	297			実・演	4
	卒業研究Ⅰ	後期	6-21	18	297			実・演	6
	(択) 海外薬学研修 (4~5年共通科目)	前期	未定	1	未定	コ		実・演	1
	(択) インターンシップ (4~5年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定			実・演	1
演習	基礎薬学演習	後期	298	1	298			実・演	3
単位数の 合計							(必須科目)	27	
							(選択科目)	12	
							合計	39	

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=実・演

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

		5 年 次									
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
語学・ 教養 教育	教養教育	(択) 健康食品 (4~5年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	コ			1	
	職業教育	(択) 実践薬学 (4~6年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	コ		実・演	1	
実習	卒業研究 I		前期・後期	6-18	18	264			実・演	12	
	病院実習		前期・後期	264	1	264			実・演	10	
	薬局実習		前期・後期	264	1	264			実・演	10	
	(択) 海外薬学研修 (4~5年共通科目)		前期	未定	1	未定	コ		実・演	1	
	(択) インターンシップ (4~5年共通科目)		前期・後期	未定	1	未定			実・演	1	
演習	(択) I PW演習 (神戸大学連携科目)		後期	39	1	39	コ	S	実・演	1	
	(択) Student CASP ワークショップ (5~6年共通科目)		前期・後期	未定	1	未定	コ	S	実・演	1	
単位数の 合計								(必須科目)			32
								(選択科目)			6
								合計			38

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=実・演

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

		6 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
語学・ 教育	教養教育								
薬学専門 教育	医薬品開発Ⅰ	前期	249	1	249	コ			1
	医薬品開発Ⅱ	前期	249	1	249	コ			1
	医薬品開発Ⅲ	前期	249	1	249	コ			1
	処方解析学	前期	249	1	249	コ			1
	総合薬学講座	後期	250	1	250	コ			10
	(択) 精密有機合成化学	前期	4	1	4	コ			1
	(択) 化粧品学 (4・6年共通科目)	前期	2	1	2	コ			1
(択) 実践薬学 (4~6年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	コ		実・演	1	
実習	卒業研究ⅡA	前期	1-15	18	163			実・演	10
	卒業研究ⅡB	前期	1-13	16	87			実・演	4
	薬学演習	前期	86	1	86	コ		実・演	6
演習	処方解析演習	前期	249	1	249			実・演	5
	(択) Student CASP ワークショップ (5~6年共通科目)	前期・後期	未定	1	未定	コ	S	実・演	1
単位数の 合計								(必須科目)	29
								(選択科目)	4
								合計	33

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=実・演

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	3	3
教養教育科目	17	17
語学教育科目	18	26
医療安全教育科目	1	1
生涯学習の意欲醸成科目	4	5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	2	3

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1年次	27	26	53
2年次	30	9	39
3年次	33	3	36
4年次	27	12	39
5年次	32	6	38
6年次	29	4	33
合計	178	60	238

(基礎資料2-1) 在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	
入学年度 における	入学定員数	270	270	270	270	270	270	1,620	
	編入定員数	0	0	0	0	0	0	0	
	入学者数	276	※2 299	※1 289	314	317	276	1,771	
基準日 における	各学年の在籍学生数	297	302	288	298	264	260	1,709	
	編入学生数(内) ※	0	0	0	0	0	0	0	
	留年者数(内)	20	12	24	1	0	10	67	
	留年者の 入学年度	平成20年度 以前	0	0	0	0	0	6	6
		平成21年度	0	0	0	1	0	4	5
		平成22年度	0	0	0	0	0	0	0
		平成23年度	0	0	6	0	0	0	6
	平成24年度	0	1	18	0	0	0	19	
	平成25年度	2	11	0	0	0	0	13	
	平成26年度	18	0	0	0	0	0	18	
C / (A + B)		1.05	※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。						
D / B		0	※1 4月1日付退学1名 ※2 4月28日付退学1名						

[注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。

2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

(基礎資料2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度						
	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数																							
総在籍学生数	1418				1715				1723				1699				1681				1710						
1年次	1	17	11	0	1	22	13	0	0	26	14	0	0	23	20	12	0	1	0	0	2	20	12	0	1	0	0
2年次	1	17	6	0	0	19	5	0	0	18	9	0	0	14	15	9	0	3	12	0	3	12	9	0	1	0	0
3年次	2	19	2	0	2	17	1	0	0	16	6	0	1	42	2	7	0	0	24	0	0	24	7	0	0	0	0
4年次	0	1	1	0	0	2	0	0	0	2	2	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0
5年次	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年次	0	1	0	0	0	10	0	0	0	21	1	0	0	13	0	1	0	0	10	1	0	10	1	0	1	0	0
合計	4	55	20	0	3	72	20	0	0	83	33	0	1	94	38	30	0	5	67	30	5	67	30	0	3	0	0

[注] 平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

卒業生総数	平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	卒業率 (%)
	名	名	名	名	名	名	
平成18年度入学者	264	263	277	248			77.0%
平成19年度入学者		28	3	0			73.9%
平成20年度入学者		235	35	8			83.3%
平成21年度入学者			239	19			79.8%
平成22年度入学者				221			0.0%
平成23年度入学者							0.0%
卒業生総数	265 ※	263	277	248			

※ 4年制課程卒業生(平成17年度入学者)1名を含む

(基礎資料 3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目 (旧カリキュラム)

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)						
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。						
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。			生命倫理学、医療倫理学			
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。						
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)						
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。			生命倫理学、医療倫理学			
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。			生命倫理学、医療倫理学			
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)						
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	社会薬学Ⅰ・Ⅱ	社会薬学Ⅲ	生命倫理学			
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)						
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルンキ宣言の内容を概説できる。						
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。						
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	社会薬学Ⅰ・Ⅱ	社会薬学Ⅲ	生命倫理学			
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)						
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。						
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)	社会薬学Ⅰ・Ⅱ	社会薬学Ⅲ	生命倫理学			卒業研究
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】		社会薬学Ⅰ・Ⅱ	社会薬学Ⅲ	生命倫理学			
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)							
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)							
【自己学習・生涯学習】		社会薬学Ⅰ・Ⅱ	社会薬学Ⅲ	生命倫理学			
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。 (知識・技能・態度)							
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)							
(3) 信頼関係の確立を目指して							
【コミュニケーション】					臨床心理学		
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。							
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。							
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。							
【相手の気持ちに配慮する】							
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。							
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)							
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)							
【患者の気持ちに配慮する】							
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。							
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)							
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)							
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。 (態度)							
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)							
【チームワーク】							
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。							
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)							
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)							
【地域社会の人々との信頼関係】							
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。							
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)							
B イントロダクション							
(1) 薬学への招待							
【薬学の歴史】							
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。							
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。							
		薬学入門					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】					
1) 薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。					
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。					
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。					
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。					
【薬について】					
1) 「薬とは何か」を概説できる。					
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。					
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。					
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。					
【現代社会と薬学との接点】					
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。					
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。					
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。					
【日本薬局方】					
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。					
【総合演習】					
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)					
2) 身近な医薬品を日本薬局方などをを用いて調べる。(技能)					
(2) 早期体験学習					
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)					
3) 製薬企業および保健衛生・健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)					
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)					
C 薬学専門教育					
【物理系薬学を学ぶ】					
C1 物質の物理的性質					
(1) 物質の構造					
【化学結合】					
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。					
2) 軌道の混成について説明できる。					
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。					
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。					
基礎化学、物理化学 I					
※放射線管理学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子間相互作用】					
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。					
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。					
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。					
4) 分散力について例を挙げて説明できる。					
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。					
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。					
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。					
【原子・分子】					
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。					
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。					
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。		分析化学III			
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。					
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)					
6) 偏光および旋光性について説明できる。					
7) 散乱および干渉について説明できる。					
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。					
【放射線と放射能】					
1) 原子の構造と放射線について説明できる。					
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。					
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。					
4) 核反応および放射平衡について説明できる。					
5) 放射線の測定原理について説明できる。					
(2) 物質の状態 I					
【総論】					
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。					
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。					
【エネルギー】					
1) 系、外界、境界について説明できる。					
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。					
3) 仕事および熱の概念を説明できる。					
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。					
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。					
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)					
7) エンタルピーについて説明できる。					
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)					
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。						
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)						
4) 熱力学第三法則について説明できる。						
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)						
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。						
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。						
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。						
4) 物質の溶解平衡について説明できる。						
5) 溶液の東一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。						
6) 界面における平衡について説明できる。						
7) 吸着平衡について説明できる。						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)						
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。						
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。						
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。						
2) 標準電極電位について説明できる。						
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。						
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化							
【反応速度】							
1) 反応次数と速度定数について説明できる。							
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)							
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。							
4) 代表的な(環)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)							
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。							
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。							
7) 衝突理論について概説できる。							
8) 遷移状態理論について概説できる。							
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。							
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。							
【物質の移動】							
1) 拡散および溶解速度について説明できる。							
2) 沈降現象について説明できる。							
3) 流動現象および粘度について説明できる。							
02 化学物質の分析							
(1) 化学平衡							
【酸と塩基】							
1) 酸・塩基平衡を説明できる。							
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)							
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)							
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。							
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。							
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。							
【各種の化学平衡】							
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。							
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。							
3) 酸化還元電位について説明できる。							
4) 酸化還元平衡について説明できる。							
5) 分配平衡について説明できる。							
6) イオン交換について説明できる。							

		専 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
(2) 化学物質の検出と定量							
【定性試験】			分析化学II 分析化学系実習、 有機化学系I実習				
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。							
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。							
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。							
【定量の基礎】			分析化学系実習	臨床検査学II			
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)							
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。							
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。			分析化学II、 分析化学系実習、 有機化学系I実習				
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。							
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。							
【容量分析】							
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。							
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)							
【金属元素の分析】							
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。							
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。							
【クロマトグラフィー】			有機化学系I実習	分析化学III			
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。							
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。							
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)			分析化学系実習、 有機化学系I実習	分析化学III			
(3) 分析技術の臨床応用							
【分析の準備】							
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)							
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				分析化学III	臨床検査学II、 ※放射線管理学		

	専 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【分析技術】						
1) 臨床分析分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。						
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気流動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6) 代表的なドラッグモニターについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。						
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。						
9) 薬学領域で採用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。						
【薬物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の採取について説明できる。						
2) 代表的な中毒原因物質 (毒用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)						
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。						
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【相互作用の解析法】					
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。					
【立体構造と相互作用】					
【立体構造】					
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。					
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。					
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。					
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。					
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。					
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。					
【相互作用】					
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。					
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。					
3) 脂質の水の中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。					
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。					
C4 化学物質の性質と反応					
【基本事項】					
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。					
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。					
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。					
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。					
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。					
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。					
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。					
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。					
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。					
【有機化合物の立体構造】					
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。					
2) キラリティーと光学活性を概説できる。					
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。					
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。					
5) 絶対配置の表示法を説明できる。					
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。					
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。					
基礎有機化学、 有機化学 I					
基礎有機化学、 有機化学 I					
有機化学系Ⅲ実習					
有機化学系Ⅲ実習					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該当科目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】											
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。						基礎有機化学、 無機・錯体化学、 有機化学Ⅰ					
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。											
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。											
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。											
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。											
【錯体】											
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。						基礎有機化学、 無機・錯体化学、 有機化学Ⅰ					
2) 配位結合を説明できる。											
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。											
4) 錯体の安定定数について説明できる。											
5) 錯体の安定性を与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。											
6) 錯体の反応性について説明できる。											
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。											
(2) 有機化合物の骨格											
【アルカン】											
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。						有機化学Ⅱ					
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。											
3) アルカンの構造異性を図示し、その数を示すことができる。											
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。											
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。											
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクソトリアル) を図示できる。											
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。											
【アルケン・アルキンの反応性】											
1) アルケンへの代表的なジエン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。						有機化学Ⅱ					
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。											
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。											
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。											
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。											
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。											
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。											
【芳香族化合物の反応性】											
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。						有機化学Ⅱ					
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。											
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。											
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。											
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。											

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)						
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。						
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。						
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。						
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。						

	専 当 科 目				
	1年	2年	3年	4年	5年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
【¹H NMR】					
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。					
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。					
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。			有機化学V、 有機化学系III実習、 分析化学III	有機化学VII	
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。					
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。					
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。					
7) ¹ H NMRのスピニング結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。					
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)					
【¹³C NMR】					
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。			有機化学V、 有機化学系III実習、 分析化学III	有機化学VII	
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。					
【IRスペクトル】					
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。			有機化学V、 有機化学系III実習	有機化学VII	
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)					
【紫外可視吸収スペクトル】					
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。			有機化学V、 有機化学系III実習	有機化学VII	
【マススペクトル】					
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。					
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明することができる。					
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。			有機化学V、 有機化学系III実習	有機化学VII	
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。					
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。					
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)					
【比旋光度】					
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。					
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)			有機化学V、 有機化学系III実習	有機化学VII	
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。					
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。					
【総合演習】					
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)			有機化学V、 有機化学系III実習	有機化学VII	

		献 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
05 ターゲット分子の合成							
(1) 官能基の導入・変換			有機化学IV、 有機化学系I実習	有機化学系II実習	有機化学VII		
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。							
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。							
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。							
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。							
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。							
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。							
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。							
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。							
9) カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。							
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。							
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。							
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)							
(2) 複雑な化合物の合成							
【炭素骨格の構築法】							
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。							
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。							
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。			有機化学IV、 有機化学系I実習	有機化学系II実習	有機化学VII		※精密有機合成化学
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。							
【位置および立体選択性】							
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			有機化学IV、 有機化学系I実習	有機化学系II実習	有機化学VII		※精密有機合成化学
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。							
【保護基】							
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			有機化学IV、 有機化学系I実習	有機化学系II実習	有機化学VII		※精密有機合成化学
【光学活性化合物】							
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。			有機化学IV、 有機化学系I実習	有機化学系II実習	有機化学VII		※精密有機合成化学
【総合演習】							
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)							
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)			有機化学IV、 有機化学系I実習	有機化学系II実習	有機化学VII		※精密有機合成化学
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)							
06 生体分子・医薬品を化学で理解する							
(1) 生体分子のコアとパーツ							
【生体分子の化学構造】							
1) タンパク質の高次構造を指定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および相互作用について説明できる。							
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。							
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。			生物有機化学				

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。						
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。		生物有機化学				
3) 核素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。						
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。		生物有機化学				
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。						
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。		生物有機化学				
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコアポーターネット】						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。						
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			有機化学VI			
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が採用される根拠を説明できる。						
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連つけて説明できる。				有機化学VI		
4) 代表的な芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
5) 代表的な芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。						
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
3) 分子模型、コンピュータソフトウェアなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)						
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【生体内分子と反応する医薬品】	1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。					
	2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。			有機化学VI		
	3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。					
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。			生薬学 I、 生薬化学実習	生薬学 II		
2) 生薬の歴史について概説できる。						
3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)						
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。						
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。				生薬学 II		
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)						
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。			生薬学 I、 生薬化学実習	生薬学 II		
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。						
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。					生薬学 II	
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
【農業、香粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			生薬学 I、 生薬化学実習	生薬学 II		
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)					生薬学 II	
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該当科目					
					1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物										
【シーズの探求】										
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。						生薬学Ⅰ、 生薬化学実習	生薬学Ⅱ			
2) シーズの探求に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。										
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。										
【天然物質の取扱い】										
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)						生薬学Ⅰ、 生薬化学実習	生薬学Ⅱ			
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。										
【微生物が生み出す医薬品】										
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。						生薬学Ⅰ、 生薬化学実習	生薬学Ⅱ			
【発酵による医薬品の生産】										
1) 微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。										
【発酵による有用物質の生産】										
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。						生薬学Ⅰ、 生薬化学実習	生薬学Ⅱ			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬										
【漢方医学の基礎】										
1) 漢方医学の特徴について概説できる。										
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。										
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。										
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。										
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。										
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。										
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。										
【漢方処方の応用】										
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。										
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。										
【生物系薬学を学ぶ】										
08 生命体の成り立ち										
(1) ヒトの成り立ち										
【概論】										
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。										
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。					機能形態学					
【神経系】										
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。										
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。					機能形態学					
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。										

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【骨格系・筋肉系】							
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学						
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。							
【皮膚】							
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
【循環器系】							
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。							
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【呼吸器系】							
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
【消化器系】							
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【泌尿器系】							
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
【生殖器系】							
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
【内分泌系】							
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
【感覚器系】							
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
【血液・造血器系】							
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学						
(2) 生命体の基本単位としての細胞							
【細胞と組織】							
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	機能形態学						
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。							
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)							
【細胞膜】							
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。							
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。							
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。							
【細胞内小器官】							
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該当科目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細胞の分裂と死】											
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。											
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。											
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。											
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。											
【細胞間コミュニケーション】											
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。											
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。											
(3) 生体の機能調節											
【神経・筋の調節機構】											
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。								生理学			
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。											
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。											
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。											
【ホルモンによる調節機構】											
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。								生理学			
2) 血糖の調節機構を説明できる。											
【循環・呼吸系の調節機構】											
1) 血圧の調節機構を説明できる。								生理学			
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。											
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。											
【体液の調節機構】											
1) 体液の調節機構を説明できる。								生理学			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。											
【消化・吸収の調節機構】											
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。								生理学			
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。											
【体温の調節機構】											
1) 体温の調節機構を説明できる。								生理学			
(4) 小さな生き物たち											
【総論】											
1) 生態系の中の微生物の役割について説明できる。											
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。							微生物学 I				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細菌】			生物学系Ⅲ実習			
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。						
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		微生物学 I				
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学 I				
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。						
2) ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学 I				
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。						
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		微生物学 I				
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学 I				
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)			生物学系Ⅲ実習			
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。		微生物学 I				
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)			生物学系Ⅲ実習			
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。						
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
	生化学 I		生物学系Ⅱ実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【糖質】							
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。		生化学 I		生物学系 II 実習			
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。							
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。							
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)							
【アミノ酸】							
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。		生化学 I		生物学系 II 実習			
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。							
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)							
【ビタミン】							
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。				生物学系 II 実習			
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。							
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。							
(2) 生命情報を担う遺伝子							
【ヌクレオチドと核酸】							
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。			分子生物学 I				
2) DNAの構造について説明できる。							
3) RNAの構造について説明できる。							
【遺伝情報を担う分子】							
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。			分子生物学 I				
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。							
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。							
4) 染色体の構造を説明できる。							
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。							
6) RNAの種類と働きについて説明できる。							
【転写と翻訳のメカニズム】							
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。			分子生物学 I				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。							
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。							
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。							
5) リボソームの構造と機能について説明できる。							
【遺伝子の複製・変異・修復】							
1) DNAの複製の過程について説明できる。			分子生物学 I				
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。							
3) DNAの修復の過程について説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子多型】					
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。					
(3) 生命活動を担うタンパク質					
【タンパク質の構造と機能】					
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。					
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。					
【酵素】					
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。					
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。					
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。					
4) 酵素反応速度論について説明できる。					
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。					
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)					
【酵素以外の機能タンパク質】					
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。					
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。					
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。					
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。					
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。					
【タンパク質の取扱い】					
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)					
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)					
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。					
(4) 生体エネルギー					
【栄養素の利用】					
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。					
【ATPの産生】					
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。					
2) 解糖系について説明できる。					
3) クエン酸回路について説明できる。					
4) 電子伝達系 (酸化リニン酸化) について説明できる。					
5) 脂肪酸の β 酸化反応について説明できる。					
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。					
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。					
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。					
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。					
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。					
	分子生物学 I				
	生化学 II	生物学系 II 実習			
	生化学 II	生物学系 II 実習			
	生化学 II	生物学系 II 実習			
	生化学 II	生物学系 II 実習			
	生化学 III				
	生化学 III				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。						
2) 糖新生について説明できる。						
3) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。		生化学Ⅲ				
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。	生化学Ⅰ					
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。			内分泌学			
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。						
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンジン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げ説明できる。						
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
獣 当 科 目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 遺伝子を操作する					
【遺伝子操作の基本】					
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。					
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)		分子生物学Ⅱ、 生物学系Ⅱ実習			
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)					
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)					
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)					
【遺伝子のクローニング技術】					
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。					
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。					
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。					
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		分子生物学Ⅱ、 生物学系Ⅱ実習			
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。					
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。					
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)					
【遺伝子機能の解析技術】					
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。					
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。					
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。					
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。					
C10 生体防御					
(1) 身体をまもる					
【生体防御反応】					
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。					
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。					
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。					
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。		免疫学Ⅰ			
5) クローン選択説を説明できる。					
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。					
【免疫を担当する組織・細胞】					
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。					
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。					
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		免疫学Ⅰ			
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。					

	専 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。						
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。			免疫学 I			
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 (遺伝子再構成) を概説できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾病】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。						
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学 II			
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。						
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学 II			
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。						
2) 主なワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン、トキシノイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。			免疫学 II			
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。 (技能)						
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。 (技能)						
(3) 感染症にかかると						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、O型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) グラム陽性桿菌(破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学Ⅱ				
7) グラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、肺炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリルム属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムコール)の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオーン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			微生物学Ⅱ			
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素(三大栄養素、ビタミン、ミネラル)を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			衛生薬学Ⅱ、 衛生薬学系Ⅰ実習	※臨床栄養学		
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値(栄養価)を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			衛生薬学Ⅱ、 衛生薬学系Ⅰ実習	※臨床栄養学		
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)						
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)						
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該当科目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】											
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。											
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。											
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。								衛生薬学Ⅱ、 衛生薬学系Ⅰ実習	※臨床栄養学		
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。											
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。											
(2) 社会・集団と健康											
【保健統計】											
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。							衛生薬学Ⅰ	衛生薬学系Ⅰ実習			
2) 人口動態と人口動態について説明できる。											
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。											
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。											
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。											
【健康と疾病をめぐる日本の現状】											
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。											
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。							衛生薬学Ⅰ	衛生薬学系Ⅰ実習			
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)											
【疫学】											
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。											
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。											
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。											
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)											
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。											
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。											
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。											
(3) 疾病の予防											
【健康とは】											
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。											
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。								衛生薬学Ⅲ、 衛生薬学系Ⅰ実習			
【疾病の予防とは】											
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。											
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。											
3) 新生児マスタスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。								衛生薬学Ⅲ、 衛生薬学系Ⅰ実習			
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)											

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症の現状とその予防】							
1)	現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。						
2)	新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3)	一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。			衛生薬学Ⅲ、 衛生薬学系Ⅰ実習			
4)	母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5)	性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6)	予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】							
1)	生活習慣病の種類とその動向について説明できる。						
2)	生活習慣病のリスク要因を列挙できる。			衛生薬学Ⅲ、 衛生薬学系Ⅰ実習			
3)	食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】							
1)	主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			衛生薬学Ⅲ、 衛生薬学系Ⅰ実習			
C12 環境							
(1) 化学物質の生体への影響							
【化学物質の代謝・代謝的活性化】							
1)	代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
2)	第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			衛生薬学Ⅳ、 衛生薬学系Ⅰ実習		※放射線管理科学	
3)	第二相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】							
1)	発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2)	変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3)	発がんのイニエーションとプロモーションについて概説できる。			衛生薬学Ⅳ、 衛生薬学系Ⅰ実習		※放射線管理科学	
4)	代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】							
1)	化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
2)	肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3)	重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4)	重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5)	毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。			衛生薬学Ⅳ、 衛生薬学系Ⅰ実習		※放射線管理科学	
6)	化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
7)	有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8)	環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						
【化学物質による中毒と処置】							
1)	代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			衛生薬学Ⅳ、 衛生薬学系Ⅰ実習			
2)	化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、解毒法を検索することができる。(技能)					※放射線管理科学	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
1) 原水の種別を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO、BOD、CODを測定できる。(技能)						
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。						
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)						
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】				環境衛生学、衛生薬学系Ⅰ実習、衛生薬学系Ⅱ実習			
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)							
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。							
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。							
4) シックハウス症候群について概説できる。							
【廃棄物】				環境衛生学、衛生薬学系Ⅰ実習、衛生薬学系Ⅱ実習			
1) 廃棄物の種類を列挙できる。							
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。							
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)							
4) マニフェスト制度について説明できる。							
5) PRTR法について概説できる。							
【環境保全と法的規制】				環境衛生学、衛生薬学系Ⅰ実習、衛生薬学系Ⅱ実習			
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。							
2) 環境基本法の理念を説明できる。							
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。							
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。							
【薬と疾病】				環境衛生学、衛生薬学系Ⅰ実習、衛生薬学系Ⅱ実習			
C13 薬の効くプロセス							
【薬の作用】				薬理学Ⅰ		薬理学実習、実務実習事前教育	
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。							
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。							
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。							
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。							
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。							
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。							
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。							
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。							
【薬の運命】							
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。							
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。							
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。							
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。							
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。							
【薬の副作用】							
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。							
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。							

	獣 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)						
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)		薬理学 I				
3) 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)				薬理学実習、 実務実習事前教育		
(2) 薬の効き方						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II・III	薬理学実習、 実務実習事前教育		
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。						
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬理学 II・III	薬理学実習、 実務実習事前教育	
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからOB1には馴染まない						
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)				薬理学 II・III	薬理学実習、 実務実習事前教育	
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬理学 II・III	薬理学実習、 実務実習事前教育	
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学 II・III	薬理学実習、 実務実習事前教育		

	獣 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(3) 薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ・Ⅲ、 内分泌学	実務実習事前教育		
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ・Ⅲ、 内分泌学	実務実習事前教育		
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ・Ⅲ、内分泌学	実務実習事前教育		
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ・Ⅲ、 内分泌学	実務実習事前教育		
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ・Ⅲ、 内分泌学	実務実習事前教育		
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ・Ⅲ、 内分泌学	実務実習事前教育		
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学Ⅱ・Ⅲ、内分泌学	実務実習事前教育		
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。						
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分布】						
到達目標：						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。						
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。(技能)						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)						
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。						
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。						
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。						
2) 腎クリアランスについて説明できる。						
3)糸球体ろ過速度について説明できる。						
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメータを列挙し、概説できる。						
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)				臨床検査学Ⅰ、 実務実習事前教育		
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)						
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。						
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。				薬物動態学Ⅰ、 臨床薬物動態学、 実務実習事前教育		
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)						
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬学的パラメーターを用いて説明できる。						
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)						
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、寒症、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、瞼下垂、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、シヨック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、嘔み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			臨床検査学Ⅰ	臨床検査学Ⅱ、 薬物治療学Ⅲ、 ※臨床検査医学、 臨床検査実習		
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることをできる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)							
【薬物治療の位置づけ】							
1) 代表的な疾患における薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。				薬物治療学 I	薬物治療学 II・III		
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)							
【心臓・血管系の疾患】							
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 I	薬物治療学 II・III		
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック							
【血液・造血器の疾患】							
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 I	薬物治療学 II・III		
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓							
【消化器系疾患】							
1) 消化器系の部立別 (食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 I	薬物治療学 II・III		
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病							
【総合演習】							
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)				薬物治療学 I	薬物治療学 II・III		
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)							
【腎臓・尿路の疾患】							
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 I、 内分泌学	薬物治療学 III		
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石							
【生殖系疾患】							
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 I、 内分泌学	薬物治療学 III		
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜癌							

	獣 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 内分泌学	薬物治療学Ⅲ		
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 内分泌学	薬物治療学Ⅲ		
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 内分泌学	薬物治療学Ⅲ		
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を提案することができる。			薬物治療学Ⅰ、 内分泌学	薬物治療学Ⅲ		
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾燥、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。						
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
【緩和ケアと長期療養】						
1) 慢性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）				薬物治療学Ⅱ・Ⅲ		
(5) 病原微生物・悪性新生物と闘う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			抗生物質学			
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。						
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			抗生物質学				
7) ペリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。							
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。							
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。							
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。							
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。							
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。							
【抗原虫・寄生虫薬】				抗生物質学			
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。							
【抗真菌薬】				抗生物質学			
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。							
【抗ウイルス薬】				抗生物質学			
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。							
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。							
【抗腫瘍薬の耐性と副作用】			抗生物質学				
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。							
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。							
【悪性腫瘍の病態と治療】			抗生物質学				
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。							
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。							
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。							
【抗悪性腫瘍薬】			抗生物質学				
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。							
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。							
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。							
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。			抗生物質学				
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。							
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。							
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。							
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。							
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】			抗生物質学				
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。							
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。							
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
C15 薬物治療に役立つ情報							
(1) 医薬品情報							
【情報】							
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。							
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						医薬品情報学	
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。							
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。							
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。							
【情報源】							
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。							
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。							
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。							
6) 医薬品インタビュフォーラムの位置づけと用途を説明できる。							
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビュフォーラムの使い分けができる。(技能)							
【収集・評価・加工・提供・管理】							
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬利鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)							
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。							
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)							
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)							
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
【データベース】							
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。							
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)							
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)							
【EBM (Evidence-Based Medicine)】							
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。							
2) EBM実践のプロセスを概説できる。							
3) 臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。							
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)							
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。							
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。							
【総合演習】							
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。							
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。						
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						医薬品情報学
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。						
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						
3) 患者、介護者との適切なインタビュから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)						医薬品情報学
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						医薬品情報学、 臨床薬物動態学、 ※臨床栄養学
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						医薬品情報学、 臨床薬物動態学、 ※臨床栄養学
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						医薬品情報学、 臨床薬物動態学、 ※臨床栄養学
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						医薬品情報学、 臨床薬物動態学、 ※臨床栄養学
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						
1) 患者固有の薬学的パラメータを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						医薬品情報学、 臨床薬物動態学、 ※臨床栄養学
2) ポピュレーションファーマコネティクスの概念と応用について概説できる。						
3) 薬動学的パラメータを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						医薬品情報学、 臨床薬物動態学、 ※臨床栄養学
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						実務実習事前教育

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】					
C16 製剤化のサイエンス					
(1) 製剤材料の性質					
【物質の溶解】					
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。		創薬物理薬理学	実務実習事前教育		
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。					
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。					
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。					
【分散系】					
1) 界面の性質について説明できる。		創薬物理薬理学	実務実習事前教育		
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。					
3) 乳剤の型と性質について説明できる。					
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。					
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。					
【製剤材料の物性】					
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。					
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。					
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。		創薬物理薬理学	実務実習事前教育		
4) 粉体の性質について説明できる。					
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。					
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。					
7) 粉末 X 線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。					
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)					
(2) 剤形をつくる					
【代表的な製剤】					
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。					
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。					
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。		薬剤設計学	実務実習事前教育		
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。					
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。					
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。					
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。					
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。					
【製剤化】					
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。		薬剤設計学	実務実習事前教育		
2) 単位操作を組み合わせ代表製剤を調製できる。(技能)					
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。					

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【製剤試験法】			薬剤設計学	実務実習事前教育		
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。						
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)						
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】				機能性製剤学、 実務実習事前教育		
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。						
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤 (徐放性製剤を含む) の利点について説明できる。						
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 懸濁製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】				機能性製剤学、 実務実習事前教育		
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。						
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。						
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。						
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						医薬品開発 I、 ※医薬品臨床開発各論
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品 (オーファンドラッグ) 開発の重要性について説明できる。						医薬品開発 I、 ※医薬品臨床開発各論
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						医薬品開発 I、 ※医薬品臨床開発各論
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						医薬品開発 I、 ※医薬品臨床開発各論
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
【医薬品の製造と品質管理】					
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。					
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。					医薬品開発Ⅰ、 ※医薬品臨床開発各論
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。					
【規範】					
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。					医薬品開発Ⅰ、 ※医薬品臨床開発各論
【特許】					
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。					医薬品開発Ⅰ、 ※医薬品臨床開発各論
【薬害】					
1) 代表的な薬害の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)					医薬品開発Ⅰ、 ※医薬品臨床開発各論
(2) リード化合物の創製と最適化					
【医薬品創製の歴史】					
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。					医薬品開発Ⅱ
【標的生体分子との相互作用】					
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。					
2) 医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。					医薬品開発Ⅱ
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。					
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。					
【スクリーニング】					
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。					医薬品開発Ⅱ
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。					
【リード化合物の最適化】					
1) 定量的構造活性性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。					医薬品開発Ⅱ
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。					
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。					
(3) バイオ医薬品とゲノム情報					
【組換え体医薬品】					
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。					医薬品開発Ⅲ
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。					
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。					
【遺伝子治療】					
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)					医薬品開発Ⅲ
【細胞を利用した治療】					
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)					医薬品開発Ⅲ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【臨床への応用】 1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。 2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。 3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。 4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能) 5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。			生物統計学			
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)						
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						薬事関係法規・薬事制度、※安全管理医療
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。						
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。						
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。						
2) 社会保障制度の中で医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
						社会保障制度と薬剤経済

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医療保険】					
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。					
2) 医療保険のしくみを説明できる。					
3) 医療保険の種類を列挙できる。					
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。					
【薬剤経済】					
1) 国民医療費の動向を概説できる。					
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。					
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。					
4) 医療費の内訳を概説できる。					
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。					
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)					
(3) コミュニティファーマシー					
【地域薬局の役割】					
1) 地域薬局の役割を列挙できる。					
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。					
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。					
【医薬分業】					
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。					
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)					
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。					
【薬局の業務運営】					
1) 保険薬剤師業務担当規則および保険医療費担当規則を概説できる。					
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。					
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。					
4) 調剤報酬および調剤報酬細書(レセプト)について説明できる。					
【OTC薬・セルフメディケーション】					
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)					
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。					
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。					
社会薬学 I					
※薬局ヘルスケア論					
社会薬学 I					
※薬局ヘルスケア論					
社会薬学 I					
※薬局ヘルスケア論					
社会薬学 I					
※薬局ヘルスケア論					

(基礎資料 3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs		該当科目	
		3年	4年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1.	医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	調剤学 I	事前学習を始める前に 実務実習事前教育
2.	医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。		
3.	薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		
《チーム医療に注目する》			
4.	医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	調剤学 I	
5.	チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		
6.	自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		実務実習事前教育
《医薬分業に注目する》			
7.	医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	調剤学 I	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1.	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	調剤学 I	実務実習事前教育
2.	処方オーダーリングシステムを概説できる。		
3.	処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		
4.	調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		
5.	代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		
6.	不適切な処方せんの処置について説明できる。		実務実習事前教育
《医薬品の用法・用量》			
7.	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		
8.	患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		
9.	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。	調剤学 I	
10.	患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		
11.	病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		

《医薬指導の基礎》			
12.	医薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	調剤学 I	
《調剤実務入門》			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務実習事前教育
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		
17.	処方せん例の鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	調剤学 I	実務実習事前教育
2.	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外觀の変化を観察する。(技能)	調剤学 II	実務実習事前教育
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		
《疑義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	調剤学 I	実務実習事前教育
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		
9.	疑義照会の流れを説明できる。		
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	調剤学 II	
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		実務実習事前教育
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学 II	
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		実務実習事前教育
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		

《製剤化の基礎》			
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	調剤学 I	実務実習事前教育
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		
《注射剤と輸液》			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習事前教育
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)		
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		
《消毒薬》			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	調剤学 I	
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		
(5) リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		安全管理医療
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		
3.	院内感染の回避方法について説明できる。	調剤学 I	
《副作用に注目する》			
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務実習事前教育
《リスクマネージメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		安全管理医療 安全管理医療、 実務実習事前教育
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	調剤学 I	実務実習事前教育
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		実務実習事前教育
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	調剤学 II	

《患者情報の重要性に注目する》		調剤学Ⅱ	実務実習事前教育
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。	調剤学Ⅱ	
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		実務実習事前教育
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		
《7》事前学習のまとめ			
			実務実習事前教育

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目 (新カリキュラム)

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)						
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)			医療倫理学演習			
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)						
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)			医療倫理学 医療倫理学演習			
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)						
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)		医療コミュニケーション演習	医療倫理学演習			
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	社会薬学					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。				実務実習事前教育		
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。			医療統計学I			
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	社会薬学			医薬品開発I		
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。				010ヘルスケア論		
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。				地域医療・プライマリケア論(知識)		
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)						
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				実務実習事前教育		
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。			医療倫理学			
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。				安全管理医療		
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。				安全管理医療、 実務実習事前教育		
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)				実務実習事前教育		
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。						
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)				医薬品開発I		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④薬学の歴史と未来】							
1)	薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	社会薬学					
2)	薬物療法史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	社会薬学、薬学入門					
3)	薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史 (医薬分業を含む) について説明できる。	社会薬学					
4)	将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)		医療コミュニケーション演習	医療倫理学演習			
(2) 薬剤師に求められる倫理観							
【①生命倫理】							
1)	生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)			医療倫理学、医療倫理学演習			
2)	生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。			医療倫理学			
3)	生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)			医療倫理学、医療倫理学演習			
4)	科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。			医療倫理学			
【②医療倫理】							
1)	医療倫理に関する規範 (ジュネーブ宣言等) について概説できる。			医療倫理学			
2)	薬剤師が遵守すべき倫理規範 (薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等) について説明できる。			医療倫理学、 医療倫理学演習			
3)	医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。			医療倫理学			
【③患者の権利】							
1)	患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)			医療倫理学演習	実務実習事前教育		
2)	患者の基本的権利の内容 (リスボン宣言等) について説明できる。						
3)	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。			医療倫理学、 医療倫理学演習			
4)	知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)						
【④研究倫理】							
1)	臨床研究における倫理規範 (ヘルシンキ宣言等) について説明できる。			医療倫理学			
2)	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。						
3)	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)						卒業研究
(3) 信頼関係の構築							
【①コミュニケーション】							
1)	意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。						
2)	言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3)	相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。						
4)	対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。						
5)	相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)						
6)	自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)						
7)	適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)						
8)	適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)						
9)	他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)						
			医療コミュニケーション演習 医療コミュニケーション 医療コミュニケーション演習		実務実習事前教育		

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病气やケアの影響について説明できる。		医療コミュニケーション				
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)						
【④多職種連携協働とチーム医療】						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。			調剤学I			
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。						
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)						
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすよう努める。(知識・態度)				実務実習事前教育		
【⑤自己研鑽と次世代を担う人材の育成】						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学的動向、社会の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)					卒業研究	
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)					卒業研究	※Student CASP ワークショップ
3) 必要な情報を的確に収集し、信頼性について判断できる。(知識・技能)						卒業研究
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)						
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)						実務実習事前教育
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	社会薬学					
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学入門	医療コミュニケーション演習	医療倫理学演習			
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	社会薬学					健康食品、実践薬学、Student CASP ワークショップ
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)						
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)						卒業研究
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)						
B 薬学と社会						
【①人と社会に関わる薬剤師】						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。			医療倫理学			
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	社会薬学					
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)		医療コミュニケーション演習				
4) 薬剤師が倫理規範や法を守ることの重要性について討議する。(態度)						
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)			医療倫理学演習			

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	社会薬学					
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。	社会薬学、薬学入門					
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度		
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。						
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
7) 個人情報取扱いについて概説できる。				薬事関係法規・薬事制度、 実務実習事前教育		
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。				薬事関係法規・薬事制度		
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。				医薬品開発 I		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。						
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度、 医薬品開発 I		
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。				医薬品開発 I		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度、 医薬品開発 I		
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。						
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。	社会薬学					
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度		
10) 健康被害救済制度について説明できる。	薬学入門			薬事関係法規・薬事制度、 医薬品開発 I		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。				医薬品開発 I		
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。						
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関係法規・薬事制度		
(3) 社会保障制度と医療経済						
【④医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度、 社会保障と薬学経済		
2) 医療保険制度について説明できる。						
3) 療養担当規則について説明できる。				薬事関係法規・薬事制度		
4) 公費負担医療制度について概説できる。				薬事関係法規・薬事制度、 社会保障と薬学経済		
5) 介護保険制度について概説できる。						
6) 薬師基準制度について概説できる。	社会薬学			社会保障と薬学経済		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				医薬品開発 I		
2) 国民医療費の動向について概説できる。				医薬品開発 I、 社会保障と薬剤経済		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。						
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。				社会保障と薬剤経済		
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。				地域医療・プライマリアケア論		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。						
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。				OTCヘルスケア論		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。						
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。				地域医療・プライマリアケア論		
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。						
2) 在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。				地域医療・プライマリアケア論		
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。						
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)						
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。						
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。						
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。						
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。						
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
	有機化学 I、基礎化学					
	有機化学 I、基礎化学					
	基礎化学					
	有機化学 I、基礎化学					
	基礎化学					
	有機化学 I、基礎化学					
	基礎化学					

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【③原子・分子の挙動】			分析化学Ⅱ			
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。						
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。			構造解析学Ⅰ			
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。				分析化学Ⅲ		
5) 光の散乱および干渉について説明できる。						
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。						
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射線について説明できる。			放射化学	※放射線管理物理学		
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。						
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。			物理化学Ⅱ			
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。			物理化学Ⅱ			
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。						
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。			物理化学Ⅱ			
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 熱力学第三法則について説明できる。						
4) ギブズエネルギーについて説明できる。						
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。						
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。			物理化学Ⅱ、 物理化学実習			
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。						
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。						
4) 共役反応の原理について説明できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【⑤相平衡】			物理化学Ⅲ			
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。						
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 状態図について説明できる。						
【⑥溶液の性質】			物理化学Ⅲ			
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。						
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						
4) イオン強度について説明できる。						
【⑦電気化学】			物理化学Ⅲ			
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。						
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。						
(3) 物質の変化						
【①反応速度】			物理化学Ⅲ	物理化学Ⅲ		
1) 反応次数と速度定数について説明できる。						
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(遅)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。						
7) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。						
02 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】			分析化学Ⅲ			
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)						
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)						
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。						
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】			分析化学Ⅰ	分析化学Ⅲ		
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。						
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)						
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)						
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。						
【②各種の化学平衡】			分析化学Ⅰ	創薬物理薬理学		
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。						
2) 沈殿平衡について説明できる。						
3) 酸化還元平衡について説明できる。						
4) 分配平衡について説明できる。						

	該 当 科 目				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
【②電気流動法】					
1) 電気流動法の原理および応用例を説明できる。					
(6) 臨床現場で用いる分析技術			臨床生化学実習、 分析化学Ⅲ		
【①分析の準備】					
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。					
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			臨床生化学実習、 分析化学Ⅲ		
【②分析技術】					
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。					
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。					
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			臨床生化学実習、 分析化学Ⅲ		
4) 代表的なドラッグミストリーについて概説できる。					
5) 代表的な画像診断技術(X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など)について概説できる。		放射化学	薬物治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、 ※放射線管理學、 分析化学Ⅲ		
c3 化学物質の性質と反応					
(1) 化学物質の基本的性質					
【①基本事項】					
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	有機化学Ⅰ		合成化学Ⅰ、 有機化学演習		
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。					
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。					
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。					
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。					
6) 基本的な有機反応(置換、付加、脱離)の特徴を理解し、分類できる。					
7) 成業原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を説明できる。					
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。					
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)					
【②有機化合物の立体構造】					
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。					
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。					
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。					
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。					
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)					
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性(cis, trans)ならびに E, Z 異性)について説明できる。					
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学Ⅰ		合成化学Ⅰ、 有機化学演習		
8) エタン、ブタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。					

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑦酸性度・塩基性度】							
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。			有機化学Ⅱ、Ⅳ				
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。			有機化学Ⅲ				
(4) 化学物質の構造決定							
【①核磁気共鳴 (NMR)】							
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。			構造解析学Ⅰ				
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。							
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。							
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。							
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						機器分析学実習	
【②赤外吸収 (IR)】							
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。			構造解析学Ⅰ				
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						機器分析学実習	
【③質量分析】							
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。			構造解析学Ⅰ				
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)							機器分析学実習
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。							
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)							機器分析学実習
【④総合演習】							
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)			構造解析学Ⅰ			機器分析学実習	
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質							
【①無機化合物・錯体】							
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。			無機・錯体化学				
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。							
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。							
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。							
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。							
C4 生体分子・医薬品の化学による理解							
(1) 医薬品の薬理的となる生体分子の構造と化学的な性質							
【①医薬品の薬理的となる生体分子の化学構造】							
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど) の構造に基づく化学的性質を説明できる。							
2) 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。					医薬品化学		
【②生体内で機能する小分子】							
1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。						医薬品化学	
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。							
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。							
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。						無機・錯体化学	
(2) 生体反応の化学による理解							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】					
1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。	有機化学Ⅲ				
2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。					
【②酵素阻害剤と作用様式】					
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。		医薬品化学			
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。					
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。					
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】					
1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		医薬品化学			
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。					
【④生体内で起こる有機反応】					
1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。		医薬品化学			
2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。					
【⑤医薬品の化学構造と性質、作用】					
【①医薬品と生体分子の相互作用】					
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。		医薬品化学			
【②医薬品の化学構造に基づく性質】					
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。		医薬品化学			
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。					
【③医薬品のコンポーネント】					
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。		医薬品化学			
2) バイオアイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。					
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。					
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】					
1) スクレオシンドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
5) β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
2) アセチルコリンアログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) ステロイドアログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
4) ペンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) オピオイドアログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			医薬品化学			
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造 (ジヒドロピリジンなど) の特徴を説明できる。			医薬品化学			
05 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。	生薬学	生薬学実習				
2) 代表的な薬用植物を外形形態から説明し、区別できる。(知識、技能)			※薬用資源学			
3) 植物の主な内部形態について説明できる。						
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物 (ケシ、アサ) の特徴を説明できる。						
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、藻類、菌類由来) を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	生薬学					
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来) の薬効、成分、用途などを説明できる。	生薬学					
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	生薬学	生薬学実習				
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。						
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1)	生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの合成経路を概説できる。					
2)	脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
3)	芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	生薬化学				
4)	テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
5)	アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1)	微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	生薬化学				
2)	微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1)	天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	生薬化学、 生薬学実習				
【④天然生物活性物質の利用】						
1)	医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。					
2)	天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	生薬化学				
3)	農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。					
06 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1)	細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	基礎生命科学				
2)	エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。					
【②細胞小器官】						
1)	細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	基礎生命科学				
【③細胞骨格】						
1)	細胞骨格の構造と機能を説明できる。	基礎生命科学				
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1)	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学I				
【②糖質】						
1)	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学I				
2)	代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。					
【③アミノ酸】						
1)	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学I				
【④タンパク質】						
1)	タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生化学II				

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【⑤ヌクレオチドと核糖】						
1) ヌクレオチドと核糖 (DNA, RNA) の種類、構造、性質を説明できる。			分子生物学 I			
【⑥ピタミン】						
1) 代表的なピタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。			衛生薬学 I			
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。			衛生薬学 I			
【⑧生体分子の定性・定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)			衛生薬学 I	生化学実習		
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多様な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。		生化学 II				
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。		生化学 II				
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。		生化学 II				
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)				生化学実習		
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		生化学 II				
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。						
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。		薬学入門	分子生物学 I			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。						
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。			分子生物学 I			
3) RNA の種類 (mRNA, rRNA, tRNA など) と機能について説明できる。						
【③遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。			分子生物学 I			
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。						
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
3) 転写因子による転写制御について説明できる。			分子生物学 I			
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。						
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【⑤遺伝子の変異・修復】	1) DNA の変異と修復について説明できる。		分子生物学 I			
【⑥組換え DNA】	1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。			分子生物学 II、 生化学実習		
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。						
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】	1) エネルギー代謝の概要を説明できる。		生化学 III			
【②ATP の産生と糖質代謝】	1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。					
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。			生化学 III			
3) 電子伝達系 (酸化リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。						
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。						
5) 糖新生について説明できる。						
【③脂質代謝】	1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。	生化学 I	生化学 III			
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
【④銅錯状態と飽食状態】	1) 銅錯状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。		生化学 III			
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
【⑤その他の代謝系】	1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。	生化学 I	生化学 III			
2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。						
3) ペントースリン酸回路について説明できる。						
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】	1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	基礎生命科学、 生化学 II				
【②細胞内情報伝達】	1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。					
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生化学 II				
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
【③細胞間コミュニケーション】	1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	基礎生命科学				
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該当科目					
					1年	2年	3年	4年	5年	6年
(7) 細胞の分裂と死										
【①細胞分裂】										
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。						分子生物学 I				
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。										
【②細胞死】										
1) 細胞死 (アポトーシスとネクロシス) について説明できる。										
【③がん細胞】										
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。							分子生物学 II			
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。										
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節										
(1) 人体の成り立ち										
【①遺伝】										
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。						分子生物学 I				
2) 遺伝子多型について概説できる。							分子生物学 II			
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。							薬物治療学 I・II・III、 分子生物学 II		薬物治療学 IV	
【②発生】										
1) 個体発生について概説できる。										
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。										
【③器官系概論】										
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。										
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。										
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)									微生物学実習 生薬学実習	
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)										
【④神経系】										
1) 中枢神経系について概説できる。										
2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。										
【⑤骨格系・筋肉系】										
1) 骨、筋肉について概説できる。										
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。										
【⑥皮膚】										
1) 皮膚について概説できる。										
【⑦循環器系】										
1) 心臓について概説できる。										
2) 血管系について概説できる。										
3) リンパ管系について概説できる。										
【⑧呼吸器系】										
1) 肺、気管支について概説できる。										

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学					
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。						
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	機能形態学					
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。	機能形態学		内分泌学			
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学		内分泌学			
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学					
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。	機能形態学		臨床生化学			
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学					
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。						
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学		内分泌学			
【③オートクローイドによる調節機構】						
1) 代表的なオートクローイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学		内分泌学			
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学					
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	機能形態学					
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学		臨床生化学、内分泌学			
【⑦体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学					
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学					
【⑨血液凝固・凝固系】						
1) 血液凝固・凝固系の機構について概説できる。	機能形態学		臨床生化学			
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学		内分泌学			

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
08 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。						
2) 免疫反応の特徴 (自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容) を説明できる。	免疫学					
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。						
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						
【② 免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。						
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	免疫学					
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【③ 分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。						
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。	免疫学					
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
(2) 免疫系の制御とその破壊・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破壊】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。	免疫学					
4) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。						
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。						
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。	免疫学					
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。						
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)					臨床生化学実習	
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	微生物学 I					

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【② 細菌】 1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。 2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。 3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。 4) 細菌の遺伝子伝達（接合・形質転換）について説明できる。 5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。 6) 代表的な細菌毒素について説明できる。	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 I						
【④ 真菌・原虫・蠕虫】 1) 真菌の性状を概説できる。 2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 I						
【⑤ 消毒と滅菌】 1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。 2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 I						
【⑥ 検出方法】 1) グラム染色を実施できる。（技能） 2) 無菌操作を実施できる。（技能） 3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 I						
（4）病原体としての微生物 【①感染の成立と共生】 1) 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。 2) 日和見感染と院内感染について説明できる。	微生物学 I						
	微生物学 I						
【②代表的な病原体】 1) DNAウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど）について概説できる。 2) RNAウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV など）について概説できる。 3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ホリスチス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など）について概説できる。 4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エリシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。 5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。 6) 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。 7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。 8) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白黴菌など）について概説できる。 9) 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。	微生物学 I						
	微生物学 I						
	微生物学 II						
	微生物学 II						
	微生物学 II						
	微生物学 II						
	微生物学 II						
	微生物学 II						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
D	衛生薬学						
D1	健康						
	(1) 社会・集団と健康						
	【①健康と疾病の概念】						
	1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			衛生薬学Ⅱ			
	【②保健統計】						
	1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生薬学Ⅱ			
	2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。						
	3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。						
	【③疫学】						
	1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			衛生薬学Ⅱ			
	2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。						
	3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。						
	4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
	(2) 疾病の予防						
	【①疾病の予防とは】						
	1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			衛生薬学Ⅱ			
	2) 健康増進政策 (健康日本21など) について概説できる。						
	【②感染症とその予防】						
	1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。			衛生薬学Ⅱ			
	2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						
	3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。						
	4) 予防接種の意義と方法について説明できる。						
	【③生活習慣病とその予防】						
	1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			衛生薬学Ⅱ			
	2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。						
	3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)						
	【④母子保健】						
	1) 新生児マスキニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生薬学Ⅱ			
	2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
	【⑤労働衛生】						
	1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			衛生薬学Ⅱ			
	2) 労働衛生管理について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 栄養と健康							
【①栄養】			衛生薬学Ⅰ				
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。							
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。							
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。							
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。							
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。							
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。							
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。							
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。							
【②食品機能と食品衛生】							
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。							
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）							
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。							
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。							
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。							
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。							
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。							
【③食中毒と食品汚染】							
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			衛生薬学Ⅰ 衛生薬学実習				
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。							
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			環境衛生学 衛生薬学実習				
D2 環境							
(1) 化学物質・放射線の生体への影響							
【①化学物質の毒性】							
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。							
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。							
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。							
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。							
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）							
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。							
7) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。							

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)						
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。			衛生薬学Ⅲ			
4) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法、化管法など) を説明できる。						
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2) 遺伝毒性試験 (Ames試験など) の原理を説明できる。			衛生薬学Ⅲ			
3) 発がんに至る過程 (イニエーション、プロモーションなど) について概説できる。						
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。						
2) 代表的な放射性核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。		環境衛生学				
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
4) 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。			放射線管理学			
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
2) 生態系の構成を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		環境衛生学				
3) 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。						
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)						
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						
2) 環境基本法の理念を説明できる。		環境衛生学				
3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。						
【③水環境】						
1) 原水の種別を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境衛生学、衛生薬学実習				
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。						
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)		環境衛生学、衛生薬学実習				
3) 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
【⑥医薬物】						
1) 医薬物の種類と処理方法を列挙できる。		環境衛生学、衛生薬学実習				
2) 医薬物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) マニフェスト制度について説明できる。		環境衛生学、衛生薬学実習				
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係の説明できる。						
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。						
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)						
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。 (E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		薬学入門	薬物動態学 I			
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要な要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。						
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 (E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)						
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。						
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)			薬理学実習、生化学実習			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)			薬理学実習			
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		薬理学 I				
(2) 身体の病的変化を知る						
【④症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、ショック、悪寒、発汗、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心臓亢進・動悸、胸痛、胸痛、肥満・やせ、黄疸、発赤、血痰、喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、呼吸困難、咳、痰、嘔吐、下痢、便秘、下血、腹部膨満(腹水を含む)、悪心、嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血、下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・尿色の異常、月経異常、関節痛、関節腫脹、腸胃部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)、神経痛、視力障害、聴力障害			臨床生化学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②病態・臨床検査】					
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
(3) 薬物治療の位置づけ					
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。					
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)					
(4) 医薬品の安全性					
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。					
2) 薬物の副作用と有害事象の連関について説明できる。					
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害					
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)					
E2 薬理・病態・薬物治療					
(1) 神経系の疾患と薬					
【①自律神経系に作用する薬】					
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)					
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】					
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)					
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)					
		臨床生化学			
		臨床生化学			
		臨床生化学			
		薬物治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	薬物治療学Ⅳ		
	感染制御学Ⅰ				
		臨床生化学		実務実習事前教育	
		薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	薬物治療学Ⅳ		
	薬理学Ⅰ			医薬品毒性学	
				医薬品毒性学、安全管理医療	
				医薬品毒性学	
	薬理学Ⅰ				
		薬理学実習			
	薬理学Ⅰ				
				薬理学実習	
				薬物治療学Ⅰ	
				(重症筋無力症のみ)	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】				薬物治療学Ⅳ		
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用 (WHO 三段階除痛ラダーを含む) を説明できる。						
3) 中枢興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
4) 統合失調症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
5) うつ病、躁うつ病 (双極性障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療学Ⅳ		
6) 不安神経症 (パニック障害と全蝕性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
7) てんかんについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ				
8) 脳血管疾患 (脳内出血、脳梗塞、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学Ⅰ			
9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。						
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果と動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)						
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎、髄膜炎 (重複)、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症				薬物治療学Ⅳ		
【④化学構造と薬物】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学Ⅰ・Ⅱ				
(2) 【①免疫・炎症・アレルギー-および骨・関節の疾患と薬】						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			薬理学Ⅲ			
3) 創傷治癒の過程について説明できる。						
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)						
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、蕁麻疹						実務実習事前教育

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学IV		
6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾癬、水痘症、光線過敏症、ペーチェット病			薬物治療学III			
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ハセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーグレン症候群			薬理学III、 薬物治療学I、 内分泌学			
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)			薬理学III	薬物治療学IV		
9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、角膜、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学III	薬物治療学IV		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			内分泌学			
【④化学構造と薬物】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬学入門					
【⑤循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系・生殖器系の疾患と薬】						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(AF)、発作性上室頻拍(PST)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(VF)、房室ブロック、QT延長症候群						
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学II				
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬学入門		薬物治療学III			
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)						
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患						
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p>【②】血液・造血器系疾患の薬、病態、治療</p> <p>1) 止血薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。</p> <p>2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。</p> <p>3) 以下の貧血について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血 (悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血</p> <p>4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>5) 以下の疾患について治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病 (重複)、悪性リンパ腫 (重複)</p> <p>(E2 (7) 【⑧】悪性腫瘍の薬、病態、治療) 参照)</p>	薬学入門	薬理学II	薬物治療学I				
	<p>【③】泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療</p> <p>1) 利尿薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。</p> <p>2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>4) 通活動脈脚および低活動脈脚について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 慢性腎臓病 (CKD)、糸球体腎炎 (重複)、糖尿病性腎症 (重複)、薬剤性腎症 (重複)、腎盂腎炎 (重複)、膀胱炎 (重複)、尿路感染症 (重複)、尿路結石</p> <p>6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫</p> <p>7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症</p>			薬物治療学III			
		薬理学II	薬物治療学III	薬物治療学III	薬理学II	薬理学II	
		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	
		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	
		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	
		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	
		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	
		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	
		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	
薬理学II		薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
<p>【④】化学構造と薬効</p> <p>1) 循環系、泌尿器系、生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。</p>							
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II	薬理学II		
<p>【⑤】呼吸器系疾患の薬、病態、治療</p> <p>1) 気管支喘息について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患 (ニコチン依存症を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p> <p>4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。</p>			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				
			薬理学III、薬物治療学III				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②】消化器系疾患の薬、病態、治療						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎						
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む))、薬剤性肝障害について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 腫瘍について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学II、薬物治療学II			
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
【③】化学構造と薬効						
1) 呼吸器系、消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学III			
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【④】代謝系疾患の薬、病態、治療						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
【⑤】内分泌系疾患の薬、病態、治療						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症、低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内腺症(重複)、アジソン病(重複)						
【⑥】化学構造と薬効						
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。						

平 成 25 年 度 改 訂 版 ・ 薬 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 眼内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
2) 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅲ、薬物治療学Ⅲ			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 網膜炎（重複）、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			薬物治療学Ⅲ			
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎、扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎			薬物治療学Ⅲ			
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療演習		処方解析
(E2) (2) 【②免疫・炎症・アレルギー】の薬、病態、治療】参照						
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅲ、薬物治療学Ⅲ			
(E2) (7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照						
3) 神経痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 尋麻疹（重複）、蕁麻疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮炎（重複）、光線過敏症（重複）			薬物治療学Ⅲ			
【④化学構造と薬物】						
1) 感覚器、皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。						
【⑤化学構造と薬物】						
1) 感覚器、皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。						
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床応用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（STI合剤を含む）、その他の抗菌薬		感染制御学Ⅰ	分子生物学Ⅱ			
2) 細菌感染症に関連する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。						
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。		感染制御学Ⅰ				
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			薬物治療学Ⅲ			
2) 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		感染制御学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
3) 以下の感覚感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			薬物治療学III		6年
4) 以下の皮膚感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎					
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等					
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病		感染制御学I			
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学III		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等				薬物治療演習	処方解析
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症					
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】					
1) ヘルペスウイルス感染症 (単細胞ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学III		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					処方解析
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療演習	
4) ウイルス性肝炎 (HAV, HBV, HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複)		感染制御学I	薬物治療学II		
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療学IV	
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト-ヤコブ) 病					
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】					
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。					
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		感染制御学I			

平 成 25 年 度 改 訂 版 ・ 薬 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
【⑥】原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療 1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢 2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症		感染制御学 I	薬物治療学 II		
【⑦】悪性腫瘍 1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。 2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織学分類および病期分類、悪性腫瘍の疫学（細胞診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因 3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			薬物治療学 II		
【⑧】悪性腫瘍の薬、病態、治療 1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬 2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。 3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む））、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。 4) 代表的ながん化学療法法のレジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。 5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL） 6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌 9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭・咽頭・口腔の悪性腫瘍 11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌 12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 IV、 薬物治療演習	処方解析
【⑨】がん終末期医療と緩和ケア 1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。 2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学 II・III	薬物治療学 IV	処方解析
【⑩】化学構造と薬効 1) 病原微生物・悪性新生物が関与する疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬物治療学 II、内分泌学	薬物治療演習	処方解析
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報			薬理学 III	薬物治療学 IV、 薬物治療演習	処方解析

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【①組織え体医薬品】			分子生物学II			
1) 組織え体医薬品の特色と有用性を説明できる。						
2) 代表的な組織え体医薬品を列挙できる。						
3) 組織え体医薬品の安全性について概説できる。						
【②遺伝子治療】			分子生物学II、医療倫理学			
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						
【③細胞、組織を利用した移植医療】			医療倫理学			
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療学IV		
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。						
【④要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション】						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。						
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						OTCヘルスケア論、 実務実習事前教育
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)						
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等						
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						※随伴学養学、 OTCヘルスケア論
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)						OTCヘルスケア論、 実務実習事前教育
【⑤医療中の漢方薬】						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。						
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。						
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。						
2) 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(11) 薬物治療の最適化				薬物治療演習		処方解析
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)						
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)						
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)						
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報				医薬品情報学		
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱っている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。						
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						
5) 医薬品情報に關する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GMP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。						
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。						
5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。				薬学入門		
6) 医薬品インタビュフォーラムの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)					医薬品情報学、 実務実習事前教育	
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)						
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。					医薬品情報学	
4) 臨床試験などの原簿論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				医療統計学 I、 ※医療統計学 II	※Student CASP ワークショップ	
5) 医薬品情報を二ーズに合わせて加工・提供し管理する際の手法と注意点(知的所有権、著作権義務など)について説明できる。					医薬品情報学	
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。						
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。						医療統計学 I、 ※医療統計学 II
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						

平定25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目								
	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
【⑤生物統計】 1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。 2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。 3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布) について概説できる。 4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。 5) 二群間の差の検定 (t検定、 χ^2 検定など) を実施できる。(技能) 6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。 7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。		統計学 I・II	医療統計学 I、 ※医療統計学 II						
	【⑥臨床研究デザインと解析】 1) 臨床研究 (治験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。 2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。 3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。 4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。 5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。 6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。 7) 統計解析時の注意点について概説できる。 8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。 9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、絶対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。(知識・技能)			医療統計学 I、 ※医療統計学 II			※Student CASP ワークショップ		
		【⑦医薬品の比較・評価】 1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。 2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能) 3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)				医薬品情報学 医薬品情報学 実務実習事前教育 医薬品情報学			
			(2) 患者情報 【①情報と情報源】 1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。 2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				医薬品情報学		
				【②収集・評価・管理】 1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。 2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。 3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。 4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A (2) 【③患者の権利】参照)					実務実習事前教育

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 個別化医療						
【①遺伝的病因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的病因について、例を挙げて説明できる。			分子生物学II			※臨床薬理学II
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的病因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。				臨床薬理学I		
3) 遺伝的病因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬理学I		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				臨床薬理学I		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				臨床薬理学I		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、脱水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				※臨床栄養学、臨床薬理学I		
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報 (遺伝的病因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)				臨床薬理学I		※臨床薬理学II
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。				薬物動態学I		
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。						
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。				薬物動態学I		
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
5) 初回通過効果について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。						
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			薬物動態学 I、 薬理学・製剤学実習			
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						
4) 血液・組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる細胞ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。						
2) 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I			
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。						
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。						
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。						
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。						
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			薬物動態学 I			
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。						
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。						
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。 (知識、技能)						
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。 (知識、技能)			薬物動態学 II、 薬理学・製剤学実習			
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。						
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。						
6) 薬物動態学—薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。						
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。						
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。 (知識、技能)			薬物動態学 II、 薬理学・製剤学実習	臨床薬理学 I		
4) ホビュレーションソフトウェアマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
E5 製剤化のサイエンス					
(1) 製剤の性質					
【①固形材料】					
1) 粉体の性質について説明できる。					
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。					
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2) (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び 【②各種の化学平衡】2. 参照		創薬物理薬理学、 薬理学・製剤学実習			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。					
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。	薬学入門				
【②半固形・液状材料】					
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。		創薬物理薬理学、 薬理学・製剤学実習			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。					
【③分散系材料】					
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2) (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照					
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。		創薬物理薬理学			
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。					
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。					
【④薬物及び製剤材料の物性】					
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。					
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。 (C1) (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照		創薬物理薬理学			
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。					
(2) 製剤設計					
【①代表的な製剤】					
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。					
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。					
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。		薬剤設計学、 薬理学・製剤学実習			
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。					
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。					
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透折に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。					
【②製剤化と製剤試験法】					
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。					
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。		薬剤設計学、 薬理学・製剤学実習			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。					
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。					
1年	2年	3年	4年	5年	6年

1年	2年	3年	該 当 科 目		
			4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
【③生物学的同索性】					
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同索性について説明できる。					
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)					
【①DDS の必要性】					
1) DDS の概念と有用性について説明できる。					
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4 (I) 【④代射】 4. も参照)					
【②コントロールリリース (放出制御)】					
1) コントロールリリースの概念と意義について説明できる。					
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。					
3) コントロールリリース技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					
【③ターゲティング (標的指向化)】					
1) ターゲティングの概念と意義について説明できる。					
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。					
3) ターゲティング技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					
【④吸収改善】					
1) 吸収改善の概念と意義について説明できる。					
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。					
3) 吸収改善技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					
F 薬学臨床					
前) : 病院・薬局での業務実習履修前に修得すべき事項					
(1) 薬学臨床の基礎					
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項					
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)					
3) 一次救命処置 (心肺蘇生、外傷対応等) を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)					
【②臨床における心構え】 [A (1) 、 (2) 参照]					
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)					
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)					
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)					
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					
早期体験学習					
実務実習事前教育					
病院実習・薬局実習					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。			調剤学 I	実務実習事前教育		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	薬学入門		調剤学 II			
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。			調剤学 I	実務実習事前教育		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				社会保障と薬剤経済		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度 (医療、福祉、介護) の概略を説明できる。 [B (3) ①参照]						
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。						
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)						
9) 急性期医療 (救急医療・集中治療・外傷治療等) や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						病院実習・薬局実習
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。						
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付けから薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)						
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規制等の理解と遵守】 [B (2)、(3) 参照]						
1) 前) 調剤業務に関わる事項 (処方せん、調剤録、疑義照会等) の意義や取り扱い扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			調剤学 I	実務実習事前教育		
2) 調剤業務に関わる法的文書 (処方せん、調剤録等) の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)						病院実習・薬局実習
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)						
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果・用量・用法・副作用、相互作用を列挙できる。				実務実習事前教育		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。						
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			調剤学 I	実務実習事前教育		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。						
5) 前) 処方せんの監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				実務実習事前教育		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)						
7) 処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、用法・用量等) が適切であるか確認できる。(知識・技能)				実務実習事前教育		
8) 注射薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であるか確認できる。(知識・技能)						病院実習・薬局実習
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)						
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方せんに判断できる。(知識・技能)						
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③処方せんに基づく医薬品の調製】				実務実習事前教育		
1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)			調剤学Ⅰ・Ⅱ	実務実習事前教育、安全管理医療		
2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。			調剤学Ⅱ			
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)						
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。						
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。						
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				実務実習事前教育		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)						
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)						
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)						
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)						
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)				実務実習事前教育		
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)						
13) 一回量 (一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)						
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)						
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。						
16) 注射剤 (高カロリー輸液等) の無菌的混合操作を実施できる。(技能)						
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)						
18) 特別な注意を要する医薬品 (劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等) の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)						
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)						
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。(態度)						
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。						
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報 (症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、副作用等) を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)						
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。						
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤 (眼薬膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等) の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)						
7) 前) 薬歴、診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				実務実習事前教育		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)						
9) 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。(態度)						
10) 患者・来局者から、必要な情報 (症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、副作用等) を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)						

平 成 25 年 度 改 訂 版 ・ 業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
12) 患者、来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					病院実習・薬局実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)						
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)						
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)				実務実習事前教育		
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。						
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。			調剤学Ⅱ			
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				薬事関係法規・薬事制度		
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。				薬事関係法規・薬事制度		
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	放射化学		放射線管理学	実務実習事前教育		
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			調剤学Ⅰ			
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				実務実習事前教育		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。			調剤学Ⅱ			
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)						
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)						
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)						病院実習・薬局実習
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)						
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				実務実習事前教育、安全管理医療		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。			調剤学Ⅱ	安全管理医療		
3) 前) 代表的なインジケント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)				実務実習事前教育、安全管理医療		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。			調剤学Ⅰ			
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				実務実習事前教育		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。			調剤学Ⅰ			
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				実務実習事前教育、安全管理医療		
8) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)						
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。				実務実習事前教育、安全管理医療(知識)		
10) 施設内のインジケント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)						病院実習・薬局実習
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)						
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)						
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)						
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。						
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) 【E3(2)①参照】				実務実習事前教育		
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。						
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)						
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)						
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)						病院実習・薬局実習
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)						
【②医薬品情報の収集と活用】【E3(1)参照】						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				実務実習事前教育		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)						
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)						
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)						病院実習・薬局実習
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)						
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)						
【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。			薬物治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。			調剤学Ⅰ			
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。			調剤学Ⅱ			
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。						
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。						
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。			調剤学Ⅱ			
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。						
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。						
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方提案ができる。(知識・態度)						
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)						
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)						
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)						
13) 処方提案に際し、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。						
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)						
				実務実習事前教育		
				実務実習事前教育		
				※臨床栄養学		
						処方解析
						病院実習・薬局実習

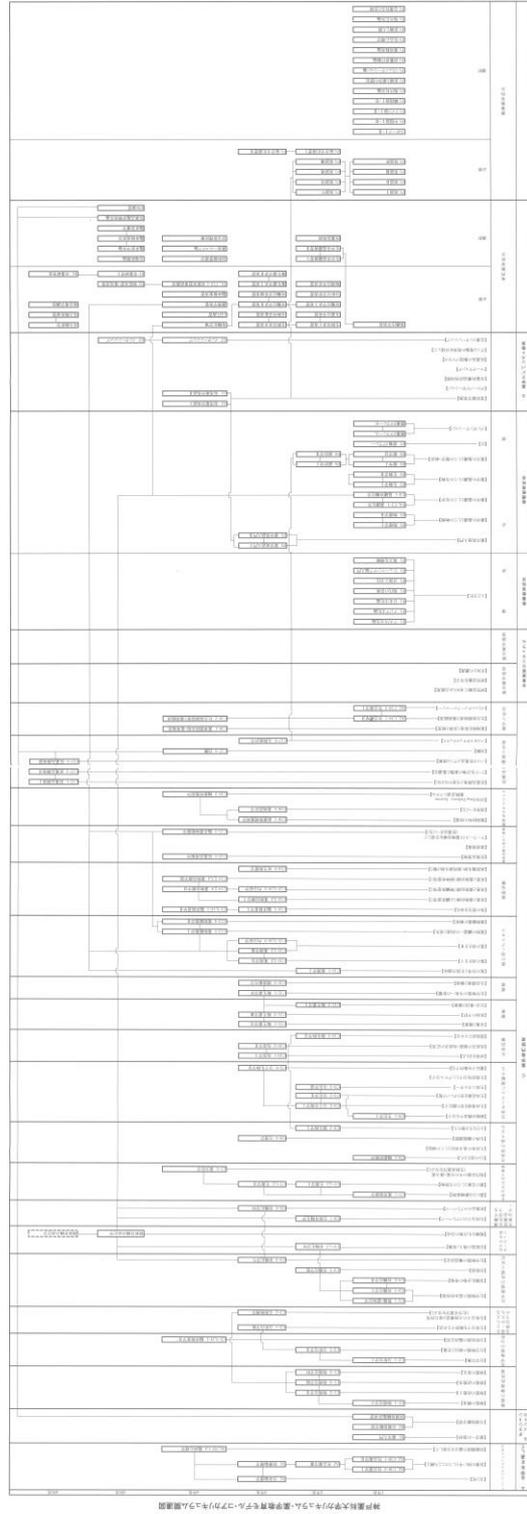
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)】				実務実習事前教育		
1) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。						
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)						
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)						
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)						
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案ができる。(知識・態度)						
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)						
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。						
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						病院実習・薬局実習
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)						
11) 報告に必要な要素 (SWiH) に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)						
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)						
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)						
(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。			調剤学 I	実務実習事前教育		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。						
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法 (連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等) を説明できる。						
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)						病院実習・薬局実習
5) 医師・看護師等の他職種 (病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化 (治療効果、副作用、心理状態、QOL等) の情報を共有する。(知識・態度)						
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議 (カンファレンスや患者回診への参加等) する。(知識・態度)						
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携、協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)						
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)						
9) 病院内の多様な医療チーム (ICU、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等) の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)				※臨床栄養学		
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制 (地域包括ケア) およびその意義について説明できる。			調剤学 I	実務実習事前教育		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)						
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)						病院実習・薬局実習
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)						

1年	該 当 科 目				6年
	2年	3年	4年	5年	
<p>平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)</p>					
<p>(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]</p>					
<p>【①在宅 (訪問) 医療・介護への参画】</p>					
<p>1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。</p>					
<p>2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。</p>					
<p>3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。</p>					
<p>4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務 (訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。(知識・態度)</p>					
<p>5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)</p>					
<p>6) 在宅患者の病状 (症状、発熱と重症度、栄養状態等) とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)</p>					
<p>【②地域保健 (公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動) への参画】</p>					
<p>1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動 (薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドープリング活動等) について説明できる。</p>					
<p>2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。</p>					
<p>3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)</p>					
<p>4) 地域住民の衛生管理 (消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等) における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)</p>					
<p>【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2 (9) 参照]</p>					
<p>1) 前) 現在の医療システムの中のプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討論する。(態度)</p>					
<p>2) 前) 代表的な症状 (頭痛・腹痛・発熱等) を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)</p>					
<p>3) 前) 代表的な症状に対する薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)</p>					
<p>4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)</p>					
<p>5) 薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)</p>					
<p>6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状 (疾患、重症度等) や体調を推測できる。(知識・態度)</p>					
<p>7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応 (医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等) を選択できる。(知識・態度)</p>					
<p>8) 選択した薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)</p>					
<p>9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)</p>					
<p>【④災害時医療と薬剤師】</p>					
<p>1) 前) 災害時医療について概説できる。</p>					
<p>2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。</p>					
<p>3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)</p>					
<p>6 薬学研究</p>					
<p>(1) 薬学における研究の位置づけ</p>					
<p>1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。</p>					
<p>2) 研究には自立性と獨創性が求められていることを知る。</p>					
<p>3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)</p>					
<p>4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)</p>					
<p>卒業研究</p>					
<p>卒業研究</p>					

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 研究に必要な法規範と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。						
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						卒業研究
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲						
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)						
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)						
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)						
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)						卒業研究
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)						
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)						

(基礎資料4) カリキュラムマップ

薬学教育モデル・コアカリキュラム（旧カリ）
カリキュラム1、カリキュラム2（評価書に記述）



(基礎資料5) 語学教育の要素

薬学教育モデル・コアカリキュラム (旧カリ)

2006年度 (平成18年度) ~2011年度 (平成23年度)

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語I	1	○	○		
英語II	1	○		○	
英語III	1	○	○		
英語IV	1	○		○	
英語V	2	○		○	
英語VI	2	○	○	○	○
英語VII	2	○		○	
英語VIII	2	○	○	○	○
ドイツ語I	1	○	○	○	○
ドイツ語II	1	○	○	○	○
中国語I	1	○	○	○	○
中国語II	1	○	○	○	○
韓国語I	1	○	○	○	○
韓国語II	1	○	○	○	○
薬学英语入門I	3	○	○		
薬学英语入門II	3	○	○		
実用薬学英语I	4	○	○	○	○
実用薬学英语II	4	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料5) 語学教育の要素 (平成25年度以降)
 薬学教育モデル・コアカリキュラム (旧カリ)
 2012年度 (平成24年度) ~2014年度 (平成26年度)

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語I	1	○	○		
英語II	1	○		○	
英語III	1	○	○		
英語IV	1	○		○	
英語V	2	○	○	○	○
英語VI	2	○	○	○	○
実用英語	2	○		○	
ドイツ語I	1	○	○	○	○
ドイツ語II	1	○	○	○	○
中国語I	1	○	○	○	○
中国語II	1	○	○	○	○
韓国語I	1	○	○	○	○
韓国語II	1	○	○	○	○
薬学英語入門I	3	○	○		
薬学英語入門II	3	○	○		
実用薬学英語I	4	○	○	○	○
実用薬学英語II	4	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料5) 語学教育の要素 (平成25年度以降)

平成25年度改訂版 薬学教育モデル・コアカリキュラム (新カリ)

2015年度 (平成25年度) ~

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語I	1	○	○		
英語II	1	○		○	
英語III	1	○	○		
英語IV	1	○		○	
英語V	2	○	○	○	○
英語VI	2	○	○	○	○
実用英語	2	○		○	
ドイツ語I	1	○	○	○	○
ドイツ語II	1	○	○	○	○
中国語I	1	○	○	○	○
中国語II	1	○	○	○	○
韓国語I	1	○	○	○	○
韓国語II	1	○	○	○	○
薬学英語入門I	3	○	○		
薬学英語入門II	3	○	○		
実用薬学英語	4	○	○	○	○
実用医療英語	4	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

平成26年度 4年次生 実務実習事前教育(後期)の学習スケジュールと集合場所

月	日(曜日)	時限	集合場所(学習形式:SBOs)								
			J1クラス	J2クラス	J3クラス	J4クラス	J5クラス	J6クラス	J7クラス	J8クラス	
9月	24(水)	4~6	K1132(講義:S604)								
	25(木)	4~6	K1132(講義:S301, S303)								
	26(金)	4~6	K1132(講義:S305)								
	30(火)	4~6	調剤室(実習:S210)				第1,2演習室(演習:S606)				
10月	1(水)	4~6	調剤室(実習:S210)				予備日	予備日	予備日	予備日	
	2(木)	4~6	K1132(講義:S411)				第1,2演習室(演習:S606)				
	7(火)	4~6	調剤室(実習:S411, S302)		予備日	予備日	第1,2演習室(演習:S606)				
	8(水)	4~6	調剤室(実習:S411, S302)		予備日	予備日	第1,2演習室(演習:S606)				
	9(木)	4~6	予備日	予備日	試験室(実習:S413)		第1,2演習室(演習:S306)				
	10(金)	4~6	試験室(実習:S412)		予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	
	14(火)	4~6	調剤室(実習:S210)				予備日	予備日	予備日	予備日	
	15(水)	4~6	調剤室(実習:S210)				予備日	予備日	予備日	予備日	
	16(木)	4~6	予備日	予備日	調剤室(実習:S411, S302)		第1,2演習室(演習:S306)				
	17(金)	4~6	試験室(実習:S413)		調剤室(実習:S411, S302)		第1,2演習室(演習:S304)				
	21(火)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	調剤室(実習:S210)				
	22(水)	4~6	第1,2演習室(演習:S606)				調剤室(実習:S210)				
	23(木)	4~6	第1,2演習室(演習:S606)				K1132(講義:S411)				
	24(金)	4~6	予備日	予備日	試験室(実習:S412)		予備日	予備日	予備日	予備日	
	28(火)	4~6	第1,2演習室(演習:S306)				調剤室(実習:S210)				
	29(水)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	調剤室(実習:S210)				
	30(木)	4~6	第1,2演習室(演習:S606)				予備日	予備日	予備日	予備日	
	31(金)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	調剤室(実習:S411, S302)		試験室(実習:S413)		
	11月	4(火)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	調剤室(実習:S411, S302)		予備日	予備日
		5(水)	4~6	第1,2演習室(演習:S606)				予備日	予備日	予備日	予備日
6(木)		4~6	第1,2演習室(演習:S306)				予備日	予備日	調剤室(実習:S411, S302)		
7(金)		4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	試験室(実習:S413)		調剤室(実習:S411, S302)		
11(火)		4~6	第1,2演習室(演習:S304)				試験室(実習:S412)		予備日	予備日	
12(水)		4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	試験室(実習:S412)		
13(木)		4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	
14(金)		4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	
18(火)		4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	
19(水)		4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	
20(木)		4~6	S701(総合実習)								
21(金)		4~6	S701(総合実習)								
25(火)		4~6	S701(総合実習)								
26(水)		4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	
27(木)	4~6	S701(総合実習)									
28(金)	4~6	S701(総合実習)									
12月	2(火)	4~6	S701(総合実習)								
	3(水)	4~6	S701(総合実習)								
	4(木)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	
	5(金)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	

<集合場所>

K1132 : 11号館3階 K1132講義室
 第1演習室 : 11号館4階 第1演習室
 第2演習室 : 11号館4階 第2演習室
 試験室 : 11号館5階 試験室
 調剤室 : 11号館6階 調剤室

<持ち物>

講義 : 実習テキスト、実務実習事前学習(日本薬学会編)、治療薬マニュアル
 演習 : 実習テキスト、実務実習事前学習(日本薬学会編)、治療薬マニュアル、
 名札、白衣
 実習 : 実習テキスト、実務実習事前学習(日本薬学会編)、治療薬マニュアル、
 上履き、白衣、名札

※貴重品の盗難に注意し、各自で保管すること

- K1132以外で、実習・演習を行う場合は必ず白衣と名札を着用してください。
- 実習S413では電卓を持参して下さい。(スマホ、携帯電話での代用は不可)
- 予備日に補講が入ることがありますので、掲示等に留意して下さい。
- S701(総合実習)の時間割は別途後日配布します。

平成26年度 実務実習事前教育担当表 (案)
後期

日(曜日)	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月							
	24(水)	25(木)	26(金)	2(水)	3(木)	4(金)	9(水)	10(木)	11(金)	16(水)	17(木)	22(水)	23(木)	24(金)	29(水)	30(木)	31(金)	6(水)	7(木)	13(水)	14(木)	20(水)	21(木)	27(水)	28(木)	28(火)
クラス	24(水)	25(木)	26(金)	2(水)	3(木)	4(金)	9(水)	10(木)	11(金)	16(水)	17(木)	22(水)	23(木)	24(金)	29(水)	30(木)	31(金)	6(水)	7(木)	13(水)	14(木)	20(水)	21(木)	27(水)	28(木)	28(火)
教室	K1132	K1132	K1132	K1132	第12演習・模擬																					
時間	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8
コマ数	3	1+2	3(2+1)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
学生人員	S301	S303	S305	S210	S806	S411	S302	S411	S306	S413	S306	S412														
講師	杉山	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田
本学教員合計	2	1	2	7	3	7	1	5	4	6	4	5	2	2	4	5	2	4	5	2	4	5	7	3	7	5
レジデント生																										
病院または薬局薬剤師																										
SP																										
SA																										

推進入研大会(第2演習) 11月

日(曜日)	11月			12月			1月			2月			3月												
	29(水)	30(木)	31(金)	4(水)	5(木)	6(金)	11(水)	12(木)	13(金)	18(水)	19(木)	25(水)	26(木)	27(金)	28(土)	4(水)	5(木)	11(水)	12(木)	18(水)	19(木)	25(水)	26(木)	27(金)	28(土)
クラス	29(水)	30(木)	31(金)	4(水)	5(木)	6(金)	11(水)	12(木)	13(金)	18(水)	19(木)	25(水)	26(木)	27(金)	28(土)	4(水)	5(木)	11(水)	12(木)	18(水)	19(木)	25(水)	26(木)	27(金)	28(土)
教室	第12演習・模擬																								
時間	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8
コマ数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
学生人員	S210	S806	S411																						
講師	沼田																								
本学教員合計	7	6	4	2	4	5	2	4	5	2	4	5	2	4	5	2	4	5	2	4	5	2	4	5	2
レジデント生																									
病院または薬局薬剤師																									
SP																									
SA																									

第12演習 : 4F 第1、第2演習室
 講義・模擬 : 6F 講義室、模擬室
 注射・試験室 : 5F 注射剤調製室、試験室
 4, 5, 6F : 11号館(上記を含む)

● : 主たる研究室
 ○ : 参加研究室

21	21
21	21
21	21
21	21
27	27
27	27
16	16
18	18
33	33
24	24
30	30
0	0
0	0
0	0

36	36
15	15
48	48
48	48
48	48
48	48
60	60
57	57
40	40
48	48
60	60
27	27
33	33
67	67
4	4
146	146
0	0
0	0
SA	100

平成27年度 4年次生 実務実習事前教育(前期)のスケジュール

月	日(曜日)	時限	集合場所(学習形式：SBOs)							
			J1クラス	J2クラス	J3クラス	J4クラス	J5クラス	J6クラス	J7クラス	J8クラス
4月	9(木)	1	K1132(実習説明、講義：S201)							
	9(木)	4~6	K1132(講義・演習：S202, S203, S204)							
	10(金)	4~6	第1演習室(演習：S211)				予備日	予備日	予備日	予備日
	16(木)	1	予備日							
	16(木)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	第1演習室(演習：S211)			
	17(金)	4~6	調剤室・模擬薬局(実習：S210)				予備日	予備日	予備日	予備日
	23(木)	1	K1132(講義：S410)							
	23(木)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	調剤室・模擬薬局(実習：S210)			
	24(金)	4~6	予備日							
5月	7(木)	1	予備日							
	7(木)	4~6	第2演習室(演習：S603)		第1演習室(演習：S605)		コン演A(S306)		注射・試験室(実習：S410、411)	
	8(金)	4~6	第1演習室(演習：S605)		第2演習室(演習：S603)		注射・試験室(実習：S410、411)		コン演A(S306)	
	14(木)	1	予備日							
	14(木)	4~6	第1演習室(演習：S506)				試験室(実習：S412)		予備日	予備日
	15(金)	4~6	注射・試験室(実習：S410、411)		コン演A(S306)		第1演習室(演習：S605)		第2演習室(演習：S603)	
	21(木)	1	予備日							
	21(木)	4~6	コン演A(S306)		注射・試験室(実習：S410、411)		第2演習室(演習：S603)		第1演習室(演習：S605)	
	22(金)	4~6	第1演習室(演習：S507)				予備日	予備日	試験室(実習：S412)	
	28(木)	1	K1132(講義：S409)							
	28(木)	4~6	試験室(実習：S412)		予備日	予備日	第1演習室(演習：S506)			
29(金)	4~6	予備日	予備日	試験室(実習：S412)		第1演習室(演習：S507)				
6月	4(木)	1	予備日							
	4(木)	4~6	DI室・試験室(実習：S205、206)		予備日	予備日	第1,2演習室(演習：S106)			
	5(金)	4~6	第1,2演習室(演習：S106)				DI室・試験室(実習：S205、206)		予備日	予備日
	11(木)	1	予備日							
	11(木)	4~6	予備日	予備日	DI室・試験室(実習：S205、206)		予備日	予備日	予備日	予備日
	12(金)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	DI室・試験室(実習：S205、206)	
	18(木)	1	予備日							
	18(木)	4~6	第1演習室、調剤室、模擬薬局(演習：S406, S605)				予備日	予備日	予備日	予備日
	19(金)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	第1演習室、調剤室、模擬薬局(演習：S406, S605)			
	25(木)	1	K1132(講義：S407)							
	25(木)	4~6	第1,2演習室(演習：S103)				予備日	予備日	予備日	予備日
26(金)	4~6	予備日	予備日	予備日	予備日	第1,2演習室(演習：S103)				
7月	2(木)	1	K1132(講義：S504)							
	2(木)	4~6	K1132(演習：S505) ※ 第1,2演習室使用							
	3(金)	4~6	予備日							

<集合場所>

コン演A：11号館2階 コンピュータ演習室A

第1演習室：11号館4階 第1演習室

第2演習室：11号館4階 第2演習室

試験室：11号館5階 試験室

注射：11号館5階 注射剤調製室

DI室：11号館5階 医薬品情報室

調剤室：11号館6階 調剤室

模擬薬局：11号館6階 模擬薬局

<持ち物>

講義：実務実習事前学習(日本薬学会編)、治療薬マニュアル、実習テキスト

演習：実務実習事前学習(日本薬学会編)、治療薬マニュアル、実習テキスト、白衣、名札

実習：実務実習事前学習(日本薬学会編)、治療薬マニュアル、実習テキスト、上履き、白衣、名札

●K150、K1132、コンピューター演習室以外で、実習・演習を行う場合は、必ず白衣と名札を着用してください。

●S210、S410では、関数電卓を持参してください。

●S406、S605の集合場所は後日指示があります。なお上履を必ず持参してください。

●その他、担当教員からの指示に従って下さい。

平成27年度 実務実習専門教育担当表

●: 主となる研究
○: 参加研究

前期

日(曜日)	4月				5月				6月				7月				8月						
	1~8	9(木)	10(金)	11(土)	12(日)	13(日)	14(日)	15(日)	16(日)	17(日)	18(日)	19(日)	20(日)	21(日)	22(日)	23(日)	24(日)	25(日)	26(日)	27(日)	28(日)	29(日)	30(日)
クラス	1~8	9(木)	10(金)	11(土)	12(日)	13(日)	14(日)	15(日)	16(日)	17(日)	18(日)	19(日)	20(日)	21(日)	22(日)	23(日)	24(日)	25(日)	26(日)	27(日)	28(日)	29(日)	30(日)
教室	K1132																						
時間	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6
コマ数	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
LS	S201	S202	S203	S211	S210																		
学生人員	300	300	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
臨床実習研究室																							
医療実習研究室																							
放射線管理室																							
情報支援室																							
本学職員合計	●(1)	●(3)	●(2)	●(2)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)	●(5)
センター	1	3	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
指導薬剤師																							
センター学生			2																				
SA																							
スタッフ総人数	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

報告会準備

日(曜日)	5月				6月				7月				8月										
	1~8	9(木)	10(金)	11(土)	12(日)	13(日)	14(日)	15(日)	16(日)	17(日)	18(日)	19(日)	20(日)	21(日)	22(日)	23(日)	24(日)	25(日)	26(日)	27(日)	28(日)	29(日)	30(日)
クラス	1~8	9(木) <td>10(金) <td>11(土) <td>12(日) <td>13(日) <td>14(日) <td>15(日) <td>16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	10(金) <td>11(土) <td>12(日) <td>13(日) <td>14(日) <td>15(日) <td>16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	11(土) <td>12(日) <td>13(日) <td>14(日) <td>15(日) <td>16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	12(日) <td>13(日) <td>14(日) <td>15(日) <td>16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	13(日) <td>14(日) <td>15(日) <td>16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	14(日) <td>15(日) <td>16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	15(日) <td>16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	16(日) <td>17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	17(日) <td>18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	18(日) <td>19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	19(日) <td>20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	20(日) <td>21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td>	21(日) <td>22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td></td>	22(日) <td>23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td></td>	23(日) <td>24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td></td>	24(日) <td>25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td></td>	25(日) <td>26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td></td>	26(日) <td>27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td></td>	27(日) <td>28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td></td>	28(日) <td>29(日) <td>30(日)</td> </td>	29(日) <td>30(日)</td>	30(日)
教室	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132	K1132
時間	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6	1 4~6
コマ数	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
LS	S409	S412	S606	S607	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606	S606
学生人員	300	75	150	75	150	75	150	75	150	75	150	75	150	75	150	75	150	75	150	75	150	75	150
臨床実習研究室																							
医療実習研究室																							
放射線管理室																							
情報支援室																							
本学職員合計	●(2)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)	●(4)
センター	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
指導薬剤師																							
センター学生																							
SA																							
スタッフ総人数	0	2	0	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0

健康診断

健康診断

教室
第1分演習 : 11号館4F 第1, 第2演習室
第2分演習 : 11号館5F 第1, 第2演習室
試験室 : 11号館5F 第1, 第2演習室
コンテナー : 11号館5F コンテナー分演習室A
注射 : 11号館5F 注射前室
D室 : 11号館5F 情報室

資料1

平成27年度 実務実習事前教育担当表 (案)

後期

基礎医学演習定期試験 I

日(曜日)	9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月										
	24(木)	25(金)	28(火)	30(水)	1(木)	2(金)	5(火)	6(水)	7(木)	8(金)	9(土)	13(火)	14(水)	15(木)	16(金)	20(火)	21(水)	22(木)	23(金)				
クラス	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1,2	J3,4	J5~8	J1,2	J3,4	J5~8	J1~4	J5~8	J1~4	J5~8	J1~4	J5~8
教室	K1132	K1132	K1132	調剤・ 模範	試験 室	注射・ 調剤	試験 室	注射・ 調剤	注射・ 調剤	第12 演習・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	第12 演習							
時間	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8
コマ数	3	1+2 3(2+1)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
LS	S604	S301 S303	S305	S210	S306	S210	S306	S210	S306	S210	S306	S411 S302	S413 S302	S411 S302	S411 S302	S411 S302	S606	S210	S210	S210	S210	S306	S304
学生人員	300	300	300	150	150	150	150	150	150	150	150	150	75	75	150	75	150	150	150	150	150	150	150
臨床薬学研究室																							
医療薬学研究室																							
薬学臨床教育センター																							
本学教員合計	2	1	2	7	5	7	3	5	1	4	4	2	4	4	6	2	4	6	5	7	7	5	5
レシデント生																							
病院または薬局薬剤師																							
SP																							
SA																							

基礎医学演習定期試験 II

日(曜日)	11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月										
	27(火)	28(水)	29(木)	30(金)	4(水)	5(木)	6(金)	10(火)	11(水)	12(木)	13(金)	17(火)	18(水)	19(木)	20(金)	24(火)	25(水)	26(木)	27(金)	28(土)	29(日)	31(火)	
クラス	J1~4	J5~8	J1~4	J5~8	J1~4	J5,6	J7,8	J1~6	J7,8	J1~4	J5,6	J7,8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8	J1~8
教室	第12 演習 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範	調剤・ 模範						
時間	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8	4~8
コマ数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
LS	S606	S210	休講	S411	S302	S413	S606	S411 S302	S411 S302	S413 S302	S411 S302	S411 S302	S411 S302	S701									
学生人員	150	150	150	150	150	150	150	300	225	75	150	75	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
臨床薬学研究室																							
医療薬学研究室																							
薬学臨床教育センター																							
本学教員合計	3	7	6	5	4	2	5	4	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
レシデント生																							
病院または薬局薬剤師																							
SP																							
SA																							

第12演習 : 4F 第1、第2演習室
 調剤・模範 : 6F 調剤室、模範薬局
 注射・試験室 : 5F 注射剤調製室、試験室
 4, 5, 6F : 11号館4、5、6階 (上記をすべて含む)

● : 主となる研究室
 ○ : 参加研究室

(基礎資料7) 学生受入状況について

学部	学科名	入試の種類		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	入試(27年度実施)	
薬学部	薬科	一般入試・前期	受験者数	783	864	1,074	1,283	1,263	1,131	109%
			合格者数	354	317	286	320	395	391	
			入学者数(A)	124	111	84	120	117	109	
			募集定員数(B)	85	85	100	100	110	110	
			A/B*100(%)	146	131	84	120	106	99	
		一般入試・中期	受験者数	83	313	520	560	524	385	
			合格者数	30	60	43	34	23	46	
			入学者数(A)	14	41	21	12	11	29	
			募集定員数(B)	30	30	30	30	20	20	
			A/B*100(%)	47	137	70	40	55	145	
		一般入試・後期	受験者数	130	198	355	301	306	274	
			合格者数	10	10	13	11	20	13	
			入学者数(A)	8	7	12	10	14	12	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
		大学入試センター入試	受験者数	428	469	532	641	614	439	
			合格者数	142	128	132	185	130	130	
	入学者数(A)		15	7	25	16	7	8		
	募集定員数(B)		10	10	10	10	10	10		
	指定校推薦	受験者数	56	57	70	78	71	66		
		合格者数	56	57	70	78	71	66		
		入学者数(A)	56	57	70	78	71	66		
		募集定員数(B)	70	70	60	60	60	60		
		A/B*100(%)	80	81	117	130	118	110		
	公募推薦入試	受験者数	509	512	528	698	743	622		
		合格者数	204	193	157	150	150	136		
		入学者数(A)	100	91	77	63	56	52		
		募集定員数(B)	65	65	60	60	60	60		
		A/B*100(%)	154	140	128	105	93	87		
学科計	受験者数	1,989	2,413	3,079	3,561	3,521	2,917			
	合格者数	796	765	701	778	789	782			
	入学者数(A)	317	314	289	299	276	276			
	募集定員数(B)	270	270	270	270	270	270			
	A/B*100(%)	117	116	107	111	102	102			

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	58名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	7名

* 1 大学設置基準 第二条別表第一、イ備考4

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	3 (1)					特別教授 1名
語学教育		2				
薬学基礎教育	9	5	13	4	1	RA : 8名 (名称リサーチ・アシスタント)
専門薬学教育	11 (5)	5	8 (1)	1	2	RA・2名、11 (5) = 5名の内2名特任教授、1名特別教授、1名実務家教員、1名実務家教員及び臨床特命教授、8 (1) = 実務家教員1名
実務実習教育	6 (6)	1 (1)	4 (4)	1	1	実務家教員 11名 (内2名臨床特命教授)
小計	29 (12)	13 (1)	25 (5)	6	4	特別教授2名 特任教授2名 実務家教員 14名 (内3名は臨床特命教授)
専任教員数	73 (18)					特別教授2名 特任教授2名 実務家教員 14名 (内3名は臨床特命教授)
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連			7	30 (1)	4	その他4名は技術職 課長7名のうち1名は技術職 30 (1) = 1は非常勤職員
法人業務関連	1					
小計	1		7	30 (1)	4	部長は教員が兼任、その他4名は技術職 課長7名のうち1名は技術職 30 (1) = 1は非常勤職員
事務職員数	38 (1)					38 (1) = 1は非常勤職員

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2) = 6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1) = 3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	17(4)	8(1)	4(0)	0	0	29(5)
	0.0%	58.6%	27.6%	13.8%	0.0%	0.0%	100%
准教授	0	2(1)	5(4)	5(1)	1(0)	0	13(6)
	0.0%	15.3%	38.5%	38.5%	7.7%	0.0%	100%
専任講師	0	0	7(7)	13(6)	5(0)	0	25(13)
	0.0%	0.0%	28.0%	52.0%	20.0%	0.0%	100%
助教	0	0	0	1(1)	5(3)	0	6(4)
	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%	0.0%	100%
合計	0	19(5)	20(12)	23(8)	11(3)	0	73(28)
	0.0%	26.0%	27.4%	31.5%	15.1%	0.0%	100%
定年年齢	65歳						

* 65歳定年時、学長又は教授であつて必要と認められた者は、再雇用されることもある。雇用期間は、その者の勤続年数等によるが、限度は70歳の年度末。

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。(例示：2(1)=2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及 U学学位種号			
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計								
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
薬学科	製剤学 研究室	学長 教授	きたがわ しゅうじ 北河 修治	男	64	2006.4.1	2013.4.1	薬剤設計学Ⅱ	0.72				0.72	0.00			0.00	0.00	京都大学大 学院 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	1.77		
								薬学入門	0.21					0.21				0.00				
								化粧品学	0.10					0.10				0.00				
								創薬物理薬剤学	2.50	2.50	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50			2.50				
薬学科	薬剤学 研究室	副学長 教授	いわがわ せいこ 岩川 精吾	男	62	1993.7.1	2013.4.1	薬物動態学Ⅰ	1.25				1.25				0.00	0.00	広島大学大 学院 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	5.55		
								臨床薬物動態学	1.25													
								処方解析学			0.10				0.10							
								処方解析演習			0.31				0.31							
薬学科	薬理学 研究室	教授	よしの しん 吉野 伸	男	63	2000.4.1	2000.4.1	実務実習事前教育	2.50	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	8.13	3.00	8.10		東北大学大 学院 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	4.69		
								医薬品毒性学	0.63												0.63	0.00
								薬理学Ⅲ		1.25											0.00	1.25
								薬理学実習							7.50						0.00	7.50
薬学科	薬化学 研究室	教授	たなかはし たかお 棚橋 孝雄	男	64	1984.4.1	2013.4.1	有機化学Ⅰ	0.63	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	7.50	0.63	8.75		京都大学大 学院 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	1.25		
								有機化学演習B1	1.25			1.25									0.00	1.25
								計	1.25	0.00	0.00	1.25	0.00	0.00	1.25	0.00	0.00	1.25			1.25	1.25
								分析化学Ⅱ	1.25													0.00
薬学科	生命分析化 学研究室	教授	こばやし のりひろ 小林 典裕	男	57	2002.4.1	2002.4.1	分析化学Ⅱ	1.25										東北大学大 学院 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	5.94		
								分析化学系実習														0.00
								早期体験実習								7.50						0.00
								分析化学Ⅰ														0.00
計	1.25	0.73	1.98	0.00	0.00	1.14	0.00	0.00	7.50	0.00	0.00	0.00	0.73	9.89	1.98							

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号	
								毎週授業時間数													年間平均毎週授業時間数
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期	後期	前期	後期		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
薬学科	生命有機化学研究室	教授	わた あきもり 和 田 昭 盛	男	60	1991.4.1	2005.4.1	構造解析学	0.42				0.42	0.00	0.00	0.00	大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了 博(薬)				
								精密有機合成化学	0.63				0.63	0.00	0.00	0.00					
								精密有機合成化学	0.31				0.31	0.00	0.00	0.00					
								医薬品開発II	0.52				0.52	0.00	0.00	0.00					
								医薬品開発II	0.52				0.52	0.00	0.00	0.00					
								有機化学系III実習				7.50	7.50	0.00	0.00	0.00					
								有機化学演習A				0.63	0.63	0.00	0.00	0.63					
								有機化学II	0.63				0.63	0.00	0.00	0.63					
								生物有機化学	0.63				0.63	0.00	0.00	0.63					
								計	2.40	0.00	0.00	0.00	7.50	9.90	1.89	5.90					
薬学科	機能性分子化学研究室	教授	なかやま ひろかず 中 山 尋 量	男	58	1997.4.1	2005.4.1	基礎化学	1.25				1.25	0.00	0.00	0.00	大阪大学大学院理学研究科博士課程修了 博(理)				
								物理化学I	1.25				1.25	0.00	0.00	1.25					
								無機・錯体化学	1.46				1.46	0.00	0.00	1.46					
								基礎化学実習				7.50	7.50	0.00	0.00	7.50					
								計	1.25	2.71	0.00	0.00	7.50	10.21	5.73						
薬学科	生化学研究室	教授	きたがわ ひろし 北 川 裕 之	男	52	1994.4.1	2005.4.1	分子生物学I	1.25				1.25	0.00	0.00	京都大学大学院薬学研究科博士課程修了 博(薬)					
								生物学系I実習													
								早期体験学習				1.14	1.14	0.00	0.00		1.14				
								生化学III	0.63				0.63	0.00	0.00		0.63				
								計	1.25	0.63	1.14	0.00	7.50	9.89	5.25						
薬学科	薬学臨床教育センター	教授 (実務家)	すぎやま まさとし 杉 山 正 敏	男	63	2007.9.1	2007.9.1	処方解析学					0.10	0.00	0.00	岐阜薬科大学薬学部在籍 博(薬)					
								処方解析演習					0.52	0.00	0.00		0.52				
								調剤学I	0.31				0.31	0.00	0.00		0.31				
								社会保障制度と薬剤経済	0.21				0.21	0.00	0.00		0.21				
								早期体験学習				0.42	0.42	0.00	0.00		0.42				
								実務実習事前教育				1.88	1.88	3.33	3.33		1.88				
								計	0.52	0.00	1.04	0.00	7.50	3.44	3.39						
								精密有機合成化学	0.63				0.63	0.00	0.00		0.63				
								精密有機合成化学	0.31				0.31	0.00	0.00		0.31				
								医薬品開発II	0.52				0.52	0.00	0.00		0.52				
医薬品開発II	0.52				0.52	0.00	0.00	0.52													
有機化学演習A				0.63	0.63	0.00	0.00	0.63													
有機化学	0.63				0.63	0.00	0.00	0.63													
有機化学系II実習				7.50	7.50	0.00	0.00	7.50													
計	1.98	0.63	0.00	0.63	7.50	1.98	8.76														
薬学科	薬品化学研究室	教授	みやた おきこ 宮 田 興 子	女	64	1976.4.1	2008.4.1	精密有機合成化学	0.63				0.63	0.00	0.00	神戸女子薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了 博(薬)					
								精密有機合成化学	0.31				0.31	0.00	0.00		0.31				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号		
								毎週授業時間数						年間平均毎週授業時間数								
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期		後期			計	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
薬学科	臨床薬学研究室	教授	えもと のりあき 江本 憲昭	男	53	2008.4.1	2008.4.1	機能形態学	0.31				0.31	0.00	0.00	0.31	0.00	0.00	神戸大学大学院 医学研究科 医学専攻 博士課程 修了 博(医)			
								薬物治療学V	0.63				0.63			0.63				0.63		
								処方解析学		0.10			0.10			0.10				0.10		
								処方解析演習		0.52			0.52			0.52				0.52		
								機能形態学		0.31			0.31			0.31				0.31		
								薬物治療学III		0.94			0.94			0.94				0.94		
								実務実習事前教育			1.25		1.25			1.25				1.25		
計	0.94	1.25	0.62	0.00	0.63	0.63	2.81	1.88	2.35			1.88	2.35									
薬学科	数学研究室	教授	うちだ よしあき 内田 吉昭	男	50	2008.4.1	2008.4.1	線形代数	1.25				1.25			1.25			神戸大学大学院 自然科学研究科 博士課程 修了 博(理)			
								統計学I	2.50				2.50			2.50						
								数学I	2.50				2.50			2.50						
								数学II		2.50			2.50			2.50						
								統計学II		2.50			2.50			2.50						
								数学の情緒		1.25			1.25			1.25						
								グラフ理論		1.25			1.25			1.25						
計	6.25	7.50	0.42	0.00	0.00	0.00	6.67	7.50	7.09			7.50	7.09									
薬学科	人文科学研究室	教授	はた きみや 畑 公也	男	62	1981.4.1	2009.4.1	総合文化演習		1.25			1.25			1.25			大阪大学大学院 文学研究科 博士課程 単位取得退学 修(文)			
								教養リテラシー		3.75			3.75			3.75						
								ドイツ語I	2.50				2.50			2.50						
								早期体験学習			0.42		0.42			0.42						
								ドイツ語II		1.25			1.25			1.25						
								現代の音楽		1.25			1.25			1.25						
								計	2.50	2.50	5.42	1.25	0.00	0.00	7.92	3.75	5.84				3.75	5.84
薬学科	薬学臨床教育センター	教授 (実務家)	はまぐち つねお 濱口 常男	男	61	2010.2.1	2010.2.1	薬事関係法規・薬事制度	0.94				0.94			0.94			大阪薬科大学 薬学部卒業 博(薬)			
								処方解析学		0.10			0.10			0.10						
								処方解析演習		0.31			0.31			0.31						
								安全管理医療	1.25				1.25			1.25						
								早期体験学習			0.42		0.42			0.42						
								調剤学II		0.31			0.31			0.31						
								計	2.19	0.31	0.83	0.00	0.94	0.94	3.75	3.75	4.01				3.75	4.01

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号							
								毎週授業時間数						計							年間平均毎週授業時間数						
								講義		演習		実験・実習・実技		前期		後期		前期				後期					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
薬学科	薬学臨床教育センター	教授 (実務家)	ぬまた ちかこ 沼田 千賀子	女	53	2010.4.1	2010.4.1	医薬品開発 I	0.21						0.21						0.00	神戸薬科大学大学院薬学研究科修士課程 修了 博(薬)					
								医薬品開発 I	0.21																	0.00	
								処方解析学		0.10																	0.00
								処方解析演習		0.52																	0.00
								調剤学 II		0.42																	0.42
実務実習事前教育									2.50					2.50					5.00								
計								0.42	0.42	0.00	0.00			3.54				5.42	4.48								
薬学科	薬学臨床教育センター	教授 (実務家)	たうち よしひこ 田内 義彦	男	52	2010.8.1	2010.8.1	調剤学 I	0.21						0.21						0.00	静岡薬科大学大学院薬学研究科修士課程 修了 博(薬)					
								漢方医学	0.31																	0.00	
								処方解析学		0.10																	0.00
								処方解析演習		0.52																	0.00
								社会薬学	0.63																		0.00
								O T Cヘルスケア論	0.42																		0.00
								海外薬学研修	0.31																		0.00
								実務実習事前教育										3.13					3.13				5.42
計								1.88	0.00	0.00	0.00			5.63				5.42	5.53								
薬学科	薬品物理化学研究室	教授	むかい たかひろ 向 高弘	男	46	2011.4.1	2011.4.1	物理化学 II	1.25						1.25						0.00	京都市立薬学研究所 修了 博(薬)					
								放射化学																		0.63	
								物理化学系実習																		7.50	
								計																			8.13
								臨床検査学 II	0.94																		0.00
薬学科	病態生化学研究室	教授	かとう いくお 加藤 郁夫	男	56	2013.4.1	2013.4.1	内分泌学	1.04												0.00	静岡薬科大学大学院薬学研究科修士課程 修了 博(薬)					
								薬物治療学 I	1.25																	1.04	
								臨床検査実習																			1.25
								計																			7.50
								免疫学	0.94	2.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.94		9.79				5.37
薬学科	微生物化学研究室	教授	こにし もりちか 小西 守周	男	42	2009.9.15	2014.4.1	免疫学	1.25						1.25						0.00	京都市立薬学研究所 修了 博(薬)					
								微生物学 I	1.25																	0.00	
								早期体験実習																			0.00
								微生物学 II		1.14																	1.14
								微生物学 I		1.25																	1.25
								生物学系 II 実習		1.25																	1.25
計								2.50	2.50	0.00	0.00	0.00	7.50	10.00				6.82									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号	
								毎週授業時間数													
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期		後期			年間平均毎週授業時間数
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計			
薬学科	薬学基礎教育センター	教授	こやま じゆんこ 小山 淳子	女	63	1976.4.1	2014.4.1	基礎化学	1.25					0.00	1.25	0.00	0.00	0.89	京都大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了(薬)		
								分析化学Ⅲ	0.52						0.52	0.00	0.00			0.52	
								計	1.25	0.52	0.00	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00	1.25			0.52	
薬学科		教授	たなか けんじ 田中 研治	男	66	2014.4.1	2014.4.1	英語の歴史	1.25					0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	4.59	関西学院大学大学院 文学研究科 修士課程 修了(文)	
								英語Ⅴ	2.50						1.25		2.50	0.00			
								総合文化演習		1.25					1.25		1.25	0.00			
								早期体験学習		0.42					0.42		0.42	0.00			
								英語Ⅵ		2.50					2.50		2.50	0.00			
計	3.75	2.50	1.67	1.25	0.00	0.00	0.00	5.42	3.75	4.59											
薬学科		教授	おかの としお 岡野 登志夫	男	65	2015.4.1	2015.4.1	臨床栄養学	0.63					0.00	0.63	0.00	0.00	4.69	大阪大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了(薬)		
								環境衛生学							7.50		7.50			0.00	
								衛生薬学系実習							7.50		7.50			0.00	
計	0.63	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.13	1.25	4.69											
薬学科		教授	なかえ ひろこ 中江 裕子	女	66	2012.4.1	2012.4.1	医薬品開発Ⅰ	0.42					0.00	0.42	0.00	0.00	1.00	京都大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了(薬)		
								医薬品開発Ⅱ	0.94						0.94		0.94			0.00	
								社会薬学	0.63						0.63		0.63			0.00	
								計	1.99	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.99	0.00	1.99			0.00	
総合文化演習		1.25					1.25		1.25	0.00											
計	0.00	0.00	1.25	1.25	0.00	0.00	0.00	1.25	1.25	1.25	0.00										
薬学科	薬学臨床教育センター	教授 (実務家)	ほん すび 韓 秀紀	女	64	2011.4.1	2011.4.1	早期体験学習		0.42				0.42	0.00	0.00	0.00	3.55	神戸女子薬科大学 薬学部 卒業		
								実務実習事前教育							1.88	4.79	1.88			4.79	
								計	0.00	0.42	0.00	0.00	0.00	0.00	1.88	4.79	2.30			4.79	
薬学科	薬学臨床教育センター	教授 (実務家)	わたり まさかつ 渡 雅克	男	62	2013.4.1	2013.4.1	処方解剖学		0.10				0.10	0.00	0.00	4.48	京都薬科大学 薬学部 卒業			
								処方解剖演習		0.10					2.50	6.25			2.50	6.25	
								実務実習事前教育							2.50	6.25			2.50	6.25	
計	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	2.70	6.25	4.48											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												最終学位及び学位称号											
								毎週授業時間数																							
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期		後期													
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
薬学科	薬学臨床教育センター	教授 (実務教)	おくがわ ひとし 奥川 斉	男	60	2015.4.1	2015.4.1	漢方医学	0.21					0.21	0.00									京都薬科大学 薬学部 卒業 薬博(薬)							
								計	0.21	0.00	0.00	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.11										
薬学科	社会科学 研究室	准教授	まつや じろう 松家 次朗	男	61	2000.4.1	2000.4.1	現代社会論	1.25															神戸大学大 学院 文化科学研究 博士課程 単位取得退 学 修(文)							
								教養リテラシー																							
								早期体験学習		3.75																					
								生命倫理学	1.25																						
								総合文化演習		1.25																					
								医療倫理学		1.25																					
医療と人間		1.25																													
計	2.50	2.50	6.14	1.25	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.64	3.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.20									
薬学科	生命有機化 学研究室	准教授	やまの ゆみこ 山野 由美子	女	54	1985.4.1	2009.4.1	精密有機合成化学	0.31															神戸女子薬 科大学大 学院 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)							
								有機化学IV	0.63																						
								有機化学系Ⅲ実習																							
								有機化学演習B2																							
								生物有機化学		0.63																					
								計	0.94	0.63	0.00	1.25	7.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.44	1.85	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.15
薬学科	中央分析室	准教授	たけうち あつこ 竹内 敦子	女	57	1981.4.1	2010.4.1	構造解析学	0.31															神戸女子薬 科大学大 学院 薬学部 卒業 薬博(薬)							
								薬学英語入門Ⅰ	1.25																						
								薬学英語入門Ⅱ		1.25																					
								計	1.56	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.56	1.25	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.41	
								英語Ⅰ	2.50																						
								英語Ⅱ	2.50																						
薬学科	英語第一 研究室	准教授	あかい ともこ 赤井 朋子	女	54	1992.4.1	2010.4.1	英語Ⅴ	2.50														関西学院大 学院 薬学部 卒業 薬博(薬)								
								総合文化演習		1.25																					
								早期体験学習		0.42																					
								英語Ⅲ		2.50																					
								英語Ⅳ		2.50																					
								英語Ⅵ		2.50																					
計	7.50	7.50	1.67	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	9.17	8.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.96									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号		
								毎週授業時間数						年間平均毎週授業時間数								
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期		後期				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	製剤学研究室	准教授	寺岡 麗子	女	62	1979.4.1	2010.4.1	医薬品開発I	0.10						0.10	0.00	0.00	0.00	神戸女子薬科大学 薬学研究所 修士課程 修了 博(薬)			
								情報リテラシー		1.88											0.00	0.00
								薬剤設計学I	1.25						7.50						1.25	0.00
薬学科	製剤学研究室	准教授	寺岡 麗子	女	62	1979.4.1	2010.4.1	薬剤製剤実習							0.00	1.25	7.50	0.00	神戸女子薬科大学 薬学研究所 修士課程 修了 博(薬)			
								実務実習事前教育	1.35	0.00	1.88	0.00	0.00	0.00	8.75	3.23	8.75	1.25		0.00		
								計	0.21	0.94	0.21	0.63	1.14	0.31	0.83	0.31	0.83	0.31		0.83	0.31	0.94
薬学科	薬学臨床教育センター	准教授 (実務家)	波多江 崇	男	44	2012.2.1	2012.2.1	処方解析学		0.21					0.21	0.00	0.00	0.00	佐賀医科大学 薬学研究所 修士課程 修了 博(医)			
								処方解析演習		0.63											0.63	0.00
								早期体験学習		1.14											1.14	0.00
薬学科	薬学臨床教育センター	准教授 (実務家)	波多江 崇	男	44	2012.2.1	2012.2.1	社会保障制度と薬剤経済	0.31						0.31	0.00	0.00	0.00	佐賀医科大学 薬学研究所 修士課程 修了 博(医)			
								O T Cヘルスメア論	0.83												0.83	0.00
								調剤学II		0.31											0.31	0.00
薬学科	薬学臨床教育センター	准教授 (実務家)	波多江 崇	男	44	2012.2.1	2012.2.1	機能形態学		0.94					0.94	0.00	0.00	0.00	佐賀医科大学 薬学研究所 修士課程 修了 博(医)			
								機能形態学演習		1.25											1.25	0.00
								医療統計学II		1.25											1.25	0.00
薬学科	衛生薬学研究室	准教授	中川 公恵	女	41	1997.4.1	2012.4.1	実務実習事前教育							3.13	5.94	5.94	8.44	神戸薬科大学 薬学部 卒業 博(薬)			
								計	2.29	2.50	1.98	0.00	0.00	3.13	5.94	3.13	5.94	7.40		8.44		
								衛生薬学II	0.63												0.63	0.00
薬学科	衛生薬学研究室	准教授	中川 公恵	女	41	1997.4.1	2012.4.1	衛生薬学系実習							7.50			0.00	神戸薬科大学 薬学部 卒業 博(薬)			
								計	0.63	1.25	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	8.13	1.25		4.69		
								実用英語	1.25												1.25	0.00
薬学科	英語第二研究室	准教授	玉巻 欣子	女	54	2012.4.1	2012.4.1	総合文化演習			1.25				1.25	1.25	1.25	1.25	神戸薬科大学 薬学系研究科 修士課程 修了 博(文) 博(医)			
								実用医療英語	1.25												1.25	0.00
								英語I	2.50												2.50	0.00
薬学科	英語第二研究室	准教授	玉巻 欣子	女	54	2012.4.1	2012.4.1	英語V	2.50						2.50	0.00	0.00	0.00	神戸薬科大学 薬学系研究科 修士課程 修了 博(文) 博(医)			
								早期体験学習	0.10												0.10	0.00
								海外薬学研修	2.50												2.50	0.00
薬学科	英語第二研究室	准教授	玉巻 欣子	女	54	2012.4.1	2012.4.1	英語III	2.50						2.50	0.00	0.00	2.50	神戸薬科大学 薬学系研究科 修士課程 修了 博(文) 博(医)			
								英語VI	7.60	6.25	1.67	1.25	0.00	0.00	0.00	9.27	7.50	8.39				
								計	7.60	6.25	1.67	1.25	0.00	0.00	0.00	9.27	7.50	8.39				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学歴及び学位称号						
								毎週授業時間数											年間平均毎週授業時間数					
								講義		演習		実験・実習・実技		計										
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
薬学科	医薬薬学研究室	准教授	たなはし としひと 棚橋 俊仁	男	50	2012.4.1	2012.4.1	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.26	京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程単位取得退学(医)				
								1.25	1.25	1.00	2.50	1.00	2.50	1.00	2.50	1.25	3.75	0.00		0.00	0.00	0.00		
								1.35	1.25	0.41	0.00	1.00	2.50	1.00	2.50	2.76	3.75	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	
								0.63	0.63	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	1.25	0.63	1.25	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
								0.63	0.63	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	1.25	0.63	1.25	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
薬学科	薬品化学研究室	准教授	うまだ まさふみ 上田 昌史	男	39	2000.4.1	2013.4.1	1.25	0.63	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.01	神戸薬科大学薬学部卒業(薬)				
								0.63	0.63	0.00	7.50	0.00	7.50	0.00	7.50	0.63	7.50	0.00		0.00	0.00	0.00		
								1.25	0.63	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.63	9.38	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	
								0.30	0.63	0.00	7.50	0.00	7.50	0.00	7.50	0.30	7.50	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	
								1.55	0.63	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	1.55	9.38	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	
薬学科	薬理学研究室	准教授	みずたに のぶあき 水谷 暢明	男	42	2007.7.1	2014.4.1	0.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.53	京都薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了(薬)				
								0.31	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.00	7.50	0.31	7.50	0.00		0.00	0.00			
								1.55	0.00	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	1.55	7.50	0.00		0.00	0.00	0.00		
								0.31	0.00	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.31	7.50	0.00		0.00	0.00	0.00		
								1.55	0.00	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	1.55	7.50	0.00		0.00	0.00	0.00		
薬学科	生薬化学研究室	准教授	したんのぶかず 土反 伸和	男	40	2009.4.1	2014.4.1	0.31	0.63	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.22	京都薬科大学大学院農学研究科博士課程修了(農)				
								0.31	0.63	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.31	7.50	0.00		0.00	0.00			
								0.31	0.63	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.31	7.50	0.00		0.00	0.00			
								0.31	0.63	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.31	7.50	0.00		0.00	0.00			
								0.31	0.63	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.31	7.50	0.00		0.00	0.00			
薬学科	随医薬学研究室	准教授	いけだ こうじ 池田 宏二	男	45	2014.4.1	2014.4.1	0.94	0.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.81	神戸薬科大学大学院医学研究科博士課程修了(医)					
								0.94	0.21	0.00	2.80	1.25	2.80	0.00	2.80	0.94	2.80		0.00	0.00	0.00			
								1.15	0.00	0.41	0.00	1.25	2.80	0.00	2.80	1.15	2.80		0.00	0.00	0.00			
								1.15	0.00	0.41	0.00	1.25	2.80	0.00	2.80	1.15	2.80		0.00	0.00	0.00			
								1.15	0.00	0.41	0.00	1.25	2.80	0.00	2.80	1.15	2.80		0.00	0.00	0.00			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号		
								毎週授業時間数						年間平均毎週授業時間数								
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期		後期			計	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
薬学科	薬学基礎教育センター	講師	こたま のりこ 児玉 典子	女	50	1999.4.1	2002.4.1	基礎生命科学	1.25					1.25	0.00	1.25	0.00	2.97	神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了 博(農) 博(医)			
								薬学英語入門Ⅰ	1.25						1.25	0.00	1.25	0.00		2.08		
								早期体験学習		1.14											0.00	0.00
								生化学Ⅰ	0.21												0.21	0.00
								薬学英語入門Ⅱ	1.25												0.00	1.25
感染制御学	0.83											0.00	0.83	0.00								
計	2.71	2.08	1.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.85	2.08	5.93								
薬学科	病態生化学研究室	講師	たがわ のりこ 多河 典子	女	52	1987.4.1	2005.4.1	臨床検査学Ⅰ	1.25									1.25	神戸女子薬科大学大学院薬学研究科修士課程修了 博(医)			
								生化学Ⅰ	1.04											1.04	0.00	
								内分泌学	0.21												0.21	0.00
								臨床検査実習													7.50	7.50
								計	2.29	0.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		2.29	7.71	5.00
有機化学Ⅰ	1.25							1.25				1.25	0.00	0.00	1.25							
有機化学演習CⅠ																1.25						
計	1.25	0.00	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	1.25						
薬学科	臨床薬学研究室	講師	やぎ けいこ 八木 敬子	女	49	1998.4.1	2005.4.1	処方解析学	1.25										大阪市立大学大学院医学研究科博士課程修了 博(医)			
								処方解析演習	0.10												0.10	0.00
								薬物治療Ⅴ	0.31												0.31	0.00
								実務実習事前教育	0.94												0.94	0.00
								薬物治療Ⅲ	0.31												0.31	0.00
計	0.94	0.31	0.41	0.00	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	2.60	3.41	3.01								
薬学入門	0.21											0.21	0.00	0.00								
実務実習事前教育															0.94							
薬物動態学Ⅱ	1.25											1.25	0.00	0.00	1.25							
薬剤製剤実習	0.21											0.21	0.00	0.00	0.21							
計	0.21	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.44	9.69	4.95								
生化学Ⅱ	1.25												1.25	0.00	0.00	1.25						
生物学系Ⅰ実習															7.50	0.00						
生化学Ⅱ	1.25												1.25	0.00	0.00	1.25						
生化学Ⅲ	0.63												0.63	0.00	0.00	0.63						
計	1.25	1.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.75	1.85	5.30								
医薬品毒理学	0.31												0.31	0.00	0.00	0.31						
薬学入門	0.21												0.21	0.00	0.00	0.21						
薬理学Ⅰ	2.50												2.50	0.00	0.00	2.50						
薬理学実習															7.50	7.50						
計	0.52	2.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.52	10.00	5.26								

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号									
								毎週授業時間数						年間平均毎週授業時間数															
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期		後期			計								
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期							
薬学科	薬化学研究室	講師	にしむら かつみ 西村 克己	男	45	2006.4.1	2006.4.1	精密有機合成化学	0.31					0.31	0.00	0.31	0.00	0.31	0.00	0.31	0.00	0.78	京都大学大学院薬学研究所博士課程修了 博(薬)						
								有機化学演習C2		1.25					1.25	0.00				1.25	0.00				1.25	0.00	1.25	0.00	
								計	0.31	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.31	0.00	1.25	0.00	0.00	0.31	0.00	1.25		0.00	0.31	0.00	1.25	0.00	
薬学科	生化学研究室	講師	なだなか さとみ 灘中 里美	女	44	2007.4.1	2007.4.1	生物学系I実習						7.50	0.00	7.50	0.00	7.50	0.00	7.50	0.00	4.38	神戸薬科大学大学院薬学研究所博士課程修了 博(薬)						
								分子生物学II		1.25					1.25	0.00				1.25	0.00				1.25	0.00	1.25	0.00	
								計	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50	0.00	0.00	7.50	0.00	7.50		0.00	7.50	0.00	4.38	0.00	
薬学科	放射線管理室	講師	やすおか ゆみ 安岡 由美	女	54	1990.4.1	2008.4.1	放射線管理学	1.25					1.25	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	0.99	神戸女子薬科大学薬学部卒業 博(理)						
								実務実習事前教育						0.10					0.10	0.00				0.10	0.00	0.63	0.00		
								放射化学		0.63					0.63	0.00				0.63	0.00				0.63	0.00	0.63	0.00	0.63
薬学科	薬品物理化学研究室	講師	たなか まさふみ 田中 将史	男	39	2005.6.1	2008.4.1	物理化学IV	1.25					1.25	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	1.25	0.00	5.00	京都大学大学院薬学研究所博士課程修了 博(薬)						
								薬学英語入門I		1.25					1.25	0.00				1.25	0.00				1.25	0.00	7.50	0.00	
								物理化学系実習																					
薬学科	薬学臨床教育センター	講師 (実務家)	たつみ あきとし 辰見 明俊	男	41	2008.4.1	2008.8.1	調剤学I	2.50	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50	0.00	2.50	0.00	2.50	0.00	2.50	0.00	5.00	神戸薬科大学大学院薬学研究所博士課程修了 修(薬)						
								社会保障制度と薬剤経済	0.31					0.31					0.31	0.00				0.31	0.00	0.31	0.00	4.48	0.00
								処方解析学	0.73						0.73					0.73	0.00				0.73	0.00	0.73	0.00	4.48
薬学科	薬学臨床教育センター	講師 (実務家)	いの あや 猪野 彩	女	40	2010.4.1	2010.4.1	調剤学I	1.14	0.00	0.41	0.00	0.00	1.14	0.00	1.14	0.00	1.14	0.00	1.14	0.00	4.74	昭和薬科大学大学院薬学研究所博士課程修了 修(薬)						
								薬事関係法規・薬事制度	0.21					0.21					0.21	0.00				0.21	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00
								処方解析学	0.31						0.31					0.31	0.00				0.31	0.00	0.31	0.00	0.00
薬学科	薬学臨床教育センター	講師 (実務家)	いの あや 猪野 彩	女	40	2010.4.1	2010.4.1	処方解析学		0.10	0.31			0.41	0.00	0.41	0.00	0.41	0.00	0.41	0.00	5.00	昭和薬科大学大学院薬学研究所博士課程修了 修(薬)						
								処方解析学		0.10	0.31			0.41	0.00	0.41	0.00	0.41	0.00	0.41	0.00	0.41		0.00	0.41	0.00	5.00	0.00	
								実務実習事前教育						4.38					4.38	0.00				4.38	0.00	4.38	0.00	4.38	0.00
計	0.52	0.00	0.41	0.00	0.00	0.00	0.52	0.00	0.41	0.00	0.00	0.41	0.00	0.41	0.00	0.41	0.00	0.41	0.00	5.00	0.00	5.16	0.00						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												最終学位及び学位称号									
								毎週授業時間数						年間平均毎週授業時間数															
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期		後期			計								
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期							
薬学科	生薬化学研究室	講師	にしやま ゆみ 西山 由美	女	51	2010.8.1	2010.8.1	漢方医学	0.42				0.42				0.00				0.00	神戸女子薬科大学薬学部卒業(薬)博							
								生薬化学実習																					
								生薬学	1.25																				
								生薬化学	0.63																				
薬学科	中央分析室	講師	とで ちさと 都出 千里	女	45	1996.4.1	2011.4.1	構造解析学	0.42				0.42				0.00				0.00	神戸薬科大学大学院薬学研究科修士課程修了(薬)博							
								計	0.52				0.52				0.00				0.00								
								有機化学系Ⅲ実習																					
								有機化学演習C4																					
薬学科	生命有機化学研究室	講師	おきつ たかし 沖津 貴志	男	35	2006.4.1	2012.4.1	有機化学Ⅱ	0.63				0.63								金沢大学大学院自然科学研究科修士課程修了(薬)博								
								計	0.00				0.00																
								臨床検査学Ⅱ	0.31																				
								薬学英語入門Ⅱ	1.25																				
薬学科	病態生化学研究室	講師	ふじなみ あや 藤波 綾	女	42	1995.4.1	2012.4.1	臨床検査学Ⅱ	0.31				0.31								神戸薬科大学薬学部卒業(薬)博								
								計	0.31				0.31																
								薬学英語入門Ⅱ	1.25																				
								臨床検査実習	7.50				7.50																
薬学科	薬品物理化学研究室	講師	はぎもり まさより 萩森 政頼	男	38	2012.4.1	2012.4.1	物理化学Ⅲ	1.25				1.25							京都大学大学院薬学研究科修士課程修了(薬)博									
								計	0.00				0.00																
								物理化学系実習	7.50				7.50																
								情報リテラシー	1.88				1.88																
薬学科	情報支援室	講師(実務系)	はぶ やすし 土生 康司	男	40	2013.10.1	2013.10.1	医薬品情報学	1.25				1.25							京都大学大学院薬学研究科修士課程修了(薬)博									
								計	0.00				0.00																
								薬学入門	0.31																				
								実務実習事前教育	1.25				1.25																
薬学科	機能性分子化学研究室	講師	まえだ ひでこ 前田 秀子	女	49	1989.4.1	2014.4.1	情報リテラシー	1.88				1.88							神戸女子薬科大学薬学部卒業(薬)博									
								計	0.00				0.00																
								無機・錯体化学	1.04																				
								基礎化学実習	7.50				7.50																
計	0.00				0.00																								

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職年月日	授業科目												最終学歴及び学位称号					
								毎週授業時間数													年間平均毎週授業時間数				
								講義		演習		実験・実習・実技		計		前期	後期	前期	後期			計			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
薬学科	医療統計学研究室	講師	もりわき けんすけ 森脇 健介	男	33	2014.4.1	2014.4.1	総合文化演習	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	5.63	新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究所 修士課程 修了 (保健)博						
								医療統計学 I	1.25											0.00	0.00				
								医療経済学	1.25														0.00	0.00	
								統計学 I	2.50														0.00	0.00	
								統計学 II	1.25	2.50	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25		1.25	1.25	1.25	0.00	0.00	
医療統計学 II	3.75	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	0.00	0.00	5.00	5.00								
薬学科	微生物化学研究室	講師	なかやま よしあき 中山 喜明	男	34	2014.9.16	2014.9.16	薬学入門	0.21									0.21	京都大学大学院薬学研究科 薬学修士課程 修了 (薬)博						
								生物学系 II 実習														7.50	7.50		
								計	0.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.21	7.50	3.86	
薬学科	薬学臨床教育センター	講師 (実務家)	かわうち しょうじ 河内 正二	男	39	2009.4.1	2015.4.1	処方解析学		0.10								0.10	神戸薬科大学大学院 薬学研究所 修士課程 修了 (薬)博						
								処方解析演習		0.31											0.31	0.00			
								早期体験学習		0.42											0.42	0.00			
								調剤学 I	0.21												0.21	0.00			
								海外薬学研修 実務実習事前教育	0.10												0.10	0.00	0.00		
計	0.31	0.00	0.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.75	6.25	6.25	5.57									
薬学科	薬学臨床教育センター	講師 (実務家)	たけした はるのり 竹下 治範	男	38	2014.4.1	2015.4.1	処方解析学		0.10								0.10	兵庫医科大学大学院 医学研究科 修士課程 修了 (医)博						
								処方解析演習		0.31											0.31	0.00			
								実務実習事前教育													3.75	5.94	5.94		
								調剤学 II	0.21												0.21	0.00	0.21		
								計	0.00	0.21	0.41	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	4.16	6.15	5.16		
薬学科	臨床心理学研究室	講師	なかじま そのみ 中島 園美	女	52	2015.4.1	2015.4.1	臨床心理学	1.25									1.25	大阪大学大学院 人間科学研究科 修士課程 単位取得 修了 (人間科)学 修(人間科)学 (3.34字)						
								総合文化演習		1.25											1.25	0.00			
								早期体験学習		0.42											0.42	0.00			
								社会心理学 人の行動と心理	1.25												1.25	0.00			
								計	2.50	1.25	1.67	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	4.17	2.50	3.34		
薬学科	機能性分子化学研究室	助教	はやし あき 林 亜紀	女	41	1996.4.1	2008.4.1	基礎化学実習										7.50	神戸薬科大学 薬学部 卒業 (理)博						
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	7.50	3.75		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学歴及び学位称号	
								毎週授業時間数											年間平均毎週授業時間数
								講義		演習		実験・実習・実技		計					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
薬学科	薬理学研究室	助教	ほそかわ みか 細川 美香	女	33	2009.4.1	2009.10.1	薬学英語入門Ⅰ	1.25						1.25	0.00	5.47	博(薬)	
								薬学英語入門Ⅱ	1.25					0.00	1.25	0.00			
								薬剤製剤実習					7.50	0.00	0.00	7.50			
薬学科	生命分析化学研究室	助教	おおやま ひろゆき 大山 浩之	男	33	2010.4.1	2010.4.1	実務実習事前教育	1.25	0.00				0.00	1.25	9.69	博(薬)		
								計					8.44	0.00	7.50	0.00			
								分析化学系実習					0.00	0.00	7.50	0.00		0.00	
薬学科	微生物化学研究室	助教	ますだ ゆうき 増田 有紀	女	36	2004.4.1	2010.10.1	情報リテラシー									博(薬)		
								計	0.00	0.00			0.00	7.50	0.00	7.50		0.00	
								処方解析学		1.88						1.88		0.00	0.00
薬学科	医薬薬学研究室	助教	ほりべ さよ 堀部 紗世	女	38	2013.10.1	2013.10.1	処方解析学	0.10					0.10	0.00	1.66	博(薬)		
								計	0.00	0.00			0.31	2.80	0.31			2.80	0.00
								有機化学系Ⅱ実習											0.21
薬学科	薬品化学研究室	助教	ただのりひこ 武田 紀彦	男	35	2014.4.1	2014.4.1	計	0.21	0.00				0.21	0.00	7.50	0.00	3.86	博(薬)
								計	0.21	0.00			0.00	7.50	0.00	7.50	0.00		
								計	0.21	0.00			0.00	7.50	0.00	7.50	0.00		

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合は、適宜、欄を修正して記入してください。
4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。また、担当時間数が明らかでない場合はそれを考慮して時間数を算出してください。
6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数	298 名
5年生の在籍学生数	264 名
6年生の在籍学生数	260 名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	機能性分子化学	3	19	16	15	50
2	薬化学	3	19	16	16	51
3	薬品化学	3	18	16	15	49
4	生命分析化学	3	19	16	16	51
5	生薬化学	2	12	12	10	34
6	薬品物理化学	3	19	16	15	50
7	生命有機化学	3	19	16	15	50
8	薬剤学	3	19	15	16	50
9	製剤学	3	12	12	15	39
10	微生物化学	3	19	13	11	43
11	薬理学	3	19	16	15	50
12	生化学	3	16	16	17	49
13	病態生化学	3	19	16	15	50
14	衛生化学	2	12	16	16	44
15	臨床薬学	3	18	16	16	50
16	医療薬学	2	12	12	15	39
17	薬学臨床教育センター	10	21	18	18	57
18	中央分析室	2	6	6	4	16
	合計		298	264	260	822

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考	
神戸薬科大学	講義室	26	3,611.0	専用	3,547	1,710	2.11		
	実習室	7	1,938.7	専用					
	ゼミナール室	5	167.5	専用					
	講堂	1	1,880.8	専用					
	学習室	2	114.1	専用					
	学生自習室	4	457.5	専用					
	コンピューター演習室	3	440.0	専用					
	演習室	2	704.8	専用					
	模擬薬局	6	1,319.7	専用					
	動物実験室	17	1,363.6	専用					
	R I 実験室	14	930.4	専用					
	薬用植物園			2,776.0	専用				

[注]

- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加してしてください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
神戸薬科大学図書館	213	1,648	12.9	学生自習室 I・II	70	情報処理端末なし	学部 1,620 大学院 修士10 博士12 士後期 6
学生自習室				学生自習室 1111	88	情報処理端末なし	
				学生自習室 1112	170	情報処理端末なし	
情報支援室 パブリックルーム				パブリックルーム	50	情報処理端末26台	
計	213	1,648	12.9		378		

- [注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているかを記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書 の冊数(内)	内国書	外国書			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
神戸薬科大学図書館	108,956	108,956	230	321	2,725	7,731	1,467	1,385	1,566	
計	108,956	108,956	230	321	2,725	7,731	1,467	1,385	1,566	

- [注] 1 雑誌等すでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育・研究業績

所属	製剤学研究室	職名	学長・教授	氏名	北河 修治
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要
				2008年4月～2013年12月	6年制3年次の「創薬物理薬理学」4年次の「実務実習事前教育」を分担した。薬剤学系の科目は学生の苦手な分野の一つであり、授業で補助プリントを使用し、また重要ポイントを黒板に明示し、内容の理解を図っている。また各授業の最後では、授業内容に関連した練習問題を行い、学生の理解を深める努力をしている。
				2008年4月～2014年12月	4年次の「機能性製剤学」を単独で(2011～2013年度は濱口教授と分担)担当した。DSは薬物動態学との関連が深く、連関させながら理解を図った。
				2015年1月～2015年12月	6年制4年次の「薬剤設計学Ⅱ」を主担当(土生講師及び2名の非常勤講師が分担)した。
				2011年4月～2015年12月	6年制5,6年次選択科目の「香粧品学」を分担するとともに、取りまとめ役も担った。(2015年度は、4,6年次選択科目)
				2012年4月～2015年12月	6年制1年次の「薬学入門」を分担した。
				2012年9月～2015年12月	6年制2年次の「創薬物理薬理学」を単独で担当した。科目が2年次に降りたことから、毎回、重要箇所の確認のため、小テスト(点数は最終評価に反映させない)を行った。
				2006年4月～2011年3月	大学院「薬剤設計学」の講義を担当した。
				2011年4月～2012年3月	大学院「製剤学特論」、「論文作成特論」の講義を分担した。
				2012年4月～2015年12月	大学院「薬剤学特論」の講義を分担した。
				2013年4月～2015年12月	大学院「臨床薬剤学特論」の講義を分担した。
2	作成した教科書、教材、参考書			2009年1月～2015年12月	「NEWパワープック物理薬理学・製剤学第2版」(廣川書店、2011年)を共編集、「パートナー薬剤学改訂第2版」(南江堂、2011年)、「製剤への物理化学第2版」(廣川書店、2011年)を分担執筆した。また「ベージック薬学教科書シリーズ20、薬剤学第2版」(化学同人、2012年)を編集した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項			2011年2月	文部科学省大学における医療人養成推進等委託事業～薬学教育における現状と課題に関する調査研究～に実行委員として参加し、2月開催のフォーラムで発表した。
				2012年4月～2013年3月	教務部長
				2013年4月～2015年12月	学長

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Kitagawa S., Tanaka Y., Tanaka M., Endo K., Yoshii A.	論文	J. Pharm. Pharmacol. 2009, 61(7), . "Enhanced skin delivery of quercetin by microemulsion"	
Kitagawa S., Inoue K., Teraoka R., Morita S.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2010, 58(3), 398-401. "Enhanced Skin Delivery of Genistein and Other Two Isoflavones by Microemulsion and Prevention against UV"	
Kitagawa S., Yoshii K., Morita S.-y., Teraoka R.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59(6), 793-796. "Efficient topical delivery of chlorogenic acid by an oil-in-water microemulsion to protect skin against UV-Induced damage"	
Kitagawa S., Fujiwara M., Okinaka Y., Yutani R., Teraoka R.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2015, 63(1), 43-48. "Effects of mixing procedure itself on the structure, viscosity, and spreadability of white petrolatum and salicylic acid ointment and the skin permeation of salicylic acid"	
Kitagawa S., Yutani R., Kodani R.-i., Teraoka, R.	論文	Results in Pharma Sciences 2016, 6, 7-14. "Differences in the rheological properties and mixing compatibility with heparinoid cream of brand name and generic steroidal ointments: The effects of their surfactants"	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
先発、後発ステロイド軟膏剤のレオロジー特性と油性クリーム剤との混合性 (西垣彰人、湯谷玲子、寺岡麗子、北河修治)	2015年5月	日本薬剤学会第30回年会 (長崎)	
各種白色ワセリンのレオロジー特性の違いと混合操作の影響 (三宅真唯、猪原振一、湯谷玲子、寺岡麗子、北河修治)	2015年8月	第18回近畿薬剤師学術大会 in神戸	

へパリン類似物質含有クリーム剤の先発品、後発品のレオロジー特性とステロイド軟膏剤との混合性（猪原振一、三宅真唯、湯谷玲子、寺岡麗子、北河修治）	2015年8月	第18回近畿薬剤師学術大会 in 神戸
ポリグリセリンオレイン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー（小池和彦、湯谷玲子、寺岡麗子、北河修治）	2015年9月	日本湯化学会第54年会（名古屋）
ポリフェノールの皮膚デリバリー改善に有用なマイクロエマルジョン成分の影響－界面活性剤が皮膚デリバリーに及ぼす影響－（信野亜由美、片岡悠、湯谷玲子、寺岡麗子、北河修治）	2015年9月	日本湯化学会第54年会（名古屋）
III 学会等および社会における主な活動		
1976年1月～		日本薬学会会員
1998年1月～2015年12月		日本薬物動態学会評議員
2001年3月～		日本薬剤学会評議員
2001年6月～		日本化粧品学会評議員
2009年4月～		製剤技術研究会委員（2011年9月製剤技術学会への改組に伴い、評議員）
2009年4月～2012年3月		日本薬学会Chem. Pharm. Bull. 編集委員
2011年4月～		日本医療薬学会会員
2012年4月～2012年12月		日本薬学会奨励賞審査委員
2012年4月～2012年12月		日本学術振興会科学研究費補助金審査員
2013年2月～		日本薬学会代議員
2013年6月～2014年5月		全国薬科大学長・薬学部長会議理事
2014年6月～		私立薬科大学協会理事
2014年6月～		私立大学協会関西支部理事
2014年7月～2015年12月		日本油化学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬剤学研究室	職名	副学長・教授	氏名	岩川 精吾
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 実習テキスト（実務実習事前教育、薬剤学・製剤学実習）の改訂 大学院特論プリントの毎年の改訂			年月日	概要
2	作成した教科書、教材、参考書 『医療薬学第5版』（廣川書店、2009） 『臨床への薬物動態学』（廣川書店、2009） 『わかりやすい調剤学第6版』（廣川書店、2010） 『生物薬剤学 - 薬の生体内運命』（朝倉書店、2011）			2009年3月 2009年4月 2010年3月 2011年2月	医療薬学の新規事項を追加改訂 薬物治療モニタリングの概要を執筆し、編集にも参画 薬学教育コアカリキュラムでの調剤学での重要事項を踏まえた改訂と編集 薬物相互作用について執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会第131年会シンポジウム「新しい大学教育と大学連携」で発表			2011年3月	「医薬共同による創薬・育薬を担う医療人の育成を通じた私立・国立大学の連携」について発表
4	その他教育活動上特記すべき事項 神戸薬科大学教務部長 神戸薬科大学大学院薬学研究科主幹 神戸薬科大学副学長 兵庫県立大学看護学部で臨床薬理学を講義			2006年4月～2010年3月 2010年4月～2013年3月 2013年4月～2015年12月 2006年～2015年	米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校での薬剤師レジデント教育を見学し、神戸大学との連携による薬剤師レジデント教育プログラムの参考とした 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校を訪問し、米国の薬剤師レジデント教育と、神戸大学との連携による薬剤師レジデント教育について意見交換を行った

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Tanaka S., Hosokawa M., Yonezawa T., Hayashi Y., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2015, 38 (3), 435-440. "Induction of epithelial-mesenchymal transition and down-regulation of miR-200c and miR-141 in oxaliplatin-resistant colorectal cancer cells."	
Hosokawa M., Saito M., Nakano A., Iwashita S., Ishizuka A., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Oncol. Lett. 2015 10(2), 761-7 Acquired resistance to decitabine and cross-resistance to gemcitabine during the long-term treatment of human colorectal cancer HCT116 cells with decitabine."	
Ueda K., Hosokawa M., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2015, 38(8), 1113-97 Cellular uptake of decitabine by equilibrative nucleoside transporters in HCT116 cells"	
Tanaka S., Hosokawa M., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Biol Pharm Bull. 2015, 38(9), 1272-9 "Effects of decitabine on invasion and exosomal expression of miR-200c and miR-141 in oxaliplatin-resistant colorectal cancer cells"	
Ikehata M., Ogawa M., Yamada Y., Tanaka S., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2014, 37(1), 67-73. "Different effects of epigenetic modifiers on the cytotoxicity induced by 5-fluorouracil, irinotecan or oxaliplatin in colon cancer cells."	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
シタグリブチン服用開始2型糖尿病患者におけるスタチンの併用とBMIに着目したHbA1cとLDL-Cコレステロールの変動比較	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会	
大腸がん細胞におけるデシタビンの効果へのdeoxyeytidine kinaseの関与	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会	
ヒト大腸がん細胞株HCT116細胞におけるデオキシシチジン取り込みに対するデオキシシチジンキナーゼノックダウンの影響	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会	

分子標的抗瘍剤における添付文書の改訂頻度、時期および内容の調査分析	2015年6月	第18回日本医薬品情報学会総会・学術大会
糖尿病薬の中止を試みる際のグリコアルブミン測定の有用性の検討	2015年5月	第58回日本糖尿病学会年次学術集会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2000年4月～2015年12月	日本薬学会近畿支部委員	
2005年4月～2013年4月	日本医療薬学会評議員	
2005年4月～2015年12月	日本医療薬学会委嘱指導薬剤師	
2007年4月～2013年12月	日本高等教育評価機構評価員	
2014年4月～2015年12月	日本薬学会近畿支部幹事	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬理学研究室	職名	教授	氏名	吉野 伸
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 本学薬学部生に対する教育 本学大学院薬学研究科学生に対する教育 甲南女子大学看護学部生に対する教育			年月日	概要 薬理学III、医薬品毒性学、総合薬学講座、薬理学実習を担当している。 病態解析治療学特論、病態薬理生化学特論、演習、研究指導を行っている。 薬理学講義を行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書 医薬品トキシロロジー (第4版) 最新薬理学 (第1版) 薬系免疫学 (第2版)			2010年11月 2012年1月 2012年9月	南江堂 廣川書店 南江堂
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項 (1) CBT対策委員会委員長 (2) 動物実験施設運営委員会委員長			2008年4月ー2010年3月 2008年4月ー現在	CBT対策を行った。 動物実験施設運営委員会において活動している。
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名			種別	内容
	Mizutani N., Nabe T., Yoshino S.			論文	J Immunol. 2009, 183, 4039-4046. "Complement C3a regulates late asthmatic response and airway hyperresponsiveness in mice"

Yoshino S, Sasahara M, Hutamekalin P, Yamaki K, Mizutani N, Kuramoto H.	論文	Br J Pharmacol. 2010, 161, 1351-1360. "Suppression of antibody-mediated arthritis in mice by Fab fragments of the mediating antibodies."
Mizutani N., Goshima H., Nabe T., Yoshino S.	論文	J Immunol. 2012 188, 5694-5705. "Complement C3a-induced IL-17 plays a critical role in an IgE-mediated late-phase asthmatic response and airway hyperresponsiveness via neutrophilic inflammation in mice."
Yoshino S, Mizutani N, Matsuoka D., Sae-Wong C.	論文	Immunol. 2014, 141, 617-627. "Intratracheal exposure to Fab fragments of an allergen-specific monoclonal antibody regulates asthmatic responses in mice."
Matsuoka D, Mizutani N., Sae-Wong C., Yoshino, S.	論文	Immunol. Lett. 2014, 161, 149-156. "Allergen-specific regulation of allergic rhinitis in mice by intranasal exposure to IgG1 monoclonal antibody Fab fragments against pathogenic allergen."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
アレルギーに対するモノクローナル抗体IgG1 Fabの局所暴露によるアレルギー性鼻炎のアレルゲン特異的制御	2015・5	第64回 日本アレルギー学会学術大会
TSLPにより誘導されるTh17細胞のアトピー性皮膚炎様症状における役割	2015・5	第64回 日本アレルギー学会学術大会
In vivo imagingを用いた新規マウスアレルギー反応迅速測定法	2015・11	第19回 日本ヒスタミン学会
抗原の特徴的分布(ASDIS)を指標とする簡便で迅速な新規アレルギーマウスモデルの確立	2016・3	第136回 日本薬学会
ダニ抗原により誘導されるアトピー性皮膚炎様症状におけるCD4+細胞の役割	2016・3	第136回 日本薬学会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2002年1月 ～ 現在	日本免疫毒性学会評議員
2002年4月 ～ 現在	日本薬理学会評議員
2004年1月 ～ 2014年12月	日本免疫毒性学会理事
2007年1月 ～ 2007年12月	日本免疫毒性学会会長
2002年4月 ～ 現在	日本トキソロジー学会評議員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬化学研究室	職名	教授	氏名	棚橋 孝雄
I 教育活動					
		教育実践上の主な業績		概要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			要	
有機化学の講義			1984年4月～現在に至る	理解を助けるために補助プリントを作成、また視覚教材を利用している。	
有機化学実習			1984年4月～2007年3月, 2013年4月～現在に至る	ディスカッションを通して、理解の深化をはかる。	
薬学入門の講義			2007年4月～2013年3月	視覚教材を利用している。	
有機化学演習の講義			2013年4月～現在に至る	毎回提出させた問題プリントを添削し、返却している。	
2	作成した教科書、教材、参考書 特になし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 卒業研修講座で講演			神戸薬科大学同窓会の各地区支部が主催する公開卒業研修講座で、6年制薬学教育に関する講演を行った。	
4	その他教育活動上特記すべき事項 教務部長 薬学教育者・薬剤師へのFD活動 副学長 学長			教務部長として、教育内容と教育システムの改善と新カリキュラムの編成を行った。 タスクフォースやチーフタスクフォースとして、薬剤師のためのワークショップin近畿に協力。 副学長として学長を補佐し、大学の運営に協力。 学長として、教育全般を統括し、他大学や各種機関との教育連携を推進。	
II 研究活動					
1.	著書・論文等			内容	
氏名		種別		内容	
Yoshiyuki Mizushima, Katsumi Nishimura, Yukiko Takenaka, Toshifumi Takeuchi, Fumio Sugawara, Hiromi Yoshida, Takao Tanahashi		論文		Int. J. Oncol. 2010, 37(4), 993-1000. "Inhibitory Effects of Docosyl p-Coumarate on DNA Topoisomerase Activity and Human Cancer Cell Growth"	

Yukiko Takenaka, Natsuko Morimoto, Nobuo Hamada, Takao Tanahashi	論文	<i>Phytochemistry</i> 2011, 72(9), 1431-1435. "Phenolic Compounds from Cultured Lichen Mycobionts of <i>Graphis proserpens</i> "
Duy Hoang Le, Yukiko Takenaka, Nobuo Hamada, Takao Tanahashi	論文	<i>Phytochemistry</i> 2013, 91, 242-248. "Eremophilane-type Sesquiterpenes from the Cultured Lichen Mycobionts of <i>Sarcographa tricosia</i> "
Duy Hoang Le, Yukiko Takenaka, Nobuo Hamada, Yoshiyuki Mizushima, Takao Tanahashi	論文	<i>J. Nat. Prod.</i> 2014, 77(6), 1404-1412. "Polyketides from the Cultured Lichen Mycobiont of a Vietnamese <i>Pyrenula</i> sp."
Yumi Sugimoto, Katsumi Nishimura, Atsuko Itoh, Takao Tanahashi, Hiroshi Nakajima, Hideo Oshiro, Shujian Sun, Takahiro Toda, Jun Yamada	論文	<i>J. Pharm. Pharmacol.</i> 2015, 67(12) 1716-1722. "Serotonergic mechanisms are involved in antidepressant-like effects of bisbenzylisoquinoline alkaloids liensinine and its analogs isolated from the embryo of <i>Nelumbo nucifera Gaertner</i> seeds in mice"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
<i>Garcinia mangostana</i> の葉部と果皮のキサントン類のDNAポリメラーゼ阻害活性	2015年3月	日本薬学会第135年会
Polyketides from cultured lichen mycobionts of <i>Pseudopyrenula subnuda</i> and their biosynthetic origin	2015年8月	63rd International Congress and Annual Meeting of the Society for Medicinal Plant and Natural Product Research
Sesquiterpene derivatives from cultured lichen mycobionts of <i>Diorygma</i> sp.	2015年8月	63rd International Congress and Annual Meeting of the Society for Medicinal Plant and Natural Product Research
DNA polymerases inhibitory polyprenylated benzoylphloroglucinols from the fruits of <i>Garcinia schomburgkiana</i>	2015年8月	Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia (ISPSA) 2015 Tokushima
<i>Garcinia oblongifolia</i> の樹皮に含まれるキサントン類について	2015年9月	日本生薬学会第62回年会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2001年4月～現在に至る	日本薬学会近畿支部委員
2002年2月～2005年12月	日本地衣学会評議員
2002年2月～2013年12月	日本地衣学会誌編集委員
2007年6月～2013年5月	兵庫県公衆衛生協会理事
2007年10月～2013年3月	日本私立大学協会本部理事
2008年6月～2010年5月 2010年11月～2013年3月	日本私立薬科大学協会理事
2012年6月～2013年3月	全国薬科大学長・薬学部長会議常任理事
2012年6月～2015年3月	一般社団法人薬学教育協議会理事
2014年1月～	日本地衣学会会長

専任教員の教育・研究業績

所属	生命分析化学研究室	職名	教授	氏名	小林 典裕
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
				2002. 4. 1～2014. 12. 31	調査対象の期間にわたって、『分析化学I』(1単位, 化学平衡), 『分析化学II』(1単位, 化学物質の検出と定量), 『臨床検査学II』(1単位, 化学物質の検出と定量), 『分析化学系実習』(1単位, 化学物質の検出と定量)を担当してきた。授業は, 指定の教科書(次項参照)に加え, 必要に応じてプリントを配付して併用した。隔年で行われる授業アンケートを参考に授業の改善を図っている。前年度は, 学生の出席率と授業への集中力を高める目的で, 平常点(出席と授業終了前の小テスト)の加算を初めて行った。板書を多用する授業スタイルなので, 早くから蛍光色のチョークを採用し, できるだけ大きく鮮明に書くように心がけている。実習では, 意欲と態度を重視している。実験開始前の講義では, 標準的な実験法を教卓で自ら実演し, こまめに実験室を巡回して実技指導に努めている。
2	作成した教科書、教材、参考書			2008. 1. 1～2014. 12. 31	下記の教科書の執筆に関わった。 『免疫測定法』(講談社、編著), 『NEW薬品分析化学』(廣川書店、編著), 『NEW薬学機器分析』(廣川書店、分担), 『コアカリ対応 分析化学』(丸善、分担), 『ベーションック薬学教科書シリーズ2. 分析科学』(化学同人、分担), 『パートナー分析化学II』(南江堂、分担), 『スタンダード薬学シリーズ2. 物理系薬学 IV. 演習編』(東京化学同人、分担), 『薬学分析科学の最前線』(じほう、分担), 『免疫化学測定法—基礎から先端まで—』(講談社、編著)。 詳細については, 研究活動の欄を参照のこと。このほか, 学生実習用テキスト(『分析化学系実習』), 授業用テキスト(『臨床検査学II』, 『分析化学III』)を作成し, 活用した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項				2012. 4～2014. 3 学生就職部長

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
小林 典裕	著書	『免疫測定法』生物化学的測定研究会編（講談社，2014）. 1-40, 47-76, 124-135, 152-157.	
Oyama H., Morita I., Kiguchi Y., Miyake S., Moriuchi A., Akisada T., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2015, 87(24), 12387-12395. "Gaussia Luciferase as a Genetic Fusion Partner with Antibody Fragments for Sensitive Immunoassay Monitoring of Clinical Biomarkers"	
Kobayashi N., Odaka K., Uehara T., Imanaka-Yoshida K., Kato Y., Oyama H., Tadokoro H., Akizawa H., Tanada S., Hiroe M., Fukumura T., Komuro I., Arano Y., Yoshida T., and Irie T.	論文	Anal. Chem., 2011, 83(23), 9123-9130. "Toward in vivo imaging of heart disease using a radiolabeled single-chain Fv fragment targeting Tenascin-C."	
Oyama H., Yamaguchi S., Nakata S., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2013, 85(10), 4930-4937. "'Breeding' Diagnostic Antibodies for Higher Assay Performance: A 250-fold Affinity-matured Antibody Mutant Targeting a Small Biomarker"	
Oyama H., Tanaka E., Kawanaka T., Morita I., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2013, 85(23), 11553-11559. "Anti-Idiotypic scFv-Enzyme Fusion Proteins: A Clonable Analyte-Mimicking Probe for Standardized Immunoassays Targeting Small Biomarkers"	
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）			
演題名	発表年・月	学会名	
Sensitive luminescent ELISA for human serum cortisol using a fusion protein combining anti-cortisol scFv and Gaussia luciferase	2015. 6	EuroMedLab Paris 2015	
Generation, molecular breeding, and biomedical application of antibodies specific to low molecular weight drugs	2015. 1	The 2015 Annual convention of the Korean Society of Applied Pharmacology	

抗エストラジオール scFv 試験管内親和性成熟機構の解析	2015. 3	日本薬学会第135年会
抗コチニン scFv の親和性成熟における部位特異的変異の 効果	2015. 3	日本薬学会第135年会
scFv-ルシノフェラーゼ融合タンパク質を用いるチロキシン生 物発光ELISAの試み	2015. 9	日本分析化学会第64年会
III 学会等および社会における主な活動		
2006年 4月～2015年12月	日本分析化学会 近畿支部常任幹事	
2008年12月～2015年12月	日本臨床化学会 近畿支部評議員	
2007年 4月～2014年6月	生物化学測定研究会 副会長	
2014年6月～2015年12月	生物化学測定研究会 会長	

専任教員の教育・研究業績

所属	生命有機化学研究室	職名	教授	氏名	和田 昭盛
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		年月日	概 要	
			2004年4月～2006年7月	神戸薬科大学の学部学生に有機化学IVの講義を行った。	
			2004年4月～2007年9月	神戸薬科大学の学部学生に有機化学系IIの実習指導を行った。	
			2006年9月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に有機化学IIの講義を行っている。	
			2007年4月～2010年7月	神戸薬科大学の学部学生に化学系基礎演習Iの講義を行った。	
			2007年10月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に生物有機化学の講義を行っている。	
			2008年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に有機化学Vの講義を行っている。	
			2008年10月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に有機化学系IIIの実習指導を行っている。	
			2009年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に有機化学VIIの講義を行っている。	
			2010年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に精密有機合成の講義を行っている。	
			2011年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に医薬品開発IIの講義を行っている。	
			2013年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に構造解析学の講義を行っている。	
2	作成した教科書、教材、参考書		2006年4月～2012年3月	薬学部生を対象にMS, NMR, IRなどスペクトル解析から構造決定を行うための初歩的なプリントを作成し、毎年更新している。	
			2012年2月	構造解析法の教科書を作成した。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2006年10月27日	高校生を対象とした薬学の講義と実習を行った。	
4	その他教育活動上特記すべき事項		2004年4月～2006年3月	大学学生寮舎監	
			2006年4月～2010年3月	薬用植物園園長	
			2010年4月～現在に至る	CBT対策委員会委員長	
			2011年4月～2013年3月	教務委員	
			2014年4月～現在に至る	入試部長	

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
和田 昭盛	著書	『基礎から学ぶスペクトル解析』(廣川書店, 2012).	
Okitsu T., Sato K., Iwatsuka K., Sawada N., Nakagawa K., Okano T., Yamada S., Kakuta H., Wada A.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2011, 19 (9), 2939-2949. "Replacement of the hydrophobic part of 9-cis-retinoic acid with cyclic terpenoid moiety results in RXR-selective agonistic activity"	
Yamano, Y.; Chary, M. V.; Wada, A.	論文	Org. Biomol. Chem. 2012, 10(20), 4103-4108. "Stereoselective total synthesis of the acetylenic carotenoids alloxanthin and triophaxanthin"	
Wang, S.; Munro, R. A.; Shi, L.; Kawamura, I.; Okitsu, T.; Wada, A.; Kim, S.-Y.; Jung, K.-H.; Brown, L. S.; Ladizhansky, V.	論文	Nature Methods 2013, 10(10), 1007-1012. "Solid-state NMR spectroscopy structure determination of a lipid-embedded heptahelical membrane protein"	
Okitsu, T.; Nakata, K.; Nishigaki, K.; Michioka, N.; Karatani, M.; Wada, A.	論文	J. Org. Chem. 2014, 79(12), 5914-5920. "Iodocyclization of Ethoxyethyl Ethers to Ynamides: An Immediate Construction to Benzo[b]furans"	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
エナミン型シッフ塩基を発色団とする新規チャネルロドプシンの開発	2015年・5月	"日本ビタミン学会第67回大会" 和田昭盛、沖津貴志、二村直行、新見由香、石塚徹、八尾寛、松山武、山下高廣、七田芳則	
イナミドの求電子性が促進する 6-endo-dig 環化：ピリダジンの制御合成	2015年・10月	"第41回反応と合成の進歩シンポジウム" 沖津貴志、森澤祐介、本村映人、和田昭盛	
Lycopene の新規酸化代謝物、Lycopene-5, 6-diol 立体異性体の全合成	2015年・10月	"第41回反応と合成の進歩シンポジウム" 山野由美子、西山裕也、青木敦志、和田昭盛	

Preparation of New ChR with One Double Bond-elongated 3,4-Dehydroretinal	2015年・10月	"Th 3rd International Conference of Retinoid" Wada, A., Okitsu, T., Yamamo, Y., Kobayashi, Y., Ishizuka, T., Yawo, H., Matsuyama, T., Yamashita, T., Imamoto, Y., Shichida, Y.
標的タンパク質への作用増強を目指した新規ビタミンK誘導体 の合成と生物活性評価	2015年・11月	"第3回メチレンブルーシステミンシンポジウム" 木村キミト、廣田佳久、坂根里枝、岡田歩美、中川公恵、和田昭盛、岡野 登志夫、須原義智
III 学会等および社会における主な活動		
1997年4月～現在	日本ビタミン学会トピックス担当委員	
2000年4月～2013年5月	日本ビタミン学会ビタミン誌編集委員	
2000年4月～2009年6月	日本ビタミン学会評議委員	
2009年6月～2013年5月	日本ビタミン学会幹事	
1991年4月～現在	日本ビタミン学会会員	
1978年4月～現在	日本薬学会会員	
1982年4月～現在	有機合成化学協会会員	
1991年4月～現在	日本カロテノイド学会会員	
1999年4月～現在	日本レチノイド学会会員	
2009年11月～現在	日本レチノイド学会幹事	
2013年6月～現在	日本ビタミン学会理事、ビタミン誌編集委員長	

専任教員の教育・研究業績

所属	機能性分子化学研究室	職名	教授	氏名	中山 尋量
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
1.	薬学部学生への教育			2007年1月～現在	神戸薬科大学の6年制への学生への基礎化学、無機錯体化学、物理化学 I、総合薬学講座の講義、基礎化学実習の指導を行っている。 また、5年次生からは卒業研究の指導を行っている。
2	薬学研究院院生への教育			2009年1月～2012年3月	物理化学 I (旧カリ)
				2009年～現在	神戸薬科大学薬学研究院院生に薬学演習、課題研究の指導を行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書 薬学用語辞典			2012年3月	東京化学同人
				2011年3月29日	東京化学同人
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
	学生部長			2008年4月～2010年3月	
	学生就職部長			2010年4月～2012年3月	
	教務部長			2013年4月～現在	
II 研究活動					
1.	著書・論文等				
	氏名			種別	内容
	Maeda H., Onodera T., Nakayama H.			論文	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. 2010, 68, 201-206. "Inclusion complex of alpha-lipoic acid and modified cyclodextrins"

Hayashi A., Nakayama H.	論文	Chem. Lett. 2011, 40(3), 276-278. "Intercalation Reaction of Carbonate MgAl-Layered Double Hydroxide Using Alcohol as Solvent"
Maeda H., Kusuvara T., Tshako M., Nakayama H.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59(12), 1447-1451. "Phosphorylation of 5'-Deoxy-5-fluorouridine with Inorganic Phosphorylating Agents"
Maeda H., Kusuvara T., Tshako M., Nakayama H.	論文	Bull. Chem. Soc. Jpn., 2013, 86(11), 1256-1260. "Complex Formation of Etodolac with Hydrotaicite in Methano"
Hayashi A., Kubota M., Okamura M., Nakayama H.	論文	Chem Pharm Bull., 2015, 63(1), 13-17. "Complex Formation with Layered Double Hydroxides for the Remediation of Hygroscopicity"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
「層状複水酸化物と4-クロロ酪酸の反応」	2015年9月	第59回粘土科学討論会
「ジホスホン酸塩によるサリシンのリン酸化反応および生成物単離法の検討」	2015年9月	第25回無機リン化学討論会
「シクロデキストリンによるベタヒスチンメシル酸塩の吸湿性改善」	2016年3月	第136回日本薬学会年会
「ヒドロタルサイト様化合物とケトプロフェンの複合体形成」	2016年3月	第136回日本薬学会年会
III 学会等および社会における主な活動		
2001年6月～現在	日本無機リン化学学会理事	
2005年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員	

2007年4月～2009年3月	近畿化学協会代議員
2011年4月～現在	近畿化学協会代議員
2012年9月～現在	薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員
2008年7月～現在	薬学共用試験センターCBT実施委員会委員

専任教員の教育・研究業績

所属	生化学研究室	職名	教授	氏名	北川 裕之
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 本学薬学部学生への教育	1997年4月-現在に至る		<p>学部学生に生化学と分子生物学の講義を行っている。</p> <p>1) 担当している分野の進歩は著しいので、下記に分担執筆した教科書を用いながら、講義に関連する内容における最近の発見や注目されている事項 (新しい遺伝子医薬品の開発例や病因の解明など) についてプリントを作成し、適宜配付している。</p> <p>2) できるかぎり疾患、診断薬、治療薬に関連する事項を重点的に解説している。</p> <p>3) 薬剤師国家試験の難易度を学生に意識させるために、過去に出題された国家試験の問題を10問程度選び、講義終了10分前より配付し、数回確認テストと実施している。また、更に知識を定着させるために、この問題の一部を定期試験に出題している。</p> <p>4) 講義中にレポート課題を与え、講義終了後に提出させ、添削を行ったものを次回の講義時に返却している (3 回程度)。</p> <p>5) 学生による授業評価は、本学では2004年度より2年に一度行われているが、生化学、分子生物学ともに平均以上の評価を得ている。特に、最近9年間で行われた4回の授業評価では、いずれもベストティーチャー賞を受賞した (下記の4を参照)。</p> <p>学部学生に生物学系の実習指導を行っている。</p> <p>1) 組換え医薬品に関する理解を深めさせるために、最新の遺伝子工学に関する動向を反映するよう実習内容に随時変更を行い、実習テキストも改訂している。</p> <p>2) 実習時間の最後に学生個々と教員が実習内容について質疑応答を行い、その日に行った実習を理解できるようにしている。</p> <p>3) 学生による実習評価も本学では2年に一度行われているが、平均以上の評価を得ておりおおむね好評である。</p>	

<p>(2) 本学薬学研究科大学院生の教育研究指導</p>	<p>1994年4月-現在に至る</p>	<p>学部学生に卒業研究の指導を行っている。</p> <p>1) 学生個々に実験に対する目的意識を持たせるよう、随時質疑応答を行っている。</p> <p>2) 論理的な考え方や表現力が身に付くように、定期的に研究内容を学生にまとめさせ、発表する機会を与えている。</p> <p>3) できるかぎり英文で書かれた論文を読むように奨励し、少なくとも年に一度はその内容をまとめて発表する機会を与えている。</p> <p>大学院薬学研究院生への生化学（生命科学）特論講義と演習及び研究指導を行っている。</p> <p>1) 講義は、最新のデータを分かりやすく解説するために、動画を用いたパワーポイントを使用している。</p> <p>2) 演習時には、研究分野の最近の動向を学生に把握させるため、学生が主体的に国際的な雑誌に発表された論文を論理的に説明でき、活発に討論に参加できるように演習日の少なくとも2日前までにはレジュメを全員に配付することを義務づけている。</p> <p>3) 学生に論理的な思考力と表現力が身に付くように、定期的に自分の研究内容を発表させ、研究室での討論を行い、そのことを通じて現在の自分の研究内容の進展状況や問題点も把握出来るように指導している。</p> <p>4) 学生には、少なくとも毎年一回は学会発表できるように指導している。</p>
<p>(3) 医学部学生への教育</p>	<p>2008年4月-現在に至る</p>	<p>神戸大学医学部2年生に生化学（糖質の構造と機能）の講義を行っている。</p>
<p>(4) 医学研究科大学院生への教育</p>	<p>2007年4月-現在に至る</p>	<p>神戸大学大学院医学研究院生に薬物治療学の講義を行っている。</p>
<p>(5) 他の研究科の大学院生への教育</p>	<p>2006年11月 2007年6月 2008年5月 2010年2月</p>	<p>北海道大学大学院先端生命科学学院の院生に糖鎖生物学の講義を行った。</p> <p>北陸大学大学院薬学研究院生に糖鎖生物学の講義を行った。</p> <p>京都大学大学院生命科学部研究科院生に糖鎖生物学の講義を行った。</p> <p>九州大学大学院システム生命科学府で糖鎖生物学の集中講義を行った。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>NEW生化学第2版（廣川書店、編集：堅田利明、菅原一幸、富田基郎）</p>	<p>2006（平成18）年3月31日</p>	<p>「IV. 4 組換えDNA技術と薬学への応用」を記述した（pp. 481-517）。</p>

スタンダード薬学シリーズII 4 生物系薬学 I. 生命現象の基礎 (東京化学同人、日本薬学会編)	2015 (平成27) 年3月30日	「第5章 糖質」を記述した (pp. 28-34)。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 ベストティーチャー賞 入試部長 大学院主幹 教務部長 入試部長 学生就職部長	2006年度、2008年度、2010年度、2012年度 2007年4月1日-2008年3月31日 2008年4月1日-2010年3月31日 2010年4月1日-2012年3月31日 2012年4月1日-2014年3月31日 2014年4月1日-現在に至る	生化学II(2006年度)、分子生物学I(2008年度)、分子生物学I(2010年度)、分子生物学I(2012年度) 高大連携プログラムの構築に携わった。 大学院薬学研究科薬科学専攻設置申請に携わった。 薬学6年制におけるカリキュラムの改正に携わった。 高大連携プログラムの拡充、ネット出願の設置、入試制度の改革に携わった。 就職支援プログラムの改革、4年時生の「キャリアデザイン講座」の発足に携わった。
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Okada M., Nadanaka S., Shoji N., Tamura J., and Kitagawa H.	論文	Biochem. J. 2010, 428 (3), 463-471. "Biosynthesis of heparan sulfate in EXT1-deficient cells." (Faculty of 1000)
Miyata, S., Komatsu, Y., Yoshimura, Y., Taya, C., and Kitagawa, H.	論文	Nature Neurosci. 2012, 15 (3), 414-422. "Persistent cortical plasticity by upregulation of chondroitin 6-sulfation."
Takeuchi, K., Yoshiooka, N., Higa Onaga, S., Watanabe, Y., Miyata, S., Wada, Y., Kudo, C., Okada, M., Ohko, K., Oda, K., Sato, T., Yokoyama, M., Matsushita, N., Nakamura, M., Okano, H., Sakimura, K., Kawano, H., Kitagawa, H., and Igarashi, M.	論文	Nature Commun. 2013, 4, 2740. "Chondroitin sulphate N-acetylgalactosaminyl-transferase-1 inhibits recovery from neural injury."

Koike, T., Izumikawa, T., Sato, B., and Kitagawa, H.	論文	J. Biol. Chem. 2014, 289 (10), 6695-6708. "Identification of phosphatase that dephosphorylated xylose in the glycosaminoglycan-protein linkage region of proteoglycans." (Faculty of 1000)
Nadanaka, S., Purunomo, E., Takeda, N., Tamura, J., and Kitagawa, H.	論文	J. Biol. Chem. 2014, 289 (22), 15231-15243. "Heparan sulfate containing unsubstituted glucosamine residue: Biosynthesis and heparanase-inhibitory activity." (Faculty of 1000)
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
コンドロイチン硫酸プロテオグリカンの硫酸化は大脳皮質の発生における神経細胞の移動と形態形成を制御する	2015年7月	第38回日本神経科学大会Neuroscience2015
てんかんにおける6硫酸化コンドロイチン硫酸プロテオグリカンの機能	2015年7月	第38回日本神経科学大会Neuroscience2015
グリコサミノグリカン鎖と血管・腎石灰化	2015年8月	第32回 ROD-21研究会
Estrogen-induced osteoanabolism is mediated via enhanced production of chondroitin sulfate-E	2015年9月	23rd International Symposium on Glycoconjugates
Basal-like型乳がん細胞の浸潤におけるコンドロイチン硫酸鎖の役割	2015年12月	BMB2015
III 学会等および社会における主な活動		
2006年4月～現在に至る	日本生化学会近畿支部 幹事	
2006年4月～現在に至る	プロテオグリカンフォーラム 世話人	
2007年4月～2013年12月	FCCA: Forum Carbohydrate Coming of Age 幹事	
2007年4月～2013年12月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology 編集委員	
2007年8月～現在に至る	日本糖質学会 評議員	
2008年1月～2011年12月	Journal of Biochemistry Advisory Board	
2008年7月～2013年3月	神戸大学グローバル COEプログラム「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」事業推進担当者	

2009年1月～現在に至る	Glycoconjugate Journal 編集委員
2009年4月～現在に至る	神戸がん研究会 世話人
2009年4月～現在に至る	日本結核組織学会 評議員
2009年10月～2011年9月	日本生化学会 代議員
2010年9月～2010年11月	日本薬学会学会賞第1次選考委員
2012年4月～現在に至る	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発」研究代表者
2012年6月～2013年11月	科学研究費委員会専門委員
2012年11月～現在に至る	日本糖鎖コンソーシアム(JCGG) 幹事
2013年9月～2013年11月	日本薬学会学会賞第1次選考委員
2014年1月～現在に至る	日本生化学会 「生化学」誌企画委員
2015年4月～現在に至る	Scientific Reports 編集委員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 杉山 正敏
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
<p>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</p>	<p>年月日</p> <p>2007年9月～現在</p> <p>2007年度～2008年度</p> <p>2008年度～現在</p> <p>2009年4月～現在</p> <p>2011年4月～現在</p> <p>2013年3月～現在</p> <p>2013年9月～現在</p> <p>2014年9月～現在</p>	<p>概要</p> <p>1 年次の早期体験学習、初期体験臨床実習などを中心に、実務家教員として薬剤師の養成教育に携わっている。病院での実務経験を活かし、医療の向上、とくに医療チームの一員として医薬品の適正使用の推進に貢献できる薬剤師の養成を目指している。</p> <p>調剤実習ならびに大学院臨床薬学実習に携わった。</p> <p>大学院薬物動態特論では抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態について講義を行っている。</p> <p>実務実習事前学習では実務実習に対応するための知識・技能・態度の養成を中心に講義、演習、実習を行っている。</p> <p>処方解析学・演習では、医療の最前線における処方を中心に、病態と薬物治療に関する講義、演習を行っている。</p> <p>大学院医療薬科学研修特論ではがん化学療法への薬剤師のかかわりについて、実際の症例を示しながら講義を行っている。</p> <p>社会保障制度と薬剤経済では社会保障制度と医療保険制度のしくみや役割について講義を行っている。</p> <p>調剤学Ⅰでは、患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）や病態（腎、肝疾患など）に適した用法・用量の設定について講義を行っている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>	<p>2008年</p> <p>2008年3月～現在</p> <p>2009年3月10日</p> <p>2009年3月20日</p> <p>2009年8月30日</p> <p>2010年3月20日</p>	<p>『2008年版 薬剤師のための常用医薬品情報集』（廣川書店、2008）・・・実務実習事前教育用テキストの作成</p> <p>『医療薬学第5版』（廣川書店、2009）・・・</p> <p>『2009年版薬剤師のため常用医薬品情報集』（廣川書店、2009）・・・</p> <p>『グラフィックガイド 薬剤師の技能 理論まるごと実践へ』（京都廣川書店、2009）・・・</p> <p>『わかりやすい調剤学第6版第2章2.6 注射剤調剤の基礎』（廣川書店、2010）・・・</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		

4	その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動				
1. 著書・論文等				
	氏名	種別	内容	
	石塚良子、乾賢一、岩川精吾、奥村勝彦、尾崎淳子、桂敏也、木下淳、駒田富佐夫、杉山正敏、高山明、谷川原祐介、寺田智祐、西口工司、橋口正行、望月眞弓、安原眞人、矢野育子、矢野義孝、若杉博子	著書	『医療薬学第5版』（廣川書店，2009）...	
	杉山正敏	著書	『わかりやすい調剤学第6版第2章2.6注射剤調剤の基礎』（廣川書店，2010）...	
	富田 尚子，杉山 正敏，杉本 功	論文	臨床リウマチ 2009，21(1)，38-45. 「抗リウマチ剤・ブシラミン市販剤の安定性」	
	Tatsumi A., Ikegami Y., Morii R., Sugiyama M., Kadobayashi M., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2009, 32(3), 517-519. "Effect of ethanol on S-warfarin and diclofenac metabolism by recombinant human CYP2C9. 1"	
	波多江崇、池浦奈穂、河原宏之、河内正二、長谷川豊、杉山正敏、沼田千賀子、國正淳一、濱口常男	論文	医薬品相互作用研究 2013, 21(3), 194-198. 「腎機能に着目した入院時特参薬チエックの重要性」	
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）				
	演題名	発表年・月	学会名	
	大阪赤十字病院における免疫抑制・化学療法によるHBV再活性化対策の現状と課題	平成28年3月	日本薬学会第136年会	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1974年4月～現在	日本病院薬剤師会会員	
1979年1月～現在	日本薬学会会員	
1990年7月～現在	日本病院薬学会（現日本医療薬学会）会員	
1992年4月～2007年8月	日赤薬剤師会専門委員会委員	
1999年1月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師	
1999年1月～現在	日本医療薬学会指導薬剤師	
1999年4月～2007年8月	厚生労働省薬剤師実務研修指導薬剤師	
2000年4月～2007年8月	大阪府病院薬剤師代議員	
2003年2月～2007年8月	大阪府天王寺区薬剤師会かかりつけ薬局育成強化委員会委員	
2008年1月～2009年12月	日本医療薬学会評議員	
2008年4月～2010年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2012年4月～現在	兵庫県登録販売者試験委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬品化学研究室	職名	教授	氏名	宮田 興子
I 教育活動					
	教育実践上の主な業績			年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			2006年～	医薬品の化学的性質を理解するための講義である有機化学、医薬品化学、医薬品合成化学、医薬品開発を担当。更に、医薬品合成、医薬品化学の分野に相当する有機化学系 II 実習を担当。いずれの場合もオファアローを設けて質問に対応。講義は、板書することを心がけている。さらに、有機化学が苦手な学生には、土曜日を使用して、積極的に補講を行っている。卒業研究の学生には、実験と共に学術論文の読み方、問題解決能力の養成を心がけて指導。更に論文作成の指導。さらに、臨床の現場で役に立つ有機化学を教示するために薬理学、処方解析とのコラボレーションも常に考えながら教えている。
2	作成した教科書、教材、参考書			2013年4月	官能基別にまとめた医薬品の化学的性質と生物活性との関連を記載した教科書
	(1) パートナー医薬品化学（改訂第2版）			2015/4/1	6年制薬学教育に必須である医薬品を化学で理解するために作成された教科書
	(2) 化学構造と薬理作用（第2版）			2015/2/20	化学系薬学で学ぶ基本的な有機化合物の性質と反応を記載した教科書
	(3) スタンダード薬学シリーズ 化学系薬学I化学物質の性質と反応				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				現在、博士課程に5人の学生が在籍している。6年制の上の博士課程であるため、従来の博士後期課程の院生とは異なり、ある程度の医療全般を熟知した学生へ創薬、育薬の専門性を養う教育を行っている。

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Ueda M., Sato A., Ikeda Y., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2010, 12(11), 2594-2597. "Direct synthesis of trisubstituted isoxazoles through gold-catalyzed domino reaction of alkynyl oxime ethers"	
Miyoshi T., Miyakawa T., Ueda M., Miyata O.	論文	Angew. Chem. Int. Ed., 50, 928-931 (2011). "Nucleophilic alpha-Arylation and alpha-Alkylation of Ketones by Polarity Inversion of N-Alkoxyenamides: A New Entry to the Umpolung Reaction at the beta-Carbon of Carbonyl Compounds"	
Jithunsa M., Ueda M., Miyata O.	論文	Org. Lett., 13, 518-521 (2011). Copper(II)Chloride-Mediated Cyclization Reaction of N-Alkoxy-ortho-alkynyl- benzamides.	
Tetsuya Miyoshi, Syota Matsuya, Mikako Tsugawa, Shohei Sato, Masafumi Ueda, and Okiko Miyata	論文	Org. Lett. 2013, 15, 3374-3377. "Sequential Retro-Ene Arylation Reaction of N-Alkoxyenamides for the Synthesis of tert-Alkylamines"	
Masafumi Ueda, Yuta Ito, Yuki Ichii, Maiko Kakiuchi, Hiroko Shono, and Okiko Miyata	論文	Chem. Eur. J., 2014, 20, 6763-6770. "Direct Synthesis of Benzofuro[2,3-b]pyrroles through a Radical Addition/[3,3]-Sigmatropic Rearrangement/Cyclization/Lactamization Cascade"	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
N-アルコキシゾメチンイリドを経由する新規連続的環化付加反応の開発	2015. 5. 22	第13回次世代を担う有機化学シンポジウム	
Synthesis of Benzofuro[2,3-b]pyrroles through Domino Type of Reaction involving Radical Addition Reaction	2015. 7. 18	7th Pacific Symposium on Radical Chemistry (PSRC-7)	

N-ベンゾイルオキシエナミドを基質とした新規連続反応の開発	2015. 8. 1.	第35回有機合成若手セミナー
カルボニル基の・位での立体選択的極性転換反応の開発	2015. 10. 26	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
ホモアリールアミン類とクロロホルムによる新規ラクタム化反応の開発	2015. 11. 19	第45回複素環化学討論会
III 学会等および社会における主な活動		
2006年～		神戸薬科大学評議員
2010年4月～2013年3月		日本薬学会化学系薬学部会役員
2009年4月～		薬剤師国家試験出題基準改定部会委員
2010年4月～		有機合成化学協会評議員
2011年4月～2012年3月		近畿化学協会事業企画委員
2012年1月～2013年12月		有機合成化学協会関西支部副支部長
2014年1月～		長井記念薬学研究奨励支援準備委員会委員

専任教員の教育・研究業績

所属	臨床薬学研究室	職名	教授	氏名	江本 憲昭
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	年月日	概	要	
		2008年4月1日	「生理学」6年制課程3年次		
		2009年4月1日	「薬物治療学Ⅲ」6年制課程4年次		
		2009年4月1日	「実務実習事前教育」6年制課程4年次		
		2011年4月1日	「処方解析」6年制課程6年次		
		2013年4月1日	「機能形態生理学」6年制課程2年次		
			講義では視覚的な理解を促すために図表や写真を含めたパワーポイントソフトをプリントし、一部穴埋め形式にして配布している。講義前にパワーポイントソフトの内容をプリントし、一部穴埋め形式にして配布している。講義内容については、臨床医としての経験に基づき、具体的な疾患や症例を提示しながら最近の臨床エビデンスなどを交えるなど、学生の学習意欲を高める工夫を行っている。また、知識を定着させる目的で、国家試験の問題を改変したものを講義終了前に提示し、その内容を解説している。		
2	作成した教科書、教材、参考書	2008年4月1日	最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製		
		2009年4月1日	最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製		
		2010年4月1日	最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製		
		2011年4月1日	最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名			種別		
Taniguchi Y, Miyagawa K, Nakayama K, Kinutani H, Shinke T, Okada K, Okita Y, Hirata KI, Emoto N.			論文		
			Balloon Pulmonary Angioplasty can be an Additional Treatment Option to Improve the Prognosis of Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. EuroIntervention. (2014) 10: 518-525		

Miyagawa K, Emoto N.	論文	Current State of Endothelin Receptor Antagonism in Hypertension and Pulmonary Hypertension. <i>Ther Adv Cardiovasc Dis.</i> (2014) 8: 202-216
Heiden S, Vignon-Zellweger N, Masuda S, Yagi K, Nakayama K, Yanagisawa M, Emoto N.	論文	Vascular endothelium derived endothelin-1 is required for normal heart function after chronic pressure overload in mice. <i>PLoS One.</i> (2014) 9, e88730.
Widyantoro B, Emoto N, Nakayama K, Anggrahini DW, Adiarto S, Iwasa N, Yagi K, Miyagawa K, Rikitake Y, Suzuki T, Kisanuki YY, Yanagisawa M, Hirata KI.	論文	Endothelial Cell-Derived Endothelin-1 Promotes Cardiac Fibrosis in Diabetic Hearts through Stimulation of Endothelial-to-Mesenchymal Transition. (2010) <i>Circulation</i> 121, 2407-2418.
Miyagawa K, Emoto N, Widyantoro B, Nakayama K, Yagi K, Rikitake Y, Suzuki T, Hirata KI.	論文	Attenuation of Doxorubicin-Induced Cardiomyopathy by ECE-1 ablation through Prevention of Mitochondrial Biogenesis Impairment. (2010) <i>Hypertension</i> 55, 738-746.
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
ET-1 in the Heart in Health and Disease	2015年・9月	14th International Conference on Endothelin
心肺腎に対する多面的作用を踏まえたエンドセリン受容体拮抗薬	2015年・10月	第4回日本肺循環学会 (JPCS) 第3回日本肺高血圧学会 (JPHS) 合同学術総会
A Novel Angiogenic Adipokine Neuregulin-4 Preserves Metabolic Homeostasis by Regulating Adipose Tissue Angiogenesis	2015年・11月	American Heart Association Scientific Session
先天性心疾患由来肺高血圧症における術後肺高血圧症の特徴	2016年・1月	第18回日本先天性心疾患学会学術集会
Identification and characterization of a novel gene that regulates lipolysis to preserve metabolic homeostasis	2016年・3月	第80回日本循環器学会学術総会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1987年6月～現在	日本内科学会 (2002年9月～現在：日本内科学会認定内科医、2014年12月～現在：日本内科学会総合内科専門医)	
1987年4月～現在	日本循環器学会 (2004年3月～現在：日本循環器学会認定循環器専門医)	
2000年10月～現在	日本高血圧学会 (2009年10月～現在：日本高血圧学会評議員、2010年10月～現在：日本高血圧学会専門医)	
2004年4月～現在	日本医学教育学会	
2012年4月～現在	日本肺循環学会 理事	
2013年4月～現在	日本肺高血圧学会 理事	
2013年9月～現在	International Conference on Endothelin International Advisory Board	

専任教員の教育・研究業績

所属	数学研究室	職名	教授	氏名	内田 吉昭
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	数学 I と数学 II において，習熟度別クラスの導入	統計学 I と II において，サブノートの作成	年月日	概要
				2008年4月～現在に至る	入学してきた学生の数学における学力(高等学校での数学IIIおよびCの履修の有無など)に差があるので，習熟度別の授業を行っている。
				2009年4月～現在に至る	統計学をなるべく視覚を使って理解してもらうために，グラフ等を多く使用したサブノートを作成して，授業の補助として使っている。
				2012年 6月	
2	作成した教科書、教材、参考書	『あっ』と驚く統計学I・IIサブノート		2009年4月・10月 2010年4月・10月 2011年4月・10月 2012年4月・10月 2013年4月・10月 2014年4月・10月	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2010年12月	第33回日本分子生物学会・第83回日本生化学会大会 合同大会 発表
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1.	著書・論文等				
	氏名			種別	内容

内田吉昭		著書	基礎からの微分積分 ムイスリ出版 2011
Y. Uchida		論文	Delta-unknotting operations and ordinary unknotting operations Topology and its Applications 196 (2015) 1019-1022
Y. Uchida		論文	The detour crossing changes Kobe J. Math. 31 (2014) 1-7
Toshiyuki Sasaki, Yoko Ida1, Dr. Ichiro Hisaki, Dr. Tetsuharu Yuge, Prof. Dr. Yoshiaki Uchida, Dr. Norimitsu Tohnai and Prof. Dr. Mikiji Miyata		論文	Characterization of Supramolecular Hidden Chirality of Hydrogen-Bonded Networks by Advanced Graph Set Analysis Chemistry - A European Journal Volume 20, Issue 9, pages 2478-2487, February 24, 2014
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
	演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動			
1988年4月～現在に至る		日本数学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	人文科学研究室	職名	教授	氏名	畑 公也
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ドイツ語			年月日	概要 要
	教養リテラシー			1981年～現在に至る	「読む」「書く」「聞く」「話す」「話す」の総合的なドイツ語運用能力の養成を目指す。授業中にできるだけ多くの口頭、筆記による練習を行うことによって技能の定着を図っている。
	総合文化演習			2006年～現在に至る	総合文化演習のプレトレーニングとして、日本語の読み書き能力の涵養とスモールグループによるディスカッションとプレゼンテーションの訓練を行っている。
	講義「現代の音楽」			1995年～現在に至る	「現代の音楽」と「ドイツの歴史と文化」をテーマに小グループによる演習を行っている。テーマ設定や発表、レポート作成に際し、学生の自発性を尊重し、積極性を引き出すことを目指している。
	早期体験学習			2006年～現在に至る	アンケートやインタビューによって学生の意見を聞き、その結果を授業に反映させることにより、双方向的な教育を行っている。
	2 作成した教科書、教材、参考書			2008年～現在に至る	新入生の薬学学習に対するモチベーションを高めるための実習を指導している。

3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		小山淳子、中平典子、畑公也、兄玉典子「神戸薬科大学図書館における学習支援に向けた活動について」(Libra 2015, 15, 95-107)
4	その他教育活動上特記すべき事項	2012年～現在に至る	図書館長の業務に従事。
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
畑 公也		研究ノート	Libra 2016, 16, 1-17(3月発行予定)「『環境音楽』、または『環境』と『音楽』」
2. 学会発表(平成27年度に行った学会発表)			
	演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動			
1978年～現在に至る	日本独文学会会員		
1978年～現在に至る	阪神ドイツ文学会会員		
1978年～現在に至る	大阪大学ドイツ文学会会員		
1978年～現在に至る	オーストリア文学会会員		
2007年～現在に至る	日本ポピュラー音楽学会会員		

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 濱口 常男
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要
	2010年4月～現在に至る	4年次生の薬事関係法規・薬事制度の講義を担当している。毎回配布するプリント並びに適時パワーポイントを利用している。
	2010年4月～現在に至る	4年次生の実務実習事前教育実習を担当している。実習開始時での講義では、実習テキスト及びパワーポイントを利用し、医療人として醸成すべき態度、実習の目的及びその内容を説明している。SDGを組み入れた実習では、病院・薬局の指導薬剤師をタスクとして参加させて、医療における薬剤師業務の重要性の理解を深めさせるようになっている。また、調剤実習では、調剤技能の習得の徹底を図るため、病院・薬局の指導薬剤師に参加してもらい、医療現場の臨場感と緊張性のある実習を目指している。また、各調剤台を頻繁に見回り、調剤の手法が正しく適正に行われるよう点検している。調剤技能の評価については、実習生2人ずつのグループで実習を行い、互いに相手の調剤技能を評価させることにより、調剤技能の確実な習得を目指している。
	2010年4月～現在に至る	5年次生の病院実務実習、薬局実務実習を担当している。実習前の学生説明会では、医療人の心構え、諸注意を講義している。実習受入施設には実習前、実習中および実習終了時に施設訪問を行い、大学と施設の連携を図ると共に実習生の実習状況を確認している。実習終了後、実務実習報告会・意見交換会を開催し、全学生にボススター発表を行わせて、プレゼンテーション技能の醸成を図っている。
	2010年10月～現在に至る	4年次生の安全管理医療の講義を担当している。プリントを配布し、適時パワーポイント及びDVDを利用している。
	2011年1月～現在に至る	5年次の卒業研究Ⅰ並びに6年次の卒業研究Ⅱを担当している。現場の病院（7施設）あるいは薬局（4施設）において臨床研究を実施している。臨床研究施設での実際の課題を研究することにより、問題発見能力及びその解決能力の醸成を図っている。加えて、社会人としてのコミュニケーション能力の養成も併せて育成できる。
	2011年4月～2014年7月	4年次生の機能性製剤学における実際の調剤学の講義を担当している。毎回配布するプリント並びにパワーポイントを利用している。
	2011年4月～現在に至る	6年次生の処方解析学、処方解析演習を担当している。処方解析学では配布するプリント並びに適時パワーポイントを利用している。処方解析演習では演習問題を配布し、その解説はパワーポイントを利用している。

	2011年10月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2014年10月～現在に至る	6年次生の薬学総合講座を担当している。薬学総合講座では法規・制度の講義を担当し、教科書および薬剤師国家試験過去問題のプリントを利用している。 6年次生の薬学総合講座(再履修生)を担当している。薬学総合講座では法規・制度の講義を担当し、教科書および薬剤師国家試験過去問題のプリントを利用している。 3年次生の調剤学Ⅱを担当している。調剤学Ⅱではプリントを配布し、又は適時パワーポイントを利用している。
2 作成した教科書、教材、参考書	2007年4月 2009年1月 2012年1月	医薬品情報の収集、分析、評価、加工及び提供について解説した。 (東京化学同人, 日本薬学会・日本病院薬剤師会・日本医療薬学会 編) OSCEおよび臨床実習に対応した計算能力の向上について解説書した。 化学同人, 前田初男 編) 薬事関係法規・制度について解説した。 (廣川書店, 木方 正, 安田一郎, 佐藤拓夫, 神村英利 編)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 一般市民講座 一般市民講座	2010年4月24日 2012年3月6日	神戸薬科大学市民公開講座 神戸市老眼大学
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし		
Ⅱ 研究活動		
1. 著書・論文等		
	氏名	種別
濱口常男		内容
		化学同人, 2009, 15-28, 57-69. 「薬学生のための計算実践トレーニング帳, (前田初男 編)」
濱口常男		廣川書店, 2012, 1-5. 「わかりやすい薬事関係法規・制度第2版(木方正, 安田一郎, 佐藤拓夫, 神村英利 編)」,

志方敏幸, 中村豪志, 日笠真一, 濱口常男, 土井啓至, 上紺屋憲彦, 門林宗男, 木村 健	論文	医療薬学, 2010, 36, 549-556. 「ボラブレジング坐剤の品質試験と放射線性直腸炎に対する臨床評価」
波多江崇, 池浦奈穂, 河原宏, 河内正二, 長谷川豊, 杉山正敏, 沼田千賀子, 國正淳一, 濱口常男	論文	医薬品相互作用研究, 2013, 36, 194-198. 「腎機能に着目した入院時特参薬チェックの重要性」
Kawauchi S., Nakamura T., Yasui H, Miki I., Inoue J., Horibe S, Hamaguchi T., Tanahashi T., Mizuno S.	論文	Int. J. Med. Sci., 2014, 11, 1208-1217. "Intestinal and hepatic expression of Cytochrome P450s and mdr 1a in Rats with indomethacin-induced small intestinal ulcers."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
心不全患者に対するEPA製剤の拡張機能に及ぼす影響	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
循環器系疾患及びその治療薬の転倒に及ぼす影響に関する検討	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
インドメタシン誘発小腸粘膜障害モデルにおける肝臓でのCYP3A の発現変動機序の検討	2015年3月	日本薬学会第135年会
ソラフェニブによる皮膚障害に対するPGE1 を用いた治療への応用	2015年3月	日本薬学会第135年会
エルロチニブによる痤瘡様皮疹モデルの確立と分子機構の解明	2015年3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2002年4月～2004年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2004年4月～2010年3月	兵庫県病院薬剤師会常任理事	
2006年4月～2012年3月	兵庫県薬剤師会理事	
2006年4月～2010年1月	日本病院薬剤師会代議員	
2008年4月～2010年1月	日本病院薬剤師会代議員会議事運営委員	

2008年4月～2010年3月	日本病院薬剤師会近畿ブロック薬剤業務委員会委員
2008年4月～2012年6月	日本病院薬剤師会近畿ブロック事務局庶務
2010年3月～現在に至る	薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会委員
2010年4月～2012年3月	兵庫県病院薬剤師会理事
2012年4月～現在に至る	兵庫県病院薬剤師会監事
2012年4月～現在に至る	兵庫県薬剤師会薬学教育部委員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 沼田 千賀子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要
	2009年10月～現在	大学院修士課程ファーマシューテュイカル特論においては、緩和医療を中心に薬物療法と患者心理についての講義、ワークを行っている。ワークでは「死生観」について2～3人でのディスカッションを行い、「死」から見えてくる患者心理を感じられるように工夫している。
	2010年4月～現在	実務実習事前教育においては、5年次に行われる長期実務実習（病院・薬局）にスムーズに取り組めるよう、臨床現場で求められる知識・技能・態度の指導を行っている。また自己の到達度合いが分かるように「ルーブリック評価」を導入している。
	2011年4月～現在	薬害に関する講義および薬害被害者の体験談を聞く授業を実施し、学生が薬害について深く考え討議する機会となっている。
	2013年4月～現在	大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成」において、がん医療に従事する薬剤師の養成を行っている。「がん医療薬学特別論」の講義・演習で模擬患者を使った服薬指導や海外から多職種連携の研究を行っている専門の先生を招聘し、ワークショップ形式での症例検討を行うなど、実践的な教育に取り組んでいる。
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年3月15日	薬学生のための基礎シリーズ1 ヒューマニズム薬学入門（共著）
	2011年3月～現在	実務実習事前教育用テキストの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年9月25日	第5回日本緩和医療薬学会年會シンポジウムで「薬学6年制教育における緩和医療教育のさらなる充実を目指して～現状と将来展望～」の講演を行った。
	2012年6月2日	「女性医療従事者のキャリアアップ教育」神戸市医師会女性医師シンポジウム（神戸）講演
	2012年10月3日	「医療現場における補充代替医療の現状」自然治癒学校（神戸）講演
	2013年10月25日	2013年がんプロ連携7 大学市民公開シンポジウム（大阪）講演

	<p>一般社団法人 がん哲学外来「がん哲学外来とは」 (大阪) 講演</p> <p>第8回日本緩和医療薬学会年会「がん哲学外来・対話カフェの使命へがんと共に生きる勇気に寄り添う～がん哲学カフェin UK&緩和ケアの祖を訪ねて」(松山) 講演</p> <p>日本フアーマシューテikalコミュニケーション学会 アドバンスコミュニケーションズキックオフシンポジウム: ACST (帝京平成大学)</p> <p>日本フアーマシューテikalコミュニケーション学会 ループリック作成ワークショップ (星薬科大学)</p>	<p>2014年4月26日</p> <p>2014年10月4日</p> <p>2015年2月8日</p> <p>2015年5月23日</p>	<p>がん哲学外来</p> <p>日本緩和医療薬学会</p> <p>アドバンスコミュニケーションズ</p> <p>ループリック作成ワークショップ</p>
4	<p>OSCE実施委員長</p> <p>薬学教育者・薬剤師へのFD活動として、タスクフォースとして、薬剤師のためのワークショップin近畿に協力</p> <p>がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成」 担当</p> <p>学生就職委員会 委員</p> <p>がん哲学学校 in 神戸 メディカルカフェを開催し、地域のがん教育を推進</p> <p>甲南女子大学との連携教育プログラムワーキンググループ委員</p> <p>地域連携教育推進ワーキンググループ委員</p>	<p>2010年4月～現在</p> <p>2010年1月～現在</p> <p>2012年4月～現在</p> <p>2014年4月～現在</p> <p>2015年4月～現在</p> <p>2015年6月～現在</p> <p>2015年6月～現在</p>	<p>OSCE実施委員長</p> <p>薬学教育者・薬剤師へのFD活動</p> <p>がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン</p> <p>学生就職委員会</p> <p>がん哲学学校 in 神戸</p> <p>甲南女子大学との連携教育プログラムワーキンググループ委員</p> <p>地域連携教育推進ワーキンググループ委員</p>
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
	<p>松田裕子、沼田千賀子、中尾幸代、道上敬、長野恭久、山中智香、明田健史、谷口美保子、水谷宏恵、木口敏子、八木敬子、江本憲昭、平井みどり</p>	論文	<p>医療薬学 2009, 35(12), 846-855. "現役薬剤師参加の服薬指導実習の実践とその教育効果に関する調査"</p>

沼田千賀子、寺岡麗子、八木敬子、江本憲昭、平井みどり、北河修治	論文	日本緩和医療薬誌 2011, 4(4), 117-124. “フェンタニル経皮吸収型製剤による皮膚症状に対するラガダム®の軽減効果に関する調査”
波多江 崇, 池浦 奈穂, 河原 宏, 河内 正二, 長谷川 豊, 杉山 正敏, 沼田 千賀子, 國正 淳一, 濱口 常男	論文	医薬品相互作用研究 2013, 36 (3), 33-37. “腎機能に着目した入院時持参薬チェックの重要性”
沼田千賀子	著書	薬学生のための基礎シリーズ1 ヒューマニズム薬学入門 (共著)
寺岡麗子、中山みずえ、湯谷玲子、沼田千賀子、岡本禎晃、平野剛、富田猛、平井みどり、北河修治	論文	日本緩和医療薬誌 2016, “1日1回張り替え型フェンタニルクエン酸塩貼付剤（フェントステープ）の薬物残存量に影響を与える要因”
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
フェンタニル経皮吸収型製剤の貼付面の密着性に関する研究	2015年8月	第18回近畿薬剤師学会 in 神戸
被覆材を用いたフェントステープ1mg貼付剤の用量調節Ⅰ	2015年10月	第9回緩和医療薬学会（横浜）
被覆材を用いたフェントステープ2mg貼付剤の用量調節Ⅱ	2015年10月	第9回緩和医療薬学会（横浜）
「実務実習前学習」に参加する薬剤師の役割とは（第4報）その1～指導技術向上のための指導薬剤師講習会の報告～	2015年11月	第25回日本医療薬学会（横浜）

<p>「実務実習事前学習」に参加する薬剤師の役割とは。(第4報) その2～学生が感じている問題点と講習会による改善効果の検証～</p>	<p>2015年11月</p>	<p>第25回 日本医療薬学会 (横浜)</p>
<p>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</p>		
<p>2002年5月～現在</p>	<p>日本医療薬学会会員</p>	
<p>2005年8月～現在</p>	<p>(社)兵庫県薬剤師会認定 禁煙指導認定薬剤師</p>	
<p>2006年4月～現在</p>	<p>兵庫県病院薬剤師会 理事</p>	
<p>2006年4月～現在</p>	<p>日本フアーマシューティカルコミュニケーション学会会員</p>	
<p>2007年3月～現在</p>	<p>日本緩和医療薬学会会員</p>	
<p>2007年4月～現在</p>	<p>日本ホリスティック医学協会会員</p>	
<p>2007年11月～現在</p>	<p>日本メンタルヘルズ協会公認 心理カウンセラー</p>	
<p>2009年4月～現在</p>	<p>6年制認定実務実習指導薬剤師</p>	
<p>2009年8月～現在</p>	<p>日病薬認定指導薬剤師</p>	
<p>2009年10月～2014年10月</p>	<p>がん薬物療法認定薬剤師</p>	
<p>2011年4月～現在</p>	<p>ブザン教育協会マインドマップ®アドバイザー</p>	
<p>2014年3月～現在</p>	<p>(社)がん哲学外来関西支部 学術委員長</p>	
<p>2015年1月～現在</p>	<p>(財)レギュラトリサイエンスエキスパート認定</p>	
<p>2015年4月～現在</p>	<p>日本緩和医療薬学会 広報副委員長</p>	
<p>2015年7月～現在</p>	<p>(社)がん哲学外来 監事</p>	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	教授	氏名	田内 義彦
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 薬学部学生への教育			年月日	概要
				2010年8月～現在	実務実習事前教育実習にて、実務家教員として調剤薬局における接遇や患者対応を中心に、臨床現場に対応できる学生の育成に従事するとともに、指導薬剤師の確保やスケジュール作成に努めている。
				2011年4月～現在	社会薬学Ⅰ及びⅡの講義において、薬剤師の歴史、社会的役割、医薬分類について講義を行い、薬剤師の義務と責任について学部1年生に認識してもらえよう、臨床経験を活かした解説を行っている。
				2011年2月～現在	「海外薬学研修」担当者として、ボストンで研修を行う学生に、より理解力を高めるために事前講義を行う。研修に同行し、アメリカにおける薬学教育と薬剤師業務を深く理解させるための補足説明や質疑応答を行い研修の成果向上に努めている。また研修終了後の報告会を催し、参加者への意識付けと後進の参加意欲の向上に努めている。
				2012年4月～現在	漢方医学の講義において、漢方薬の臨床で用いる上で注意すべき点や調剤方法をビデオ等を活用し、理解してもらい、臨床上での漢方薬の活用に関し、臨床経験に基づいた指導をしている。
2	作成した教科書、教材、参考書			2011年3月～現在	実務実習事前教育用テキストの作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2013年2月16日 2013年4月20日 2014年2月15日 2014年9月13日 2014年10月10日	平成25年度登録販売者の資質向上のための外部研修 (兵庫県薬剤師会) 講演 神戸薬科大学 第14回公開市民講座 講演 平成26年度登録販売者の資質向上のための外部研修 (兵庫県薬剤師会) 講演 株式会社祥漢堂 社内研修講演会 講演 区民健康講座 講演 (東灘区医師会)

4	その他教育活動上特記すべき事項	2009年1月～現在	東灘区薬剤師会理事として、学生教育部門を担当。実務実習及び早期体験実習の受入や指導薬剤師の教育に従事。
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
	波多江崇, 斎藤三知代, 石澤洋史, 金子俊幸, 田内義彦, 濱口常男	論文	保険薬局での患者への減塩指導に対するステージ理論の考え方を応用した評価, 日本地域薬局薬学会誌, 2 (1) : 1-7, 2014.
	三木有咲, 波多江崇, 長谷川由佳, 辻華子, 上野隼平, 中川素子, 米谷理沙, 仲村佳奈, 田村直之, 園田薫, 井上伸子, 手塚尚子, 山本章仁, 佐川みはる, 島川大見, 竹下治範, 田内義彦, 濱口常男	論文	保険薬局での継続可能なブラウンバンブー運動の試み - 調査票を用いた薬剤師の介入が必要な患者の選択 -, 日本地域薬局薬学会誌, 2 (2) : 49-61, 2014.
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
	演題名	発表年・月	学会名
	海外薬学研修における学生の英語理解度の検証および効果的な英語事前教育についての考察	2015年7月25日	日本社会薬学会第34年会
	薬学における漢方の現状	2015年10月4日	日本東洋医学会関西支部 平成27年度兵庫県支部会
III 学会等および社会における主な活動			
	1988年4月～現在	日本薬学会 会員	
	1998年4月～現在	日本医療薬学会 会員	
	2003年1月～現在	日本医療薬学会 認定薬剤師	
	2008年1月～現在	日本医療薬学会 指導薬剤師	

田内

2003年4月～現在	日本薬剤師会 会員
2013年6月～現在	日本地域薬局薬学会 会員
2013年6月～現在	日本地域薬局薬学会 編集委員
2014年6月～現在	日本地域薬局薬学会 理事

専任教員の教育・研究業績

所属	薬品物理化学研究室	職名	教授	氏名	向 高弘
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 物理化学II 放射化学 物理化学系実習 創薬物理化学特論			年月日	概要 要
				2011年4月-	物理化学IIの授業についてデジタル教材化し、DVDラーニング、DVDラーニングを実施している。また添削アルバイトを活用し、問題演習の添削を実施している。 物理化学系実習では視聴覚教材を使用している。
2	作成した教科書、教材、参考書 放射化学・放射薬品学（第2版）			2011年12月30日	廣川書店（佐治英郎編集）の第2版の「第5章原子核反応と放射性同位元素の製造」を執筆した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし				
4	その他教育活動上特記すべき事項 核医学専門医教育セミナー 核医学専門医教育セミナー 核医学専門医教育セミナー			2011年5月8日 2012年4月28日 2013年4月28日	第11回日本核医学会春季大会にて講義「放射性医薬品の基礎知識」を行った。 第12回日本核医学会春季大会にて講義「放射性医薬品の基礎知識」を行った。 第13回日本核医学会春季大会にて講義「放射性医薬品の基礎知識」を行った。
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名				種別	
Takahiro Mukai, Jun Suwada, Kohei Sano, Mayumi Okada, Fumihiko Yamamoto, and Minoru Maeda				論文	
				内容	
				Bioorganic & Medicinal Chemistry, 17 (13), 4285-4289 (2009) “Design of Ga-DOTA-based bifunctional radiopharmaceuticals: Two functional moieties can be conjugated to radiogallium-DOTA without reducing the complex stability”	

Takahiro Mukai, Masayori Hagimori, Kenji Arimitsu, Takahiro Katoh, Misa Ukon, Tetsuya Kajimoto, Hiroyuki Kimura, Yasuhiro Magata, Eiji Miyoshi, Naoyuki Taniguchi, Manabu Node and Hideo Saji	論文	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> , 19 (14), 4312-4321 (2011) "Synthesis and evaluation of a radioiodinated trisaccharide derivative as a synthetic substrate for a sensitive N-acetylglucosaminyltransferase V radioassay"
Kohei Sano, Mayumi Okada, Hayato Hisada, Kenta Shimokawa, Hideo Saji, Minoru Maeda and Takahiro Mukai	論文	<i>Biological & Pharmaceutical Bulletin</i> , 36 (4), 602-608 (2013) "In vivo evaluation of a radiogallium-labeled bifunctional radiopharmaceutical, Ga-DOTA-MN2, for hypoxic tumor imaging"
Kohei Sano, Yuriko Iwamiya, Tomoaki Kurosaki, Mikako Ogawa, Yasuhiro Magata, Hitoshi Sasaki, Takashi Ohshima, Minoru Maeda and Takahiro Mukai	論文	<i>Journal of Controlled Release</i> , 194 , 310-315 (2014) "Radiolabeled γ -polyglutamic acid complex as a nano-platform for sentinel lymph node imaging"
Junichi Sasaki, Kohei Sano, Masayori Hagimori, Mai Yoshikawa, Minoru Maeda and Takahiro Mukai	論文	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> , 22 (21), 6039-6046 (2014) "Synthesis and in vitro evaluation of radioiodinated indolequinones targeting NAD(P)H: quinone oxidoreductase 1 for internal radiation therapy"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
自己組織化による ¹¹¹ In標識ヒアルロン酸被覆ナノ粒子の作製とがん細胞への集積性の検討	2015年5月	第25回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
合成高分子を用いたディスク型脂質ナノ粒子の作製と物性評価	2016年3月	日本薬学会第136年会
MMP-12を標的とする放射性ヨウ素標識化合物の合成	2016年3月	日本薬学会第136年会
AlphaGUARDを用いた空気中ラドン濃度測定の検討	2016年3月	日本薬学会第136年会

血清アミロイドA(1-76)ペプチドの合成とアミロイド線維形成能評価	2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
1992年～現在	日本薬学会会員	
1997年～現在	日本薬物動態学会会員	
1997年～現在	日本核医学会会員	
2000年～現在	Society of Nuclear Medicine会員	
2005年4月～2010年3月	薬学教育協議会放射薬学教科担当教員会議 九州・中国・四国支部担当委員	薬剤師国家試験における放射薬学関連問題に対する検討WG
2006年～現在	日本分子イメージング学会会員	
2007年～現在	日本癌学会会員	
2008年10月～2009年9月	日本核医学会 専門医・教育審査委員会 専門医試験小委員会委員	
2009年～現在	Society of Radiopharmaceutical Sciences会員	
2009年10月～2013年9月	日本核医学会 専門医・教育審査委員会委員	
2011年～現在	日本アイントープ協会会員	
2011年5月～現在	日本薬学会近畿支部委員	
2012年～現在	日本DDS学会会員	
2013年1月～2015年3月	日本薬学会物理系薬学部世話人	
2013年2月～現在	日本薬学会代議員	
2013年4月～現在	日本薬剤学会会員	
2014年9月～現在	日本がん分子標的治療学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	病態生化学研究室	職名	教授	氏名	加藤 郁夫
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
	(1) 薬学部学生に対する教育			2013年4月～現在	神戸薬科大学3年次生の「臨床検査学 II」、「内分泌学」、「薬物治療学 I」および「臨床検査実習」を担当した。
	(2) 大学院修士課程学生に対する教育			2013年4月～現在	神戸薬科大学大学院薬学研究所修士課程学生(社会人、聴講生を含む)に対して、「病態解析治療学特論」を、また博士課程学生(社会人、聴講生を含む)に対しては、「病態薬理生化学特論」を担当：プリントを配布しパワーポイントを用いて解説を行っている。また、最終時間には、共通のテーマを与えて各学生に考察・発表を行わせ討論を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書				「臨床検査学 II」、「内分泌学」および「薬物治療学 I」では、独自のプリントを作成、学生に配布して、基礎から臨床に至る内容を講義した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
	(1) CBT対策委員会			2013年4月～2014年3月	CBT対策の実施。
	(2) 実務実習運営委員会委員			2013年4月～現在	実務実習の円滑なる実施。
	(3) 学生就職委員会委員			2014年4月～現在	学生生活や就職活動の支援。
	(4) 国家試験対策委員会委員			2014年4月～現在	国家試験対策の実施。
	(5) 共同研究委員会委員			2015年4月～現在	共同研究の円滑なる実施。

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
A. Asakawa, M. Fujimiya, A. Niijima, K. Fujino, N. Kodama, Y. Sato, I. Kato, H. Nanba, A. Laviano, M. M. Meguid, A. Inui.	論文	Psychoneuroendocrinology 35(8), 1178-86 (2010) ; Parathyroid hormone-related protein has an anorexigenic activity via activation of hypothalamic urocortins 2 and 3.	
J. B. Furness, B. Hunne, N. Matsuda, L. Yin, D. Russo, I. Kato, M. Fujimiya, M. Patterson, J. McLeod, Z. B. Andrews, and R. Bron.	論文	Neuroscience 193, 1-9 (2012) ; Investigation of the presence of ghrelin in the central nervous system of the rat and mouse.	
Li YX, Cheng KC, Asakawa A, Kato I, Sato Y, Amitani H, Kawamura N, Cheng JT, Inui A.	論文	PLoS One. 8(8), e72004 (2013); Role of musclin in the pathogenesis of hypertension in rat.	
S. Sugiura, M. Tazuke, S. Ueno, Y. Sugiura, I. Kato, Y. Miyahira, Y. Yamamoto, H. Sato, .Udagawa, M. Uehara and H. Sugiura.	論文	J. Invest. Dermatol. 135(3), 776-786 (2015) ; Effect of Prolactin-Induced Protein on Human Skin: New Insight into the Digestive Action of This Aspartic Peptidase on the Stratum Corneum and Its Induction of Keratinocyte Proliferation.	
Antushevich H, Bierla J, Pawlina B, Kapica M, Krawczyk ska A, Herman AP, Kato I, Kuwahara A, Zabieliski R.	論文	Peptides 65, 1-5 (2015) ; Apelin's effects on young rat gastrointestinal tract maturation.	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
大豆イソフラボン genistein のマウス骨格筋における脂質代謝に対する作用	平成27年10月	第55回日本臨床化学会年次学術集会 ; 多河典子, 藤波綾, 小林吉晴, 加藤郁夫。	
肥満モデルマウス脂肪細胞での新規エネルギー代謝関連ペプチド遺伝子 <i>Ento</i> の発現について	平成27年10月	第36回日本肥満学会 ; 多河典子, 浅川明弘, 藤波綾, 乾明夫, 加藤郁夫。	

Secretory effects of Xenin on colonic epithelia.	平成27年3月	第120回日本解剖学会総会・全国学術集会、第92回日本生理学会大会 合同大会； A. Kuwahara, S-I Karaki, K. Shiomda, Y. Tomizawa, Y. Kuwahara and I. Kato.
Effects of Xenin on spontaneous circular muscle contractions in rat distal colon.	平成27年11月	8th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress； Y. Kuwahara, S-I Karaki, Y. Tomizawa, I. Kato and A. Kuwahara.
アディポネクチン受容体1シグナルアッセイ法の確立と新規 アディポネクチン様リガンドのスクリーニング	平成28年3月	第89回日本薬理学会年会； 西村瞳，宮野加奈子，山川央，横山明信，須藤結香，白石成二，樋上 賀一，長瀬隆弘，吉崎由美子，加藤郁夫，浅川明弘，乾明夫，上園保 仁。
III 学会等および社会における主な活動		
1984年1月～現在		日本薬学会会員
1986年8月～現在		日本ペプチド学会会員
2006年5月～現在		日本内分泌学会会員
2014年5月～現在		日本肥満学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	微生物化学研究室	職名	教授	氏名	小西 守周
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要	<p>学生アンケートによる授業評価は良好であるが、使用教科書に工夫が求められていたため、2014年度微生物学Ⅰ、Ⅱでは教科書の変更を行った。講義開始時は教科書を中心に講義を行ったが、講義途中で行ったアンケート結果に基づき、板書と教科書の併用により講義を行うようにした。免疫学は、カリキュラム改訂にもない2014年度より講義時間が半分になったため、板書による講義ではなくスライドとプリントによる講義を行った。いずれの講義についても平易な表現ができた。さらに、生物系他講義との関係がある内容に関しては、復習を兼ねて質問を行い、学生の集中力を維持できるようにした。講義内容に関しては、限られた講義時間の中に多くの内容を含むように無駄の無い授業を心がけている。実習ではできるだけの内容を考えることを推奨しており、知識や技術の習得だけでなく結果に対する考察を重要視している。</p>	
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1.	著書・論文等	氏名	種別	内容	
	Hotta Y., Nakamura H., Konishi M., Murata Y., Takagi H., Matsumura S., Inoue K., Fushiki T., Itoh N.		論文	Endocrinology 2009, 150(10), 4625-4633. "Fibroblast growth factor 21 regulates lipolysis in white adipose tissue but is not required for ketogenesis and triglyceride clearance in liver."	

Murata Y., Nishio K., Mochiyama T., Konishi M., Shimada M., Ohta H., Itoh N.	論文	PLoS One 2013, 8(7), e69330. "Fgf21 impairs adipocyte insulin sensitivity in mice fed a low-carbohydrate, high-fat ketogenic diet."
Ohta H., Konishi M., Kobayashi Y., Kashio A., Mochiyama T., Matsumura S., Inoue K., Fushiki T., Nakao K., Kimura I., Itoh N.	論文	Sci. Rep. 2015, 5:10049, doi: 10.1038/srep10049. "Deletion of the Neurotrophic Factor neudesin Prevents Diet-induced Obesity by Increased Sympathetic Activity."
Masuda Y., Nawa D., Nakayama Y., Konishi M., Namba	論文	J. Leukoc. Biol. 2015, 98(6), 1015-1025. "Soluble β -glucan from <i>Grifola frondosa</i> induces tumor regression in synergy with TLR9 agonist via dendritic cell-mediated immunity."
Masuda Y., Ohta Y., Morita Y., Nakayama Y., Miyake A, Itoh N, Konishi M.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2015, 38(5) 687-693. "Expression of Fgf23 in activated dendritic cells and macrophages in response to immunological stimuli in mice."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
胸腺におけるFgf21の役割	2015年12月	BMB2015
分泌因子neudesinの遺伝子欠損マウスは交感神経活性の亢進により食餌誘導性肥満に耐性を示す	2015年12月	BMB2015
神経栄養因子neudesinの遺伝子欠損マウスは高脂肪食誘導性肥満に耐性を示した	2015年12月	日本肥満学会アデノサイエンス・シンポジウム
Galnt17/Wbcsr17 knockout mice shows decreased growth and hyperprolactinemia	2015年9月	Glyco2015
III 学会等および社会における主な活動		
1999年4月～現在に至る	日本分子生物学会会員	

小西

2006年4月～現在に至る	日本肥満学会会員
2006年4月～現在に至る	日本薬学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学基礎教育センター	職名	教授	氏名	小山 淳子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1) 薬学部学生への教育		年月日	概要 要	
			2009年4月～現在に至る	分析Ⅲは機器分析の範囲なので、原理など教科書を読んだだけではわかりにくいことが多い。そのため、プリントやパワーポイントを使い、分かりやすい図などを用いて、解説講義を行っている。	
			2009年～2011年後期	総合文化演習Ⅰ或いはⅡはSGD方式で、基礎教科の大切さや薬学への個々の興味を持たせるように指導している。	
			2010年後期	物理学実習の粘度測定による分子量の測定を指導する。	
			2013年4月～現在に至る	1年生前期の基礎化学により、高校化学の復習と大学化学への橋渡しの学習を行う。一部TBLを取り入れ、グループ学習による知識の均等化を図る。	
			2010年4月～現在に至る	薬学基礎教育センターにおいて、分析化学、有機化学などの基礎をしっかりと身につけるための講義を希望学生に行う。また、留年生の学習、生活指導を行う。	
2	作成した教科書、教材、参考書			薬学基礎教育センターにおいて、WebやDVDを用いたデジタルラーニング制度を企画し、実施する。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
			2010年8月	日本リメディアル教育学会第6回全国大会 発表	
			2010年12月	第33回日本分子生物学会・第83回日本生化学会大会 合同大会 発表	
			2011年3月	日本薬学会第131年会 発表	
			2011年9月	日本生化学会内84回大会 発表	
			2011年9月	日本リメディアル教育学会第7回全国大会 発表	
			2012年3月	日本薬学会第132年会 発表	
			2012年8月	日本リメディアル教育学会第8回全国大会 発表	

	2012年12月	日本生化学会内85回大会 発表	
	2013年3月	日本薬学会第133年会 発表	
	2013年5月	関西地区FD連絡協議会第6回総会, FD活動報告会2013 発表	
	2013年9月	日本生化学会内86回大会 発表	
	2014年3月	日本薬学会第134年会 発表	
	2014年10月	日本生化学会内87回大会 発表	
4	2011年3月	メンタルケアカウンセラー®修了資格認定	
	2014年11月	薬学教育懇話会による教育ピアレビューを神戸薬科大学において開催した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
	Koyama J., Takeuchi A., Morita I., Nishino Y., Shimizu M., Inoue M., Kobayashi N.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2009, 17, 7493-7499. "Characterization of emodin metabolites in Raji cells by LC-APCI-MS/MS"
	Koyama J., Morita I., Yamori T.	論文	Molecules 2010, 15, 6559-6569. "Correlation between Cytotoxic Activities and Reduction Potentials of Heterocyclic Quinones"
	Koyama J., Taga S., Shimizu K., Shimizu M., Morita I., Takeuchi A.	論文	Anal. Bioanal. Chem. 2011, 401, 1385-1392. "Simultaneous determination of histamine and prostaglandin D2 using an LC-ESI-MS/MS method with positive/negative ion-switching ionization modes: Application to the study of anti-allergic flavonoids on the degranulation of KU812 cells
	Koyama J., Sinoki M., Moriyasu M., Kamigauchi M., Kodama N.	研究ノート	Libra 2013, 13, 27-46. "Recent Trial of Learning Ability Improvement in the Basic Education Center for Pharmacy at Kobe Pharmaceutical University"
	Koyama J., Kodama N.	論文	YAKUGAKU ZAASSHI 2014, 12, 1357-1366. "Trial and evaluation of a remedial education program in Kobe Pharmaceutical University"

2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
神戸薬科大学におけるプレースメントテストと1年次教科との関連性について	2015年3月	日本薬学会（第135年会）ポスター発表
神戸薬科大学におけるIR(Institutional Research)について	2016年3月	日本薬学会（第136年会）ポスター発表
III 学会等および社会における主な活動		
2006年1月～現在に至る	Editorial Advisory Board of "Recent Patents on Anti-Infective Drug Discovery"	

専任教員の教育・研究業績

所属	医療薬学研究室	職名	教授	氏名	力武 良行
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 総合薬学講座	年月日	2015年11月	概要	病態・薬物治療に関して、国家試験対策のポイントを示しながら、分かりやすく講義した。
	実務実習事前教育	年月日	2015年9月～	概要	医師としての視点からの内容も含めた実習とした。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	年月日	2015年9月～	概要	がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの事業遂行に参画した。
II 研究活動					
I. 著書・論文等					
氏名		種別		内容	
Mandai K, Rikitake Y, Mori M, Takai Y.		著書		Curr Top Dev Biol 2015, 112, 197-231. "Nectins and nectin-like molecules in development and disease."	

力武 良行	著書	『Heart View 11月増刊号：新しい循環器病のバイオマーカー-臨床的意義を理解する-』 (Medical View社, 2015) 19(12), 154-157
Yamana S, Tokiyama A, Mizutani K, Hirata K, Takai Y, Rikitake Y.	論文	<i>PLoS ONE</i> 2015, 10(4), e0124259. "The cell adhesion molecule Necl-4/CADM4 serves as a novel regulator for contact inhibition of cell movement and proliferation."
Terao Y, Satomi-Kobayashi S, Hirata K, Rikitake Y.	論文	<i>Cardiovasc Diabetol</i> 2015, 14, 104. "Involvement of Rho-associated protein kinase (ROCK) and bone morphogenetic protein-binding endothelial cell precursor-derived regulator (BMPER) in high glucose-increased alkaline phosphatase expression and activity in human coronary artery smooth muscle cells."
Inoue T, Fujiwara T, Rikitake Y, Maruo T, Mandai K, Kimura K, Kayahara T, Wang S, Itoh Y, Sai K, Mori M, Mori K, Mizoguchi A, Takai Y.	論文	<i>J Comp Neurol</i> 2015, 523(12), 1824-1839. "Nectin-1 spots as a novel adhesion apparatus that tethers mitral cell lateral dendrites in a dendritic meshwork structure of the developing mouse olfactory bulb."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
ArhGAP29, a RhoGAP, Interacts with Afadin in the Regulation of ROCK Activity, Network Formation and Migration of Endothelial Cell	2015年4月	第79回日本循環器学会総会・学術集会 (2015. 4. 25 大阪)
The Immunoglobulin-like Cell Adhesion Molecule Necl-4/CADM4 Serves as a Novel Regulator for Contact Inhibition of Vascular Endothelial Cell Movement and Proliferation	2015年5月	第9回AIM (2015. 5. 14-16 熊本)
Regulation of Angiogenesis by the Immunoglobulin-like Molecule Necl-5	2015年12月	BMB2015 (第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 同大会) (2015. 12. 4 神戸)
血管平滑筋細胞における高グルコース誘導性のアルカリフォスファターゼ (ALP) 遺伝子発現増加およびALP活性亢進へのRho-ROCK経路およびBMPERの関与	2015年12月	第23回日本血管生物医学学会学術集会 (2015. 12. 11 神戸)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
1992年5月～	日本内科学会（総合内科専門医、認定内科医）
1992年5月～	日本循環器学会（循環器専門医）
2010年9月～	日本血管生物医学学会（評議員）
2011年6月～	日本分子生物学会
2011年7月～	日本動脈硬化学会
2011年9月～	日本生化学会

専任教員の教育・研究業績

所属	衛生化学研究室	職名	教授	氏名	長谷川 潤
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概 要
2	作成した教科書、教材、参考書 メデイカルサイエンス臨床化学検査学		2014年1月		近代出版
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名			種別	内容	
Scott A, Hasegawa H, Sakurai K, Yaron A, Cobb J, Wang F.			論文	J Neurosci. 2011, 31, 6741-6749. "Transcription factor short stature homeobox 2 is required for proper development of tropomyosin-related kinase B-expressing mechanosensory neurons."	

Hasegawa H, Noguchi J, Yamashita M, Okada R, Sugimoto R, Furuya M, Unoki T, Funakoshi Y, Baba T, Kanaho Y.	論文	Biol Reprod. 2012, 86, 136, 1-12. "Phosphatidylinositol 4-phosphate 5-kinase is indispensable for mouse spermatogenesis."
Akiyama M, Hasegawa H, Hongu T, Frohman MA, Harada A, Sakagami H, Kanaho Y.	論文	Nat Commun. 2014, 5, 4744 "Trans-regulation of oligodendrocyte myelination by neurons through small GTPase Arf6-regulated secretion of fibroblast growth factor-2."
Hongu T, Funakoshi Y, Fukuhara S, Suzuki T, Sakimoto S, Takakura N, Ema M, Takahashi S, Itoh S, Kato M, Hasegawa H, Mochizuki N, Kanaho Y.	論文	Nat Commun. 2015, 6, 7925 "Arf6 regulates tumour angiogenesis and growth through HGF-induced endothelial β 1 integrin recycling."
Okada R, Yamauchi Y, Hongu T, Funakoshi Y, Ohbayashi N, Hasegawa H, Kanaho Y.	論文	Sci Rep. 2015, 5, 14919 "Activation of the Small G Protein Arf6 by Dynamin2 through Guanine Nucleotide Exchange Factors in Endocytosis."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
正中線交叉における交通軸索のSlit応答性スイッチの分子基盤: Robo1細胞内輸送系とArf6シグナリングの役割	2015年12月	第38回 日本分子生物学会年会/第88回 日本生化学会 合同大会
III 学会等および社会における主な活動		
1995年10月～現在		日本薬学会会員
1995年12月～現在		日本生化学会会員 (2013年 関東支部例会 実行委員)
2002年2月～現在		日本神経科学学会会員
2008年2月～現在		日本細胞生物学会会員
2008年3月～現在		日本脂質生化学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 田中 研治
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>年月日</p> <p>2009年4月～現在に至る</p> <p>概要</p> <p>要</p> <p>【英語】「読解力」、「語彙力」、「文法力」を養成するため、総合教材を使用し、英文読解のスキルだけでなく、発信（表現）用スキルにも重点を置いた授業を行っている。薬学英语への橋渡しの授業を常に心がけ、理系英語の教材を使用し、特に語彙力をつけるための小テストなどを併用している。一部の授業では、習熟度別クラスを設け、特に英文法力の強化を行っている(1年生のクラス)。</p> <p>【総合文化演習】現代社会における日本人の非言語コミュニケーション行動とヨーロッパ文化論の諸問題を扱う演習を行っている。</p> <p>学生中心の文献調査、要約、発表、及びレポート作成を指導している。</p> <p>2012年4月～現在に至る</p> <p>概要</p> <p>要</p> <p>【英語の歴史】1500年以上にわたる英語の歴史のうち、特に印欧語、ゲルマン語を経た古英語への分岐、中英語への発達を講義している。</p> <p>【早期体験学習】1年次生のための医療施設訪問学習。</p>
2	作成した教科書、教材、参考書	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	
4	その他教育活動上特記すべき事項	<p>2009年4月～2014年12月</p> <p>クラス担任及び学年主任として、種々の関係業務に従事。</p> <p>2009年4月～2012年3月</p> <p>図書館長の業務に従事。</p>

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
田中 研治	注解	Libra 2010, 10, 75-91. 「ラトヴィア語童話注解：Balta Pasaka～イマ ンツ・ジエトアニススの作品 <i>Visadas Pasakas</i> より抜粋～」	
田中 研治	翻訳	関西学院史紀要2011, 17, 7-50. 「ヤーニス・オアゾアリンシユ～日本（神 戸、1920～21年）でラトヴィアの外交官と領事を務めた人物（シルヴィ ア・クリジエヴィツァ著）」	
田中 研治	研究ノート	Libra 2015, 15, 1-40. 「英語史関連文献等における「ウエツドモア協 定」の扱いについて」	
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）			
演題名	発表年・月	学会名	
III 学会等および社会における主な活動			
1989年7月～現在に至る	バルト学研究促進学会会員		

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 岡野 登志夫
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 学部 衛生薬学系講義・実習	1976年4月～2015年3月	神戸薬科大学の学部学生に衛生薬学Ⅰ、衛生薬学Ⅱ、衛生薬学Ⅲ、衛生薬学Ⅳ、環境衛生学、臨床栄養学、総合薬学講座の講義と衛生薬学系実習の指導を行った。上記のうち、総合薬学講座を除く講義の授業評価を実施し、概ね良好な評価を受けた。衛生化学研究室ゼミの指導を行った。
大学院 薬学研究科特論講義・研究指導	2015年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に環境衛生学、臨床栄養学、総合薬学講座の講義と衛生薬学系実習の指導を行っている。担当教科及び実習内容に理解の不十分な学生に対して、随時質問に答えるようにしている。留学生を対象に補講を行っている。
2 他の研究科の大学院生への教育	1976年4月～2015年3月	神戸薬科大学大学院薬学研究科修士課程学生に対する特論講義と研究指導を行った。また、博士後期課程学生に対する特論講義と研究指導を行った。
	2000年	東京工業大学大学院工学研究科の学生に対して講義を行った。
	2000年	金沢大学大学院自然科学研究科の学生に対して講義を行った。
	2001年、2005年	大阪大学大学院医学研究科の学生に対して講義を行った。
	2004年	新潟大学大学院医歯学総合研究科の学生に対して講義を行った。
	2005年	熊本大学大学院薬学研究科の学生に対して講義を行った。
	2007年	大阪薬科大学大学院薬学研究科の学生に対して講義を行った。
	2015年	北里大学薬学部大学院薬学研究科の学生に対して講義を行った。
3 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 生物系薬学(Ⅱ.生命をミクロに理解する)(初版)	2005年	ビタミンについて記載し、衛生薬学講義用教材として用いている。(東京化学同人、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)
生物系薬学(Ⅱ.生命をミクロに理解する)(第2版)	2010年	
(2) 健康と環境(初版)	2006年	栄養と健康・栄養素について記載し、衛生薬学系講義用教材として用いている。(東京化学同人、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)
健康と環境(第2版)	2012年	

健康と環境(第3版)	2016年		衛生薬学について記載し、衛生薬学講義用教材として用いている。(廣川書店、編集:岡野登志夫、他、分担執筆:岡野登志夫、他)
(3) 衛生薬学サブノート	2009年		衛生薬学について記載し、衛生薬学講義用教材として用いている。(廣川書店、編集:岡野登志夫、他、分担執筆:岡野登志夫、他)
(4) 公衆栄養学	2010年		日本人の食事摂取基準(2005年版)について記載し、衛生薬学系講義用教材として用いている。(南江堂、編集:田中平三、伊藤ちぐさ、佐々木敏、分担執筆:岡野登志夫、他)
(5) 衛生試験法・注解2010	2010年		ビタミンについて記載および編集し、衛生薬学系講義用教材として用いている。(金原出版、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)
(6) New衛生薬学(初版)	2009年		衛生薬学について記載し、衛生薬学講義用教材として用いている。(廣川書店、編集:岡野登志夫、他、分担執筆:岡野登志夫、他)
New衛生薬学(第2版)	2010年		
New衛生薬学(第3版)	2011年		
(7) 生物系薬学 IV 演習編	2011年		ビタミンについて記載し、生物系薬学講義用教材として用いている。(東京化学同人、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)
(8) 臨床栄養学 II 各論	2015年		臨床栄養学について記載し、臨床栄養学講義用教材として用いている。(中山書店、編集:本田佳子、分担執筆:岡野登志夫、他)
4 その他教育活動上特記すべき事項	2004年4月～2006年3月 2008年4月～2010年3月 2005年5月～2009年3月 2010年4月～2012年3月		就職部長 薬剤師国家試験対策委員長 入試部長
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Makagawa K, Hirota Y, Sawada N, Yuge N, Watanabe M, Uchino Y, Okuda N, Shimomura Y, Suhara Y, Okano T	論文	NATURE 2010; 468 :117-121. "Identification of UBIAD1 as a novel human menaquinone-4 biosynthetic enzyme."	
Tsugawa N, Uenishi K, Ishida H, Minekami T, Doi A, Koike S, Takase T, Kamao M, Mimura Y, Okano T	論文	Clin Nutr 2012; 31 (2): 255-260. "A novel method based on curvature analysis for estimating the dietary vitamin K requirement in adolescents."	

Hirota Y, Tsugawa N, Nakagawa K, Suhara Y, Tanaka K, Uchino Y, Takeuchi A, Sawada N, Kamao M, Wada A, Okitsu T, Okano T	論文	J Biol Chem, 2013; 288 (46): 33071-33080. "Menadione (vitamin K ₃) is a catabolic product of oral phylloquinone (vitamin K ₁) in the intestine and a circulating precursor of tissue menaquinone-4 (vitamin K ₂) in rats."
Nakagawa K, Sawada N, Hirota Y, Uchino Y, Suhara Y, Hasegawa T, Amizuka N, Okamoto T, Tsugawa N, Kamao M, Funahashi N, Okano T	論文	PLoS One, 2014; 9 : e104078. "Vitamin K ₂ biosynthetic enzyme, UBIADI is essential for embryonic development of mice."
Hirota Y, Nakagawa K, Sawada N, Okuda N, Suhara Y, Uchino Y, Kimoto T, Funahashi N, Kamao M, Tsugawa N, Okano T	論文	PLoS One, 2015; 10 :e0125737. "Functional characterization of the vitamin K ₂ biosynthetic enzyme UBIADI."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
ビタミンDの新たな分子標的と作用メカニズム	2015年・3月	第95回日本栄養食糧学会関東支部大会
ビタミンK研究の新展開ー栄養素からホルモンへのパラダイムシフト	2016年・3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
1976年～現在		日本薬学会会員
1976年～2014年		日本栄養・食糧学会会員
1976年～2014年		日本生化学会会員
2003年～現在		日本骨代謝学会評議員
2003年～2014年		国際骨代謝学会 (IBMS) 会員
2003年～2014年		米国骨代謝学会 (ASBMR) 会員
2003年～2014年		日本癌学会会員
2006年～2014年		脂溶性ビタミン総合研究委員会副委員長

2007年～現在	日本ビタミン学会理事
2007年～現在	日本骨粗鬆症学会評議員
2010年～2014年	神戸薬科大学理事

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 中江 裕子														
I 教育活動																
教育実践上の主な業績																
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年月日</th> <th>概 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010年4月～2014年7月</td> <td>4年次の「治験」の講義を担当</td> </tr> <tr> <td>2010年4月～2014年12月</td> <td>1年次の「社会薬学Ⅰ」、「社会薬学Ⅱ」の講義を担当</td> </tr> <tr> <td>2011年4月～2014年7月</td> <td>6年次の「医薬品開発Ⅰ」の講義を担当</td> </tr> <tr> <td>2012年4月, 2014年4月</td> <td>大学院修士課程「医薬品研究開発特論」の講義を担当</td> </tr> <tr> <td>2012年7月, 2013年6月, 2014年6月</td> <td>大学院博士課程「薬学研究基礎形成教育」の講義を担当</td> </tr> <tr> <td>2013年4月～2013年12月</td> <td>3年次の「総合文化演習」を担当</td> </tr> </tbody> </table>	年月日	概 要	2010年4月～2014年7月	4年次の「治験」の講義を担当	2010年4月～2014年12月	1年次の「社会薬学Ⅰ」、「社会薬学Ⅱ」の講義を担当	2011年4月～2014年7月	6年次の「医薬品開発Ⅰ」の講義を担当	2012年4月, 2014年4月	大学院修士課程「医薬品研究開発特論」の講義を担当	2012年7月, 2013年6月, 2014年6月	大学院博士課程「薬学研究基礎形成教育」の講義を担当	2013年4月～2013年12月	3年次の「総合文化演習」を担当
年月日	概 要															
2010年4月～2014年7月	4年次の「治験」の講義を担当															
2010年4月～2014年12月	1年次の「社会薬学Ⅰ」、「社会薬学Ⅱ」の講義を担当															
2011年4月～2014年7月	6年次の「医薬品開発Ⅰ」の講義を担当															
2012年4月, 2014年4月	大学院修士課程「医薬品研究開発特論」の講義を担当															
2012年7月, 2013年6月, 2014年6月	大学院博士課程「薬学研究基礎形成教育」の講義を担当															
2013年4月～2013年12月	3年次の「総合文化演習」を担当															
2	作成した教科書、教材、参考書															
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等															
4	その他教育活動上特記すべき事項															
II 研究活動																
1. 著書・論文等																
氏名		内容														
中江裕子 他		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>著書</td> <td>今日のOTC薬（南江堂 2009）</td> </tr> </tbody> </table>	種別	内容	著書	今日のOTC薬（南江堂 2009）										
種別	内容															
著書	今日のOTC薬（南江堂 2009）															

2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
分子標的抗癌剤における添付文書の改訂頻度、時期および内容の調査分析	2015年6月	第18回日本医薬品情報学会総会・学術大会
III 学会等および社会における主な活動		
1971年～		日本薬学会員
1985年～		日本薬剤学会員
1985年～		日本薬物動態学会員
1998年～		日本臨床薬理学会員
2000年～		日本毒性学会員
2003年～		日本医療薬学会員
2007年～		日本医薬品情報学会員
2008年～		日本薬剤疫学会員
2009年～		日本アプライド・セラピューティクス学会員
2011年～		レギュラトリリーサイエンス学会員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 太田 光照
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) 薬学部学生への教育	2000年～現在に至る	神戸薬科大学薬学部3年生に臨床化学Ⅱ、4年生に臨床検査総論、薬学総合講座(病態治療関連領域)の講義を行っている。2003年に臨床検査学の教科書を作成し、これを用いている。教科書を内容的に補充するため、適宜プリントを配布している。また、薬剤師国家試験問題を参考資料として授業に利用している。
(2) 大学院学生への教育	2000年～2013年	神戸薬科大学薬学部大学院学生(社会人含む)に対し、臨床検査特論の講義を行っている。プリントを配布して解説するとともに液晶プロジェクターを用いて講義を行っている。最終時間には症例を提示し、それに関するレポートを提出させ、理解度を判定している。
(3) 他大学、薬学部学生への教育	2000年～2005年	大阪薬科大学にて臨床生化学を4年生前期に講義を行った(非常勤講師)。
(4) 薬学部学生への実習教育	2000年～2013年	神戸薬科大学薬学部3年生に後期医療薬学系Ⅰ実習(臨床化学,2010年より臨床検査実習に名称変更)の実習を行っている。毎年、本実習に使用する実習書の改定をするとともに、その解説プリントの改定も行っている。実習日ごとに予習レポートを提出させるとともに、実習結果を教員とディスカッションした後、実習レポートを提出させている。
(5) 薬学部学生への教育	2000年～2013年	神戸薬科大学薬学部3年生12月より4年生10月まで研究室所属特論生への文献を利用した演習教育と、病態に関してテーマをひとつ選び、冊子体にまとめさせるとともに発表させている。研究室所属ゼミ生へは、病態に関してテーマをひとつ選び、冊子体にまとめさせるとともにそれを発表させている。また、ゼミ生へはひとつの研究課題を与え、卒業研究をおこない、8月に発表会を行っている。この間、課題に関する目的や意義について理解を深めさせている。
(6) 大阪薬科大学大学院学生への教育	2003年～2004年	大阪薬科大学大学院にて生化学特論の講義を行った。
(7) 神戸大学大学院医学研究科への教育	2007年～現在に至る	神戸大学大学院医学研究科にて薬物治療学の講義を行っている。
(8) 京都大学大学院薬学研究科への教育	2006年	京都大学大学院薬学研究科にて病態特論の講義を行った。
(9) 薬学研究科大学院への教育環境の整備	2005年～2008年	神戸薬科大学大学院薬学研究科大学院主幹として大学院のカリキュラムの整備を行った。

<p>(10) 薬学研究科大学院が特色GPに選定</p> <p>(11) 高大連携プログラムの実施</p> <p>(12) 学生支援センター長</p> <p>(13) エクステンションセンター事業委員長</p> <p>(14) 大学教育充実のための戦略的大学支援プログラム 医薬共同による創薬・育薬を担う医療人の育成を通じた 私立・国立大学間の連携</p> <p>(15) 薬学研究科大学院生への教育研究指導</p> <p>(16) 神戸大学医学部の人材再生創出プログラムへの連携</p>	<p>2006年～2008年</p> <p>2008年～2009年</p> <p>2010年～2012年</p> <p>2012年～現在に至る</p> <p>2009年～2011年</p> <p>2000年～2012年</p> <p>2009年～現在に至る</p>	<p>文部科学省より修士課程での「実践的薬学教育による臨床指導薬剤師養成」に関する取り組みが特色GPに選定され、取組みの責任者としてプログラムを遂行した。</p> <p>入試部長として高大連携プログラムを実施した。</p> <p>教務課・学生就職課の運営を支援。</p> <p>本学が実施する生涯教育プログラム事業の企画・運営を行っている。</p> <p>本事業のうち、医療障害研修支援プログラムホームページの責任者として、関連事情を 共催支援した。</p> <p>神戸薬科大学薬学研究科医療薬科学専攻学生への研究指導（演習および特別実験） を行っている。ひとつの研究課題を与え、この課題に関する目的や意義について理 解を深めさせながら研究を遂行させている。また、関連する研究論文について発表 させ、研究の進め方や実験結果について討論し、研究に対する理解や進め方などを 習得させ、発表方法についても学ばせている。得られた研究成果について学会に年 教回発表できるよう指導している。</p> <p>神戸大学医学部付属病院での「医師・コメディカル統合的人材育成拠点形成」プロ グラムの実施に協力している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>(1) 疾患・病態モニタリングに必要な臨床検査知識</p> <p>(2) タンパク質化学第1巻 毒素タンパク質 動物由来毒素 タンパク質</p> <p>(3) タンパク質化学第1巻 毒素タンパク質 植物・微生物 由来毒素タンパク質</p> <p>(4) 臨床検査項辞典：ミエリン塩基性蛋白</p>	<p>2002年</p> <p>2003年</p> <p>2003年</p> <p>2003年</p>	<p>薬学部および看護学部、臨床検査・衛生検査学部の学部学生を対象とした臨床化学 を中心とした教科書の分担執筆をした。 （p 89_143）第2部 疾患の概要と臨床検査値および薬物治療 廣川書店 分担執 筆：篠原力男、太田光昭、松葉和久</p> <p>医学部、薬学部、理学部、農学部大学院生の参考書を作成し（編集者）、へび毒素 たんぱく質の章を分担執筆した。 （p 115_121）細胞毒タンパク質（サイトトキシン、カルジオトキシン） 廣川書店 （編者：林 恭三、池田 潔、太田光昭）分担執筆：太田光昭、林 恭三</p> <p>医学部、薬学部、理学部、農学部大学院生の参考書を作成した（編集者）。廣川書 店（編者：林 恭三、池田 潔、太田光昭）分担執筆：太田光昭、林 恭三</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分 担執筆した。 （p 839） 医歯薬出版株式会社（編者 櫻林郁之輔、熊坂一成）分担執筆：太田光 昭、太田潔江</p>

<p>(5) 臨床検査項辞典：抗ミエリン塩基性蛋白抗体</p> <p>(6) 臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレゼプター結合型抗体</p> <p>(7) 臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレゼプター阻害型抗体</p> <p>(8) S C A S NEWS 2003 - II</p> <p>(9) 薬学領域における臨床医学</p> <p>(10) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査 (第6版) -その数値をどう読むか- 抗MuSK抗体</p> <p>(11) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査 (第6版) -その数値をどう読むか- 抗AChR抗体</p> <p>(12) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査 (第6版) -その数値をどう読むか- 第6版</p> <p>(13) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査 (第6版) -その数値をどう読むか- 抗紡錘抗体</p> <p>(14) MuSK (Muscle-specific receptor tyrosine kinase) とは</p> <p>(15) レニンジャーの生化学 上巻 第4版</p>	<p>2003年</p> <p>2003年</p> <p>2003年</p> <p>2003年</p> <p>2004年</p> <p>2005年</p> <p>2005年</p> <p>2005年</p> <p>2005年</p> <p>2006年</p> <p>2006年</p>	<p>医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 838) 医歯薬出版株式会社 (編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆：太田光熙、太田潔江</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 835) 医歯薬出版株式会社 (編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆：太田光熙、太田潔江</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 836) 医歯薬出版株式会社 (編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆：太田光熙、太田潔江</p> <p>医師、医学系研究者、医学部・薬学部学生用にへび毒中に含まれるたんぱく質の臨床応用例を解説した。 (p 3-6) 生理活性物質を利用した臨床検査分析-重症筋無力症関連自己抗体の測定法-</p> <p>薬学部および看護学部、臨床検査・衛生検査学部の学部学生を対象とした臨床化学を中心とした教科書の分担執筆をした。 (p 89-143) 廣川書店 分担執筆：篠原力男、太田光熙、松葉和久</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法のうち抗MuSK抗体の測定法を分担執筆した。 63巻(7) (p.589-591) 日本臨床 MuSK抗体 分担執筆：太田光熙、太田潔江、重本和宏</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法のうち抗AChR抗体の測定法を分担執筆した。(p.585-588) 日本臨床 抗アセチルコリンレゼプター抗体(非阻害型及び阻害型) 分担執筆：太田光熙、太田潔江</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。63巻(7) (p.596-598) 日本臨床 ミエリン塩基性蛋白 (MBP) と抗MBP抗体 分担執筆：太田光熙、太田潔江</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に膠原病の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。63巻(7) (p.608-610) 日本臨床 抗紡錘体関連抗体 分担執筆：尾林 博、和田 孝、太田光熙</p> <p>医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の病態理解に必要な抗MuSK抗体に関する項目を解説した。 65巻(4) (p.325-332) 神経内科 分担執筆：重本和宏、太田光熙</p> <p>薬学部、医学部向けの学部学生用として国際的に定評のある生化学の教科書の「アミノ酸、ペプチド、蛋白」の章を分担翻訳した。(p.103-158) Chap. 3 アミノ酸、ペプチドおよびタンパク質 廣川書店 (編者：川崎敏祐、中山和久、監修：山科郁夫) 分担執筆：太田光熙</p>
--	--	---

(16) 薬学領域における臨床医学	2006年	薬学部および看護学部、臨床検査・衛生検査学部の学部学生を対象とした臨床化学を中心とした教科書の改訂版を分担執筆した。 (p89-143) 廣川書店 分担執筆：篠原力男、太田光熙、松葉和久
(17) 最新臨床検査項辞典：ミエリン塩基性蛋白	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p573-574) 医歯薬出版株式会社 (編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆：太田光熙、太田潔江
(18) 最新臨床検査項辞典：抗ミエリン塩基性蛋白抗体	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 574-575) 医歯薬出版株式会社 (編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆：太田光熙、太田潔江
(19) 最新臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレセプター結合型抗体	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 571-572) 医歯薬出版株式会社 (編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆：太田光熙、太田潔江
(20) 最新臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレセプター阻害型抗体	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 572-573) 医歯薬出版株式会社 (編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆：太田光熙、太田潔江
4 その他教育活動上特記すべき事項		
(1) FDへの参加	2002年8月10日～11日	第4回全国薬学教育者ワークショップ近畿 (摂南大学) に参加した。
(2) 大学院主幹	2004年～2006年	大学院主幹として、大学院研究科の教育研究の運営に携わった。
(3) 入試部長	2008年～2010年	入試部長として、入試制度の改革に携わった。
(4) 副学長	2008年4月～2013年3月	副学長として学長を補佐し、大学の運営に協力。
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Kimura I., Konishi M., Asaki T., Furukawa N., Ukai K., Mori M., Hirasawa A., Tsujimoto G., Ohta M., Itoh N., and Fujimoto M.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2009, 381(1), 75-80. "Neudesin, an extracellular heme-binding protein, suppresses adipogenesis in 3T3-L1 cells via the MAPK cascade."

Ohta K, Kuno S, Inoue S, Ikeda E, Fujinami A, Ohta M.	論文	J Neurol Sci. 2010, 291(1-2), 12-16. "The effect of dopamine agonists: The expression of GDNF, NGF, and BDNF in cultured mouse astrocytes."
Kobayashi N., Banzono E., Shimoda Y., Oyama H., Kunihiro T., Morita I., Ohta M.	論文	Anal. Methods 2011, 3(9), 1995-2002. "A monoclonal antibody-based enzyme-linked immunosorbent assay for human urinary cotinine to monitor tobacco smoke exposure."
Fukui M, Tanaka M, Toda H, Asano M, Yamazaki M, Hasegawa G, Imai S, Fujinami A, Ohta M, Nakamura N.	論文	Metabolism. 2012, 61(7):1021-5. "The serum concentration of allograft inflammatory factor-1 is correlated with metabolic parameters in healthy subjects"
太田 光熙, 藤波 綾	著書	臨床検査における免疫測定法: 自己抗体検査法 p220-224 免疫測定法: 基礎から先端まで (小林典裕・上田宏・三宅司郎・荒川秀俊編) 講談社 2014. 12. 20
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
	演題名	学会名
		発表年・月
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2000年8月～現在に至る	日本生化学会評議員	
2000年8月～現在に至る	日本薬学会近畿支部役員	
2005年4月～2007年3月	日本薬学会近畿支部幹事	
2002年8月～現在に至る	日本臨床化学会評議員	
2009年4月～現在に至る	日本禁煙科学会学術委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	教授	氏名	韓 秀 妃
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概 要
					学外臨床教育・研究にかかわっている。 実務実習事前教育に関わっている。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2011年10月2日 2012年2月19日 2012年9月30日 2013年7月28日 2013年9月22日－23日 2014年6月8日 2015年6月7日 2015年7月5日 2015年11月8日	最新の関節リウマチ治療薬 (神戸薬科大学エクステンション事業-香川) 関節リウマチの薬物治療 (神戸薬科大学エクステンション事業-徳島) 関節リウマチの治療薬 (神戸薬科大学エクステンション事業-北陸) 1. let's try! 簡易懸濁法、2. 添付文書・IF 活用していますか? (神戸薬科大学エクステンション事業-南九州) Facebookを利用した健康食品指導薬剤師のスキルアップ研修 (第46回日本薬剤師会学術大会) 添付文書・IF 活用していますか? (神戸薬科大学エクステンション事業-福岡) Let's try! 簡易懸濁法 (神戸薬科大学エクステンション事業-山口) 添付文書・IF 活用していますか? (神戸薬科大学エクステンション事業-関東) 添付文書を活用しよう (神戸薬科大学エクステンション事業-山口)
4	その他教育活動上特記すべき事項 エクステンションセンター生涯教育企画委員			2007年～現在	リカレントセミナー、卒後研修講座の企画、運営にかかわっている。

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
川崎 英二、森本 由美、鎌倉 彩、國広 俊臣、韓 秀 妃、弘岡 貴子、岩川 精吾	論文	日本病院薬剤師会雑誌 2009, 45(12), 1595-1598. 「外来化学療法実施乳がん患者における悪心・嘔吐対策変更による有害事象発現への影響」	
韓 秀妃	著書	薬剤業務安全指導のポイント 外観類似対策について, HANDS ON, 4(2), 48-53, じほう, 2009	
韓 秀妃	著書	薬効別 服薬指導マニュアル 第8版 じほう 2015 執筆	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
III 学会等および社会における主な活動			
1999年4月～2006年3月		和歌山県病院薬剤師会理事	
2001年～2003年		和歌山労災病院看護専門学校非常勤講師	
2004年4月～2006年3月		兵庫県病院薬剤師会理事	
2006年～2010年		関西労災病院看護専門学校非常勤講師	
2006年4月～2010年3月		兵庫県病院薬剤師会常任理事	
2010年4月～2011年3月		兵庫県病院薬剤師会理事	
2000年1月～現在		日本医療薬学会認定薬剤師・指導薬剤師	

2007年4月～2010年9月	阪神がん治療専門薬剤研究会幹事
2008年4月～現在	認定実務実習指導薬剤師

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	教授	氏名	渡 雅克
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	年月日	2013年4月～現在	概要	要
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名	種別	内容		
北田徳昭, 西野雅行, 安田潤, 森田聡子, 藤井千賀, 峯垣哲也, 近藤万友美, 阿南節子, 高良恒史, 渡雅克	論文	論文	一般病院における乳がん化学療法の前転化をめぐって(第2報)—FECおよびTC療法における安全性の検討—, 癌と化学療法, 36(10): 1671-1675, 2009.		
近藤万友美, 北田徳昭, 小林睦, 森田聡子, 吉岡睦展, 辻隆志, 森亜子, 岡本隆弘, 渡雅克	論文	論文	R-CHOP療法施行中のB型肝炎の再燃に対するEntecavir投与により薬物性肝障害を発生した非ホジキンリンパ腫の1例, 癌と化学療法, 36(7): 1199-1201, 2009.		
新康憲, 吉岡睦展, 石津智司, 杉生雅和, 春藤和代, 折田環, 小林敦子, 渡雅克, 竹中雅彦	論文	論文	トラフ値15 μ g/mL以上を目標としたテイコプラニン負荷投与量設計に関する検討, TDM研究, 29(3): 192-192, 2012.		

吉岡陸展, 山本哲久, 新康憲, 山田美和, 石津智司, 杉生雅和, 折田環, 小林敦子, 春藤和代, 渡雅克, 竹中雅彦	論文	Tsukamurella 手指骨髓炎にバンコマイシンおよびリネゾリドを使用した一症例, TDM研究, 29(3): 185-185, 2012.
新康憲, 吉岡陸展, 小林敦子, 石津智司, 杉生雅和, 折田環, 春藤和代, 渡雅克, 飯田健二郎, 竹中雅彦	論文	一側腎摘後のMRSAカテーテル関連血流感染に対しバンコマイシンおよびリネゾリドを投与した一症例, TDM研究, 29(1): 21-24, 2012.
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
	演題名	学会名
		発表年・月
III 学会等および社会における主な活動		
1976年4月～現在に至る	日本病院薬剤師会会員	
1990年4月～現在に至る	日本医療薬学会会員	
2004年4月～2008年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2008年4月～2012年3月	兵庫県病院薬剤師会常任理事	
2008年4月～2010年3月	日本病院薬剤師会 編集委員会 地域編集委員	
2008年4月～2012年3月	日本病院薬剤師会 予備代議員	
2008年4月～2010年3月	兵庫県病院薬剤師会 西宮支部長	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	教授	氏名	奥川 斉
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	要
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名	種別	内容		
	出崎美穂子, 藤波綾, 長谷川浩司, 道下さゆり, 向誠一郎, 奥川 斉, 早川みち子, 石原健造, 太田光熙	論文	2型糖尿病関連薬剤費に関する調査研究—兵庫県立リハビリテーション中央病院での実態調査, 医療薬学, 36, 755-762, 2010.		
	守安正恭, 小山倫奈, 川西和子, 奥川 斉	論文	各種イカリソウのフラボノイドの比較について, 生薬学雑誌, 62, 1-6, 2010.		
	垣尾尚美, 和田 敦, 宗亜矢子, 久米 学, 角本幹夫, 榎本博雄, 平野 剛, 奥川 斉, 平井みどり	論文	バクリタキセル・カルボプラチン併用療法とワルファリンとの薬物相互作用に関する調査—抗凝固効果への影響—, 医療薬学, 37, 443-448, 2011.		

2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1973年4月～現在		日本東洋医学会会員
1980年4月～現在		日本薬学会会員
1973年5月～現在		日本生薬学会会員
2011年3月～現在		日本臨床腫瘍学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	社会科学研究室	職名	准教授	氏名	松家 次朗
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要	要	
		2002年4月～2010年3月			大学院の前期課程において「医療倫理学特論」を担当し、生命倫理学の成立背景と考え方を論ずるとともに医療専門職の倫理についても講義を行う。（ただし開講年度は隔年である）
		2002年4月～			神戸大学医学系大学院において「保健倫理学特論」を担当し、主に医療専門職の倫理学を講義する。（オムニバス形式）
		2006年4月～			「社会薬学」Ⅰ・Ⅱでは、生命倫理学の成立背景と基本的な事例を参考に、生命倫理学の基本的な考え方を論じ、さらに、医療専門職としての薬剤師の倫理について講義を行う。（ただし、2013年4月より「社会薬学」Ⅱのみの講義。2015年度より新カリに移行し、廃止）「現代社会論」では、民主主義社会における行動規範の基本的構造を具体的に講義する。「医療と人間」では、終末期の社会保障の問題を取り上げながら講義する。「医療倫理学の砂金の主要問題）を取り上げながら講義を行う。「総合文化演習」Ⅰ（平成25年度より「総合文化演習」に名称変更）では、現代医療の問題をテーマとし、学生の資料調査、発表、及びレポート作成の指導を行う。
		2008年4月～			「生命倫理学」と「医療倫理学」において各倫理における主要問題と課題をとりあげ、ケーススタディも援用しながら講義を行う。「総合文化演習」Ⅱ（平成26年度より廃止）では、医療における倫理的問題をテーマとして、学生の資料調査、発表、レポート作成の指導を行う。
		2010年4月～			大学院院修士課程において医薬品研究開発特論共同担当し、講義を行う。
		2012月4月～			大学院院薬学研究所薬学専攻博士課程において「薬学研究基盤形成」(オムニバス形式)で生命倫理について講義を行う。
		2013年4月～			「教養リテラシー」において発表、調査、レポートの書き方(2015年度からは主に本の読み方、論点のまとめ、キーワード探索等の)指導を行う。神戸大学医学部(医学科・保健学科)との合同初期体験実習の指導を行う。

2	作成した教科書、教材、参考書	2015年3月	共著 『薬剤師になる人のための生命倫理と社会学』 (法律文化社)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項	2005年4月～2007年4月 2013年4月～	早期体験学習の担当委員の一人となり新入生全員を対象とした早期体験学習を指導する。 (同上)
		2015年3月17日	新カリに早期体験の一環として救命救急講習が組み込まれたため、神戸市の応急手当普及員(救急インストラクター)の認定を受ける。
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
松家次朗		翻訳	ジョン・グレゴリー(1724-1773)の業績紹介(神戸薬科大学研究論集Libra第12号, 2012年3月)
松家次朗		翻訳	ジョン・グレゴリー「医師の義務と資格に関する講義(承前)」(神戸薬科大学研究論集Libra第13号, 2013年3月)
松家次朗		翻訳	ジョン・グレゴリー「医師の義務と資格に関する講義(承前)」(神戸薬科大学研究論集Libra第14号, 2014年3月)
松家次朗		翻訳	ジョン・グレゴリー「医師の義務と資格に関する講義(承前)」(神戸薬科大学研究論集Libra第15号, 2015年3月)

2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			

専任教員の教育・研究業績

所属	生命有機化学研究室	職名	准教授	氏名	山野 由美子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要
				1985年4月～現在に至る	「有機化学系Ⅲ実習」（以前は有機化学系Ⅱ実習あるいは機器分析学実習と称した：現在は3年次生に配当）を指導している。学生がより理解を深められるよう討議を活発に行い、また、関連した国家試験問題も紹介して解説している。
				1985年4月～現在に至る	研究室に配属された学部学生および大学院生の研究指導を行っている。実験操作法、実験ノート作成の仕方、研究の進め方、文献の読み方など、基本からの指導を行っている。また、定期に報告書を作成させ、卒業前にはパワーポイントを用いて口頭発表を行わせている。
				2004年4月～現在に至る	大学院生に対しては、学会での発表指導や論文作成の指導も行っている。
				2007年10月～現在に至る	「有機化学演習」を受け持ち、有機化学の演習を行っている。電子の動きにより化学反応が説明できることを理解させるために、電子の動きを中心に冊子にまとめ教材とした。小テストを随時行い、理解度を確認すると共に、指導方法の参考とした。
				2009年10月～現在に至る	2年次生に対する授業科目として、「有機化学Ⅳ」の講義を行っている。教科書の重要な説明文には赤線を引かせ、また、黒板にできるだけ反応機構をカーブした矢印で書き、復習がしやすくなるように努めている。また、授業時間内に練習問題をいくつか解かせ、本人が理解度をチェックできるように工夫している。
				2009年10月～現在に至る	4年次生に対する授業科目として、「精密有機合成化学」（昨年度まで有機化学Ⅶと称した）の講義を行っている。医薬品合成を例として、これまでに習った有機化学がどのように応用されているか解説している。CBT受験前であることを意識し、基本的な反応を復習できるよう努めている。また、教材冊子の中には問題を掲載し、自主学習がしやすいよう工夫している。
				2009年10月～現在に至る	2年次生に対する授業科目として、「生物有機化学」の講義を行っている。生体成分の性質と反応を有機化学的に理解できるよう、黒板にできるだけ構造式を書き、どの官能基がどのように反応するのか解説している。また、要点をまとめた冊子を作成し、教科書のページ数も記載して、自主学習しやすいよう工夫している。

2	作成した教科書、教材、参考書	2009年～現在 2009年～現在 2009年～現在	「生物有機化学」の教材作成：生体成分の性質と反応を有機化学的に理解できるように要点にまとめた。 「精密有機合成化学」の教材作成：これまでに習った有機化学の知識で理解できる医薬品合成例と、スペクトルを冊子にまとめた。 「有機化学系Ⅲ実習書」の作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 なし		
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
	Yamano Y., Tsuboi K., Hozaki Y., Takahashi K., Jin X.-H., Ueda N., Wada A.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2012, 20, 3658-3665. "Lipophilic amines as potent inhibitors of N-acylethanolamine-hydrolyzing acid amidase"
	Yamano Y., Chary M. V., Wada A.	論文	Org. Bioorg. Chem. 2012, 10, 4103-4108. "Stereoselective total synthesis of the acetylenic carotenoids alloxanthin and triophaxanthin"
	Yamano Y., Chary M. V., Wada A.	論文	Org. Lett. 2013, 15, 5310-5313. "Stereocontrolled First Total Syntheses of Amarouciaxanthin A and B"

Yamano Y., Maoka T., Wada A.	論文	Marine Drugs 2014, 12, 2623-2632. "Synthesis of (3S,3'S)- and meso-Stereoisomers of Alloxanthin and Determination of Absolute Configuration of Alloxanthin Isolated from Aquatic Animals"
Yamano Y., Ematsu K., Kurimoto H., Maoka T., Wada A.	論文	Marine Drugs 2015, 13, 159-172. "Total synthesis of gobiuxanthin stereoisomers and their application to determination of absolute configuration of natural products: revision of reported absolute configuration of epigobiuxanthin"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
ガックより単離されたLycopene-5,6-diolおよび γ -carotene-5',6'-diolの立体異性体の合成とHPLC分離条件の確立	2015/9月	第29回カロテノイド研究談話会
褐藻由来フコキサンチンの肥満脂肪細胞における慢性炎症抑制機構	2015/9月	第29回カロテノイド研究談話会
Preparation of New ChR with One Double Bond-elongated 3,4-Dehydroretinals	2015年10月	第3回国際レチノイド研究会
Lycopeneの新規酸化代謝物, Lycopene-5,6-diol立体異性体の全合成	2015年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
新規チャネロドプシンの開発	2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
1983年1月～現在に至る		日本薬学会会員
1986年1月～現在に至る		日本ビタミン学会会員
1995年1月～現在に至る		日本カロテノイド研究会会員
2002年4月～現在に至る		有機合成化学協会会員
2014年10月～現在に至る		近畿化学協会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	中央分析室	職名	准教授	氏名	竹内 敦子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
				2008年4月～2015年12月	分析化学IIIから構造解析学(分担)、薬学英語入門I、薬学英語入門IIの講義を担当した。分析化学III-構造解析学では、生体分子を解析する方法としての質量分析法を習熟させることを目的として講義を行った。3年次前・後期で担当する薬学英語入門I・IIでは、医療や薬学などを中心とする自然科学の分野で必要とされる英語の基礎的な知識を修得し、同時に理系英語の初歩的な技能と運用能力を養成することを目的として講義を行った。
				2002年4月～2010年12月	実習としては、2002年から2007年度まで有機化学系実習II、2008年度から現在まで有機化学系III実習を担当した。質量分析計の前での測定を実演したり、自ら作成したポストターを使って質量分析に対する理解を深めるための努力をするとともに、国家試験を意識した解説も行った。
				1981年4月～2014年12月	毎年数名のゼミ生ならびに大学院生の指導を行った。質量分析を通して、研究の目的、実験結果の考え方を把握し、さらなる研究意欲を培わせることを心がけて指導を行った。また、プレゼンテーションについても、わかりやすく聞き手に伝えるかをポイントにおいて指導した。大学院講義では、学生が研究に利用できるような質量分析に関する最近の話題について講義した。
2	作成した教科書、教材、参考書				質量分析法の原理や基礎的内容を学習するための図式化などを取り入れたプリント教材を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Nakagawa T., Takeuchi A., Kakiuchi R., Lee T., Yagi M., Awano H., Iijima K., Takeshima Y., Urade Y., Matsuo M.	論文	Clin. Chim. Acta. 2013, 423(1), 10-14. "A prostaglandin D2 metabolite is elevated in the urine of Duchenne muscular dystrophy patients and increases further from 8 years old."	
Takarada T, Nishida A, Takeuchi A, Lee T, Takeshima Y, Matsuo M.	論文	Brain Dev. 2015 "Resveratrol enhances splicing of insulin receptor exon 11 in myotonic dystrophy type 1 fibroblasts."	
Harahap NI, Takeuchi A, Yusoff S, Tominaga K, Okinaga T, Kitai Y, Takarada T, Kubo Y, Saito K, Sa'adah N, Nurputra DK, Nishimura N, Saito T, Nishio H.	論文	Brain Dev. 2015 "Trinucleotide insertion in the SMN2 promoter may not be related to the clinical phenotype of SMA."	
Nishida A, Minegishi M, Takeuchi A, Niba ET, Awano H, Lee T, Iijima K, Takeshima Y, Matsuo M.	論文	J Hum Genet. 2015 "Tissue- and case-specific retention of intron 40 in mature dystrophin mRNA."	
Nishida A, Minegishi M, Takeuchi A, Awano H, Niba ET, Matsuo M.	論文	Hum Genet. 2015 "Neuronal SH-SY5Y cells use the C-dystrophin promoter coupled with exon 78 skipping and display multiple patterns of alternative splicing including two intronic insertion events."	
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）			
演題名	発表年・月	学会名	
UDP-glucuronosyl transferase 1A1の活性低下がビリルビンおよび薬物の代謝に及ぼす影響	2015. 06.	第63回日本質量分析総合討論会	
筋ジストロフィー患者の尿中プロスタグランジンD2およびE2代謝物の変動	2015. 09.	第40回日本医用マスマスベクトル学会年会	

Analysis and its application of urinary prostaglandin D2/E2 metabolites	2015. 10.	SciX 2015
Identification of the splicing regulatory factors using mass spectrometry	2015. 10.	SciX 2015
質量分析法を利用したスプライシング制御因子の解析	2015. 12	第38回日本分子生物学会年会
III 学会等および社会における主な活動		
1981年～2009年	日本ビタミン学会会員	
1981年～	日本薬学会会員	
2001年～	日本質量分析学会会員	
2004年～	日本医用マススペクトル学会会員	
2005年～	American Society for Mass Spectrometry会員	
2006年7月	第33回BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンス実行委員	
2010年7月	第37回BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンス実行委員	
2013年7月	第40回BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンス実行委員長	
2013年～	BMS研究会世話人	
2014年～	日本医用マススペクトル学会評議員	
2015年7月	第42回BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンス実行委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	英語第一研究室	職名	准教授	氏名	赤井 朋子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	英語		1992年～現在に至る	<p>1年生、2年生を対象に英語の総合的な運用能力（「読む」「書く」「聞く」「話す」）の養成を目的とした授業を行う。具体的な授業内容は科目や年度によって異なり、教科書も様々なものを使用してきたが、例えば、自然科学に関連した語彙力を強化するもの、評論文の読解力をのばすもの、速読に重点を置いたもの、英文法の復習に重点を置くもの、音声教材を用いたリスニング力強化を目指すもの、英作文の力を養成するもの等がある。2013年度から導入された選択必修制の英語の授業（2年生）においては、病院での簡単な英会話や、医療に関する英文の講読を行っている。</p>
	総合文化演習			1995年～現在に至る	<p>2年生を対象に演習形式の授業を行う。映画や演劇に関するゼミとイギリス文化に関するゼミを担当。作品に関するディスカッションや文献購読などの演習を行い、その上で、学生の研究発表とレポーター作成を指導する。2002年度からスモール・グループ・ディスカッションに取り入れ、特定の課題についてすべての学生がディスカッションに参加できるように工夫している。また、演劇や映画を通して人間や文化に対する理解を深め、グローバル社会に欠かせない、文化の多様性に対する寛容性を養うことも視野に入れている。そして、互いの意見を尊重しながら問題解決につなげていくコミュニケーションのとおりかたをゼミ生が習得できるように心がけている。</p>
	早期体験学習			2005年～現在に至る	<p>新入生の早期体験学習が円滑に行われるように様々な形で学生のサポートを行っている。特に、2005年度（早期体験学習トライアル）、2009年度、2013年度には新入生の担任としてクラス授業を行い、体験学習後のプレゼンテーションの指導や、報告書原稿の添削等を行った。また、学生の学習先である病院や薬局を訪問したり、学生の引率を行ったりもしている。</p>

2	作成した教科書、教材、参考書 授業のプリントを作成	1992年～現在に至る	例えば、2013年度～の英語V、VIにおいては、学生が予習しやすいように、各章毎に予習プリントを作成し配布している。他の科目においても、適宜、補助的な教材や問題集をプリントとして作成し、活用している。時には、アメリカの医療情報サイトなどを利用した積極的に自学自習を学生に促すために、それに関連したプリントを作成し授業を行うこともある。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「総合文化演習」の報告集を作成	2002年～2011年	各年度末に、その年度の「総合文化演習」の授業内容報告を執筆。また、受講した学生のレポートも合わせて掲載。
4	その他教育活動上特記すべき事項 入学予定者のための英語教育 クラス担任 他大学の学部生への教育 英語学習に関する学生実態調査の実施	2003年～現在に至る 2005年～現在に至る 2009年 2013年	推薦入試による入学予定者に、あらかじめ問題集を送付し、返送されてきた学生の解答に目を通した上で、3月にそれに関する解説の授業を行っている。 クラス担任として、種々の関係業務に従事。 三重大学において「ことばと文化」（オムニバス講義）の講義を行った。 新カリキュラム1年目の学年である2年次生を対象に英語学習に関する意識調査を行った。本学の英語教育および英語の学習全般に関する詳細なアンケートを作成し、2年次生全員に配布して回答を回収。その集計結果とそれに関する考察を10ページ程度の報告書にまとめた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
赤井 朋子		著書（共著）	『イギリス文化事典』（丸善出版、2014年）252-53.
赤井 朋子		著書（共著）	『ロンドンの劇場文化―英国近代演劇史―』（朝日出版社、2015年）113-140.

赤井 朋子		著書（共著）	『ステージ・ショウの時代』（森話社、2015年）278-304.
赤井 朋子		研究ノート	Libra 2010, 10, 53-75. 「アンドレ・ジャルロの『こちらロンドン！』—イギリス1920年代のレビューに関する覚え書き—」
赤井 朋子		研究ノート	Libra 2013, 13, 1-26. 「チャールズ・コ克蘭の『この恵みの年！』—イギリス1920年代のレビューに関する覚え書き—」
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）			
	演題名	発表年・月	学会名
	「検閲と規範—ノエル・カワード <i>This Was a Man</i> （1926）について—」（口頭発表）	2015年6月	日本演劇学会全国大会
	「ロンドンの劇場文化—英国近代演劇史—」（ワークショップ）	2015年9月	英米文化学会大会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
1992年4月～現在	日本英文学会、日本シェイクスピア協会会員		
2000年4月～現在	日本演劇学会会員		
2004年4月～現在	日本比較文化学会会員		
2004年6月～2008年6月	日本演劇学会幹事		
2006年8月～現在	国際演劇学会会員		
2010年4月～2011年8月	IFTR Osaka実行委員（working group coordinator）		
2011年8月～現在	英米文化学会会員		

専任教員の教育・研究業績

所属	製剤学研究室	職名	准教授	氏名	寺岡 麗子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要	<p>神戸薬科大学学生に特別実習指導を行っている。製剤学研究室に所属された3年次～4年次の特別実験コース学生に教員又は大学院生の指導のもとに一つのテーマに関して卒業実験を行わせている。実験終了時に最終報告会を開き、各自の成果をOHPとプリントによって口述発表の後、質疑応答を通じて自らの研究テーマと実験内容の位置づけを確認させている。学生全員の成果をその年度の報告書として製本し、ファイルするとともに学生にも配布している。</p> <p>神戸薬科大学大学院薬学研究科学生への研究指導を行っている。研究室で行う論文抄読会において各自の研究分野又はその周辺の学術論文の内容について報告・紹介させ、自分の研究での活用、プレゼンテーション能力の向上及び客観的な論文評価能力を培わせている。</p> <p>また、定期的に研究テーマについて報告させ、現在の自分の研究内容について進展状況や問題点を多面的に把握できるよう指導を行っている。</p> <p>学会にも積極的に参加し、プレゼンテーション及びディスカッションの能力が向上するよう努めている。</p> <p>2006年4月-現在に至る</p> <p>神戸薬科大学薬学部6年次に情報リテラシーの講義・演習を行っている。</p> <p>ネットワーク使用上のマナーやソフトウェア使用上のルールやマナーを守ることに重点を置きながら、情報の授受に必要なコンピュータの利用法やインターネットやレボート作成に必要なword、excel、powerpointの使用法などに関する基礎的知識や技能について講義し、演習を行った。</p> <p>2008年4月～2014年12月</p> <p>神戸薬科大学薬学部6年次の実務実習事前教育の指導を前後期に行っている。</p> <p>前期では製剤関連実習（製剤の調製や物性測定及び製剤試験法について）を実際の製剤機械や製剤試験機を用いて行っている。</p> <p>後期では無菌操作及び抗悪性腫瘍剤の取扱いについて、講義を行い、基本的な手技が実践できるよう指導している。</p> <p>2014年9月～現在に至る</p> <p>神戸薬科大学薬学部6年制の3年次の薬剤学・製剤学実習の製剤関連実習の指導を後期に行っている。製剤の調製や物性測定及び製剤試験法について、実際の製剤機械や製剤試験機を用いて行っている。</p>	

	2008年9月～現在に至る	<p>神戸薬科大学薬学部6年次の3年次に薬剤設計学の講義を行っている。実際に市販されている製剤の写真を多く用いたpowerpoint資料を用いて講義を行い、剤形についての理解を高めるようにしている。この講義資料は、印刷物として講義前に配付している。また、講義内容の小テストを数回行い、講義内容が把握できるようにしている。</p> <p>神戸薬科大学薬学部6年次に医薬品開発 I の講義を分担して行っている。薬価、ジェネリック医薬品、オーファンドラッグについて講義を行っている。</p> <p>神戸薬科大学薬学部6年次の4～6年次の学生に卒業研究 I、II の指導を行っている。</p> <p>製剤学研究室に所属された4年次～6年次の学生に一つのテーマに関して卒業実験又は文献調査を行わせている。また、英語論文を読み、まとめて発表させている。</p> <p>終了時には各自の成果をまとめて報告書として提出させ、製本し、学生にも配布しており、研究室及び学内報告会で成果を口述発表させている。</p>
2	2008年9月～2014年12月	<p>実務実習事前教育実習テキスト 前期</p> <p>実務実習事前教育実習テキスト 後期</p> <p>2012年11月～現在に至る</p> <p>ベネッセ薬学教科書シリーズ20 薬剤学 (第2版) (化学同人) を分担執筆した。</p>
3		<p>教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>
4	2007年7月～現在に至る	<p>認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 近畿にタスクフォースとして参加し、認定実務実習指導薬剤師養成に関わっている。</p>
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
	氏名	種別
寺岡 麗子, 中山 みずえ, 湯谷 玲子, 沼田 千賀子, 岡本 慎晃, 平野 剛, 富田 猛, 平井 みどり, 北河 修治	論文	<p>内容</p> <p>日本緩和医療薬学雑誌 2016, in press. "1日1回貼り替え型フェンタニルクエン酸塩貼付剤 (フェントス®テープ) の薬物残存量に影響を与える要因"</p>

S Kitagawa, R Yutani, R Kodani, R Teraoka	論文	Pharma Sciences, 2016, in press. "Differences in the rheological properties and mixing compatibility with heparinoid cream of brand name and generic steroidal ointments: The effects of their surfactants"
Yutani R., Komori Y., Tekeuchi A., Teraoka R., Kitagawa S.	論文	J. Pharm. Pharmacol., 2016, 68(1), 46-55. "Prominent efficiency in skin delivery of resveratrol by novel sucrose oleate microemulsion"
Yutani R., Teraoka R., Kitagawa S.	論文	Chem. Pharm. Bull., 2015, 63, 741-745. "Microemulsion using polyoxyethylene sorbitan trioleate and its usage for skin delivery of resveratrol to protect skin against UV-induced damage"
Kitagawa S., Fujiwara M., Okinaka Y., Yutani R., Teraoka R.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2015, 63, 43-48. "Effects of mixing procedure itself on the structure, viscosity, and spreadability of white petrolatum and salicylic acid ointment and the skin permeation of salicylic acid"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
レボフロキサシン-サッカリン Cocrystal の光安定性	平成27年3月	日本薬学会第135年会
平衡相対湿度がアムロジピン口腔内崩壊錠の製剤特性に及ぼす影響	平成27年3月	日本薬学会第135年会
フロセミド/ニコチンアミド Cocrystal の結晶多形の光安定性	平成27年5月	日本薬剤学会第30年会
被覆材を用いたフェントス® テープ 1 mg 貼付剤の用量調節	平成27年10月	第9回日本緩和医療薬学会年会

ロピナビル・リトナビル配合内用液または配合錠とアバカビル硫酸塩・ラミブジン配合錠の同時簡易懸濁法適用について	平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会
III 学会等および社会における主な活動		
昭和51年 5月	日本薬学会会員 (現在に至る)	
平成 2年 7月	日本薬剤学会会員 (現在に至る)	
平成 5年12月	シクロデキストリン学会会員 (現在に至る)	
平成 8年 1月	日本医療薬学会 (現在に至る)	
平成12年 9月	粉体工学学会会員 (現在に至る)	
平成23年 6月	緩和医療薬学会会員 (現時に至る)	
平成13年1月－現在に至る	日本医療薬学会認定薬剤師	
平成13年1月－現在に至る	日本医療薬学会の指導薬剤師として委嘱された	
平成25年4月－現在に至る	日本医療薬学会代議員	
平成13年4月－現在に至る	シクロデキストリン学会評議員	
平成16年4月－現在に至る	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	准教授	氏名	波多江 崇
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要 要
				2012年4月～現在	4年生を対象に「実務実習事前教育」を担当している。
				2012年4月～現在	6年生を対象に「処方解析学・演習」を担当している。
				2013年4月～現在	2年生を対象に「機能形態生理学」を担当している。
				2013年4月～現在	6年生を対象に「医薬品開発Ⅰ」を担当している。
				2013年9月～現在	4年生を対象に「社会保障制度と薬剤経済」を担当している。
				2014年9月～現在	3年生を対象に「医療統計学ⅡA」を担当している。
				2011年4月～現在	6年生を対象に「総合薬学講座」を担当している。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項			2011年～現在	生涯教育企画委員
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名				種別	
波多江 崇, 倉本 敬二, 渡辺 由香, 深谷 朋美, 金子 俊 幸, 早坂 正孝, 多田 均, 東海林 徹				論文	
				内容	
				日本病院薬剤師会雑誌 2011. 47(9), 1189-1193. 実務実習事前学習における改善策の導入と顧客満足度分析を用いた評価	

波多江 崇, 池浦 奈穂, 河原 宏之, 河内 正二, 長谷川 豊, 杉山 正敏, 沼田 千賀子, 國正 淳一, 濱口 常男	論文	医薬品相互作用研究 Vol.1. 36, No. 3 (2013) 33-37. 腎機能に着目した入院時持参薬チェックの重要性
波多江 崇, 志方 敏幸, 長谷川 豊, 依藤 健之介, 西濱 輝美, 金 啓二, 福井利文, 西田 英之, 但馬 重俊, 濱口 常男	論文	医薬品相互作用研究会誌 Vol.37, No. 1 (2013) 9-16. 近畿地区における病棟薬剤業務実施加算導入前後の薬剤師の意識の変化に対する施設背景の影響
波多江 崇	著書	薬事統計の実践 一理論と事例, たくさんの演習一, 京都廣川書店, 2014年3月.
波多江 崇, 斎藤 三知代, 石澤 洋史, 金子 俊幸, 田内 義彦, 濱口 常男	論文	日本地域薬局薬学会誌, Vol.1. 27, No. 1 (2014) : 1-7. 保険薬局での患者への減塩指導に対するスティージ理論の考え方を応用した評価
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
育て中の母親からの相談から見えてきた薬局における服薬指導の問題点	2015年・6月	第18回日本医薬品情報学会総会・学術大会
薬局等でのへモグロビンA1c簡易測定を介した地域住民にとっての健康情報拠点構築の試み	2015年・7月	日本社会薬学会第34年会
子育て中の母親が薬局を活用しない現状を探索 ～相談しない理由は薬局での服薬指導にあった～	2015年・7月	日本社会薬学会第34年会
子育て中の母親が薬局を活用しない現状を探索 ～相談しない理由は薬剤師業務に対する認知度の低さにあった！～	2015年・7月	日本社会薬学会第34年会
実習生が実習を通じて感じたことと満足度の関係～2014年度アンケート結果から～	2015年・9月	第9回日本薬局学会学術総会

III 学会等および社会における主な活動	
2010年4月～2012年1月	郡山薬剤師会 理事
2010年4月～2012年1月	福島県薬剤師会地域医療・分業対策委員会 委員
1995年～現在に至る	日本薬学会 会員
1995年～現在に至る	日本薬理学会 会員
1997年～現在に至る	日本解剖学会 会員
2003年～現在に至る	日本薬剤師会 会員
2014年～現在に至る	兵庫県薬剤師会 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業等特別委員会 委員
2006年～現在に至る	日本社会薬学会 会員
2014年～現在に至る	日本社会薬学会 編集委員
2009年～現在に至る	日本医療薬学会 会員
2009年～現在に至る	日本病院薬剤師会 会員
2009年～現在に至る	日本薬局学会 会員
2010年～現在に至る	日本注射薬臨床情報学会 会員
2010年～現在に至る	相互作用研究会 会員
2013年～現在に至る	日本地域薬局薬学会 会員

専任教員の教育・研究業績

所属	衛生化学研究室	職名	准教授	氏名	中川 公恵
I 教育活動					
		教育実践上の主な業績		年月日	
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				
(1)	本学薬学部学生への教育			1997年4月-現在に至る	<p>学部学生に衛生薬学系実習の指導を行っている。</p> <p>1) 実習開始時に実習内容の詳細な説明を行い、器具の取り扱いを含めて実習内容を周知させてから実習を行わせている。事前に実習内容の予習をさせておき、予習ノート（プリント）を確認している。</p> <p>2) 実習結果をまとめて班ごとに討議させた後、実験結果についての質疑応答を行い、結果や問題点などについて考えさせ、その日の実習内容を理解させている。</p> <p>3) 本学で2年に一度行われている学生による実習評価では、平均以上の評価を得ておりわかりやすく十分に学習できていると好評である。</p> <p>学部学生の卒業研究の指導を行っている。</p> <p>1) 学生に実験に対する目的意識を持たせるため、研究内容の説明を行うとともに関連する論文を読ませてまとめさせている。</p> <p>2) 定期的に研究内容をまとめさせ、発表させることで論理的な考え方や表現力を訓練させている。</p> <p>3) 卒業発表に向けて結果をまとめさせ、発表スライド及び原稿を作製させて発表させるとともに、卒業論文を書かせている。</p> <p>学部学生に衛生薬学II（2013年までは衛生薬学III）の講義を行っている。</p> <p>教科書の内容に加え、国家試験に重要なポイント等を含めてまとめたプリントを配布し、学生が重要点を理解しやすいように工夫して講義を行っている。</p>
				1997年4月-現在に至る	
				2008年4月-現在に至る	

	2011年4月-現在に至る	学部学生に衛生薬学III (2013年までは衛生薬学IV) の講義を行っている。教科書の内容に加え、国家試験に重要なポイント等を含めてまとめたプリントを配布し、学生が重要点を理解しやすいように工夫して講義を行っている。
(2) 本学薬学研究所大学院生への教育研究指導	2008年4月-現在に至る	大学院薬学研究所院生に生命科学特論講義および研究指導を行っている。 1) 講義は、最新のデータを交えながら、専門外の学生にも理解しやすいように背景説明も含めて分かりやすく解説している。動画などを用いたパワーポイントを使うことにより理解しやすくなるよう工夫している。 2) 学生に論理的な思考力と表現力が身に付くように、定期的に自分の研究内容をまとめて発表させ、研究室で討論を行い、研究内容の進展状況や問題点を把握し、解決策を自ら提案出来るよう指導している。 3) 学生には、少なくとも年も年一回は学会発表できるように指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書 『New衛生薬学』(廣川書店, 岡野登志夫, 山崎裕康 編集, 2009)	2009 (平成21) 年12月10日	第7章疾病の予防とは、第8章感染症の現状とその予防 (pp. 289-354)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 共同研究委員会委員 実務実習運営委員会委員 動物実験施設運営委員会委員 バストテイチャー賞 動物実験委員会委員 学生就職委員会委員 組換えDNA実験安全委員会委員	2009年4月1日-2013年3月31日 2010年4月1日-2012年3月31日 2012年4月1日-現在に至る 2013年 2014年10月1日-現在に至る 2015年4月1日-現在に至る 2015年4月1日-現在に至る	大学内の共同研究に関する申請に携わっている。 5年次生の実務実習の運営に携わっている。 大学内の動物実験施設の運営や規定作成などに携わっている。 衛生薬学III (前期) 大学内の動物実験の運営や規定作成などに携わっている。

衛生委員会委員 国家試験対策委員会委員 放射線安全管理委員会委員 特別管理産業廃棄物管理責任者		2015年4月1日-現在に至る 2015年4月1日-現在に至る 2015年4月1日-現在に至る 2015年4月1日-現在に至る
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
中川公恵	総説	YAKUGAKU ZASSHI 2013, 133(12), 1337-1341. 「ビタミンKの生体内活性化とその意義」
Hirota Y, Tsugawa N, Nakagawa K, Suhara Y, Tanaka K, Uchino Y, Takeuchi A, Sawada N, Kamao M, Wada A, Okitsu T, Okano T	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288(46), 33071-33080. "Menadione (vitamin K3) is a catabolic product of oral phylloquinone (vitamin K1) in the intestine and a circulating precursor of tissue menaquinone-4 (vitamin K2) in rats."
Nakagawa K, Sawada N, Hirota Y, Uchino Y, Suhara Y, Hasegawa T, Anizuka N, Okamoto T, Tsugawa N, Kamao M, Funahashi N, Okano T	論文	PLoS ONE 2014, 9(8), e104078. "Vitamin K2 Biosynthetic Enzyme, UBIADI Is Essential for Embryonic Development of Mice"
Funahashi N, Hirota Y, Nakagawa K, Sawada N, Watanabe M, Suhara Y, Okano T	論文	Biochem Biophys Res Commun, 2015; 460: 238-44. "YY1 positively regulates human UBIADI expression."
Hirota Y, Nakagawa K, Sawada N, Okuda N, Suhara Y, Uchino Y, Kimoto T, Funahashi N, Kamao M, Tsugawa N, Okano T	論文	PLoS One, 2015; 10: e0125737. "Functional Characterization of the Vitamin K2 Biosynthetic Enzyme UBIADI."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
ビタミンK2合成酵素Ubiadi1遺伝子欠損マウスの表現型解析	2015年・6月	日本ビタミン学会第67回大会

UBIAD1 knockout mice for insights into the elucidation of MK-4 function in brain	2015年・7月	FASEB Conference Molecular, Structural & Clinical Aspects of Vitamin K and Vitamin K-Dependent Proteins
PKCシグナル伝達経路の活性化を介してPARP-1はビタミンK2変換酵素UBIAD1遺伝子を正に制御する	2015年・12月	第38回日本分子生物学会年会第88回日本生化学会大会合同大会
ビタミンK変換酵素UBIAD1タンパク質の機能解析	2016年・3月	日本薬学会第136年会
脳神経系におけるビタミンK2合成酵素UBIAD1の機能解析	2016年・3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
1996年6月-現在に至る		日本薬学会会員
1997年 3月-現在に至る		日本ビタミン学会会員
1997年 5月-現在に至る		日本骨代謝学会会員
2000年 6月-2012年3月		日本生化学会会員
2003年 6月-現在に至る		日本癌学会会員
2008年 4月-現在に至る		日本骨粗鬆症学会会員
2009年 4月～現在に至る		日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人

専任教員の教育・研究業績

所属 英語第二研究室	職名 准教授	氏名 玉巻 欣子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	年月日	概要
	2014年4月～現在に至る	【1年次必修英語】「英語I・III」において、大学生として知っておくべき英文法を基礎から学ばせる授業を行っている。パワーポイントのスライドを利用して、単語にならず分りやすい文法授業を心がけている。
	2012年4月～現在に至る	【1年次必修】「早期体験学習」を担当し、学生の指導、薬局訪問などを行っている。
	2012年4月～現在に至る	【2年次必修英語】「英語V・VI」において、薬学生が最低限知っておくべき医学英語語彙・表現の習得、医療系英文読解・速読力の向上を目指す授業を行っている。2013年度からは、e-ラーニングを取り入れた授業を開始し、教員による対面授業とe-ラーニングを融合した授業を展開している。
	2013年4月～現在に至る	【2年次選択英語】「実用英語」において、e-ラーニングと対面授業によるTOEIC対策に重点を置いた授業を行っている。
	2015年4月～現在に至る	【2年次必修】「総合文化演習」において、「患者体験記・闘病記から医療を考える」というテーマでゼミを展開している。闘病記に基づいてテーマを設定し、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポートを通して、医療についての考察を深めさせている。
	2012年4月～現在に至る	【4年次選択英語】「実用医療英語」において、英語での服薬指導に必要な英語を楽しく学べる授業を行っている。学生同士のロールプレイ、英文での家庭医学書読解、薬剤師会話のリスニングなど、多角的な方法で医療系英語語彙・表現力増強に努めている。2012年度学生評価によるベストティーチャー賞受賞。
	2013年4月～現在に至る	【海外薬学研修】当該研修の事前講義を担当している。リスニング力、英語での質問力強化に重点を置いている。
2 作成した教科書、教材、参考書		

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>	<p>2013年8月31日</p>	<p>‘English as a Preparatory Program for the Overseas Pharmaceutical Training’ 「海外薬学研修事前教育としての英語教育の取り組み」 Kinko Tamamaki, Yoshihiko Tauchi. The JACET 52nd International Convention. Global Poster Session. (Kyoto) Proceeding p. 23</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業申請担当 平成24年度ベストティーチャー賞受賞 神戸大学医学部医学科での医学英語教育</p>	<p>2012年 2013年6月 1999年4月～現在に至る</p>	<p>「e-ラーニング教材利用による薬学生の総合的英語力向上」というプロジェクトにて文科省への申請を行い、採択された。PC51台が導入され、e-ラーニング教材ソフトであるALC NetAcademy2 「医学英語<基礎>コース」、 「スーパースタندانダーコース」等を導入し、英語授業で活用している。 2012年度「実用薬学英語I」学生評価によるベストティーチャー賞受賞。 神戸大学医学部医学科5年次「臨床英語」担当（非常勤講師）</p>
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>Tamamaki, K. & Nishio, H. 金子利雄、西村月満、竹内典子、山田恵、成田早苗、河野円、堀内正子、Eric M. Skier、玉巻欣子、板垣正、吉澤小百合、小林文、河野享子、齋藤弘明、須川久美子、田沢恭子</p>	<p>論文 著書</p>	<p>‘Study Abroad Experience Is Related to Japanese Doctors’ Behavior to See Foreign Patients’ (2013) Kobe Journal of Medical Sciences. Vol.1. 59. No. 1. pp.E10-E16. (査読有) 日本薬学英語研究会編「薬学英語2 (改訂版)」 (2013) (成美堂) Unit 7 (pp. 42-49)</p>
<p>藤枝宏壽、玉巻欣子、Randolph Mann</p>	<p>著書</p>	<p>「第3版 これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現」 (2013) (メジカルビュー社)</p>
<p>玉巻欣子、安達和美、宮本純子</p>	<p>著書</p>	<p>「英語で学ぶ災害看護—基礎とコミュニケーション」 (2014) (看護の科学社)</p>

金子利雄、河野田、Eric M. Skier、竹内典子、玉巻欣子（50音順33名中23番目）堀内正子、中村明弘、他	著書	日本薬学会編「実用薬学英语」（2015）（東京化学同人）Unit 14（pp.91-95）
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
玉巻欣子、田内義彦「海外薬学研修における学生の英語理解度の検証および効果的な英語事前教育についての考察」	平成27年7月25日	日本社会薬学会第34年会（熊本）「社会薬学」（Jpn. j. Soc. Pharm.）Vol. 34 Suppl. 2015 p. 46（ポスター発表）
III 学会等および社会における主な活動		
2007年7月～2009年7月	日本医学英語教育学会評議員、医学英語検定試験制度委員	
2007年4月～2011年3月	日本パブリックサービス通訳翻訳学会理事（2013年10月学会解散）	
2008年4月～2012年3月	大学英語教育学会研究会企画委員	
2010年4月～2015年3月	大学英語教育学会社員	
2008年8月～2011年8月	教員免許更新講習講師	
2009年7月～2014年7月	日本医学英語教育学会理事、医学英語検定試験制度委員	
2014年7月～現在	日本医学英語教育学会評議員、医学英語検定試験制度委員	
2011年4月～2014年3月	大学英語教育学会社員。会員（現在）	
2014年7月～現在	外国語教育メディア学会会員	
2015年6月～現在	日本社会薬学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 医療薬学研究室	職名 准教授	氏名 棚橋 俊仁
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) 薬学部学生への教育	2012年4月から 2012年4月から 2015年4月から 2015年9月から 2012年4月から	「処方解析学」・「処方解析学演習」6年生課程6年次 「医薬品開発Ⅲ」6年生課程6年次 「薬物治療学Ⅳ」4年生課程前期 「薬物治療学Ⅱ」3年生課程後期 「疾患解析治療特論」修士課程
(2) 薬学研究科大学院生への教育研究指導		
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年4月から	最新の知見を含めた独自の冊子媒体とスライドを作成し毎年更新した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Murakami Y, Tanahashi T, Okada R, Toyoda H, Kumada T, Enomoto M, Tamori A, Kawada N, Taguchi YH, Azuma T.	論文	Comparison of Hepatocellular Carcinoma miRNA Expression Profiling as Evaluated by Next Generation Sequencing and Microarray. PLoS One. 2014 Sep 12;9(9):e106314.

<p>Iwamoto A, Tanahashi T*, Okada R, Yoshida Y, Kikuchi K, Keida Y, Murakami Y, Yang L, Yamamoto K, Nishiumi S, Yoshida M, Azuma T.</p> <p>Kawauchi S, Nakamura T, Miki I, Inoue J, Hamaguchi T, Tanahashi T*, Mizuno S</p> <p>Kurokawa K, Akaike Y, Masuda K, Kuwano Y, Nishida K, Yamagishi N, Kajita K, Tanahashi T, Rokutan K.</p> <p>Yoshiki Murakami, Toshihito Tanahashi</p>	<p>論文</p> <p>論文</p> <p>論文</p> <p>英文著書</p>	<p>Whole-genome sequencing of clarithromycin resistant Helicobacter pylori characterizes unidentified variants of multidrug resistant efflux pump genes. Gut Pathog. 2014 Jun 26;6:27.</p> <p>Downregulation of CYP3A and P-Glycoprotein in the Secondary Inflammatory Response of Mice With Dextran Sulfate Sodium-Induced Colitis and Its Contribution to Cyclosporine A Blood Concentrations. J Pharmacol Sci. 2014;124(2):180-91.</p> <p>Down-regulation of serine/arginine-rich splicing factor 3 induces G1 cell cycle arrest and apoptosis in colon cancer cells. Oncogene. 2014 Mar 13;33(11):1407-17.</p> <p>Analysis of Circulating MicroRNA by Microarray in Liver Disease Springer. Methods in Molecular Biology Volume 1024, 2013, Page173-182.</p>
<p>2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)</p>		
<p>Membrane proteins of exosomes derived from donor cells and cellular uptake in recipient cells.</p>	<p>発表年・月</p> <p>2015年10月9日</p>	<p>学会名</p> <p>第74回日本癌学会学術総会</p>
<p>次世代シーケンサーを用いたヘリコバクターピロリ菌癌性蛋白CagAに特徴的な変異の検出</p>	<p>2015年6月26-27日</p>	<p>第21回日本ヘリコバクター学会学術集会</p>

インドメタシン起因性小腸粘膜障害における高分子アルギン酸ナトリウムの抗炎症効果	2015年4月24日	第101回日本消化器病学会総会
マウスモデルを用いた分子状水素による抗炎症効果の検討	2015年3月26日	日本薬学会第135年会
B型肝炎ウイルス構造解析による薬剤応答性の評価と新規治療薬開発に関する研究	2015年7月11日	平成27年度日本医療研究開発機構（感染症対策総合研究事業）第1回合同班会議
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1993年4月～現在		日本内科学会（認定内科医）
1993年4月～現在		日本消化器病学会（認定専門医 近畿支部評議員）
1994年4月～現在		日本消化器内視鏡学会（認定専門医）
2012年4月～現在		日本薬学会
2012年10月～現在		日本癌学会
2013年10月～現在		日本肝臓学会

専任教員の教育・研究業績

所属	薬品化学研究室	職名	准教授	氏名	上田 昌史
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	薬学入門、有機化学系の実習、演習および講義を担当した	年月日	概要	<p>3年次配当(2013年度から2年次)の有機化学系II実習では、医薬品を実際に合成する実習を実施した。また、未知検体の構造決定を化学反応や確認試験を利用して行った。医薬品の性質を深く理解させるために、スモールグループデスカッションを通して使える有機化学について教育した。</p> <p>2年次配当の有機化学演習では、復習を兼ねた小テストを毎回行い、学生の理解度の状況を把握した上で、問題解答解説を行った。</p> <p>1年次の有機化学IIの講義を担当した。置換反応と脱離反応について講義した。反応機構を丁寧に何度も繰り返し説明し、学生全体の理解度の向上を目指した。</p> <p>神戸大学医学部保健学科の学生に、基礎有機化学の講義を行った。高校で学んだ有機化学の内容を大学レベルの視点から解説し、有機化合物の性質に影響を及ぼす官能基について概説した。さらに、習熟度を考慮しながら、医薬品の開発過程や最新の医薬品事情について説明した。</p> <p>1年次の薬学入門の講義を担当した。解熱鎮痛薬を化学系薬学の観点から講義し、有機化学が生命現象の理解に重要なことを概説した。また、スモールグループデスカッションを実施し、薬学関連科目の密なつながりについて説いた。</p> <p>3年次配当の医薬品化学(旧有機化学VI)の講義では、医薬品構造と薬理作用の関連性について解説し、薬学における有機化学の重要性について説いた。また、高学年になっても忘れない覚える有機化学ではなく考える有機化学を徹底して説いた。なお、2012度の本講義の授業評価アンケートによって、ベストティーチャー賞を受賞した。</p> <p>2年次配当の有機化学IVの講義では、カルボン酸誘導体の反応について講義した。医薬品に多く含まれるカルボニル基の反応を、生体内での反応や医薬品の反応を例に挙げて、学生が興味をもつように心掛けた。</p>
2	作成した教科書、教材、参考書		2001年4月～現在 2009年9月～現在 2010年9月～2012年3月 2010年10月～2013年2月 2012年4月～現在 2012年9月～現在 2014年9月～現在	有機化学系II実習書 有機化学演習	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				

4 その他教育活動上特記すべき事項		2012度 (3年後期、有機化学VI) ベストティーチャー賞受賞	
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Ueda M., Sato A., Ikeda Y., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2010, 12(11), 2594-2597. "Direct synthesis of trisubstituted isoxazoles through gold-catalyzed domino reaction of alkynyl oxime ethers"	
Miyoshi T., Miyakawa T., Ueda M., Miyata O.	論文	Angew. Chem. Int. Ed. 2011, 50(4), 928-931. "Nucleophilic alpha-Arylation and alpha-Alkylation of Ketones by Polarity Inversion of N-Alkoxyamines: A New Entry to the Umpolung Reaction at the alpha-Carbon of Carbonyl Compounds"	
Ueda M., Matsubara H., Yoshida K., Sato A., Naito T., Miyata O.	論文	Chem. Eur. J., 17(6), 2011, 1789-1792. "Regiodivergent Addition of Carbon Unit to Dual-Activated Alkynes for Stereoselective Construction of Tetrasubstituted Alkenes"	
Jithunsa M., Ueda M., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2011, 13(3), 518-521. "Copper(II) Chloride-Mediated Cyclization Reaction of N-Alkoxy-ortho-alkynylbenzamides"	
Ueda M., Ito Y., Ichii Y., Kakiuchi M., Shono H. Miyata O.	論文	Chem. Eur. J., 2014, 20(22), 6763-6770. "Direct Synthesis of Benzofuro[2,3-b]pyrroles through a Radical Addition/[3,3]-Sigmatropic Rearrangement/Cyclization/Lactamization Cascade"	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
N-アルコキシアゾメチンイリドを経由する新規連続的環化付加反応の開発	平成27年・5月	第13回次世代を担う有機化学シンポジウム (草津)	
Synthesis of Benzofuro[2,3-b]pyrroles through Domino Type of Reaction involving Radical Addition Reaction	平成27年・7月	7th Pacific Symposium on Radical Chemistry (PSRC-7)	
ヨウ化テラブチルを酸及び還元剤として利用した新規インドール合成法の開発	平成27年・8月	第35回有機合成若手セミナー	

Gold-Catalyzed Generation of N-Alkoxyazometine Ylide and Cycloaddition Cascade]	平成27年・11月	The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13)
ホモアリルアミン類とクロロホルムによる新規ラクタム化反応の開発	平成27年・11月	第45回複素環化学討論会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1999年～現在に至る		日本薬学会会員
2000年～現在に至る		有機合成化学協会会員
2011年～現在に至る		近畿化学協会会員
2011年2月～現在に至る		有機合成化学協会関西支部幹事
2009年4月～2011年3月		日本薬学会 ファルマシアトビックス専門小委員
2011年5月～現在に至る		次世代を担う有機化学シンポジウム世話人

専任教員の教育・研究業績

所属	薬理学研究室	職名	准教授	氏名	水谷 暢明
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
				2008年4月～2013年12月	薬学英語 I I (神戸薬科大学の学部学生に薬学英語IIの講義を行った。)
				2009年4月～2014年12月	薬理学 I I (神戸薬科大学の学部学生に薬理学IIの講義を行った。)
				2007年9月～2014年12月	薬理学実習 (神戸薬科大学の学部学生に薬理学実習の指導を行った。)
				2014年4月～2014年12月	医薬品毒性学 (神戸薬科大学学部学生医薬品毒性学の講義を行った。)
				2014年10月	博士課程 病態薬理学生化学特論
2	作成した教科書、教材、参考書			2009年4月～2014年12月	薬理学 I I (薬理学IIの授業内容のまとめならびに問題をプリントとして配布)
				2014年4月～2014年12月	配布)
				2014月10日	医薬品毒性学 (授業を理解しやすいように復習問題を作成し配布)
					博士課程 病態薬理学生化学特論 (内容をまとめたものを作成し配布)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2009年	親和女子 (環境とアレルギー)
				2011年	市民公開講座 (わかりやすい花粉症の話)
				2013年	第25回日本アレルギー学会春期臨床大会シンポジウムにて講演
				2014年	京都薬科大学 薬理・病態生化学合同セミナーにて特別講演
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1.	著書・論文等			氏名	内容
				Mizutani N, Nabe T, Yoshino S.	Complement C3a regulates late asthmatic response and airway hyperresponsiveness in mice. J Immunol. 183:4039-46 (2009).

Mizutani N, Goshima H, Nabe T, Yoshino S.	論文	Complement C3a-induced IL-17 plays a critical role in an IgE-mediated late-phase asthmatic response and airway hyperresponsiveness via neutrophilic inflammation in mice. J Immunol. 188, 5694-5705 (2012).
Mizutani N, Nabe T, Yoshino S.	論文	Interleukin-33 and alveolar macrophages contribute to the mechanisms underlying the exacerbation of IgE-mediated airway inflammation and remodelling in mice. Immunology. 139, 205-218 (2013).
Mizutani N, Nabe T, Yoshino S.	論文	IL-17A promotes the exacerbation of IL-33-induced airway hyperresponsiveness by enhancing neutrophilic inflammation via CXCR2 signaling in mice. J Immunol. 192:1372-1384 (2014).
Mizutani N, Nabe T, Yoshino S.	論文	IgE/antigen-mediated enhancement of IgE production is a mechanism underlying the exacerbation of airway inflammation and remodeling in mice. Immunology. 144, 107-115 (2015).
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
アレルギーに対するモノクローナル抗体IgG1 Fabの局所暴露によるアレルギー性鼻炎のアレルゲン特異的制御	2015・5	第64回 日本アレルギー学会学術大会
TSLPにより誘導されるTh17細胞のアトピー性皮膚炎様症状における役割	2015・5	第64回 日本アレルギー学会学術大会
セマフォリン7AのIgEにより誘導されるアレルギー性気管支喘息における役割	2015・6	第127回日本薬理学会近畿支部会
喘息肺におけるIL-33産生のステロイド感受性の検討	2015・6	第127回日本薬理学会近畿支部会

<p>感作マウス気道上皮細胞からの抗原誘発IL-33産生におけるIgEの関与の可能性</p>	<p>2015・6</p>	<p>第127回日本薬理学会近畿部会</p>
<p>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</p>		
<p>1996年4月～現在に至る</p>	<p>日本学会会員</p>	
<p>1996年4月～現在に至る</p>	<p>日本薬理学会会員</p>	
<p>2010年4月～現在に至る</p>	<p>日本薬理学会評議員</p>	
<p>2007年4月～現在に至る</p>	<p>日本免疫学会会員</p>	
<p>2007年4月～現在に至る</p>	<p>免疫毒性学会会員</p>	
<p>1996年4月～現在に至る</p>	<p>日本アレルギー学会会員</p>	
<p>2009年4月～現在に至る</p>	<p>The American Association of Immunologists (会員)</p>	
<p>2007年4月～現在に至る</p>	<p>日本リウマチ学会会員</p>	

専任教員の教育・研究業績

所属	生薬化学研究室	職名	准教授	氏名	土反 伸和
I 教育活動					
		教育実践上の主な業績		概 要	
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2009年～現在に至る	2年次生に対し「生薬化学実習」の授業を担当し、天然物の抽出や分析、生薬の確認試験や純度試験など、生薬に関する基礎的な事柄を実際に作業・習得させることを行っている。実習での手技などについてパワーポイントで解説するとともに、実験作業について各学生に細やかに指導している。さらに、得られた結果から考察に至る部分については、教卓で各学生ごとに説明させ、適宜指導を行うことで考察力を高めるよう工夫を行っている。	
2	作成した教科書、教材、参考書		2010年～現在に至る	1年次生に対し「薬用資源学」を担当し、それぞれの植物の器官から得られる医薬品原料についてなど、薬用となる資源の講義を行っている。パワーポイントでイラストを使用し視覚的にわかりやすくするとともに、講義中の学生への質問で理解度を把握し、小テストや前回の復習問題を促すなどの工夫を行っている。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年～現在に至る	2年次生に対し「生薬化学」を担当し、薬用植物から得られる化合物の構造、薬効、その合成経路などの講義を行っている。パワーポイントでイラストを使用し視覚的にわかりやすくするとともに、講義中の学生への質問で理解度を把握し、小テストや前回の復習問題を促すなどの工夫を行っている。	
4	その他教育活動上特記すべき事項				

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Shitan N., Minami S., Morita M., Hayashida M., Ito S., Takanashi K., Omote H., Moriyama Y., Sugiyama A., Goossens A., Moriyasu M., Yazaki K.	論文	PLOS One 2014, 9(9):e108789 "Involvement of the leaf-specific multidrug and toxic compound extrusion (MATE) transporter Nt-JAT2 in vacuolar sequestration of nicotine in <i>Nicotiana tabacum</i> ."	
Shitan N., Yazaki K.	著書	Int. Rev. Cell Mol. Biol. 2013, 305, 383-433 "New insights into the transport mechanisms in plant vacuoles."	
Shitan N., Sugiyama A., Yazaki K.	論文	Methods in Mol. Biol. 2013, 1011: 241-250 "Functional Analysis of Jasmonic Acid-Responsive Secondary Metabolite Transporters"	
Shitan N., Dalmas F., Dan K., Kato N., Ueda K., Sato F., Forestier C., Yazaki K.	論文	Phytochemistry 2013, 91: 109-116 "Characterization of <i>Coptis japonica</i> CjABC2, an ATP-binding cassette protein involved in alkaloid transport."	
Morita, M.*, Shitan, N.*, Sawada, K., Van Montagu, MC., Inze, D., Rischer, H., Goossens, A, Oksman-Caldentey, K. M., Moriyama, Y., Yazaki, K. (* co-first author)	論文	Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 2009, 106, 2447-52 "Vacuolar transport of nicotine is mediated by a multidrug and toxic compound extrusion (MATE) transporter in <i>Nicotiana tabacum</i> "	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
タバコプリンパーミアーゼ遺伝子の組織発現解析	2015年6月	第10回トランスポーター研究会年会	
植物二次代謝生産における自己耐性と輸送の分子機構に関する研究	2015年7月	日本農芸化学会関西支部 第490回講演会・ミニシンポジウム	
アキラマツABCタンパク質TmABC1, TmABC2の発現解析	2015年8月	第33回日本植物細胞分子生物学会	

タバコ植物におけるニコチン輸送プリンパームアーゼの探索と組織発現解析	2015年12月	第38回日本分子生物学会年会
Intracellular movement of monolignol glucoside via membrane transport	2016年3月	第57回日本植物生理学会年会
III 学会等および社会における主な活動		
1999年4月～現在に至る	日本農芸化学会会員	
2000年4月～現在に至る	日本分子生物学会会員	
2000年4月～現在に至る	日本植物細胞生物学会会員	
2003年4月～現在に至る	日本植物生理学会会員	
2007年4月～現在に至る	トランスポーター研究学会会員	
2011年4月～現在に至る	トランスポーター研究会世話人	
2009年4月～現在に至る	日本生薬学会会員	
2014年4月～現在に至る	日本生薬学会 代議員、関西支部委員	
2009年4月～現在に至る	日本薬学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	臨床薬学研究室	職名	准教授	氏名	池田 宏二
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要	要	
薬学入門		2015年4月～			アスピリンの実臨床における使用方法について
薬物治療学V		2015年4月～			腎・泌尿器疾患の病態と薬物治療について
実務実習事前教育		2014年4月～			服薬指導の方法、注射薬の調剤について
処方解析学		2015年4月～			糖尿病、内分泌疾患の病態と薬物治療について
総合薬学講座		2015年11月～			腎・泌尿器疾患の病態と薬物治療について
2	作成した教科書、教材、参考書				各講義用に独自にスライドとプリントを製作
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし				
4	その他教育活動上特記すべき事項 特になし				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名		種別		内容	
Ogata T, Naito D, Nakanishi N, Hayashi YK, Taniguchi T, Miyagawa K, Hamaoka T, Maruyama N, Matoba S, Ikeda K, Yamada H, Oh H, Ueyama T		原著論文		Proc Natl Acad Sci U S A. 2014;111(10):3811-6	

Hoshino A, Ariyoshi M, Okawa Y, Kaimoto S, Fukai K, Iwai-Kanai E, Ikeda K, Ueyama T, Ogata T, Matoba S	原著論文	Proc Natl Acad Sci U S A. 2014;111(8):3116-21
Akakabe Y, Koide M, Kitamura Y, Matsuo K, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Miyata K, Oike Y, Ikeda K (corresponding author)	原著論文	Nat Commun., 2013;4:2389
Hoshino A, Mita Y, Okawa Y, Ariyoshi M, Iwai-Kanai E, Ueyama T, Ikeda K, Ogata T, Matoba S	原著論文	Nat Commun., 2013;4:2308
Koide M, Ikeda K (corresponding author), Akakabe Y, Kitamura Y, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Okigaki M, Matsubara H	原著論文	Proc Natl Acad Sci U S A. 2011;108(23):9472-7
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
Signaling crosstalk between endothelial cell and mature adipocyte regulates adipose tissue angiogenesis and homeostasis	2015年・12月	分子生物学会総会
血管内皮一成熟脂肪細胞ネットワークによる脂肪血管新生制御と脂肪組織恒常性維持機構	2015年・12月	Cardiovascular and Metabolic Week 2015
低酸素は血管内皮細胞のAxin-1発現を誘導し、Wnt/beta-cateninシグナルを抑制することで肺微血管の傷害を増悪させる	2015年・12月	Cardiovascular and Metabolic Week 2015
III 学会等および社会における主な活動		
1994年6月～現在に至る	日本内科学会会員	
1994年6月～現在に至る	日本循環器学会会員	
2006年4月～現在に至る	日本腎臓学会会員	

2009年4月～現在に至る	日本高血圧学会会員
2008年4月～現在に至る	日本血管生物医学学会会員
2013年4月～現在に至る	日本医学教育学会会員
2015年10月～現在に至る	日本薬理学会会員
2015年10月～現在に至る	日本生理学会会員
2015年11月～現在に至る	日本肥満学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学基礎教育センター	職名	講師	氏名	児玉 典子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要
				2009年～現在に至る	抗生物質学・感染制御学（微生物学・生化学含）の国家試験対策としてCBT演習（2013年から基礎薬学演習と変更）や薬学総合講座の講義をスライド及び要約プリントを配布して行う。
				2009年～現在に至る	3年生前期開講科目の抗生物質学を担当し、オフィスアローなど開催して学習支援を行う。2014年からは後期開講科目の感染制御学に変更し、統合的科目（感染微生物・感染機構・発症・治療・予防）として位置付け、考える授業を行う。
				2008年～現在に至る	3年生通年開講科目の薬学英語入門Ⅰ・Ⅱを担当する。2011年からは生命科学を題材としたオリジナルテキストを用いて、大学での専門科目の復習及び統合能力を向上させるために英語を介した生命科学を学ぶ授業（内容言語統合型学習：CLIL）を行う。また授業に協調学習を積極的に導入し、TBL法からジグゾー法を活用した学習効果を検討中である。
				2009年～現在に至る	1年生後期開講科目の生化学Ⅰ（糖質）を担当し、他の専門教科への橋渡しの授業を行う。2015年からは1年前期開講となる。
				2008年～現在に至る	薬学基礎教育センターにて留年生の学習及び生活指導を行う。
				2008年～現在に至る	薬学基礎教育センターにてPESS（学生の学生による薬学学習支援活動）制度の企画・実施を行う。
				2009年～2010年	薬学基礎教育センターにてTOEIC初級勉強会（500～600点目標）や英語でニュースを読むなどの勉強会を開催する。
				2009年～現在に至る	薬学基礎教育センターにて学習カウンセリングを行う。
				2013年～現在に至る	薬学教育センターにて、入学時のプレースメント（化学、生物、物理）を実施するとともに、1年後期終了後のリプレースメントテスト（生物）の作成及び実施を1年生対象に行い、学生の学力レベルを統計的に明らかにするとともに、入学区分による学生の学習能力を追跡調査を行う。
2	作成した教科書、教材、参考書			2012年3月	HUMAN READER 生命科学英語 — life and disease —

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>	<p>2009年9月 2010年3月 2010年8月 2010年12月 2011年3月 2012年3月 2012年12月 2013年3月 2013年9月 2014年3月 2014年9月 2015年3月</p>	<p>日本メデイアル教育学会（第5回全国大会） 口頭発表 日本薬学会（第130年会）ポスター発表 日本リメデイアル教育学会（第6回全国大会）ポスター発表 第33回日本分子生物学会・第83回日本生化学会大会 合同大会 ポスター発表 日本薬学会（第131年会）ポスター発表 日本薬学会（第132年会）ポスター発表 第85回日本生化学会大会 ポスター発表 日本薬学会（第133年会）ポスター発表 第86回日本生化学会大会 ポスター発表 日本薬学会（第134年会）口頭発表 第86回日本生化学会大会 ポスター発表 日本薬学会（第135年会）シンポジウム 講演</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>	<p>2009年10月～現在 2010年10月～現在 2010年12月～2014年12月 2012年 4月～現在 2013年9月～現在</p>	<p>キャリアカウンセラー資格取得（CCE, Inc. 認定 GCDF-Japan） ゲシュタルト療法研修了資格（日本心理療法士協会） TA心理カウンセラー2級資格取得（日本心理療法協会） 認定心理士資格取得（日本心理学会） 睡眠健康指導士上級（日本睡眠教育機構認定）</p>
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>Koyama J., Sinoki M., Moriyasu M., Kamigauchi M., Kodama N.</p>	<p>研究ノート</p>	<p>Libra 2012, 13, 27-46. "Recent Trial of Learning Ability Improvement in the Basic Education Center for Pharmacy at Kobe Pharmaceutical University"</p>
<p>Kodama N., Adachi A., Moriyasu M., Koyama J.</p>	<p>研究ノート</p>	<p>Libra 2012, 13, 47-63. "The Relationship of Academic Learning Activity and Motivation in Retrieve Hour Educational Assistance Program in the basic Education Center for Pharmacy, Kobe Pharmaceutical University"</p>

Koyama J., Moriyasu M., Kodama N.	研究ノート	Libra 2013, 14, 1-27. "Examining the Evaluation and the Effectiveness of Placement Test at Kobe Pharmaceutical University"
Kodama N., Adachi A., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2013, 14, 29-61. "Constructivism-content and Language Integrated Learning (CLIL) Method to Protocol Understanding of Pharmaceutical Integrated Curriculum"
Kodama N., Koyama J.	研究ノート	Libra 2014, 15, 41-58. "A Knowledge-constructive Jigsaw Approach for Helping Student's Knowledge and Understanding of Life Science in the First Year Experience at Kobe Pharmaceutical University"
Koyama J., Nakahira N., Hata K., Kodama N.	資料	Libra 2014, 15, 95-107. "Educational Assistance Program in Library at Kobe Pharmaceutical University"
Koyama J., Kodama N.	論文	YAKUGAKU ZASSHI 2014, 134(12), 1357-1366. "神戸薬科大学におけるリメディアール教育の試みとその評価"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
初年次教育における反転授業とジグソー法を組み合わせたアクティブ・ラーニングの試み	2016年3月	日本薬学会 (第136年会) ポスター発表
III 学会等および社会における主な活動		

専任教員の教育・研究業績

所属	病態生化学研究室	氏名	多河 典子
	職名	講師	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2006年10月～ 2009年10月～ 2013年10月～ 2009年4月～9月 1987年4月～ 2005年9月～ 2008年～ 1987年4月～ 1987年4月～1990年3月 2006年10月～ 2009年10月～	学部3年生 臨床検査学 I 講義 学部1年生 生化学 I 講義 学部3年生 内分泌学 講義 (2コマ) 学部1年生 早期体験学習指導 学部4～6年生に卒業研究I・II指導 学部6 (旧4) 年生 総合薬学講座講義 (2 (1) コマ) 病態解析治療学特論 (病態生化学特論) 1～2コマ 学部3 (4) 年次生 臨床検査 (臨床化学) 実習指導 学部4年生 臨床検査総論実習指導 臨床検査学 I 講義プリント 生化学 I 講義用プリント 推薦入学者の宿題作成、質問会で解説を行った。 出張講義 県立明石南高校、県立姫路南高校、県立小野高校
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動			
1.	著書・論文等	種別	内容
	Tagawa N, Minamitani E, Yamaguchi Y, Kobayashi Y.	論文	Steroids 2011, 76(14), 1546-53. "Alternative mechanism for anti-obesity effect of dehydroepiandrosterone: Possible contribution of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 1 inhibition in rodent adipose tissue."
	Kiyonaga D, Tagawa N, Yamaguchi Y, Wakabayashi M, Kogure T, Ueda M, Miyata O, Kobayashi Y.	論文	Biol Pharm Bull. 2012;35(8):1275-80. "Benzofuran derivatives inhibit 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 1 activity in rat adipose tissue."

Tagawa N, Kubota S, Kato I, Kobayashi Y.	論文	J Endocrinol. 2013;218(3):311-20. "Resveratrol inhibits 11β-hydroxysteroid dehydrogenase type I activity in rat adipose microsomes."
Kimura M, Shindo M, Moriizumi T, Tagawa N, Fujinami A, Kato I, Uchida Y.	論文	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2014;62(6):586-90. "Salusin-β, an antimicrobially active peptide against Gram-positive bacteria."
Tagawa N, Kubota S, Kobayashi Y, Kato I.	論文	Steroids. 2015;93:77-86. "Genistein inhibits glucocorticoid amplification in adipose tissue by suppression of 11β-hydroxysteroid dehydrogenase type I."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
エネルギー代謝ペプチドadropinのマウス視床下部及び脂肪組織での発現について 多河典子1)、浅川明弘2)、藤波綾1)、乾明夫2)、加藤郁夫1) 1) 神戸薬科大学 病態生化学研究室 2) 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科心身内科学分野	2015. 2. 14.	第25回 日本臨床化学会近畿支部総会
高脂肪食誘導肥満マウス骨格筋での脂質代謝に対するgenisteinの作用について ○多河典子、大森愛由美、川崎祐子、川端歩実、藤波綾、小林吉晴、加藤郁夫 神戸薬大	2015. 3. 28	日本薬学会第135年会
早産児の晩期循環不全発症予防を目的としたプロゲステロン投与のステロイドホルモン合成系に及ぼす影響 ○多河典子1)、鷺尾洋介2)、大野秀子2)、小林吉晴1)、藤波綾1)、加藤郁夫1)、楠田聡2) 神戸薬科大学 病態生化学研究室 1)、東京女子医科大学 母子総合医療センター2) 晩期循環不全発症児へのプロゲステロン投与の副腎皮質ステロイドホルモン合成系に及ぼす作用	2015. 4. 23	第88回日本内分泌学会学術総会
肥満モデルマウス脂肪組織での新規エネルギー代謝関連ペプチド遺伝子Enhoの発現について 多河典子1)、浅川明弘2)、藤波綾1)、乾明夫2)、加藤郁夫1) 1) 神戸薬科大学 病態生化学研究室 2) 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科心身内科学分野	2015. 10. 3	第36回日本肥満学会

Effect of soy isoflavone genistein on lipid metabolism in mouse skeletal muscle 大豆イソフラボンgenisteinのマウス骨格筋における脂質代謝に対する作用 ○多河 典子、藤波 綾、小林 吉晴、加藤 郁夫	2015. 11. 1	第55回日本臨床化学会年次学術集会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1986年7月～	日本薬学会会員	
2006年4月～	日本内分泌学会代議員	
2014年6月～	日本臨床化学会評議員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬化学研究室	職名	講師	氏名	竹仲 由希子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 有機化学実習の講義と実験指導 有機化学演習の講義 有機化学Iの講義			年月日	概要 要
				2002年1月～現在に至る	基礎的な実験操作をパワーポイントを用いた事前の講義で詳しく説明し、イメージし易くしている。
				2006年4月～現在に至る	毎回小テストをおこない、学生の理解度を確認しながら進めている。
				2008年10月～現在に至る	まとめおよび練習問題のプリントを配布し、学生が学習内容を整理し易くしている。毎回小テストをすることにより、分からない箇所を学生に認識させる。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項 チューター学生に対する指導			2005年4月～2008年3月	
II 研究活動					
I. 著書・論文等					
氏名		種別		内容	
Takenaka Y., Nagakura N., Hamada N., Tanahashi T.		論文		<i>Heterocycles</i> 2010, 81(8), 1931-1935. "Naphthopyrones from cultured Lichen mycobionts of <i>Pyrenula</i> sp."	

Takenaka Y., Morimoto N., Hamada N., Tanahashi T.	論文	Phytochemistry 2011, 72(11-12), 1431-1435. "Phenolic compounds from the cultured mycobionts of <i>Graphis proserpens</i> "
Takenaka Y., Naito Y., Le Hoang Duy, Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Heterocycles</i> 2013, 87(9), 1897-1902. "Naphthoquinones and phenalenone derivatives from the cultured lichen mycobionts of <i>Trypethelium</i> sp."
Le Hoang Duy, Takenaka Y., Hamada N., Mizushina Y., Tanahashi T.	論文	<i>J. Nat. Prod.</i> , 2014, 77, 1404-1412. "Polyketides from the Cultured Lichen Mycobionts of Vietnamese <i>Pyrenula</i> sp."
Kozaki S., Takenaka Y., Mizushina Y., Yamaura T., Tanahashi T.	論文	<i>J. Nat. Med.</i> , 2014, 68, 421-426. "Three acetophenones from <i>Acronychia pedunculata</i> "
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
<i>Haematomma</i> sp. 単離培養地衣菌の代謝物の構造と生物活性	2015年3月	日本薬学会第135年会
<i>Garcinia mangostana</i> の葉部と果皮のキサントン類のDNAポリメラーゼ阻害活性	2015年3月	日本薬学会第135年会
Polyketides from cultured lichen mycobionts of <i>Pseudopyrenula subnudata</i> and their biosynthetic origin	2015年8月	63rd International Congress and Annual Meeting of the Society for Medicinal Plant and Natural Product Research
Sesquiterpene derivatives from cultured lichen mycobionts of <i>Diorygma</i> sp.	2015年8月	63rd International Congress and Annual Meeting of the Society for Medicinal Plant and Natural Product Research

<i>Garcinia oblongifolia</i> の樹皮に含まれるキサントン類について	2015年9月	日本生薬学会第62回年会
III 学会等および社会における主な活動		
2010年1月～2011年12月	日本地农学会評議員	
2014年1月～2015年12月	日本地农学会監事、評議員	
2016年1月～	日本地农学会庶務幹事	

専任教員の教育・研究業績

所属	臨床薬学研究室	職名	講師	氏名	八木 敬子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 薬学部学生への教育			年月日	概要 「総合薬学講座」6年制課程6年次 「薬物治療学Ⅲ」6年制課程4年次 「実務実習事前教育」6年制課程4年次 「処方解析」6年制課程6年次 視覚的な理解を促すために図表や写真を含めた資料を提示しながら進めている。また、知識を定着させる目的で、国家試験の問題を改変したものを講義終了前に提示し、その内容を解説している。 「病態解析治療学特論」修士課程
2	(2) 薬学研究科大学院生への教育研究指導 作成した教科書、教材、参考書			2006年～現在に至る 2009年～現在に至る 2009年～現在に至る 2011年～現在に至る 2013年～現在に至る 2006年～現在に至る	最新の知見を含めた独自の配布資料とスライドを作成し毎年更新している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名				種別	内容
Heiden S, Vignon-Zellweger N, Masuda S, Yagi K, Nakayama K, Yanagisawa M, Emoto N.				論文	Vascular endothelium derived endothelin-1 is required for normal heart function after chronic pressure overload in mice. PLoS One. (2014) 9, e88730.

Van Hung T, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Yagi K, Suzuki Y, Hirata K.	論文	Inhibition of vascular endothelial growth factor receptor under hypoxia causes severe, human-like pulmonary arterial hypertension in mice: potential roles of interleukin-6 and endothelin. Life Sci. (2014) 118, 313-28
Widyantoro B, Emoto N, Nakayama K, Anggrahini DW, Adiarto S, Iwasa N, Yagi K, Miyagawa K, Rikitake Y, Suzuki T, Kisanuki YY, Yanagisawa M, Hirata KI.	論文	Endothelial Cell-Derived Endothelin-1 Promotes Cardiac Fibrosis in Diabetic Hearts through Stimulation of Endothelial-to-Mesenchymal Transition. (2010) Circulation 121, 2407-2418.
Kisanuki YY, Emoto N, Ohuchi T, Widyantoro B, Yagi K, Nakayama K, Kedzierski RM, Hammer RE, Yanagisawa H, Williams SC, Richardson JA, Suzuki T, Yanagisawa M.	論文	Low blood pressure in endothelial cell-specific endothelin 1 knockout mice. Hypertension (2010) 56, 121-128.
Miyagawa K, Emoto N, Widyantoro B, Nakayama K, Yagi K, Rikitake Y, Suzuki T, Hirata K.	論文	Attenuation of Doxorubicin-induced cardiomyopathy by endothelin-converting enzyme-1 ablation through prevention of mitochondrial biogenesis impairment. Hypertension (2010) 55, 738-746.
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動		
1991年6月～現在に至る		日本小児科学会会員
1998年4月～現在に至る		日本薬理学会会員
2009年4月～現在に至る		日本薬学会会員
2010年4月～現在に至る		日本高血圧学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬剤学研究室	職名	講師	氏名	上田 久美子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 特になし			年月日	概要
2	作成した教科書、教材、参考書 特になし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし				
4	その他教育活動上特記すべき事項 特になし				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名		種別		内容
	Hosokawa M, Saito M, Nakano A, Iwashita S, Ishizaka A, Ueda K, Iwakawa S.		論文		Oncol Lett. 2015, 10(2), 761-767. "Acquired resistance to decitabine and cross-resistance to gemcitabine during the long-term treatment of human HCT116 colorectal cancer cells with decitabine."
	Ueda K, Hosokawa M, Iwakawa S.		論文		Biol Pharm Bull. 2015, 38(8), 1113-9. "Cellular Uptake of Decitabine by Equilibrative Nucleoside Transporters in HCT116 Cells."
	Tanaka S, Hosokawa M, Ueda K, Iwakawa S.		論文		Biol Pharm Bull. 2015, 38(9), 1272-9. "Effects of Decitabine on Invasion and Exosomal Expression of miR-200c and miR-141 in Oxaliplatin-Resistant Colorectal Cancer Cells."

Tanaka S, Hosokawa M, Yonezawa T, Hayashi W, Ueda K, Iwakawa S.	論文	Biol Pharm Bull. 2015, 38(3), 435-40. "Induction of epithelial-mesenchymal transition and down-regulation of miR-200c and miR-141 in oxaliplatin-resistant colorectal cancer cells."
Ikehata M, Ogawa M, Yamada Y, Tanaka S, Ueda K, Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2014, 37(1), 67-73. "Different effects of epigenetic modifiers on the cytotoxicity induced by 5-fluorouracil, irinotecan or oxaliplatin in colon cancer cells."
Ikehata M, Ueda K, Iwakawa S.	論文	Biol Pharm Bull. 2012, 35(3), 301-307. "Different involvement of DNA methylation and histone deacetylation in the expression of solute-carrier transporters in 4 colon cancer cell lines."
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
ヒト大腸がん細胞株 HCT116細胞における抗がん剤共存下でのデシタビンの細胞内取り込み及びdCK、ENT1の影響	2016. 3	日本薬学会第136年会
ヒト大腸がん細胞株HCT116細胞におけるデオキシシチジン取り込みに対するデオキシシチジンキナーゼノックダウンの影響	2015. 11	第25回日本医療薬学会
III 学会等および社会における主な活動		
2006年 4月～	一般社団法人 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 委員	
2009年 4月～2011年 3月	日本薬学会 ファルマシア トピックス専門小委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	生化学研究室	職名	講師	氏名	三上 雅久
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
(1)	学部学生への教育			2007年4月～現在に至る	学部2年次生に対して、「生化学II」および「生化学III」の講義を行っている。「生化学II」では、タンパク質・酵素について、できるだけ日常の話題や疾患との関連性を織り交ぜながら解説している。「生化学III」では、エネルギー代謝と恒常性の維持について、補助プリント等を用意して、体系的に理解してもらえよう努めている。また、学生からの質問に対して個別対応にとどまらず、後の講義やオフィスアワーなどで学生全体にフィードバックしている。CBTや国家試験への対策として、関連する過去問の解説を実施し、その一部を定期試験に出題することで、学生の理解度の把握に努めている。学生評価アンケート(2年に一度)では、平均以上の評価を得ている。
				2008年9月～2011年3月	学部3年次生(約70名の少人数クラス)に対して、「薬学英語入門II」の講義を行った。既存の薬学英語のテキストや学術論文から抜粋した資料を用い、英文内容の背景ならびに概要の理解に重点をおいた。講義毎に、前回の講義で取り扱った頻出専門用語や注意すべき発音などについて確認テストを実施した。担当期間中に実施された2回の学生評価アンケートにおいて、いずれもベストティーチャー賞を受賞した。
				2000年4月～現在に至る	学部3年次生に対して、生物学系II実習(生化学実習、2014年度より生物学系I実習に名称変更)の実施を担当している。限られた時間の中で、当該分野の必須項目を満たし、自ら考えながら実習を行えるような実習プログラムを組み立てている。実習項目についても、最新の医療や遺伝子操作技術の進展と同調したものにすると同時に、随時改訂している。実習時間の最後に、少人数のグループごとに質疑応答を行い、実習内容と講義や国家試験との関連性を意識させる指導を心がけている。
				2000年4月～現在に至る	学部学生の卒業研究に対する指導を行っている。与えられたテーマに対して、自ら積極的に取り組む姿勢を身につけさせることに重点を置いている。定期的開催される研究室のセミナーでの文献紹介や研究報告などを通じて、携わっている研究分野に對する深い理解と、プレゼンテーション能力や問題解決力の向上を目標に指導している。

(2) 大学院生への研究指導	2000年4月～現在に至る	生化学講座所属の大学院生に対する研究指導ならびに大学院特論(生化学特論)の講義を担当している。大学院特論では、糖鎖の生理機能の重要性と正常な機能に異常を来たした代謝異常症について発生の視点から講義をしている。大学院生に対しては、研究テーマを理解し、主体的に実験計画と組み立てながら課題解決に取り組むようになることを目標に指導をしている。また、修了までの間に少なくとも1回の学会発表ができるよう、日々の研究指導にあたっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし。		
4 その他教育活動上特記すべき事項 バスターナーチャーター賞受賞	2008年度、2010年度	薬学英語入門II (2008年度および2010年度)
II 研究活動		
I. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Mikami T., Kitagawa H.	著書	in Glycoscience: Biology and Medicine (Taniguchi, N., Endo, T., Hart, G. W., Seeberger, P. H., and Wong, C. H., eds)2014, pp511-517, Springer. "Glycosaminoglycans: their modes of action for a possible new avenue for therapeutic intervention"
Mikami T., Yasunaga D., Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2009, 284 (7), 4494-4499. "Contactin-1 Is a Functional Receptor for Neuroregulatory Chondroitin Sulfate-E"
Mizumoto S., Mikami T., Yasunaga D., Kobayashi N., Yamauchi H., Miyake A., Itoh N., Kitagawa H., Sugahara K.	論文	Biochem. J. 2009, 419(2), 387-399. "Chondroitin 4-O-sulfotransferase-1 is required for somitic muscle development and motor axon guidance in zebrafish"

Mikami T., Koyama S., Yabuta Y., Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2012, 287(46), 38531-38542. "Chondroitin sulfate is a crucial determinant for skeletal muscle development/regeneration and improvement of muscular dystrophies"
Mikami T., Kitagawa H.	総説	Biochim. Biophys. Acta 2013, 1830(10), 4719-4733. "Biosynthesis and function of chondroitin sulfate"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
コンドロイチン硫酸鎖の発現制御による初期軟骨分化過程の制御機構の解析	2015年・5月	第62回日本生化学会近畿支部例会 (草津)
コンドロイチン硫酸鎖による骨格筋分化・再生過程の制御メカニズムの解析	2015年・5月	第62回日本生化学会近畿支部例会 (草津)
高硫酸化コンドロイチン硫酸受容体による神経細胞の極性形成過程の制御機構の解析	2015年・6月	新学術領域研究「統合的神経機能の制御を標的とした糖鎖の(作動原理解明)」第9回非公開班会議 (鳥取)
コンドロイチン硫酸の発現量調節による骨格筋分化・再生過程の制御	2015年・8月	第34回日本糖質学会年会 (東京)
Distinct roles of highly sulfated chondroitin sulfates in neural polarity formation.	2016年・1月	The 3rd International Symposium on Glyco-Neuroscience (Awaji)
III 学会等および社会における主な活動		
1997年2月～現在に至る		日本薬学会会員
1996年4月～現在に至る		日本生化学会会員
2000年4月～現在に至る		日本糖質学会会員
1998年4月～現在に至る		日本分子生物学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬理学研究室	職名	講師	氏名	八巻 耕也
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要
				2002. 4. 1 -	薬理学実習（兼任）
				2003. 4. 1 - 2006. 3. 31	情報リテラシー助手
				2006. 4. 1 - 2009. 3. 31	薬理学Ⅱ（兼任）
				2006. 4. 1 - 2011. 3. 31	臨床薬理学特論（兼任）
				2007. 4. 1 -	薬理学Ⅰ
				2007. 4. 1 -	薬学総合講座（兼任）
				2009. 4. 1 -	C B T演習（兼任）
				2013. 4. 1 -	薬学入門（兼任）
				2014. 4. 1 -	医薬品毒性学（兼任）
					講義においては自作のプリントやプレゼンテーションを作成し、学生の理解が深まるように努力した。また、講義中も適宜、学生に反応を確認したり、問いかけを行うことにより、学生が講義を理解しているかを把握するように努めた。2008年度の薬理学Ⅱ、2012年度の薬理学Ⅰの講義では、授業評価を基にした「ベストティーチャー賞（学内賞）」を受賞した。
2	作成した教科書、教材、参考書				講義を行うにあたり、自作のプリントやプレゼンテーションを作成し利用した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				学術論文 八巻 耕也, 上田 昌史, 上田 久美子, 江本 憲昭, 水谷 暢明, 池田 宏二, 八木 敬子, 田中 将史, 土生 康司, 中山 喜明, 武田 紀彦, 森脇 健介, 北河 修治 薬学雑誌, 2016, in press “基礎から臨床までを繋げる分野横断的統合型初年次導入教育「薬学入門」の学習効果”

4 その他教育活動上特記すべき事項	2005. 4. 1 - 2006. 4. 1 - 2007. 3. 31 2007. 4. 1 -	高校での出張講義 チューター（成績不良な学生への学習支援） 実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのタスクフォース 高校、大学（正規の講義以外）、卒後の薬剤師のための教育にも可能なかぎり 参画している。
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Allergy. 2012, 67, 114-22. "Tyrosine kinase inhibitor sunitinib relieves systemic and oral antigen-induced anaphylaxes in mice."
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Allergy. 2012, 67, 1259-70. "Preventive and therapeutic effects of rapamycin, a mammalian target of rapamycin inhibitor, on food allergy in mice."
Yamaki K., Nakashima T., Miyatake K., Ishibashi Y., Ito A., Kuranishi A., Taguchi A., Morioka A., Yamamoto M., Yoshino S.	論文	Immunol Res. 2014, 58, 106-17. "IgA attenuates anaphylaxis and subsequent immune responses in mice: possible application of IgA to vaccines."
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Int Immunopharmacol. 2014, 18, 217-24. "Remission of food allergy by the Janus kinase inhibitor ruxolitinib in mice."
Yamaki K., Miyatake K., Nakashima T., Morioka A., Yamamoto M., Ishibashi Y., Ito A., Kuranishi A., Yoshino S.	論文	Immunopharmacol Immunotoxicol. 2014, 36, 316-28. "Intravenous IgA complexed with antigen reduces primary antibody response to the antigen and anaphylaxis upon antigen re-exposure by inhibiting Th1 and Th2 activation in mice."
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
In vivo imaging を用いた新規マウスアレルギー反応迅速測定法	2015 年 11 月	第 19 回 日本ヒスタミン学会

IgA の抗原特異的な感作抑制作用	2015 年 11 月	第 128 回 日本薬理学会近畿部会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
特になし		

専任教員の教育・研究業績

所属	薬化学研究室	職名	講師	氏名	西村 克己
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要 要 教科書と演習問題を連動させて解説し、理解に役立てるよう努めている。
2	作成した教科書、教材、参考書			2006年4月から	講義内容のレジュメを作成し、適宜配付している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名			種別	内容
	Nishimura K., Takenaka Y., Kiishi M., Tanahashi T., Yoshida H., Okuda C., Mizushima Y.			論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(5), 476-480. "Synthesis and DNA Polymerase α and β Inhibitory Activity of Alkyl p-coumarates and Related Compounds"

Yamada K., Yamashita M., Sumiyoshi T., Nishimura K., Tomioka K.	論文	Org. Lett. 2009, 11(7), 1631-1633. "Total Synthesis of (-)-Lycoflavone and (-)-2-epi-Lycoflavone by Asymmetric Conjugate Addition Cascade"
Mizushima Y., Nishimura K., Takenaka Y., Takeuchi T., Sugawara F., Yoshida H., Tanahashi T.	論文	Int. J. Oncol. 2010, 37, 993-1000. "Inhibitory effects of docosyl p-coumarate on DNA topoisomerase activity and human cancer cell growth"
Sugimoto Y., Furutani S., Nishimura K., Itoh A., Tanahashi T., Nakajima H., Ohshiro H., Sun S., Yamada J.	論文	Eur. J. Pharmacol. 2010, 634, 62-67. "Antidepressant-like effects of nefertine in the forced swimming test involve the serotonin(5-HT1A) receptor in mice"
Nishimura K., Horii S., Tanahashi T., Sugimoto Y., Yamada J.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2013, 61 (1), 59-68. 23. "Synthesis and Pharmacological Activity of Alkaloids from Embryo of Lotus, Nelumbo nucifera"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
DNA polymerases inhibitory polypropenylated benzoylphloroglucinols from the fruits of <i>Garcinia schomburgkiana</i>	2015・8	Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia
α -アレクトロン酸の合成研究	2015・10	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
III 学会等および社会における主な活動		

専任教員の教育・研究業績

所属	生化学研究室	職名	講師	氏名	灘中	里美
I 教育活動						
教育実践上の主な業績						
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要	要
(1)	本学薬学部学生への教育			2008年4月-現在に至る	学部学生に分子生物学の講義を行っている。	<p>1) 担当している分野の進歩は著しいので、講義担当のコアカリの SB0s を満たすように努めながら、講義に関連する内容における最近の発見や注目されている事項 (新しい遺伝子医薬品の開発例や病因の解明など) についてプリントを作成し、適宜配付している。</p> <p>2) ベーシックな分子生物学的知識を習得する課目であるが、できるだけ医療に関連するよう解説し、高学年で習う臨床系の科目の理解につながる基盤をつくってもらうように努めている。</p> <p>3) 1 回の講義では、なるべくテーマを絞り、1 つのテーマに関して単回で終了するように心掛けている</p> <p>4) 講義した内容が薬剤師国家試験にどのように出題されているかを知ってもらうために、過去に出題された国家試験の問題を10~20問選んでプリントで配布して解説を行い、これらの問題に関連したものを定期試験に出題している。</p> <p>5) 講義内容を深く理解してもらうために、文章問題を演習として取り入れていく。また、昨今の国家試験に対応できる能力を養うため、定期試験ではマーク式問題だけでなく思考力を問う文章問題を出題している。</p>
				2007年4月-現在に至る	学部学生に生物学系の実習指導を行っている。	<p>1) 実習前の導入講義では、講義で習った基礎知識を復習するとともに、実習内容が医学・薬学の領域で実際に活用されていることが想像できるように努めている。また、コンパクトにまとめて30分以内で説明が終了するように心掛けていく。</p> <p>2) 実習時間後に学生個々と教員が実習内容について質疑応答を行い、その日に行なった実習を理解できるようにしている。</p>

	2007年4月-現在に至る	学部学生に卒業研究の指導を行っている。 1) 受け身の講義と違い、参加型の実習であるので、学生自身が問題解決していきけるようなトレーニングを行うよう心掛けている。具体的には、学生のレベルに合った課題を与え、実験目的や方法を説明した後は、各自で日常の実験計画を立ててもらい、学生自身の力で課題を解決していくようなスタイルをとっている。学生だけでは目標到達が難しい場合はサポートするが、目標をクリアできない場合においても、答えのない課題に対してアプローチしていくプロセスを経験してもらいように心掛けている。 2) 論理的な考え方や表現力が身に付くように、定期的に研究内容を学生にまとめさせ、発表するためのサポートを行っている。 3) 卒業研究I, II で行った研究活動の成果をまとめる卒業論文の作成、および研究成果を発表する際のプレゼンテーションの指導を行っている。
(2) 本学大学院生への教育	2007年4月-現在に至る	大学院特論(生化学特論)の講義を担当している。研究活動を通して知り得た最新の知識を講義で紹介できるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年4月-現在に至る 2008年4月-現在に至る	生化学系II実習(生化学実習)テキスト 分子生物学II 補助プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Nadanaka S, Kinouchi H, Taniguchi-Morita K, Tamura J, Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2011, 286, 4199-208. "Down-regulation of chondroitin 4-O-sulfotransferase-1 by Wnt signaling triggers diffusion of Wnt-3a."
Nadanaka S, Zhou S, Kagiya S, Shoji N, Sugahara K, Sugihara K, Asano M, Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288, 9321-9333. "EXTL2, a member of the EXT family of tumor suppressors, controls glycosaminoglycan biosynthesis in a xylose kinase-dependent manner."

Nadanaka S, Kagiya S, Kitagawa H.	論文	Biochem. J. 2013, 454, 133-145. "Roles of EXT1,2, a member of the EXT family of tumour suppressors, in liver injur and regeneration processes."
Nadanaka S, Purunomo, E, Takeda, N., Tamura, J., Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2014, 289, 15231-15243. "Heparan sulfate containing unsubstituted glucosamine residues: biosynthesis and heparanase-inhibitory activity" *Faculty of 1000
Taniguchi M, Nadanaka S, Tanakura S, Sawaguchi S, Midori S, Kawai Y, Yamaguchi S, Shimada Y, Nakamura Y, Matsumura Y, Fujita N, Araki N, Yamamoto M, Oku M	論文	Cell Struct. Funct. 2015, 40(1), 13-30. "TFE3 is a bHLH-ZIP-type transcription factor that regulates the mammalian Golgi stress response
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
へパラン硫酸の合成異常が神経発生と行動に与える影響についての解析	2015/5/16	第62回日本生化学会近畿支部例会
神経細胞の分化過程におけるコンドロイチン硫酸の合成制御機構	2015. 12. 1-4	BMB2015
Dysregulated GAG Biosynthesis Affects Inhibitory Interneuron Proliferation During Neural Development and Causes Behavioral Disorders	2016. 1. 14-16	The 3rd International Symposium on Glyco-Neuroscience
III 学会等および社会における主な活動		
入会している学会		日本分子生物学会
		日本生化学会
		細胞生物学会
		糖質学会

専任教員の教育・研究業績

所属	放射線管理室	職名	講師	氏名	安岡 由美
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要 放射化学：放射線に関する基礎知識 放射線管理学：放射線に関する総合的理解 早期体験学習：問題意識を持ち早期体験学習への積極性の育成 物理化学系実習(放射線実習)：放射性物質の安全取扱い (2012年より見学実習担当) ゼミ生の教育：環境放射能・公衆衛生 放射線業務従事者教育訓練：法令を順守と放射性物質の取り扱い法 実務実習事前教育：放射性医薬品の取り扱いについて
2	作成した教科書、教材、参考書			2007年～現在に至る 2009年～2014年	物理化学系実習(放射線実習) テキスト 放射線管理学 テキスト
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2010年3月	Isotope News 2010, 671. 「神戸市消防局と神戸薬科大学との放射性物質に関する特殊災害連携訓練」
4	その他教育活動上特記すべき事項			2007年～2009年 2010年12月 2008年～現在に至る 2011年1月	第2種放射線取扱主任者試験問題解答例作成 UNSCEAR (国連科学委員会報告書) 翻訳 神戸市消防局員への放射線実習と講習 (2008年より連携有) 平成22年度宮崎大学地域貢献推進事業 における講演

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Yasuoka, Y., Ishikawa, T., Omori, Y., Kawada, Y., Nagahama, H., Tokonami, S., Shinogi, M.	著書	Handbook of Radon: Properties, Applications and Health, In: Li, Z. & Feng, C. (eds.), NOVA Sci. Pub., Inc., New York., 2012, pp419-433. "Anomalous atmospheric radon variation before an earthquake: A case study of the 1995 Kobe earthquake, Japan."	
Yasuoka, Y., Kawada, Y., Omori, Y., Nagahama, H., Ishikawa, T., Tokonami S., Hosoda, M., Hashimoto, T., Shinogi M.	論文	Applied Geochemistry 2012, 27(4), 825-830. "Anomalous change in atmospheric radon concentration sourced from broad crustal deformation: A case study of the 1995 Kobe earthquake."	
Tajika, Y., Yasuoka, Y., Nagahama, H., Suzuki, T., Homma, Y., Ishikawa, T., Tokonami, S., Mukai, T., Janik, M., Sorimachi, A., Hosoda M.,	論文	Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 2013, 295(3), 1709-1714. "Radon concentration of outdoor air: measured by an ionization chamber for radioisotope monitoring system at radioisotope institute".	
Kobayashi, Y., Yasuoka, Y., Omori, Y., Nagahama, H., Sanada, T., Muto, J., Suzuki, T., Homma, Y., Ihara, H., Kubota, K., Mukai, T.	論文	Journal of Environmental Radioactivity 2015, 146, 110-118. "Annual variation in the atmospheric radon concentration in Japan".	
Hayashi, K., Yasuoka, Y., Nagahama, H., Muto, J., Ishikawa, T., Omori, Y., Suzuki, T., Homma, Y., Mukai, T.,	論文	Journal of Environmental Radioactivity 2015, 139, 149-153. "Normal seasonal variations for atmospheric radon concentration: A sinusoidal model."	
2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）			
演題名	発表年・月	学会名	
放射能泉湧出地域における空气中ラドンの広域的存在実態と線量評価	2015年6月	第80回日本温泉気候物理医学会	
日本における大気中ラドン濃度の平年変動について	2015年7月	日本保健物理学会第48回研究発表会	

PICO-RAD測定器を用いた空気中ラドン濃度測定 of 検討	2015年7月	日本保健物理学会第48回研究発表会
活性炭型ラドン検出器の液体シンチレーションカウンタによるラドン濃度決定	2016年3月	第17回「環境放射能」研究会
AlphaGUARDを用いた空気中ラドン濃度測定 of 検討	2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
1990年～現在に至る		日本薬学会会員
1990年～現在に至る		日本アイソトープ協会
1990年～現在に至る		日本保健物理学会会員
2001年～現在に至る		日本放射線安全管理学会会員
2002年11月～現在に至る		放射線医学総合研究所 客員協力研究員
2006年～現在に至る		日本地球化学学会会員
2006年9月～2010年5月		放射線取扱主任者部会近畿支部委員会 委員
2007年4月～2011年3月		日本保健物理学会 編集委員
2008年4月～2010年3月		日本保健物理学会 専門研究会「ラドン標準化専門研究会」
2009年4月～2011年3月		日本保健物理学会 理事
2009年～現在に至る		日本温泉科学会
2009年4月～2011年3月		日本保健物理学会 専門研究会「ラドンの防護規程に関する専門研究会」
2010年11月～2011年3月31日		平成22年度鉱泉分析法指針改訂検討業務に係る鉱泉分析法指針改訂検討委員
2011年9月～現在に至る		日本地震学会
2011年4月～2012年3月		日本放射線安全管理学会 メンタルケア委員会 委員
2011年9月～2013年3月		日本保健物理学会 専門研究会「暮らしの放射線Q&A対応委員会」
2011年9月11日		神戸市消防局 感謝状
2011年11月1日		平成23年度主任者部会年次大会ポスター賞
2011年7月～2013年3月		日本保健物理学会 専門研究会「暮らしの放射線Q&A対応委員会」
2014年7月～現在に至る		岡山県 環境放射線等測定技術委員会委員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬品物理化学研究室	職名	講師	氏名	田中 将史
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	年月日	概 要	物理化学系実習 (2年次後期) 薬学英語入門I (3年次前期) 生物物理学 (3年次後期) 薬学入門 (1年次前期、兼担) 物理化学IV (3年次前期) 創薬物理化学特論、物理系基礎創薬学特論 (大学院)	
2	作成した教科書、教材、参考書	2007年～現在 2008年～現在 2008年～2013年 2012年～2014年 2014年～現在 2010年、2012年・14年	『薬学生のための生物物理化学入門 (加茂直樹、嶋林三郎 編集)』 (廣川書店) HUMAN READER 生命科学英語 ―life and disease― (編著 兒玉典子) (京都廣川書店)		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2008年 2012年	大学の模擬授業 (甲南女子高校)		
4	その他教育活動上特記すべき事項	2010年、2011年			
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名	種別	内容		
	Tanaka M.*, Dhanasekaran P., Nguyen D., Nickel M., Takechi Y., Lund-Katz S., Phillips M.C., Saito H.	論文	Biochim. Biophys. Acta 2011, 1811 (1): 25-30. "Influence of N-Terminal Helix Bundle Stability on the Lipid-Binding Properties of Human Apolipoprotein A-I"		

Egashira M., Takase H., Yamamoto I., Tanaka M.*, Saito H.	論文	Arch. Biochem. Biophys. 2011, 511 (1-2): 101-106. "Identification of Regions Responsible for Heparin-Induced Amyloidogenesis of Human Serum Amyloid A Using Its Fragment Peptides"
Tanaka M.*, Takamura Y., Kawakami T., Aimoto S., Saito H., Mukai T.	論文	FEBS Lett. 2013, 587 (5): 510-515. "Effect of Amino Acid Distribution of Amphipathic Helical Peptide Derived from Human Apolipoprotein A-I on Membrane Curvature Sensing"
Takase H., Tanaka M.*, Miyagawa S., Yamada T., Mukai T.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2014, 444 (1): 92-97. "Effect of Amino Acid Variations in the Central Region of Human Serum Amyloid A on the Amyloidogenic Properties"
Takase H., Furuchi H., Tanaka M.*, Yamada T., Matoba K., Iwasaki K., Kawakami T. Mukai T.	論文	Biochim. Biophys. Acta 2014, 1841 (10): 1467-1474. "Characterization of Reconstituted High-Density Lipoprotein Particles Formed by Lipid Interactions with Human Serum Amyloid A"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
アポ由来ペプチドを基盤とする脂質ナノディスクの腫瘍細胞への集積性評価	2015年3月	日本薬学会第135年会
リン脂質-合成高分子複合ナノ粒子の調製と物性評価	2015年5月	日本膜学会 第37年会
リン脂質-合成高分子複合ナノ粒子の111In標識の検討とマウス体内動態の評価	2015年5月	第25回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
SAA-HDLモデル粒子の作製および脂質存在下でのアミロイド線維形成評価	2015年8月	第3回日本アミロイドーシス研究会学術集会

SAAの構造特性	2015年8月	AASAA (AAアミロイドーシスと血清アミロイドA) 研究会
III 学会等および社会における主な活動		
		日本薬学会正会員
		日本生化学会正会員
		日本膜学会正会員
		日本ペプチド学会正会員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	講師	氏名	辰見 明俊
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要	要	
		2009年4月～2013年3月	6年制3年次の「薬学英語入門」を担当した。		
		2014年4月～現在に至る	6年制3年次の「調剤学Ⅰ」を担当した。		
		2008年4月～現在に至る	6年制4年次の「実務実習事前教育」を担当した。		
		2013年4月～現在に至る	6年制4年次の「社会保障制度と薬剤経済」を担当した。		
		2012年4月～現在に至る	6年制4、5年次「海外薬学研修」の講義を担当した。		
		2010年4月～2013年3月	6年制5年次の「IPW演習」を担当した。		
		2010年4月～現在に至る	6年制5年次の「病院実習」および「薬局実習」を担当した。		
		2011年1月～現在に至る	6年制5年次の「卒業研究Ⅰ」および6年次の「卒業研究Ⅱ」を担当した。		
		2011年4月～現在に至る	6年制6年次の「総合薬学講座」を担当した。		
		2012年4月～現在に至る	6年制6年次の「総合薬学講座（特別講座）」を担当した。		
		2011年4月～現在に至る	6年制6年次の「処方解析学」および「処方解析演習」を担当した。		
			補助プリントの作成や視覚教材の利用により理解を深めるよう工夫している。		
			医療の進歩や制度の変更に対応した最新情報の提供に努めている。		
			また、病院薬剤師としての経験を活かし、教科書だけでは得られない知識や技能の教授に努めている。		
2	作成した教科書、教材、参考書		特になし		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年2月	文部科学省医療人養成推進等委託業務 薬学教育実務実習事前学習に関する調査・研究フォーラムに参加し、発表を行った。		
		2010年2月	文部科学省医療人養成推進等委託業務 薬学教育協議会フォーラム2010「伝		

	2011年2月		えよう事前学習の成果、広げよう連携の輪」に参加し、発表を行った。 文部科学省医療人養成推進等委託業務 薬学教育協議会フォーラム2011「初年度実務実習の成果と課題～学生からのフィードバック」に参加し、発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学教育者・薬剤師へのFD活動	2008年11月～現在に至る		タスクフォースとして、薬剤師のためのワークショップin近畿に協力。
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Tode C., Takeuchi A., Iwakawa S., Tatsumi A., Sugiura M.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(7), 653-656. "Hydrogen-Deuterium (H-D) Exchange Reaction of Warfarin in D2O Solution"	
Tatsumi A., Ikegami Y., Morii R., Sugiyama M., Kadobayashi M., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2009, 32(3), 517-519. "Effect of ethanol on S-warfarin and diclofenac metabolism by recombinant human CYP2C9. 1"	
波多江 崇, 長谷川 由佳, 白川 晶一, 内海 美保, 猪野 彩, 竹下 治範, 辰見 明俊, 田内 義彦, 瀧口 常男	論文	医薬品相互作用, 2015, 39(1), 37-43. "フィジカルセサメントに対する薬局薬剤師の意識および活用状況に関する実態調査"	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
心不全患者に対するEPA製剤の拡張機能に及ぼす影響	2015・11	第25回日本医療薬学会年会	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
1997年1月～現在に至る	日本病院薬剤師会会員
2001年3月～現在に至る	日本医療薬学会会員
2008年4月～現在に至る	日本薬学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 講師	氏名 猪野 彩
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要
	2010年4月～現在に至る	4年次生の実務実習事前教育を分担した。
	2011年4月～現在に至る	4年次生の薬事関係法規・薬事制度にて毒物及び劇物取締法、医療保険関係法規の講義を分担した。
	2011年4月～現在に至る	6年次生の処方解析学，処方解析演習を分担した。
	2014年4月～現在に至る	3年次生の調剤学 I の講義を分担した。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
三木有咲，波多江 崇，猪野 彩，井上知美，上野隼平，笠谷君代，近藤亜美，坂口知子，佐々木信子，田内義彦，竹下治範，辻華子，中川素子，野口 栄，長谷川由佳，水田恵美，矢羽野早代，山根雅子，瀨口常男	論文	子育て中の母親を対象とした調査にみる薬局薬剤師の職能認知と薬局薬剤師の課題，社会薬学，34（1）24-33，2015

波多江 崇, 長谷川由佳, 白川昌一, 内海美保, 猪野 彩, 竹下治範, 辰見明俊, 田内義彦, 濱口常男	論文	フィジカルアセスメントに対する薬局薬剤師の意識および活用状況に関する実態調査, 医薬品相互作用研究, 39(1), 2015
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
PTP包装からの錠剤の押し出し力に及ぼす製剤間の影響	2016年3月	日本薬学会第136年会
PTP包装からの錠剤の押し出し方法の調査	2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
2002年～現在に至る	日本病院薬剤師会 会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	生薬化学研究室	職名	講師	氏名	西山 由美
I	教育活動	教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			1986年～2008年6月 2010年8月～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2014年9月～現在に至る	2年次生の生薬化学実習を担当している。実習開始時の講義ではパワーポイントを使って、実験の目的や実験内容について説明し、実験終了時には、結果について考察するなどのディスカッションを行い理解を深めるようにしている。また、実験中は各実習机を見回り、手技が正しく安全に行われているかチェックし、正しい器具の取り扱いなどを習得してもらうようにしている。 2年次生（2012年からは1年生）の生薬学を担当している。生薬に関する基本的なことから始め、薬としての生薬について理解を深めるようにしている。国家試験やC B T試験に必要な知識を習得しながら、生薬に興味を持てるように標本を回覧して講義を行っている。 2年次生（後期）の生薬化学の後半部分を担当している。生薬由来の医薬品の内、特にアルカロイド化合物を中心に講義をしている。重要な医薬品が多いので、国家試験やC B T試験に必要な知識を中心に、興味を持ちやすい内容から始め、化合物の構造式やその特徴・作用を暗記ではなく、化学的に見れるような力をつけていけるように心掛けていく。
2	作成した教科書、教材、参考書			2013年8月～現在に至る 2015年8月～現在に至る	生薬学の講義で用いる冊子を作成した。書き込み式なので、生薬について自分でまとめながら、勉強出来るようにしている。余白を使って、教科書に載っていないことなどを書き込み、生薬について自分だけのまとめのノートになるように使ってもらいたいと考えている。 生薬化学の講義で用いる冊子を作成した。書き込み式で、重要な化合物を自分でまとめ勉強できるようにしている。余白を利用して、教科書の内容を自分でまとめ書いて書いたり、教科書に載っていないことなども書き込んで、自分のまとめのノートとなるように使ってもらいたいと考えている。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Nishiyama Y., Iwasa K., Okada S., Takeuchi S., Moriyasu M., Kamigauchi M., Koyama J., Takeuchi A., Tokuda H., Kim H.-S., Wataya Y., Takeda K., Liu Y.-N., Wu P.-C., Bastow K. F., Akiyama T., Lee K.-H.	論文	Heterocycles 2010, 81(5), 1193-1229. "GERANYL DERIVATIVES OF ISOQUINOLINE ALKALOIDS SHOW INCREASED BIOLOGICAL ACTIVITIES"	
Nishiyama Y., Moriyasu M., Ichimaru M., Iwasa K., Kato A., Mathenge S. G., Chalolutiso P. B., Juma F. D.	論文	J. Nat. Med. 2010, 64, 9-15. "Antinociceptive Effects of the Extracts of Xylopiya parviflora Bark and Its Alkaloidal Components in Experimental Animals"	
Moriyasu M., Takeuchi S. Ichimaru M., Nakatani N., Nishiyama Y., Kato A., Mathenge S. G., Juma F. D., Chalolutiso P. B.	論文	J. Nat. Med. 2012, 66, 453-8. "Pyrenes and pyrendiones from Uvaria lucida"	
Nishiyama Y., Ishida Y., Yoshino T., Moriyasu M., Kato A., Mathenge S. G., Juma F. D. Chalolutiso P. B.	論文	Shoyakugaku-zasshi 2014, 68(1), 20-22. "Isoquinoline alkaloids from Monanthotaxis trichocarpa"	
西山由美、石原由美子、山田南雄、土反伸和、守安正恭、中谷典義、渡邊恵美子、佐々木泰介	論文	生薬学雑誌 2014, 68(2), 88-92. 「清宮寿桃丸の抗酸化活性に関する研究」	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
認知症に効果のある漢方薬の探索	2015年・9月	日本生薬学会第62回年会 岐阜	
認知症治療に有効な生薬および生薬成分の探索	2015年・9月	日本生薬学会第62回年会 岐阜	
降香のヒト卵巣がん細胞KOC7C株に対する抗腫瘍活性成分の探索	2016年・3月	日本薬学会136年会 横浜	

香附子のヒト卵巣がん細胞KOC7C株に対する抗腫瘍活性成分の探索	2016年・3月	日本薬学会136年会 横浜
<i>Cassipourea malosana</i> 樹皮の成分検索	2016年・3月	日本薬学会136年会 横浜
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1986年7月～現在に至る	日本生薬学会会員	
1986年12月～現在に至る	日本薬学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	中央分析室	職名	講師	氏名	都出 千里
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			1996～2010 2003, 2005, 2006 2010～ 1996～	年月日
				概要	
				有機化学系III実習 (旧 機器分析学実習および有機化学系II実習) 学生実習の円滑な進捗を促すための準備をおこなない、実習講義をおこない実習室で学生の指導に当たる。また、実習内容についての討議を学生と行い理解を深めさせた。	
				情報リテラシー 講義の円滑な進捗のためのサポートを行った。	
				分析化学III (分担) 担当分野をわかりやすくするためにパワーポイント、補充プリントを用いて講義を行っている。	
				毎年数名のゼミ生の実験指導を行い、学年末にはプレゼンテーションのためのまとめ方、発表の方法などの指導を行った。	
2	作成した教科書、教材、参考書			2010～2012 2013～	
				分析化学III (分担) NMRやE S Rの原理を理解しやすくするための補充教材を作成し、簡潔にまとめている。	
				構造解析学 (分担) NMRやE S Rの原理を理解しやすくするための補充教材を作成し、簡潔にまとめている。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名				種別	内容
Yamano Y., Tode C., Wada A., Ito M.				論文	Yuki Gosei Kagaku Kyokaiishi, 2015, 73, 161-170. "Biomimatic type syntheses via regio controlled oxirane-ring cleavage"

Tode C., Sugiura M.	著書	Food and Nutritional Components in Focus: Vitamin A and Carotenoids (RSC Publishing, 2012) . 250-260.
Tode C., Takeuchi A., Iwakawa S., Tatsumi A., Sugiura M.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57, 653-656. "Hydrogen-Deuterium (H-D) Exchange Reaction of Warfarin in D2O Solution"
Tode C., Maoka T., Sugiura M.	論文	J. Sep. Sci. 2009, 32, 3659-3663. "Application of LC-NMR to analysis of carotenoids in foods"
Tokunaga T., Okamoto M., Tanaka K., Tode C., Sugiura M.	論文	Anal. Chem. 2010, 82, 4293-4297. "Chiral liquid chromatography-circular dichroism NMR for estimating separation conditions of chiralHPLC without authentic samples."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
	演題名	学会名
	発表年・月	
固体NMRを用いた先発および後発医薬品の物性評価	平成28年3月	第136回日本薬学会
III 学会等および社会における主な活動		
1993年12月～	日本薬学会会員	
1995年～	日本カロテノイド学会会員	
2006年～	日本核磁気共鳴学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	生命有機化学研究室	職名	講師	氏名	沖津 貴志
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要
				2006年4月～現在に至る	3年次配当の有機化学系Ⅲ実習の指導を行っている。少人数での実習並びにグループディスカッションを行い、またこれまでの講義で学んだことと実習内容とをリンクさせることで有機化学の理解度の向上に努めている。
				2009年4月～2010年9月	1年次配当の情報リテラシーの講義において進行度の遅い学生のサポートを行った。
				2011年4月～2012年9月	2年次配当の化学系基礎演習Ⅰの講義を行った。自作の小テストを毎回払い、学生の習熟度に合わせて解説することで理解度の向上に努めた。
				2013年9月～現在に至る	2年次配当の有機化学演習の講義を行っている。これまで受講した講義内容ではあるが、基礎的なところから復習した上で問題を解いてもらい、適宜学生に黒板に答案を書いてもらうことで理解度の確認に繋げ、双方向の講義となるように努めている。
				2014年9月～現在に至る	1年次配当の有機化学Ⅱの講義を行っている。基本事項を板書、解説した上で講義後半に問題を解いてもらい、理解を深める工夫を行っている。一般的な規則を理解できれば有機化学は暗記科目ではないことを学生に認識してもらえよう、教科書の章末問題から厳選した良問を解くように指導している。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Okitsu T., Sato K., Wada A.	論文	Org. Lett. 2010, 12(15), 3506-3509. "Reagent-controlled oxidative aromatization in iodocyclization: Switchable access to dihydropyrazoles and pyrazoles"	
Okitsu T., Nagase K., Nishio N., Wada A.	論文	Org. Lett. 2012, 14(3), 708-711. "Tandem migration-carboalkoxylation of o-isocyanophenyl acetals leading to benzoxazoles"	
Okitsu T., Yumitate S., Sato K., In Y. Wada A.	論文	Chem. Eur. J. 2013, 19(16), 4992-4996. "Substituent Effect of Bis(pyridines)iodonium Complexes as Iodinating Reagents: Control of the Iodocyclization-Oxidation Process"	
Wang S., Munro R. A., Shi L., Kawamura I., Okitsu T., Wada A., Kim S.-Y., Jung K.-H., Brown L. S., Ladizhansky V.	論文	Nature Methods 2013, 10(10), 1007-1012. "Solid-state NMR spectroscopy structure determination of a lipid-embedded hepta-helical membrane protein"	
Okitsu T., Nakata K., Nishigaki K., Michioka N., Karatani M., Wada A.	論文	J. Org. Chem. 2014, 79(12), 5914-5920. "Iodocyclization of Ethoxyethyl Ethers to Imamides: An Immediate Construction to Benzo[b]furans"	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
Preparation of New ChR with One Double Bond-eLongated 3,4-Dehydroretinals	2015年10月	The 3rd International Conference on Retinoids	
イナミドの求電子性が促進する6-endo-dig環化：ピリダジン類の制御合成	2015年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム	

Iodonium-mediated dearomative cyclization/Diels-Alder tandem of a chiral ynamide toward diastereoselective construction of bridgehead-spiro system	2015年12月	Pacificchem 2015
新規チャネルロドプシンの開発	2016年3月	日本薬学会第136年会
近赤外光を吸収する人工ChR2作製を指向したインドリン含有発色団の開発	2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
2001年4月～現在に至る		日本薬学会会員
2006年4月～現在に至る		日本カロテノイド研究会会員
2007年4月～現在に至る		有機合成化学協会会員
2009年4月～現在に至る		日本ビタミン学会会員
2011年4月～現在に至る		ヨウ素学会会員
2011年4月～2014年3月		日本薬学会 ファルマシアトピックス専門小委員
2013年4月～現在に至る		日本レチノイド学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	病態生化学研究室	職名	講師	氏名	藤波 綾
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
				1995年～現在に至る	臨床検査実習 (旧医療薬学系I実習) 学生実習の円滑な進行を促すための準備を行い、実習中は実習室で指導にあ たっている。また、実験終了時には、結果について考察するなどのディスカッ ションを行い理解を深めるようにしている。
				2004, 2007～2009年	情報リテラシー 講義の円滑な進行のためのサポートを行った。
				2011年～現在に至る	薬学英語入門II 3年次生に対して、生命科学の分野で必要とされる基礎的な英語の知識を習得 しながら、それまでの専門科目の講義内容をも復習できるように講義を行って いる。
				2015年～現在に至る	臨床検査学II 3年次生に対して、血液に関する臨床検査の項目と意義、異常値に対する見方 などを講義している。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1.	著書・論文等				
	氏名			種別	内容
	Fukui M, Tanaka M, Toda H, Asano M, Yamazaki M, Hasegawa G, Imai S, Fujinami A, Ohta M, Nakamura N.			論文	Metabolism. 2012, 61(7), 1021-5. "The serum concentration of allograft inflammatory factor-1 is correlated with metabolic parameters in healthy subjects."

Fukui M, Tanaka M, Asano M, Yamazaki M, Hasegawa G, Imai S, Fujinami A, Ohta M, Obayashi H, Nakamura N.	論文	Diabetes Res Clin Pract. 2012, 97(1), 146-50. "Serum allograft inflammatory factor-1 is a novel marker for diabetic nephropathy."
Sugimoto K, Kim SR, EI-Shamy A, Imoto S, Fujioka H, Kim KI, Tanaka Y, Yano Y, Kim SK, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hatae T, Hotta H, Hayashi Y, Kudo M.	論文	Dig Dis. 2013, 31: 434-439. "Outcome of double-filtration plasmapheresis plus interferon treatment in nonresponders to pegylated interferon plus ribavirin combination therapy."
藤波 綾, 太田 光熙	著書	臨床検査における免疫測定法：自己抗体検査法 p220-224 免疫測定法：基礎から先端まで (小林典裕・上田宏・三宅司郎・荒川秀俊 編) 講談社 2014.12.20
Ohta M, Fujinami A, Kobayashi N, Amano A, Ishigami A, Tokuda H, Suzuki N, Ito F, Mori T, Sawada M, Iwasa K, Kitawaki J, Ohnishi K, Tsujikawa M, Obayashi H.	著書	Nutr Res. 2015, 35(7):618-25. "Two chalcones, 4-hydroxyderricin and xanthoangelol, stimulate GLUT4-dependent glucose uptake through the LKB1/AMP-activated protein kinase signaling pathway in 3T3-L1 adipocytes."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
脳梗塞におけるMCP-1およびCystatin Cの臨床的意義	2015年・11月	第55回日本臨床化学会学術集会
自然発症2型糖尿病モデルマウスにおけるBDNFの動態	2015年・12月	BMB2015
NASHモデルマウスにおけるアスタバカルコン摂取の効果	2016年・3月	第136回日本薬学会
III 学会等および社会における主な活動		
1995年8月～現在に至る		日本臨床化学会会員
1996年1月～現在に至る		日本薬学会会員
2001年1月～現在に至る		日本生化学会会員
2004年4月～現在に至る		日本生薬学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬品物理化学研究室	職名 講師	氏名 萩森 政頼
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 薬品物理化学Ⅲ 薬品物理化学Ⅳ 物理化学実習	年月日 2013年～ 2012年 2012年～	概要 2年次生の担当分野 (物理平衡、溶液の化学) について、理解した上で記憶に残すためにしつかりノートをとれる内容となるよう心掛けてとにも、また適宜演習を行い理解を深めるように工夫して行った。 2年次生の担当分野 (物理平衡、溶液の化学) について、理解した上で記憶に残すためにしつかりノートをとれる内容となるよう心掛けて行った。 「旋光度測定によるシヨ糖加水分解反応の速度定数と活性化エネルギーの決定」と「SDS溶液の表面張力及び伝導度測定」の2項目について、円滑に実習が行えるように準備をし実施した。各班それぞれのデータを一つにまとめて考察することによって、最後まで実習に集中できるように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書 物理化学実習テキスト	2012年～	実習テキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動		
1. 著書・論文等	氏名	種別
Hagimori M., Kamiya S., Yamaguchi Y., Arakawa M.		論文
	内容	Pharmacological Research 2009, 60, 320-323. 'Improving frequency of thrombosis by altering blood flow in the carrageenan-induced rat tail thrombosis model'

Hagimori M., Mizuyama N., Yamaguchi Y., Saji H., Tominaga Y.	論文	Talanta 2011, 83, 1730-1735. 'A novel small molecule fluorescent sensor for Zn ²⁺ based on Pyridine-Pyridone scaffold'
Hagimori M., Mizuyama N., Yokota K., Nishimura Y., Suzuta M., Tai C. K., Wang B. C., Wang S. L., Shih T. L., Wu K. D., Huang Z. S., Tseng S. C., Chen C. Y., Lu J. W., Wei H. H., Kawashima K., Kawashima S., Tominaga Y.	論文	Dyes and Pigments 2012, 92, 1069-1074. 'Synthesis of 6-(4-diethylamino)-phenyl-2-oxo-2H-pyran-3-carbonitrile derivatives and their fluorescence in solid state and in solutions'
Hagimori M., Uto T., Mizuyama N., Temma T., Yamaguchi Y., Tominaga Y., Saji H.	論文	Sensors & Actuators: B. Chemical 2013, 181, 823-828. 'Fluorescence ON/OFF switching Zn ²⁺ sensor based on pyridine-pyridone scaffold'
Hagimori M., Temma T., Mizuyama N., Uto T., Yamaguchi Y., Tominaga Y., Mukai T., Saji H.	論文	Sensors & Actuators: B. Chemical 2015, 213, 45-52. 'A high-affinity fluorescent Zn ²⁺ sensor improved by the suppression of pyridine-pyridone tautomerism and its application in living cells'
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
葉酸受容体を標的とする ¹¹¹ In標識自己組織化ナノ粒子の開発	2015年5月	第25回金属の関与する生体関連反応シンポジウム (SRM2015)
自己組織化による消光現象を利用したがんイメージング用蛍光ナノプロローブの開発	2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会
全身性アミロイドーシスの核医学イメージングを目指した放射性ヨウ素標識化合物の開発	2015年8月	第3回アミロイドーシス研究会学術集会
生命現象・病態イメージングを目指した蛍光プロローブの開発	2015年9月	第15回放射線性医薬品・画像診断薬研究会

Wavelength shifting Zn ²⁺ probe based on pyridine-pyridone core structure	2015年9月	The World Molecular Imaging Congress (WMIC) 2015 annual congress
III 学会等および社会における主な活動		
2001年～現在に至る	日本薬学会会員	
2008年～現在に至る	日本薬理学会会員	
2012年～現在に至る	日本核医学会会員	
2012年～現在に至る	日本分子イメージング学会会員	
2013年～現在に至る	日本DDS学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	情報支援室	職名	講師	氏名	土生 康司
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概 要
				2013. 10～現在	CBT対策委員、実施委員
				2013. 10～現在	実務実習事前教育委員会委員
				2014. 4～現在	医薬品情報学（4年生前期）
				2014. 4～現在	薬学入門（1年生前期）
				2014. 4～現在	情報リテラシー（1年生前期）
				2014. 6～現在	薬剤設計学II（旧機能性製剤学）（4年前期、2コマ）
				2015. 4～現在	実務実習運営委員会委員
2	作成した教科書、教材、参考書			2010. 3	緩和医療レクチャーがん患者の症状緩和のために（京都大学がんプロフェッショナル養成プラン緩和医療医コース）
				2010. 3	感染制御トピックス 感染対策における教育（解説） 薬事(0016-5980)52巻3号 Page387-390
				2011	第16改正日本薬局方解説書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2010. 6	がん専門薬剤師研修事業講義研修集中教育講座「緩和医療とがん疼痛治療」
4	その他教育活動上特記すべき事項			2013. 10～現在	情報委員会委員
				2014. 4～現在	大学広報委員会委員
				2015. 4～現在	個人情報保護委員会委員

II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
池見泰明, 尾上雅英, 土生康司, 内堀聡子, 松田裕也, 高橋一栄, 寺田智祐, 荒井俊之, 乾貫一	ノート (査読有)	「手術部における薬剤師の常駐体制の整備と経済効果に関する検討」 医療薬学 36 : 157-162 (2010)	
細川 実緒, 土生 康司, 矢野 育子, 深津 祥央, 岸本 寛史, 横出 正之, 桂 敏也	ノート (査読有)	オキシコドン併用がワルファリン服用がん患者のプロトロンビン時間に及ぼす影響 医療薬学 38 : 258-264 (2012)	
Yamamoto H, Habu Y, Yano I, Ozaki J, Kimura Y, Sato E, Shida A, Fukatsu S, Matsubara K.	ノート (査読有)	Comparison of the effects of azole antifungal agents on the anticoagulant activity of warfarin. <i>Biol Pharm Bull.</i> , 37 : 1990-1993 (2014).	
八巻耕也, 上田昌史, 上田久美子, 江本憲昭, 水谷暢明, 池田宏二, 八木敏子, 田中将史, 土生康司, 中山喜明, 武田紀彦, 森脇健介, 北河修治	ノート (査読有)	基礎から臨床までを繋げる分野横断的統合型初年次導入教育「薬学入門」の学習効果 薬学雑誌 in press (2016).	
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
演題名	発表年・月	学会名	
初年次生に対する分野横断的統合型教育科目「薬学入門」の学習効果	平成27年3月	日本薬学会第136年会	
大阪赤十字病院における免疫抑制・化学療法によるHBV再活性化対策の現状と課題	平成27年3月	日本薬学会第136年会	
III 学会等および社会における主な活動			
2003. 4～現在		日本医療薬学会会員	
2013. 10～現在		日本医薬品情報学会会員	
2014. 11～現在		日本薬学会会員	

2003. 4～現在	日本病院薬剤師会会員
2010. 4～現在	日本薬剤師会会員
2008. 7～現在	日本病院薬剤師会生涯研修修履修認定
2008. 10～2013. 9	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師
2013. 3～2014. 3	第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会実行委員
2007. 1～現在	日本医療薬学会認定薬剤師
2012. 4～現在	認定実務実習指導薬剤師

専任教員の教育・研究業績

所属	機能性分子化学研究室	職名	講師	氏名	前田 秀子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要 要
				2010年4月～現在に至る	1年生に「情報リテラシー」(前期)の講義をPower Pointを使用して行った。ワープロソフトやプレゼンテーションソフトで課題を作成した。
				2009年4月～現在に至る	1年生に「基礎化学実習」(後期)を教えた。 毎回、課題の提出をさせ、終了時に実験ノートでの提出を行った。
				2015年10月～現在に至る	1年生に「無機・錯体化学」(後期)を教えた。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
				2007年10月～2009年1月	神戸大学の非常勤講師として、1年生に化学実験を教えた。
II 研究活動					
1.	著書・論文等				
	氏名			種別	内容
	Maeda H., Onodera T., Nakayama H.			論文	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. 2010, 68, 201-206. "Inclusion complex of alpha-lipoic acid and modified cyclodextrins"

Maeda H., Kusuohara T., Tsubako M., and Nakayama H.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59(12), 1447-1451. "Phosphorylation of 5'-Deoxy-5-fluorouridine with Inorganic Phosphorylating Agents"
Maeda H., Terashita Y., Matsushima T., Nagai T., Tsubako M., Nariyai H., and Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2012, 27, 6-10. "Phosphorylation of Catechin with Sodium Diphosphonate in Aqueous Solution"
Maeda H., Kita T., Iiduka T., Tsubako M., Nariyai H., and Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2013, 28, 6-9. "Phosphorylation of Citrulline with cyclo-Triphosphate in Aqueous Solution"
Maeda H., Ogawa Y., Nakayama H.	論文	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. 2014, 78, 217-224 "Inclusion complex of melatonin with modified cyclodextrins"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
シクロデキストリンによるベンズブロマロンの包接能評価	2015. 03. 26	日本薬学会
ジホスホン酸塩によるサリシンのリン酸化反応および生成物単離法の検討	2015. 09. 29	日本無機リン化学会
III 学会等および社会における主な活動		
2010年10月～現在に至る	日本無機リン化学会学会誌編集委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	医療統計学研究室	職名	講師	氏名	森脇 健介
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 臨床研究分野での教育活動 診療情報管理分野での教育活動 医療統計学・医療技術評価分野での教育活動	年月日	<p>神戸大学大学院医学研究科 医療人GP クリニカルリサーチエキスパート特修プログラムのもとでレクチャラーやセミナー、研修の企画立案等の教育活動に従事。（統計解析セミナーの実施、事例に基づく臨床研究教育プログラムの開発、教育DVDの開発、米国GRC研修企画）</p> <p>診療情報管理士の資格対策責任者として、通常講義に加え、エクストラの対策講座の企画・実施、Eラーニングシステムの開発・運用、学外実習の取りまとめを行った。（担当科目：医療情報学、医療統計学、国際疾病分類論、診療情報管理論、診療情報管理演習、医療情報演習、医療福祉施設基礎実習）</p> <p>薬剤師に求められるベネシツクな統計学の教育（統計学I・II）に加え、CROや製薬企業など臨床開発業界あるいは基礎・臨床研究の分野で活躍できる人材育成を視野に入れたアドバンス教育（医療統計学I・IIB・医薬経済学）に従事。</p>		
2	作成した教科書、教材、参考書 臨床研究の方法論とマネジメント スタンダード 薬学シリーズ第9巻 薬学と社会（第3版） ヘルスケアサイエンスのための医薬経済学用語集 ISPOR BOOK OF TERMS 日本語版 詳説薬剤経済学 一限られる社会資源から最高の医療をー	年月日	<p>3. 臨床研究の実際(統計解析の基礎) 3-1. データマネジメントI (p103-116), 3-2. データマネジメントII (p117-122), 3-3. 基本統計量と仮説検定 (p123-140) 統計解析ソフトSTATAの操作方法について解説。データマネジメントや基本的な統計解析の実施方法について解説。</p> <p>第7章薬剤経済SB029代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる(知識・技能) 部分を執筆。</p> <p>企画・編集: ISPOR用語集翻訳委員会国際医薬経済学・アウトカム研究学会 (ISPOR) により編纂された用語集一原題 “Health Care Cost, Quality, and Outcomes – ISPOR BOOK OF TERMS” の日本語版であり、主に公衆衛生学関連の用語部分の翻訳を担当。</p> <p>第4章4-3. P165-182を執筆。薬学部生を対象とした教科書であり、医療経済評価の分析・シミュレーションの手法について、具体的な事例を用いながら解説した。</p>		

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>Kimura S, Takahashi HE, Yamamoto N, Sakuma M, Aoki K, Tojo T, Ishihara M, Moriwaki K, Endo N</p> <p>Aoki K, Sakuma M, Moriwaki M, Kimura S, Yamamoto N, Kawashima T, Takahashi H.E., Endo N</p>	<p>2012年9月</p> <p>2013年8月</p>	<p>Module-based interprofessional education is useful in learning for prevention of secondary fracture after hip fracture in pre- and post-qualification. FPN Global Congress 2012. 9. 6-8. Berlin, Germany.</p> <p>Workshops for inter-professional collaboration improve the quality of community-based health and social care in preventing secondary fracture after hip fracture. FPN Global Congress 2013. 8. 29-31. Berlin, Germany.</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>森脇健介</p>	<p>氏名</p>	<p>内容</p>
<p>Hirase S, Hasegawa D, Takahashi H, Moriwaki K, Saito A, Kozaki A, Ishida T, Yanai T, Kawasaki K, Yamamoto N, Kubokawa I, Mori T, Hayakawa A, Nishimura N, Nishio H, Iijima K, Kosaka Y.</p>	<p>著書</p> <p>論文</p>	<p>骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版（骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン編集委員会 2015年7月 第1版：分担執筆）</p> <p>Absolute lymphocyte count at the end of induction therapy is a prognostic factor in childhood acute lymphoblastic leukemia. Int J Hematol. DOI 10.1007/s12185-015-1875-0. 2015.</p>
<p>森脇健介</p>	<p>総説</p>	<p>骨粗鬆症の薬物治療と費用対効果の検討. 日本臨床 73(10)1754-1759. 2015.</p>
<p>森脇健介</p>	<p>著書</p>	<p>第1節 骨粗鬆症治療と医療経済評価. 骨・関節・軟骨治療のための新製品開発と臨床ニーズ(情報技術協会 2015年10月30日 発刊 P3-6)</p>
<p>森脇健介</p>	<p>著書</p>	<p>第2節 骨折予防治療と費用対効果. 骨・関節・軟骨治療のための新製品開発と臨床ニーズ(情報技術協会 2015年10月30日 発刊 P7-12)</p>

2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
骨折予防介入の費用対効果	平成27年5月	第88回日本整形外科学会学術総会 シンポジウム9「骨粗鬆症における治療目標」（神戸）
医療経済評価におけるQOLデータの使い方	平成27年9月	薬剤経済学研究会 2015年第1回研究会 特別講演（東京）
我が国における粒子線治療の医療経済評価と課題—小児腫瘍に対する陽子線治療の費用対効果の検討—	平成27年9月	第12回日本粒子線治療臨床研究会 特別講演（北海道）
医療経済からみた骨折予防—初発骨折・二次骨折予防と費用対効果—	平成27年11月	第14回 新潟運動器QOL研究会 特別講演（新潟）
Validation of fracture risk model in Japanese women compared with FRAX	平成27年11月	International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research 18th Annual European Congress, Milan, Italy.
III 学会等および社会における主な活動		
平成17年9月～	臨床経済学会・ISPOR日本部会(評議員：平成27年4月～)	
平成18年5月～	International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research	
平成22年4月～	日本骨粗鬆症学会	

専任教員の教育・研究業績

所属	微生物化学研究室	職名	講師	氏名	中山 喜明
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要 「生物学系Ⅱ実習」を担当した。微生物の取扱い、検出、同定についての基本的技能などを指導した。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名			種別	内容
	Kimura I., Nakayama Y., Konishi M., Kobayashi T., Mori M., Ito M., Hirasawa A., Tsujimoto G., Ohta M., Itoh N., Fujimoto M.			論文	“A novel neural-specific BMP antagonist, Brorin-like, of the Chordin family.” FEBS Letters, 583(22), 3643-3648. (2009)
	Nakayama, Y., Nakamura, N., Oki, S., Wakabayashi, M., Ishihama, Y., Miyake, A., Itoh, N., Kurosaka, A.			論文	“A putative polypeptide N-acetylgalactosaminyltransferase/Williams-Beuren syndrome chromosome region 17 (WBS-CR17) regulates lamellipodium formation and macropinocytosis.” Journal of Biological Chemistry, 287(38), 32222-32235. (2012)

Nakayama, Y., Nakamura, N., Tsuji, D., Itoh, K., Kurosaki	著書	“Genetic Diseases Associated with Protein Glycosylation Disorders in Mammals” Genetic Disorders, Maria Puiu (Ed.), ISBN: 978-953-51-08866-3, InTech (2013)
Nakayama, Y., Wada, A., Inoue, R., Terasawa, K., Kimura, I., Nakamura, N., Kurosaki, A.	論文	“A rapid and efficient method for neuronal induction of the P19 embryonic carcinoma cell line.” Journal of Neuroscience Methods, 227, 100-6. (2014)
Nakayama, Y., Nakamura, N., Kawai, T., Kaneda, E., Takahashi, Y., Miyake, A., Itoh, N., Kurosaki, A.	論文	“Identification and expression analysis of zebrafish polypeptide α -N-acetylgalactosaminyltransferase Y-subfamily genes during embryonic development.” Gene Expression Patterns: GEP. 16(1), 1-7. (2014)
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
Galnt17/Wbscr17 knockout mice shows decreased growth and hyperprolactinemia	2015年9月	Glyco2015
胸腺におけるFgf21の役割	2015年12月	BMB2015
分泌性因子neudesinの遺伝子欠損マウスは交感神経活性の亢進により食餌誘導性肥満に耐性を示す	2015年12月	BMB2015

ゼブラフィッシュにおけるムチン型糖鎖合成開始酵素ファミリーの発現解析	2015年12月	BMB2015
III 学会等および社会における主な活動		
2004年8月～現在に至る	日本分子生物学会会員	
2012年8月～現在に至る	日本糖質学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 講師	氏名 河内 正二
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 実務実習事前教育（4年次生 前後期） 処方解析学・演習（6年次生 前期） 調剤学 I（3年次生 前期）	年月日 2009年4月～現在 2012年4月～現在 2014年4月～現在	概要 5年次生に行われる実務実習に向け、医療現場で必要となる知識と技能の習得を目標に実習を行っている。具体的には、医療現場で活躍している薬剤師および模擬患者にも参加してもらい、学生が臨床現場を意識できる環境づくりに配慮している。 疾患の病態および治療法に関して、臨床現場での経験を活かして最新の情報を提供することを心がけている。講義に使用する資料は、図表や写真画像および動画を多く取り入れ、学生が理解し、知識が定着するよう努めている。 院内感染に関して、臨床現場での取り組みなど最新の情報を提供することにし、学生が理解し、知識が定着するよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動		
1. 著書・論文等	氏名	種別
Ishida T, Nishiumi S, Tanahashi T, Yamasaki A, Yamazaki A, Akashi T, Miki I, Kondo Y, Inoue J, Kawachi S, Azuma T, Yoshida M, Mizuno S.		論文
	内容	
		Eur J Pharmacol. 2013; 699: 6-13. "Linoleoyl ethanolamide reduces lipopolysaccharide-induced inflammation in macrophages and ameliorates 2,4-dinitrofluorobenzene-induced contact dermatitis in mice"

Ishida T, Miki I, Tanahashi T, Yagi S, Kondo Y, Inoue J, Kawachi S, Nishiumi S, Yoshida M, Maeda H, Tode C, Takeuchi A, Nakayama H, Azuma T, Mizuno S.	論文	Eur J Pharmacol. 2013; 714: 125-31. "Effect of 18β-glycyrrhetic acid and hydroxypropyl γ cyclodextrin complex on indomethacin-induced small intestinal injury in mice"
Kawauchi S, Nakamura T, Miki I, Inoue J, Hamaguchi T, Tanahashi T, Mizuno S.	論文	J Pharmacol Sci. 2014; 124: 180-191. "Downregulation of CYP3A and P-glycoprotein in the secondary inflammatory response of mice with dextran sulfate sodium-induced colitis and its contribution to cyclosporine A blood concentrations"
Kawauchi S, Nakamura T, Yasui H, Nishikawa C, Miki I, Inoue J, Horibe S, Hamaguchi T, Tanahashi T, Mizuno S.	論文	Int J Med Sci. 2014; 11: 1208-1217. "Intestinal and Hepatic Expression of Cytochrome P450s and mdr1a in Rats with Indomethacin-Induced Small Intestinal Ulcers"
河内正二	トピックス	ファルマシア. 2014; 150: 916. 「新規抗凝固薬はワルファリンの代替となり得るか？」
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
腸疾患時の肝臓および小腸における薬物代謝機能変動に関する研究	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
循環器系疾患およびその治療薬の転倒に及ぼす影響に関する検討	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アドシルカ [®] 錠の粉碎後の安定性に関する試験	2016年1月	第37回日本病院薬剤師会近畿学術大会
シルデナフィル製剤の粉碎後の安定性に関する検討	2016年1月	第37回日本病院薬剤師会近畿学術大会

非アルコール性脂肪肝炎 (NAFLD) モデルの肝臓におけるCYP3A および胆汁輸送トランスポーターの発現変動	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2005年4月～現在	日本病院薬剤師会	
2005年4月～現在	日本医療薬学会	
2009年4月～現在	日本薬学会	
2010年4月～現在	日本薬剤師会	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	講師	氏名	竹下 治範
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			年月日	概要
				2014年4月から	<p>『処方解析学』の講義において、学生が関節リウマチ、その他の免疫疾患の理解をしやすいように臨牀的な写真及び動画をたくさん取り入れる工夫を行った。</p> <p>『処方解析学』の講義において、学生が胃潰瘍をはじめ、その他の酸関疾患の理解をしやすいように臨牀的な写真及び最新の知見をたくさん取り入れよりレベルの高い知識をえられるように工夫を行った。</p> <p>『実務実習事前教育』においては、5年次に行われる長期実務実習（病院・薬局）にスムーズに取り組めるよう、臨牀現場で求められる知識・技能・態度の指導を行い特に挨拶や身だしなみ教育についても力をいれている。</p> <p>『実務実習事前教育』において、輸液の種類と適応、輸液療法について、実薬を用いるとともに計算問題等も作成して、実務実習に先立つ知識をえられるような工夫を行った。また、医療安全の分野では学生が医療事故インシデントを楽しく理解できるようにSDGの運用に努めた。</p> <p>『総合薬学講座』の授業では、病院薬剤師業務や、注射薬、輸液療法について授業を行った。</p> <p>『調剤学Ⅱ』の授業では、オムニパスでその他の教員と分担している。私の分担は特殊な取扱いを要する規制医薬品（劇、毒、向精神、麻薬、覚せい剤、覚原）の他、血液製剤、生物学的製剤など現場の経験をもとに写真を多く取り入れ、最新のトピックスを交えて興味をもてるように工夫を行った。</p>
2	作成した教科書、教材、参考書			2015年3月31日	2011年には日局が第16局となった。2014年には薬事法が「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」と大幅に改正され、薬剤師法も改正された。2012年の診療報酬改定では「病棟薬剤業務実施加算」が新設された。また、2015から新薬学教官フェル・コカリョラムの教育がスタートするなど薬剤師を取り巻く環境がめまぐるしく変わることに対応して改訂された。
	『コンパス 調剤学』改定第2版（南江堂、2015）			2009年8月30日	薬剤師技能をいくつかのステップに分け、詳細な写真やイラストを用い、視覚で一目瞭然に理解できるように工夫した内容である。OSCEの対策に期待できる内容である。
	『グラフィックガイド 薬剤師の技能-理論まるごと実践へ-』（京都廣川書店、2009）				

『コンパス 調剤学』 (南江堂, 2010) 実務実習事前学習テキスト (兵庫医療大学, 2010)	2010年3月31日 2010. 3月	新しい6年制薬学教育に伴い、実務実習を意識した実践的に役立つ情報をまとめ、薬剤師の主業務『調剤』を基本から解説している。学生の理解度を向上させるため計算問題・演習問題も充実させた内容である。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
三木有咲, 波多江 崇, 猪野 彩, 井上知美, 上野隼平, 笠谷君代, 近藤亜美, 坂口知子, 佐々木信子, 田内義彦, 竹下治範, 辻華子, 中川素子, 野口 栄, 長谷川由佳, 水田恵美, 矢羽野早代, 山根雅子, 濱口常男	論文	子育て中の母親を対象とした調査にみる薬局薬剤師の職能認知と薬局薬剤師の課題, 社会薬学, 34 (1) 24-33, 2015
Tsunemi S., Iwasaki T., Miyazawa K., Kitano S., Kanda C., Takeshita H., Sekiguchi S., Kitano M. and Sano H.	論文	Therapy of autoimmune disease by novel immunosuppressant FTY720, Inflammation and Regeneration, 31, 307-315, 2011.
Takeshita H., Kitano M., Iwasaki T., Kitano S., Tsunemi S., Sato C., Sekiguchi M., Azuma N., Miyazawa K., Timothy Hla and Sano H.	論文	Shpingshine 1-phosphate(SIP)/SIP receptor 1 signaling regulates receptor activator of NF- κ B ligand(RANKL) expression in rheumatoid arthritis, Biochem Biophys Res Commun, 33, 4981-4988, 2012.
三木有咲, 波多江 崇, 長谷川由佳, 辻 華子, 上野隼平, 中川素子, 米谷理沙, 仲村佳奈, 田村直之, 園田 薫, 井上伸子, 手塚尚子, 山本章仁, 佐川みはる, 嶋川大晃, 竹下治範, 田内義彦, 濱口常男	論文	保険薬局での継続可能なブラウンバンバグ運動の試みー調査表を用いた薬剤師の介入が必要な患者の選択ー, 日本地域薬局学会誌, 2 (2) 49-61, 2014
波多江 崇, 長谷川由佳, 白川昌一, 内海美保, 猪野 彩, 竹下治範, 辰見明俊, 田内義彦, 濱口常男	論文	フイジカルアクセスメントに対する薬局薬剤師の意識および活用状況に関する実態調査, 医薬品相互作用研究, 39 (1), 2015

2. 学会発表（平成27年度に行った学会発表）		
演題名	発表年・月	学会名
PTP包装からの錠剤の押し出し力に及ぼす製剤間の影響	2016年3月	日本薬学会第136年会
PTP包装からの錠剤の押し出し方法の調査	2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
2001年から現在		日本薬学会会員
2003年から現在		日本病院薬剤師会会員
2005年から現在		日本医療薬学会会員
2007年から現在		日本薬剤師会会員
2007年から現在		日本リウマチ学会会員
2008年から現在		日本薬剤師研修センター認定薬剤師 第08-30718号
2008年から現在		日本薬剤師研修センター認定 実務実習指導薬剤師 実習指導08102621号
2008年から現在		日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定 第6504号
2009年から現在		日本医療薬学会認定薬剤師 第09-0035号

専任教員の教育・研究業績

所属	臨床心理学研究室	職名	講師	氏名	中島 園美
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概要	要	
		2010年4月～現在に至る	「社会心理学」対人関係における様々な理論や実験を概説し、自己と他者の考えや行動への理解が深まることを目的とした。さらに、それらの理論を、しっかりと自分でひきつけて考えることを目的とし、理論に関連する学生自身のエピソード、それに基づき自己分析や自分の課題などを小レポートとして書いて提出することを求め、学生の主体的・能動的な学習態度を引き出すという参加型授業も導入した。小レポートについては、次回の授業にて学生にフィードバックを行い、小レポートへの積極的な関与を高めたり、お互いの考えがシェアできるようなにした。		
		2012年4月～現在に至る	「総合文化演習」医療従事者としての態度を形成することを目的とした表現療法を用いた教育プログラムを導入。さらに、疾患に関連する映画を用いた発表法をグループで行い、患者や患者の家族への理解や生と死、医療のあり方について考えを深めた。また毎回グループディスカッションと小レポートを導入し、自己表現力や言語化能力を養った。プレゼンテーション力を高めるために、学生にグループ発表と個人での発表の2回経験できるようにしている。その際、学生が到達目標を明確に理解できるように、ルーブリックを作成し、学生自身で達成度を評価できるようにした。それによって、自分の課題を発見することを目指した。		
		2015年4月～現在に至る	「臨床心理学」医療従事者として、患者と患者の家族への共感を基盤としたコミュニケーション能力を養うために、各疾患毎に心理的特徴を中心に説明し、望ましい関わり方を提示した。さらに、チーム医療の一員として多職種の中で適切なコミュニケーションが実践できるように連携の留意点も解説した。さらに講義内容が医療現場で実践できるように、ケースを設定して、ロールプレイ、観察や今後の自身の課題を小レポートにまとめることを求めた。次回の授業にて数名分の小レポートを読み上げてコメントをし、小レポートへの積極的な関与を高めたり、より多くの適切な対応例を知ることができるようにした。		

	2015年9月～現在に至る	<p>「人の行動と心理」医療従事者として患者の心理的な問題を想像できたり、予測したりして適切に患者を援助することができるように、まず1年次において、人の行動や心理のメカニズムやプロセスを学び基礎を形成することを目的としている。授業の後半は、コミュニケーション・プログラムの「アサーション」のワークを導入了。内容は、学生の身近な問題をケースとして取り上げ、自分の考えや気持ち、相手の立場や気持ちも考慮しながら、適切な言葉で伝え、相互尊重の関係を築くことのできるコミュニケーション・スキルの獲得を目的とした構成にしている。そして、次の授業において、学生のリポートの中のいくつかを取り上げフィードバックを行い、同級生の適切な表現をモデリングできるように意図している。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年9月	<p>「教育プログラムとしてのコロラージュ療法ー誘発コロラージュ法と認知物語療法を導入了した試みー」日本心理臨床学会第32回秋季大会 大会シンポジウム発表口頭発表 抄録集111. 2013</p>
	2013年10月	<p>「コロラージュ療法に認知物語アプローチを導入した教育プログラム開発研究ーコロラージュ作品を用いてのグループ・ディスカッションの効果ー」日本コロラージュ療法学会第5回大会 一般演題 口頭発表 抄録集24-25. 2013</p>
4 その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
中島園美	論文	<p>「小児喘息の情動制御と母子相互作用との関連に関する研究の概観と展望 - 母親機能の活性化による情動制御介入を指して -」大阪大学教育学年報 第16号 85-99. 2011 大阪大学大学院人間科学研究科教育学系</p>

中島園美		論文	「慢性疾患の子どもの発達を支えるための家族機能へのアプローチの展望 - “親が子どもの援助パートナーとして機能する” という視点から -」 大阪大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要 第17号 2011
中島園美		論文	「喘息患者の自己管理不良に影響を及ぼす情動認知-アレキサンミアと共感性からの検討-」カウンセリング研究 46 (2), 73-82. 2013
中島園美・片岡葉子		論文	「成人アトピー性皮膚炎における「体験型ストレス・マネジメント」」アレルギーの臨床 33(2), 62-65. 2013
中島園美		論文	「コロラージュ療法に誘発コロラージュ法と認知物語療法を導入した教育プログラム開発研究-イメージ変化と認知の変化の事例検討-」コロラージュ療法学研究 5(1), 59-70. 2014
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)			
	演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動			
2006年4月～現在に至る	日本心理臨床学会員		
2009年4月～現在に至る	カウンセリング学会員		
2009年4月～現在に至る	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 教育入院プログラム「ストレス・マネジメント」心理教育担当、アトピー性皮膚炎患者および家族へのカウンセリング担当		
2013年4月～現在に至る	日本コロラージュ療法学会員		
2014/10/15	帝塚山学園 (帝塚山大学) 教育セミナー「ストレスマネジメント - 対人関係を円滑にするコミュニケーション -」講師		
2014/12/14	「重症アトピー性皮膚炎患者への長期的支援としての集団コロラージュ療法 - 作品と認知物語療法を通して表現されたた心的世界的検討 -」 第62回京都文教コロラージュ療法研究会 講演		
2015年12月～現在に至る	日本心身医学会員		

専任教員の教育・研究業績

所属	機能性分子化学研究室	職名	助教	氏名	林 亜紀
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2007年9月～現在		概要	「基礎化学実習」では、一つ一つの操作の意味を理解できるように説明し、学生の安全をサポートする。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
	氏名	種別	内容		
	Hayashi A., Nakayama H.	論文	Chem. Lett. 2011, 40(3), 276-278. "Intercalation Reaction of Carbonate MgAl-Layered Double Hydroxide Using Alcohol as Solvent"		
	Hayashi A., Yoshida K., and Nakayama H.	論文	Bull. Chem. Soc. Jpn. 2013, 86(11), 1256-1260. "Complex formation of etodolac with hydrotalcite in methanol"		

Hayashi A., Kubota M., Okamura M., Nakayama H.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2015, 63, 13-17. "Complex Formation with Layered Double Hydroxides for the Remediation of Hygroscopicity"
Hayashi A.	解説	J. Clay Sci. Soc. Jpn. 52(3), 119-122, (2012). "Pharmaceutical application of inorganic layered compounds"
Hayashi A., Nakayama H.	論文	Chem. Lett. 2010, 39(10), 1060-1062. "Simple Intercalation Reaction of Layered Double Hydroxide with Sodium Valproate under Solid Conditions"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
層状複水酸化物と4-クロロ酪酸の反応	2015.9	第59回粘土科学討論会
ヒドロタルサイト様化合物とケトプロフェンの複合体形成	2016.3	日本薬学会第136年会
III 学会等および社会における主な活動		
2014年9月～	日本粘土学会	評議員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬剤学研究室	職名 助教	氏名 細川 美香	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
薬学部学生への教育 実習		2009～2014年	神戸薬科大学薬学部4年生に実務実習事前教育（薬剤学関連実習）、実務実習事前教育（処方せんと調剤・鑑査）の指導を行った。
薬学部学生への教育 実習		2009年～現在に至る	薬剤学研究室（卒業研究I, II）に配属された学生に（5,6年生）、研究の指導を行い、また研究したことをまとめ、発表できるように指導した。
薬学部学生への教育 実習		2014年～現在に至る	神戸薬科大学薬学部3年生に薬剤学・製剤学実習の指導を行った。
薬学部学生への教育 薬学英語入門		2013年～現在に至る	神戸薬科大学薬学部3年生に薬学英語入門の指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
氏名	種別	内容	
Ikehata M., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2012, 35, 301-307. "Different involvement of DNA methylation and histone deacetylation in the expression of solute-carrier transporters in 4 colon cancer cell lines"	

Ikehata M., Ogawa M., Yamada Y., Tanaka S., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2014, 37, 67-73. "Different effects of epigenetic modifiers on the cytotoxicity induced by 5-fluorouracil, irinotecan or oxaliplatin in colon cancer cells"
Tanaka S., Hosokawa M., Yonezawa T., Hayashi W., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2015, 38, 435-440. "Induction of epithelial-mesenchymal transition and down-regulation of miR-200c and miR-141 in oxaliplatin-resistant colorectal cancer cells"
Tanaka S, Hosokawa M, Ueda K, Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2015, 38, 1272-1279. "Effects of decitabine on invasion and exosomal expression of miR-200c and miR-141 in oxaliplatin-resistant colorectal cancer cells"
Hosokawa M, Saito M, Nakano A, Iwashita S, Ishizaka A, Ueda K, Iwakawa S.	論文	Oncol. Lett. 2015, 10, 761-767. "Acquired resistance to decitabine and cross-resistance to gemcitabine to gemcitabine during the long-term treatment of human HCT116 colorectal cancer cells with decitabine"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
ヒト大腸がん細胞株におけるエピジェネティック修飾薬と抗がん薬の併用効果～処置スケジュールの影響～	2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
ヒト大腸がん細胞株のexosome中let-7ファミリー-microRNA発現量に及ぼすゼブラリンの影響	2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
入院患者における転倒転落要因の解析	2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
ヒト大腸がん細胞におけるデシタビンの効果へのdeoxytyrosine kinase の関与	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
ヒト大腸がん細胞株 HCT116 細胞における [3H]-デオキシシチジンの細胞内取り込みに対するデオキシシチシンキナーゼノックダウンの影響	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
III 学会等および社会における主な活動		
2004年～現在に至る	日本薬学会会員	

2005年～現在に至る	日本医療薬学会会員
2007年～現在に至る	日本薬剤学会会員
2008年～現在に至る	日本薬物動態学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	生命分析化学研究室	職名	助教	氏名	大山 浩之
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2010年4月～現在	担当する分析化学系実習では、講義で学んだ原理・原則などについて実習を通してより理解を深くし、安全かつ円滑に実験を遂行するための手法や技術の指導に努めている。	
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名		種別		内容	
Kobayashi N. and Oyama H.		論文		Analyst 2011, 136(4), 642-651. "Antibody engineering toward high-sensitivity high-throughput immunosensing of small molecules"	
Oyama H., Yamaguchi S., Nakata S., Niwa T., Kobayashi N.		論文		Anal. Chem. 2013, 85(10), 4930-4937. "Breeding" diagnostic antibodies for higher assay performance: a 250-fold affinity-matured antibody mutant targeting a small biomarker"	
Oyama H., Tanaka E., Kawanaka T., Morita I., Niwa T., Kobayashi N.		論文		Anal. Chem. 2013, 85(23), 11553-11559. "Anti-idiotypic scFv-enzyme fusion proteins: A clonable analyte-mimicking probe for standardized immunoassays targeting small biomarkers"	

大山浩之 (分担執筆)	著書	「免疫測定法～基礎から先端まで」生物化学的測定研究会編、講談社、東京、2014
Oyama H., Morita I., Kiguchi Y., Miyake S., Moriuchi A., Akisada T., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2015, 87(24), 12387-12395. "Gaussia luciferase as a genetic fusion partner with antibody fragments for sensitive immunoassay monitoring of clinical biomarkers"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
"Antibody breeding" for more sensitive immunoassays I: Three-step affinity maturation generated an improved scFv suitable for serum estradiol-17 beta ELISA	2015年6月	European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine
改良型抗エストロジオールscFvの親和性成熟機構の解析	2015年9月	日本分析化学会64年会
高親和力抗エストロジオール変異scFvの創製とその親和性成熟機構の解析	2015年10月	第55回日本臨床化学会年次学術集会
試験管内親和性成熟による実用抗体の創製: 低分子バイオマーカーを例に	2015年11月	生物化学的測定研究会第20回学術シンポジウム
III 学会等および社会における主な活動		
2004年4月～現在	日本薬学会会員	
2006年4月～現在	日本分析化学会会員	
2009年4月～現在	日本臨床化学会会員	
2013年4月～現在	生物化学測定研究会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	微生物化学研究室	職名	助教	氏名	増田 有紀
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
	生物学系II実習			2010年10月～現在	学部3年次後期に、生物学系II実習(微生物実習)を行っている。学生の理解度を向上させるため、少人数でのディスカッションを実施している。また、操作(特に無菌操作)の一つ一つの意味について理解を深めるために、実習開始時に説明に加えてデモンストラーションを行っている。
	情報リテラシー			2014年4月～現在	学部1年次前期に、情報リテラシーの講義の一部として、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの作成について指導している。
2	作成した教科書、教材、参考書				
	なし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
	なし				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
	なし				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名				種別	内容
Masuda Y., Ohta Y., Morita Y., Nakayama Y., Miyake A., Itoh N., Konishi M.				論文	Biol. Pharm. Bull., 2015, 38, 687-693. "Expression of Fgf23 in activated dendritic cells and macrophages in response to immunological stimuli in mice."

Masuda Y., Nawa D., Nakayama Y., Konishi M., Nanba H.	論文	J. Leukoc. Biol., 2015, 98, 1015-1025. "Soluble β -glucan from Grifola frondosa induces tumor regression in synergy with TLR9 agonist via dendritic cell-mediated immunity."
Masuda Y., Inoue H., Ohta H., Miyake A., Konishi M., Nanba H.,	論文	Int. J. Cancer 2013, 133, 108-119 "Oral administration of soluble β -glucans extracted from Grifola frondosa induces systemic antitumor immune response and decreases immunosuppression in tumor-bearing mice."
Masuda Y., Togo T., Mizuno S., Konishi M., Nanba H.	論文	J. Leukoc. Biol. 2012, 91, 547-556 "Soluble β -glucan from Grifola frondosa induces proliferation and Dectin-1/Syk signaling in resident macrophages via the GM-CSF autocrine pathway."
Masuda Y., Ito K., Konishi M., Nanba H.	論文	Cancer Immunol. Immunother. 2010, 59, 1531-1541. "A polysaccharide extracted from Grifola frondosa enhances the anti-tumor activity of bone marrow-derived dendritic cell-based immunotherapy against murine colon cancer."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
胸腺におけるFgf21の役割	2015年12月	BMB2015
III 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在に至る		日本薬学会会員
2009年～現在に至る		日本免疫学会会員
2010年～現在に至る		日本分子生物学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	医療薬学研究室	職名	助教	氏名	堀部 紗世
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
	4年生に対する実務事前実習			2013年10月1日～	本学4次生を対象に、事前実務実習を指導している。疑義照会では、現場で働いている先生方とロールプレイおよびグループディスカッションを行い、実際に疑義照会する時の注意点を配慮および薬剤師としての倫理について指導している。
	卒業研究			2013年10月1日～	本学5年生および6年生を対象に、卒業研究を指導している。卒業研究を通して、問題を提議しその問題を自己解決する力を養いように指導している。
2	作成した教科書、教材、参考書				
	特になし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
	特になし				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
	特になし				
II 研究活動					
1.	著書・論文等				
	氏名			種別	内容
	Horibe S, Takara K, Minegaki T, Ohnishi N, Yokoyama T			論文	EXCLI Journal (2009), Vol. 8, p12-19 "Distribution of ABCG2 (BCRP) and ABCG2 (MRP2) mRNAs in rat small intestine and liver."

Takara K, Kitada N, Yoshikawa E, Yamamoto K, Horibe S, Sakaeda T, Nishiguchi K, Ohnishi N, Yokoyama T.	論文	Cancer Letters (2009), Vol. 278, p88-96 "Molecular changes to Hela cells on continuous exposure to SN-38, an active metabolite of irinotecan hydrochloride."
Horibe S, Nagai J, Yumoto R, Tawa R, Takano M.	論文	Journal of Pharmaceutical Sciences (2011), Vol. 100, p3010-3017 "Accumulation and photodynamic activity of chlorin e6 in cisplatin-resistant human lung cancer cells."
Kawauchi S, Nakamura T, Yasui H, Nishikawa C, Miki I, Inoue J, Horibe S, Hamaguchi T, Tanahashi T, Mizuno S.	論文	International journal of medical sciences (2014), Vol. 11, p1208-17 "Intestinal and hepatic expression of cytochrome P450s and mdrla in rats with indomethacin-induced small intestinal ulcers."
Horibe S, Matsuda M, Tanahashi T, Inoue J, Kawauchi S, Mizuno S, Ueno M, Takahashi K, Maeda Y, Maegouchi T, Murakami Y, Yumoto R, Nagai J, Takano M.	論文	Life Sciences (2015), Vol. 124, p31-40 "Cisplatin resistance in human lung cancer is linked with dysregulation of cell cycle associated proteins."
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
Membrane proteins of exosomes derived from donor cells and cellular uptake in recipient cells	2015年10月	日本癌学会
レジピエント細胞に依存したエクソソーム取り込み機構の解析	2015年12月	日本分子生物学会
CDDP耐性度に応じたがん幹細胞マーカー遺伝子の発現変化	2016年3月	日本薬学会
III 学会等および社会における主な活動		
2000年4月～現在に至る		日本薬学会会員
2001年1月～現在に至る		医療薬学会会員
2008年1月～現在に至る		癌学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬品化学研究室	職名	助教	氏名	武田 紀彦
I 教育活動					
教育実践上の主な業績					
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			年月日	概要
				2015年10月～現在	2年次の有機化学系II実習を担当している。医薬品合成を実施し、基本的な化学反応を理解してもらうように努めている。未知検体においては様々な定性試験から得られた官能基の情報をもとに、未知検体の正しい構造へ導ける論理的思考を養うように心がけている。
				2015年4月～現在	1年次の薬学入門 (分担) の有機化学の部分を担当している。「これから習う有機化学」を意識しながら、NSAIDsを題材に講義をしている。薬物分子における官能基の役割や性質、どのように効果を示すのか、有機化学の視点を中心に説明するように心がけている。
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1.	著書・論文等			氏名	内容
				種別	
				論文	Org. Lett., 2013, 15, 4382-4385. "Synthesis of Dihydrobenzofurans with Quaternary Carbon Center under Mild and Neutral Conditions"

Adachi S., Takeda N., Sibi M. P.	論文	Org. Lett., 2014, 16, 6440-6443. "Evaluation of achiral templates with fluxional Brønsted basic substituents in enantioselective conjugate additions"
Miyoshi T., Takeda N., Fukami M., Sato S., Ueda M., Miyata O.	論文	Chem. Pharm. Bull., 2014, 62, 927-932. "α-Hetero-arylation of Ketones via the Umpolung Reaction of <i>N</i> -Alkoxyenamine"
Sato S., Takeda N., Miyoshi T., Ueda M., Miyata O.	論文	Eur. J. Org. Chem., 2015, 3899-3904. "Vicinal Functionalization of <i>N</i> -Alkoxyenamines: Tandem Umpolung Phenylation/Nucleophilic Addition Reaction Sequence"
Sato S., Takeda N., Ueda M., Miyata O.	論文	Synthesis, 2016, 48, 882-892. "Sequential [3,3]-Sigmatropic Rearrangement/Nucleophilic Arylation of <i>N</i> -(Benzoyloxy)enamides towards the Preparation of Cyclic β-Aryl-β-amino Alcohols"
2. 学会発表 (平成27年度に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
Synthesis of Dihydropyrroles with Quaternary Carbon Center under Mild Conditions	2015年8月	第35回有機合成若手セミナー
連続反応を用いるβ-アリアルール-β-アミノアルコール類の新規合成法の開発	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
カルボニル基のα位での立体選択的極性転換反応の開発	2015年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
エナミドの[3,3]-シグマトロピー転位/求核的アリール化反応	2016年3月	日本薬学会第136年会

[3, 3]-シグマトロピール転位を利用した4級炭素を有するジヒドロピロロル類の合成	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在に至る	日本薬学会会員	
2010年～現在に至る	有機合成化学協会会員	